

昭和薬科大学教育・研究年報

2014年度



昭和薬科大学

目 次

(2014 年)

組織図	1
平成 26 年度 昭和薬科大学職員名簿	2
I. 年間事業報告	
1. 薬学部 薬学科	
(1) 卒業者数	3
(2) 入学者数	3
(3) 学士入学者数	3
(4) 科目履修生数	3
(5) 研究員・研究生数	3
(6) 留学生数	3
(7) 在籍学生数	4
(8) 教授会及び教授総会の日程と審議事項、その他	4
(9) 平成 26 年度学年暦	13
(10) 平成 26 年度授業評価	16
(11) 卒業実習教育（総合薬学研究）論文一覧	76
(12) 第 99 回薬剤師国家試験合格状況	83
2. 大学院薬学研究科	
(1) 大学院教育担当	84
(2) 主な学年暦	85
(3) 大学院薬学研究科委員会の日程と議題	85
(4) 修了者数・入学者数	86
(5) 入学試験概要	86
(6) 学位授与者数	87
(7) 留学者数	87
(8) 大学院在籍学生数	87
(9) 大学院博士論文題目（学位規程第 5 条）	87
(10) 大学院博士論文題目（学位規程第 6 条）	87
(11) 大学院修士論文題目（学位規程第 4 条）	87
(12) 特別講義・その他講演	87
(13) 平成 27 年 3 月修了生進路別人数表（大学院）	89
(14) 平成 27 年 3 月大学院修了生進路一覧	90
(15) 大学院 FD 活動	90
(16) 大学院短報	90
3. 常設委員会	
(1) 庶務委員会	91
(2) 教務委員会	93
(3) 学生支援委員会	97
(4) 実務実習委員会	103

(5) 入学試験委員会	125
(6) 公開講座委員会	133
(7) 自己点検・評価委員会	135
(8) 将来計画委員会	136
(9) 国家試験対策委員会	136
(10) 英語教育委員会	137
(11) 人文社会教育委員会	137
(12) 不正行為防止委員会	138
(13) FD 委員会	138
(14) 共用試験委員会	138
(15) 利益相反委員会	142
4. 常設運営委員会	
(1) 図書館運営委員会	143
(2) 薬用植物園運営委員会	144
(3) 実験動物研究施設運営委員会	145
(4) 機器分析研究施設運営委員会	146
(5) 共同機器室運営委員会	146
(6) 放射線安全委員会	147
(7) 組換え DNA 実験安全委員会	147
(8) 環境保全委員会	147
(9) 情報教育運営委員会	149
(10) 学務システム運営委員会	149
5. その他の委員会	
(1) 大学紀要編集委員会	150
(2) RI 使用者委員会	150
(3) バイオセーフティ委員会	150
(4) 動物実験倫理委員会	151
(5) 倫理審査委員会	151
(6) 任期制評価委員会	151
(7) 入学試験管理委員会	152
(8) 就職支援委員会	152
6. 施設	
(1) 体育施設	155
(2) RI 研究施設	155
(3) 機器分析研究施設	156
7. その他	
(1) 外部資金取得状況	161
(2) 文部科学省 創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業	161
(3) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 「生体分子コバレント修飾の革新的解析拠点形成」プロジェクト	162

II. 研究室年間業績と研究室活動短報

医療薬学系

医療薬学分野

(1) 薬剤学研究室	165
(2) 薬物動態学研究室	168
臨床薬理学分野	
(3) 薬理学研究室	174
(4) 薬物治療学研究室	177

生命薬学系

衛生薬学分野

(5) 衛生化学研究室	179
-------------------	-----

生物化学分野

(6) 生化学研究室	181
(7) 統合感染免疫学研究室	184

創薬科学系

医薬資源学分野

(8) 天然物化学研究室	185
--------------------	-----

有機化学分野

(9) 薬化学研究室	186
(10) 医薬分子化学研究室	187
(11) 薬品化学研究室	190

分析化学分野

(12) 薬品物理化学研究室	192
(13) 薬品分析化学研究室	193

医療薬学教育研究センター

医療薬学部門

(14) 医薬情報評価教育 戸田研究室	196
(15) 医薬情報評価教育 串田研究室	197
(16) 臨床化学分析教育 福森研究室	199
(17) 臨床化学分析教育 千葉研究室	200
(18) 薬品作用学教育 田口研究室	200
(19) 薬品作用学教育 萩原研究室	202
(20) 薬品作用学教育 濱島研究室	202
(21) 薬品作用学教育 堀口研究室	203
(22) 漢方治療学教育 北島研究室	204
(23) 漢方治療学教育 高野研究室	205
(24) 薬剤師実務教育 山本研究室	206
(25) 薬剤師実務教育 濱本研究室	209
(26) 薬剤師実務教育 廣原研究室	210
(27) 薬剤師実務教育 渡部研究室	211
(28) 薬剤師実務教育 土肥研究室	214
(29) 薬剤師実務教育研究室	214
(30) 臨床薬学教育研究室	215

基礎薬学教育研究センター

学修支援部門

(31) 学修支援室	217
------------------	-----

情報科学部門

(32) 応用数学 繁田研究室	219
-----------------------	-----

(33) 数理科学 瀧澤研究室	220
-----------------------	-----

薬学教育推進部門

(34) 化学系薬学教育 毛利研究室	222
--------------------------	-----

(35) 化学系薬学教育 小池研究室	222
--------------------------	-----

(36) 生物系薬学教育 船本研究室	223
--------------------------	-----

(37) 生物系薬学教育 中里研究室	224
--------------------------	-----

人間科学部門

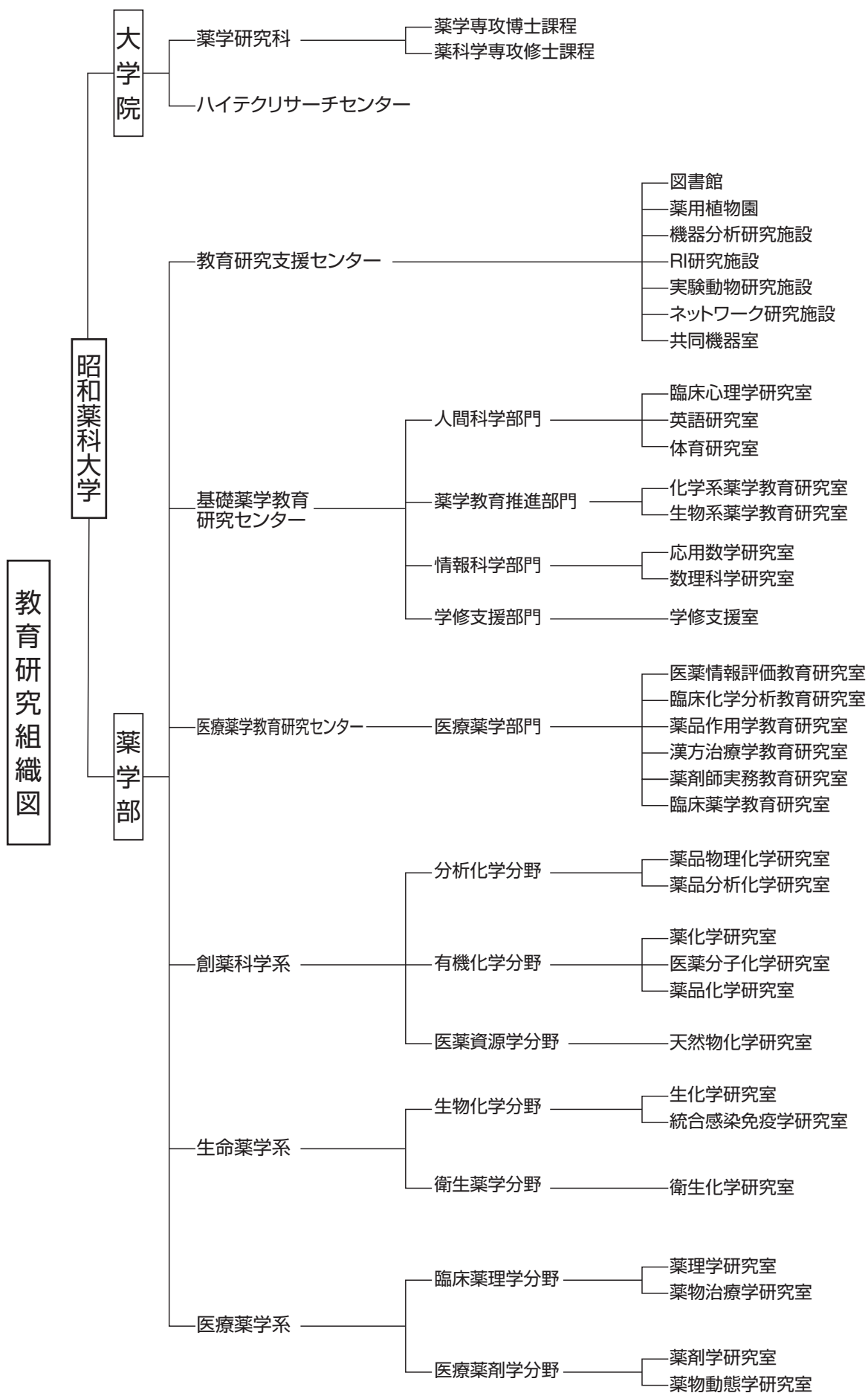
(38) 臨床心理学研究室	225
---------------------	-----

(39) 英語 鈴木研究室	226
---------------------	-----

(40) 英語 堀内研究室	227
---------------------	-----

(41) 体育・江成研究室	228
---------------------	-----

Ⅲ. 総括	229
-------------	-----



平成26年度 昭和薬科大学職員名簿

(理 事 長)	井上 能博 准教授	篠崎 淳一 助教	小林 剛史 課長補佐
村 瀬 雅 之	小野寺 敏 准教授	嶋 秀 明 助教	
理事長 1 名	小林 茂樹 准教授	宿里 充穂 助教	酒井 理香 係長
(学 長)	繁田 岳美 准教授	土屋 幸弘 助教	佐々木裕之 係長
西 島 正 弘	中根 孝久 准教授	中村 美樹 助教	塩田 暁弘 係長
学長 1 名	廣原 正宜 准教授	橋本 善光 助教	村田 純子 係長
	藤井まき子 准教授	濱田 浩一 助教	横田 浩一 係長
秋澤 宏行 教授	堀内 正子 准教授	助教12名	
石戸 聡 教授	増田 豊 准教授		岩田源太郎 主任
伊東 進 教授	山崎 龍 准教授	上原正太郎 特任助教	尾形友香子 主任
宇都宮 郁 教授	渡部 一宏 准教授	高田 剛 特任助教	田崎 秀一 主任
江成 元伸 教授	准教授11名	中野なおこ 特任助教	田中由紀子 主任
岡本 巖 教授		八幡 紋子 特任助教	谷口 泉 主任
小椋 康光 教授	阿南弥寿美 講師	特任助教4名	
北島 潤一 教授	池野 聡一 講師		伊地知節子
鈴木 英明 教授	伊藤 俊将 講師	千葉 一良 教育技術員	宇野 譲
高野 昭人 教授	神戸 敏江 講師	教育技術員1名	浦田はるひ
田口 恭治 教授	串田 一樹 講師		小山万佐美
田村 修 教授	小池 猛 講師	教育職76名(理事長・学長含む)	櫻井 京子
知久馬敏幸 教授	小泉 直也 講師		佐野 文昭
千葉 良子 教授	坂田 宣夫 講師		澁谷 智子
戸田 潤 教授	佐藤 美鶴 講師		高橋 智子
萩原 幸彦 教授	清水万紀子 講師		武田 朋子
濱島 肇 教授	鈴木 憲子 講師	宮澤 健二 法人事務長	棚橋 瑛子
濱本 知之 教授	高田 公彦 講師	江成 元伸 大学事務長(兼務)	中野 美央
福森 隆次 教授	瀧澤 誠 講師		東 正子
船本 常男 教授	土肥 弘久 講師	比田 康弘 大学事務次長	平田尚太郎
堀口よし江 教授	中里 朱根 講師		牧野 泰靖
水谷 顕洋 教授	村山 典恵 講師	江成 元伸 課長(兼務)	三ヶ田まどか
毛利 邦彦 教授	森田 延喜 講師	島崎 聡 課長	山崎 輝子
山崎 浩史 教授	講師 17名	鈴川 龍男 課長	事務職35名(兼務2名)
山本 恵子 教授		西田 潤 課長	
山本美智子 教授	伊藤 愛 助教	花野 誠一 課長	
吉永 真里 教授	太田 綾子 助教	馬場 洋一 課長	
渡邊 泰男 教授	梶川 瑞穂 助教	比田 康弘 課長(兼務)	
渡邊 善照 教授	清谷多美子 助教	母良田 功 課長	
教授29名	佐藤 良夫 助教		

H26.7.1現在

I. 年間事業報告

1. 薬学部 薬学科

(1) 卒業者数

(平成26年9月)

36名

(平成27年3月)

185名

(2) 入学者数 (平成26年4月)

クラスA入学者	122名
---------	------

クラスB入学者	123名
---------	------

合 計	245名
-----	------

(3) 学士入学者数

実施せず

(4) 科目履修生数

3名

(5) 研究員・研究生数

研究員数 9名

研究生数 16名

(6) 留学生数

0名

(7) 在籍学生数

平成26年5月1日

学年	学科	男	女	総計
1	薬学部薬学科クラスA	50	89	139
	薬学部薬学科クラスB	47	86	133
1年次合計		97	175	272
2	薬学部薬学科クラスA	44	72	116
	薬学部薬学科クラスB	48	87	135
2年次合計		92	159	251
3	薬学部薬学科クラスA	55	82	137
	薬学部薬学科クラスB	47	84	131
3年次合計		102	166	268
4	薬学部薬学科クラスA	40	72	112
	薬学部薬学科クラスB	36	52	88
4年次合計		76	124	200
5	薬学部薬学科クラスA	49	72	121
	薬学部薬学科クラスB	45	68	113
5年次合計		94	140	234
6	薬学部薬学科クラスA	51	79	130
	薬学部薬学科クラスB	51	87	138
6年次合計		102	166	268
学部生 総計		563	930	1493

(8) 教授会及び教授総会の日程と審議事項、その他

教授会

平成26年4月4日(金)

- 第1号議案 昭和薬科大学教育職員評議員候補者選挙管理委員会委員選出に関する件
- 第2号議案 人事に関する件
- 第3号議案 非常勤講師に関する件
- 第4号議案 各種委員会委員長委嘱に関する件
- 第5号議案 研究員、研究生に関する件
- 第6号議案 平成26年度研究室基礎予算に関する件
- 第7号議案 若手研究者助成審議会委員に関する件

報告事項

- 1. 客員臨床講師の委嘱に関する件

平成26年4月16日(水)

- 第1号議案 特任助教の雇用順位に関する件
- 第2号議案 人事に関する件

平成26年5月21日(水)

- 第1号議案 人事に関する件
- 第2号議案 B予算執行に関わる機種の変更に関する件
- 第3号議案 庶務委員会管理予算(修繕費)の執行に関する件
- 第4号議案 推薦指定校の選定に関する件

- 第 5 号議案 公募制推薦入学試験に関する件
- 第 6 号議案 平成 27 年度入学試験における旧教育課程履修者に対しての経過措置に関する件
- 第 7 号議案 天然物化学研究室教授採用あり方委員会

平成 26 年 6 月 18 日 (水)

- 第 1 号議案 短期国外出張に関する件
- 第 2 号議案 学部学生の外部研究機関への派遣の内規に関する件
- 第 3 号議案 外部研究機関への派遣に関する件
- 第 4 号議案 人事に関する件

平成 26 年 7 月 16 日 (水)

- 第 1 号議案 人事に関する件
- 第 2 号議案 国際交流規程に関する件
- 第 3 号議案 将来計画に関する件

平成 26 年 9 月 17 日 (水)

- 第 1 号議案 非常勤講師に関する件
- 第 2 号議案 昭和薬科大学学則改正に関する件
- 第 3 号議案 昭和薬科大学学部履修及び試験規程改正に関する件
- 第 4 号議案 学生支援委員会内規の改正に関する件
- 第 5 号議案 就職支援委員会内規に関する件

平成 26 年 10 月 22 日 (水)

- 第 1 号議案 教授選考部会委員選出に関する件
- 第 2 号議案 非常勤講師委嘱取り下げに関する件
- 第 3 号議案 昭和薬科大学危険物災害予防規程改正に関する件
- 第 4 号議案 昭和薬科大学教育職員の評価施行細則改正に関する件
- 第 5 号議案 大学入試センター試験に関する件
- 第 6 号議案 推薦入学試験に関する件
- 第 7 号議案 新規研究生に関する件

報告事項

1. 「学則 (第 3 章授業科目及び履修方法)」に関する件
2. 「学部履修及び試験規程」に関する件

平成 26 年 11 月 12 日 (水)

- 第 1 号議案 人事に関する件

報告事項

1. 学長報告

平成 26 年 11 月 19 日 (水)

- 第 1 号議案 人事に関する件
- 第 2 号議案 平成 27 年度 A～D 予算申請に関する件
- 第 3 号議案 庶務委員会管理予算 (機器備品費) 執行に関する件

平成 26 年 12 月 10 日 (水)

- 第 1 号議案 人事に関する件

平成 26 年 12 月 17 日 (水)

- 第 1 号議案 人事に関する件

平成 26 年 12 月 22 日 (月)

- 第 1 号議案 人事に関する件

平成27年1月7日(水)

- 第1号議案 昇任人事に関する件
- 第2号議案 医療薬学教育研究センター人事に関する件
- 第3号議案 学修支援室人事に関する件

平成27年1月14日(水)

- 第1号議案 人事に関する件

平成27年1月19日(月)

- 第1号議案 学内昇格人事に関する件
- 第2号議案 昭和薬科大学学則に関する件
- 第3号議案 昭和薬科大学教授会規程に関する件

平成27年1月21日(水)

- 第1号議案 人事に関する件
- 第2号議案 学則に関する件
- 第3号議案 教授会規程に関する件
- 第4号議案 庶務委員会管理予算(機器備品費)の執行に関する件
- 第5号議案 衛生化学研究室教授採用に関する件

平成27年1月31日(土)

- 第1号議案 人事に関する件
- 第2号議案 教育職員退職に関する件

平成27年2月12日(木)

- 第1号議案 非常勤講師公募に関する件
- 第2号議案 学則改正に関する件
- 第3号議案 教授会規程に関する件
- 第4号議案 若手研究者研究助成規程改正に関する件
- 第5号議案 若手研究施行細則改正に関する件
- 第6号議案 役職変更に関する件
- 第7号議案 委員会委員変更に関する件

平成27年2月18日(水)

- 第1号議案 非常勤講師委嘱に関する件
- 第2号議案 役職変更に関する件
- 第3号議案 学則に関する件
- 第4号議案 教授会規程に関する件
- 第5号議案 昭和薬科大学教育改革の取組に対する財政的助成規程に関する件
- 第6号議案 内規改正に関する件
- 第7号議案 平成27年度研究室予算配分方針に関する件
- 第8号議案 平成27年度短期国外出張に関する件

報告事項

- 1. 学生の不正行為に関する件

平成27年2月25日(水)

- 第1号議案 人事に関する件
- 第2号議案 昭和薬科大学研究活動に係わる不正行為防止規程改正に関する件
- 第3号議案 昭和薬科大学研究活動に係わる不正調査等に関する細則の制定に関する件

平成27年3月11日(水)

- 第1号議案 非常勤講師委嘱に関する件

- 第 2 号議案 研究員・研究生に関する件
- 第 3 号議案 昭和薬科大学学則改正に関する件
- 第 4 号議案 昭和薬科大学教授会規程改正に関する件
- 第 5 号議案 昭和薬科大学教育職員規程に関する件
- 第 6 号議案 昭和薬科大学大学運営會議規程に関する件
- 第 7 号議案 学則変更に伴う諸規程の改正に関する件
- 第 8 号議案 昭和薬科大学研究倫理委員会規程改正に関する件
- 第 9 号議案 昭和薬科大学研究倫理指針の改正に関する件
- 第 10 号議案 昭和薬科大学内部監査に関する運用基準に関する件

平成 27 年 3 月 18 日 (水) (午前)

- 第 1 号議案 人事に関する件
- 第 2 号議案 学則・規程の改正に関する件

平成 27 年 3 月 18 日 (水) (午後)

- 第 1 号議案 人事に関する件

教授総会

平成26年4月4日(金)

第1号議案 新規科目履修生に関する件

第2号議案 学籍に関する件

報告事項

1. 学長報告(教授会報告)
2. 教務委員会報告
3. 学生支援委員会報告
4. 入学試験委員会報告
5. 国家試験対策委員会報告

平成26年4月16日(水)

第1号議案 各種委員会委員委嘱に関する件

第2号議案 科目責任者変更に関する件

第3号議案 学籍に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教務委員会報告
3. 学生支援委員会報告
4. 入学試験委員会報告
5. 国家試験対策委員会報告
6. 環境保全委員会報告
7. 危険物保安監督者報告
8. 国家試験対策委員会報告
9. 薬学教科担当委員会議報告
10. 物理化学担当教員会議報告
11. 分析化学教科担当教員会議報告
12. 大学事務長報告

平成26年5月21日(水)

第1号議案 平成25年度5年生の進級に関する件

第2号議案 実習担当者に関する件

第3号議案 講義担当者に関する件

第4号議案 新コアカリキュラムに関する件

第5号議案 学籍変更に関する件

第6号議案 特待生に関する件

第7号議案 卒業延期生演習試験問題作成担当者に関する件

第8号議案 演習試験問題作成科目責任者に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教務委員会報告
3. 学生支援委員会報告
4. 実務実習委員会報告
5. 公開講座委員会報告
6. 自己点検・評価委員会報告
7. 国家試験対策委員会報告
8. 共用試験委員会報告
9. 国家試験問題検討委員会出席報告
10. 大学事務長報告

平成26年6月18日(水)

第1号議案 平成26年度卒業論文発表会日程に関する件

- 第 2 号議案 総合薬学演習評価法の変更に関する件
- 第 3 号議案 新コアカリキュラム科目名称及び単位数の変更に関する件
- 第 4 号議案 前期未修得科目を有している学生の保護者対応に関する件
- 第 5 号議案 学籍に関する件
- 第 6 号議案 実験動物研究施設運営委員会の運営に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教務委員会報告
3. 学生支援委員会報告
4. 入学試験委員会報告
5. 実務実習委員会報告
6. 国家試験対策委員会報告
7. 共同機器室運営委員会報告
8. 危険物保安監督者報告
9. 国家試験問題検討委員会出席報告
10. 公開講座委員会報告
11. 情報センター運営委員会報告
12. 大学事務長報告

平成 26 年 7 月 16 日 (水)

- 第 1 号議案 任期制評価の期間変更に関する件
- 第 2 号議案 科目履修生に関する件
- 第 3 号議案 非常勤講師担当科目追加に関する件
- 第 4 号議案 学籍に関する件
- 第 5 号議案 動物感染実験室の運営に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教務委員会報告
3. 学生支援委員会報告
4. 入学試験委員会報告
5. 実務実習委員会報告
6. 公開講座委員会報告
7. 国家試験対策委員会報告
8. 放射線安全委員会報告
9. 大学紀要委員会報告
10. 経費不正使用防止推進室報告
11. 事業計画「教育効果の高い授業の模索」報告
12. 薬学におけるヒューマンコミュニケーション授業報告
13. 第 1 回国際シンポジウム報告

平成 26 年 9 月 17 日 (水)

- 第 1 号議案 任期制評価に関する件
- 第 2 号議案 卒業延期学生の卒業判定に関する件
- 第 3 号議案 研究室配属に関する件
- 第 4 号議案 新コアカリキュラム進級基準に関する件
- 第 5 号議案 学籍に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教務委員会報告
3. 学生支援委員会報告
4. 入学試験委員会報告
5. 実務実習委員会報告

6. 公開講座委員会報告
7. 国家試験対策委員会報告
8. 共用試験委員会報告
9. 放射線安全委員会報告
10. 大学紀要編集委員会報告
11. 薬学教育協議会教科担当学会議報告
12. 指定7品目等保管量調査警察による立入検査報告
13. 国際シンポジウム開催報告
14. 事業計画報告
15. 実験動物研究施設運営委員会報告
16. 大学事務長報告

平成26年10月22日(水)

- 第1号議案 昭和薬科大学教育職員の評価施行細則改正に関する件
- 第2号議案 任期制個人評価表改正に関する件
- 第3号議案 新コアカリキュラム進級基準に関する件
- 第4号議案 講義担当変更に関する件
- 第5号議案 学籍に関する件
- 第6号議案 センター試験に関する件
- 第7号議案 推薦入試に関する件
- 第8号議案 大学で購入するソフトウェアの選考方針に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教務委員会報告
3. 学生支援委員会報告
4. 入学試験委員会報告
5. 実務実習委員会報告
6. 国家試験対策委員会報告
7. 経費不正使用防止推進室報告
8. 薬学教育協議会教科担当学会議報告
9. 警察による指定7品目立ち入り検査報告
10. 大学事務長報告

平成26年11月12日(水)

- 第1号議案 推薦入学試験に関する件

報告事項

1. 学生支援委員会報告

平成26年11月19日(水)

- 第1号議案 平成27年度時間割案及び実習日程案に関する件(継続)

- 第2号議案 学籍に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教務委員会報告
3. 学生支援委員会報告
4. 入学試験委員会報告
5. 実務実習委員会報告
6. 国家試験対策委員会報告
7. 経費不正使用防止委員会報告
8. 薬学教育協議会教科担当教員会議報告
9. 大学事務長報告

平成26年12月10日(水)

- 第1号議案 学校教育法改正に伴う学則、教授会規程改正に関する件
- 第2号議案 共用試験受験資格に関する件
- 第3号議案 平成27年度時間割に関する件(継続)
- 第4号議案 学籍に関する件

報告事項

- 1. 学長報告
- 2. 庶務委員会報告
- 3. 教務委員会報告
- 4. 学生支援委員会報告
- 5. 入学試験委員会報告
- 6. 実務実習委員会報告
- 7. 国家試験対策委員会報告
- 8. 環境保全委員会報告
- 9. 大学事務長報告

平成27年1月21日(水)

- 第1号議案 4年次コース変更願に関する件
- 第2号議案 3、4年次研究室配属変更に関する件
- 第3号議案 カリキュラムポリシー及びディプロマポリシー一部変更に関する件
- 第4号議案 新カリキュラム一部変更に関する件

報告事項

- 1. 学長報告
- 2. 教務委員会報告
- 3. 学生支援委員会報告
- 4. 入学試験委員会報告
- 5. 実務実習委員会報告
- 6. 国家試験対策委員会報告
- 7. 事業計画「研究活動の充実」に関する報告
- 8. 大学事務長報告

平成27年2月7日(土)

- 第1号議案 入学試験に関する件

平成27年2月12日(木)

- 第1号議案 C方式入学試験に関する件

平成27年2月18日(水)

- 第1号議案 平成27年度行事日程に関する件(継続)
- 第2号議案 最終総合演習単位認定に関する件
- 第3号議案 卒業判定に関する件
- 第4号議案 6年次留年生今後の日程に関する件
- 第5号議案 平成27年度薬学演習試験の変更に関する件
- 第6号議案 カリキュラムポリシー・デュプロマポリシー改正に関する件(継続)
- 第7号議案 4年生コース変更に関する件
- 第8号議案 新カリキュラム科目に関する件
- 第9号議案 平成26年度6年生優等生に関する件
- 第10号議案 平成26年度演習試験優秀賞候補者に関する件
- 第11号議案 平成27年度アドバイザーグループ、クラス担任に関する件

報告事項

- 1. 学長報告
- 2. 教務委員会報告

3. 学生支援委員会報告
4. 入学試験委員会報告
5. 国家試験対策委員会報告
6. ハイテクリサーチセンター報告
7. 大学事務長報告

平成27年3月11日(水)

- 第1号議案 平成27年度行事日程に関する件(継続)
- 第2号議案 1～4年生進級判定に関する件
- 第3号議案 5年生仮進級判定に関する件
- 第4号議案 3年次後期補講欠席者に関する件
- 第5号議案 平成27年度時間割表に関する件
- 第6号議案 平成27年度実習日程に関する件
- 第7号議案 平成27年度ガイダンスに関する件
- 第8号議案 平成27年度講義担当に関する件
- 第9号議案 卒業実習教育研究室内コース変更に関する件
- 第10号議案 平成27年度5年次「基礎薬学総合演習」に関する件
- 第11号議案 平成27年度6年次前期補講に関する件
- 第12号議案 卒延生の名称変更に関する件
- 第13号議案 総合薬学演習試験に関する件
- 第14号議案 国家試験実力テストに関する件
- 第15号議案 新カリキュラム科目追加に関する件
- 第16号議案 新規科目履修生に関する件
- 第17号議案 学籍変更に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教務委員会報告
3. 学生支援委員会報告
4. 入学試験委員会報告
5. 実務実習委員会報告
6. 国家試験対策委員会報告
7. 共用試験委員会報告
8. 薬用植物園委員会報告
9. 情報教育運営委員会報告
10. 経費不正使用防止推進室報告
11. 大学事務長報告

(9) 2014 (平成 26) 年度学年歴

月 日 (曜)	学 部 行 事 項 目	月 日 (曜)	学 部 行 事 項 目
4 月 1 日 (火)	推薦入学者入学前教育補講	31 日 (土)	6 年次基礎学力講義
1 日 (火)	留年生・2 年次・3 年次ガイダンス	31 日 (土)	6 年留年生基礎学力補講
2 日 (水)	6 年次履修及び国試ガイダンス	6 月 3 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
2 日 (水)	推薦入学者入学前教育補講	4 日 (水)	1 年次薬局見学実習
3 日 (木)	4 年次履修及び共用試験ガイダンス	4 日 (水)	6 年次基礎学力強化補講
3 日 (木)	5 年次病院・薬局ガイダンス	4 日 (水)	6 年留年生演習
3 日 (木)	5 年次履修及び国試ガイダンス	5 日 (木)	6 年留年生演習
3 日 (木)	推薦入学者入学前教育補講	6 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
4 日 (金)	新入生ガイダンス	6 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講
4 日 (金)	新入生ブレイスメント・テスト (英語)	7 日 (土)	4 年次 CBT 確認試験
5 日 (土)	入学式	7 日 (土)	6 年次基礎学力講義
7 日 (月)	5 年次補講	7 日 (土)	6 年留年生基礎学力補講
7 日 (月)	前期授業開始	10 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
9 日 (水)	1 年次ブレイスメントテスト	11 日 (水)	1 年次薬局見学実習
10 日 (木)	5 年次補講	11 日 (水)	4 年次平成 27 年度実務実習希望エントリー
11 日 (金)	5 年次国試確認試験 (午前)	11 日 (水)	6 年次基礎学力強化補講
11 日 (金)	6 年次及び留年生国試確認試験	11 日 (水)	6 年留年生演習
12 日 (土)	5 年次補講	13 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
12 日 (土)	新入生歓迎会	13 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講
12 日 (土)	第Ⅲ期実務実習報告会	13 日 (金)	6 年留年生演習
14 日 (月)	5 年次補講	14 日 (土)	1 年次中間試験 (基礎有機Ⅰ、微積分)
14 日 (月)	6 年次留年生演習	14 日 (土)	6 年次基礎学力講義
15 日 (火)	5 年次補講	14 日 (土)	6 年留年生基礎学力補講
16 日 (水)	1 年次ブレイスメントテスト	17 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
17 日 (木)	6 年次留年生演習	18 日 (水)	1 年次薬局見学実習
18 日 (金)	5 年次補講	18 日 (水)	6 年留年生演習
18 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講	20 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講
19 日 (土)	1 年次ワークショップ	20 日 (金)	6 年留年生演習
19 日 (土)	4 年次 CBT 確認試験	21 日 (土)	4 年次 CBT 確認試験
19 日 (土)	5 年次補講	21 日 (土)	5 年次実務実習中間報告会
19 日 (土)	6 年次及び留年生基礎学力補講	21 日 (土)	6 年次アドバンス実務実習中間報告会
21 日 (月)	5 年次補講	21 日 (土)	オープンキャンパス
21 日 (月)	6 年次留年生演習	21 日 (土)	6 年留年生基礎学力補講
22 日 (火)	5 年次補講	21 日 (土)	5 年次医薬開発特論Ⅱ説明会
23 日 (水)	6 年次基礎学力強化補講	23 日 (月)	6 年留年生演習
24 日 (木)	5 年次補講	24 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
24 日 (木)	6 年次留年生演習	25 日 (水)	1 年次薬局見学実習 SGD
25 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講	25 日 (水)	6 年次基礎学力強化補講
26 日 (土)	5 年次補講	25 日 (水)	6 年留年生演習
26 日 (土)	6 年次及び留年生基礎学力補講	27 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
28 日 (月)	5 年次補講	27 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講
30 日 (水)	5 年次補講	28 日 (土)	4 年次 CBT 確認試験
30 日 (水)	6 年次基礎学力強化補講	28 日 (土)	6 年次基礎学力講義
5 月 2 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講	28 日 (土)	6 年留年生基礎学力補講
7 日 (水)	5 年次第Ⅰ期実務実習直前教育	7 月 1 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
7 日 (水)	みなし火曜日 (火曜日の授業)	2 日 (水)	6 年留年生演習
7 日 (水)	6 年留年生演習	4 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
9 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講	4 日 (金)	6 年次・留年生国試確認試験
10 日 (土)	4 年次 CBT 確認試験	5 日 (土)	4 年次 CBT 模擬試験 (AB 両クラス)
10 日 (土)	6 年次基礎学力講義	7 日 (月)	6 年留年生演習
10 日 (土)	6 年留年生基礎学力補講	11 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
13 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	16 日 (水)	1 ～ 4, 6 年次前期定期試験
14 日 (水)	1 年次薬局見学実習	16 日 (水)	6 年留年生演習
14 日 (水)	6 年留年生演習	17 日 (木)	1 ～ 4, 6 年次前期定期試験
16 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	18 日 (金)	1 ～ 4, 6 年次前期定期試験
16 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講	18 日 (金)	6 年留年生演習
16 日 (金)	6 年留年生演習	22 日 (火)	1 ～ 4, 6 年次前期定期試験
17 日 (土)	6 年次基礎学力講義	23 日 (水)	1 ～ 4, 6 年次前期定期試験
17 日 (土)	6 年留年生基礎学力補講	23 日 (水)	1 年次病院見学実習ガイダンス
20 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	23 日 (水)	6 年留年生演習試験
21 日 (水)	1 年次薬局見学実習	24 日 (木)	1 年次ブレイスメントテスト
21 日 (水)	6 年次基礎学力強化補講	24 日 (木)	2 ～ 4 年次科目別試験
21 日 (水)	6 年留年生演習	24 日 (木)	5 年次確認試験
23 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	25 日 (金)	5 年次第Ⅰ期実務実習終了
23 日 (金)	6 年次基礎学力強化補講	28 日 (月)	CBT 体験受験説明会
23 日 (金)	6 年留年生演習	28 日 (月)	平成 27 年度 実務実習第 2 次エントリー
24 日 (土)	4 年次 CBT 確認試験	29 日 (火)	1 ～ 4 年、6 年次前期定期試験成績発表
24 日 (土)	6 年次基礎学力講義	29 日 (火)	前期定期試験再試験受検申し込み
24 日 (土)	中間試験 (化学・力学波動)	29 日 (火)	6 年留年生演習試験成績発表
27 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	30 日 (水)	1 ～ 4 年、6 年次前期定期試験再試験受検申し込み
28 日 (水)	1 年次薬局見学実習	30 日 (水)	実務実習 WEB システム説明会 (学生対象)
28 日 (水)	6 年次基礎学力強化補講	31 日 (木)	1 ～ 4 年、6 年次前期定期試験再試験受検申し込み
28 日 (水)	6 年留年生演習	8 月 2 日 (土)	1 ～ 4 年次前期追再試験
30 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	2 日 (土)	5 年次第Ⅰ期実務実習成果報告会
30 日 (金)	6 年次・6 年留年生国試確認試験	2 日 (土)	6 年次アドバンス実務実習成果報告会

月 日 (曜)	学 部 行 事 項 目	月 日 (曜)	学 部 行 事 項 目
4 日 (月)	1 ～ 4 年次前期追再試験	20 日 (月)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
4 日 (月)	6 年次前期追再試験	20 日 (月)	6 年次総合薬学演習
5 日 (火)	1 ～ 4 年次前期追再試験	21 日 (火)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
5 日 (火)	6 年次前期追再試験	21 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
6 日 (水)	1 ～ 4 年次前期追再試験	21 日 (火)	6 年次総合薬学演習
7 日 (木)	1 ～ 4 年次前期追再試験	22 日 (水)	1B 解剖見学実習ガイダンス
8 日 (金)	1 ～ 4 年次前期追再試験	22 日 (水)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
28 日 (木)	4 年次 CBT 体験受検	22 日 (水)	4 年次実務実習書類説明会
29 日 (金)	4 年次 CBT 体験受検	22 日 (水)	6 年次総合薬学演習
29 日 (金)	5 年次第Ⅱ期実務実習直前教育	23 日 (木)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
29 日 (金)	6 年次補講	23 日 (木)	6 年次総合薬学演習
30 日 (土)	6 年次補講	24 日 (金)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
9 月 1 日 (月)	5 年次第Ⅱ期実務実習 11 月 14 日まで	24 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
1 日 (月)	6 年次補講	24 日 (金)	6 年次総合薬学演習
2 日 (火)	6 年次補講	25 日 (土)	1B 解剖見学実習
3 日 (水)	6 年次補講	27 日 (月)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
4 日 (木)	1 ～ 4, 6 年次前期定期試験成績発表	27 日 (月)	6 年次総合薬学演習
4 日 (木)	4 年次後期授業開始	28 日 (火)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
4 日 (木)	4 年次前期科目最終試験受検受付	28 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
4 日 (木)	6 年次補講	28 日 (火)	6 年次総合薬学演習
5 日 (金)	6 年次補講	29 日 (水)	6 年次総合薬学演習
5 日 (金)	6 年留年生演習試験再試験	30 日 (木)	4 年次総合確認試験追・再試験
6 日 (土)	4 年次総合確認試験	30 日 (木)	5 年次基礎学力強化補講
6 日 (土)	6 年次補講	30 日 (木)	6 年次総合薬学演習
8 日 (月)	1 ～ 3 年次後期授業開始	31 日 (金)	6 年次総合薬学演習
8 日 (月)	6 年次国試確認試験	30 日 (金)	体育祭・昭葉祭準備
9 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	11 月 1 日 (土)	体育祭
9 日 (火)	6 年次補講	2 日 (日)	昭葉祭
10 日 (水)	6 年次補講	3 日 (月)	昭葉祭
11 日 (木)	6 年次補講	4 日 (火)	昭葉祭学生代休
11 日 (木)	6 年留年生演習試験再試験成績発表	5 日 (水)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
12 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	5 日 (水)	6 年次総合薬学演習
12 日 (金)	6 年次補講	6 日 (木)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
13 日 (土)	6 年次補講 (確認試験)	6 日 (木)	6 年次総合薬学演習
16 日 (火)	4 年次総合確認試験追・再試験	7 日 (金)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
16 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	7 日 (金)	5 年次国試確認試験
19 日 (金)	4 年次前期科目最終試験	7 日 (金)	6 年次総合薬学演習
19 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	8 日 (土)	推薦入試
20 日 (土)	4 年次前期科目最終試験	10 日 (月)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
22 日 (月)	5 年次基礎学力強化補講	10 日 (月)	6 年次総合薬学演習
24 日 (水)	6 年次卒業論文発表会	11 日 (火)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
25 日 (木)	6 年次卒業論文発表会	11 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
26 日 (金)	4 年次基礎学力強化補講	11 日 (火)	6 年次総合薬学演習
26 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	12 日 (水)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講
27 日 (土)	6 年留年生卒業式	12 日 (水)	6 年次総合薬学演習
29 日 (月)	4 年次基礎学力強化補講	13 日 (木)	6 年次総合薬学演習
30 日 (火)	4 年次基礎学力強化補講	14 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
30 日 (火)	4 年次前期科目最終試験成績発表	14 日 (金)	5 年次実務実習最終日
30 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	14 日 (金)	6 年次総合薬学演習
10 月 1 日 (水)	3 年次卒業実習教育研究室配属ガイダンス	15 日 (土)	1 年次中間試験
1 日 (水)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講	15 日 (土)	4 年次総合確認試験
2 日 (木)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講	17 日 (月)	6 年次総合薬学演習
2 日 (木)	5 年次基礎学力強化補講	18 日 (火)	6 年次国家試験ガイダンス
2 日 (木)	6 年次総合薬学演習	18 日 (火)	6 年次総合薬学演習
6 日 (月)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講	20 日 (木)	6 年次第 1 回模擬試験
6 日 (月)	6 年次総合薬学演習	21 日 (金)	6 年次第 1 回模擬試験
7 日 (火)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講	22 日 (土)	1 年次中間試験
7 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	25 日 (火)	6 年次国試道場
7 日 (火)	6 年次総合薬学演習	26 日 (水)	4 年次総合確認試験追・再試験
8 日 (水)	3 年次平成 28 年度実務実習希望調査	26 日 (水)	6 年次国試道場
8 日 (水)	6 年次総合薬学演習	27 日 (木)	6 年次国試道場
9 日 (木)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講	28 日 (金)	6 年次国試道場
9 日 (木)	6 年次総合薬学演習	29 日 (土)	5 年次第Ⅱ期実務実習報告会
10 日 (金)	1A 解剖見学実習ガイダンス	29 日 (土)	6 年次国試道場
10 日 (金)	4 年次 CBT 基礎学力強化補講	12 月 1 日 (月)	2 年次 TOEFL 試験
10 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	2 日 (火)	5 年次模擬試験
10 日 (金)	6 年次総合薬学演習	2 日 (火)	6 年次科目選択
11 日 (土)	6 年次総合薬学演習	2 日 (火)	6 年次国試ガイダンス
14 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	3 日 (水)	1 年次中間試験追試
14 日 (火)	6 年次総合薬学演習	8 日 (月)	1 年次 TOEFL 試験
16 日 (木)	6 年次総合薬学演習	11 日 (木)	6 年次第 1 回演習試験
16 日 (木)	みなし月曜日 (月曜日の授業)	12 日 (金)	6 年次第 1 回演習試験
17 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	13 日 (土)	4 年次 OSCE 本試験
17 日 (金)	6 年次総合薬学演習	14 日 (日)	3 年次 TOEIC 公開試験 (学外)
18 日 (土)	1A 解剖見学実習	15 日 (月)	1A 3, 4 限 高塚先生特別講義
18 日 (土)	4 年次総合確認試験	15 日 (月)	4 年次 CBT 模擬試験

月 日 (曜)	学 部 行 事 項 目	月 日 (曜)	学 部 行 事 項 目
16 日 (火)	1B 3, 4 限 高塚先生特別講義	12 日 (木)	1 ～ 3 年次後期再試験受験受付
17 日 (水)	5 年次第Ⅲ期実務実習直前教育	12 日 (木)	1 年次特別支援学校見学実習
19 日 (金)	年内授業終了	12 日 (木)	6 年次直前補講
22 日 (月)	5 年次国試模擬試験	13 日 (金)	1 ～ 3 年次後期再試験受験受付
22 日 (月)	6 年次国試模擬試験	13 日 (金)	1 年次特別支援学校見学実習
24 日 (水)	5 年次国試模擬試験	13 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
24 日 (水)	6 年次国試模擬試験	13 日 (金)	6 年次直前補講
1 月 7 日 (水)	第Ⅲ期病院薬局実務実習開始3月24日まで	14 日 (土)	6 年次直前補講
7 日 (水)	年明け授業開始	14 日 (土)	第Ⅲ期実務実習中間報告会
8 日 (木)	6 年次第2回演習試験	16 日 (月)	1 ～ 3 年次後期追・再試験
8 日 (木)	みなし月曜日 (月曜日の授業)	16 日 (月)	4 年次実務実習概要説明会
9 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	16 日 (月)	6 年次直前補講
9 日 (金)	6 年次第2回演習試験	17 日 (火)	1 ～ 3 年次後期追・再試験
13 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	17 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
14 日 (水)	みなし月曜日 (月曜日の授業)	17 日 (火)	6 年次直前補講
15 日 (木)	1 ～ 4、6 年後期授業終了	18 日 (水)	1 ～ 3 年次後期追・再試験
16 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	18 日 (水)	6 年次直前補講
17 日 (土)	大学入試センター試験	19 日 (木)	1 ～ 3 年次後期追・再試験
18 日 (日)	大学入試センター試験	19 日 (木)	6 年次直前補講
20 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	20 日 (金)	1 ～ 3 年次後期追・再試験
22 日 (木)	4 年次 CBT 試験	20 日 (金)	16:20 国家試験ガイダンス・6 年留年生ガイダンス
23 日 (金)	4 年次 CBT 試験	20 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
23 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	20 日 (金)	6 年次直前補講
26 日 (月)	1 ～ 3 年後期定期試験	21 日 (土)	4 年次 OSCE 追再試験
27 日 (火)	1 ～ 3 年後期定期試験	23 日 (月)	6 年次直前補講
27 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	24 日 (火)	4 年次旧教育課程科目最終試験受付
28 日 (水)	1 ～ 3 年後期定期試験	24 日 (火)	4 年次旧教育課程科目成績発表
29 日 (木)	1 ～ 3 年後期定期試験	24 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
30 日 (金)	1 ～ 3 年後期定期試験	27 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
30 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	28 日 (土)	薬剤師国家試験
30 日 (金)	6 年次後期模擬試験	3 月 1 日 (日)	薬剤師国家試験
31 日 (土)	6 年次後期模擬試験	3 日 (火)	4 年次旧教育課程科目最終試験
2 月 2 日 (月)	1 ～ 3 年後期定期試験	3 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
2 日 (月)	1 年次特別支援学校見学実習ガイダンス	5 日 (木)	第 6 1 回卒業式
3 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	6 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講
4 日 (水)	B 方式入学試験	10 日 (火)	4 年次 CBT 追再試験
5 日 (木)	3 年次科目別試験	10 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講
5 日 (木)	6 年次第 3 回演習試験	13 日 (金)	1 ～ 4 年次進級成績発表
6 日 (金)	1 年次特別支援学校見学実習	13 日 (金)	5 年次国試確認試験実務実習空き学生対象
6 日 (金)	5 年次基礎学力強化補講	24 日 (火)	5 年次第Ⅲ期実務実習終了日
6 日 (金)	6 年次第 3 回演習試験	26 日 (木)	5 年次対象アドバンスト実務実習説明会
9 日 (月)	C 方式入学試験	27 日 (金)	薬剤師国家試験合格発表
10 日 (火)	1 ～ 3 年次後期再試験受験受付	27 日 (金)	入学前教育
10 日 (火)	1 ～ 3 年次後期定期試験成績発表	28 日 (土)	入学前教育
10 日 (火)	1 年次特別支援学校見学実習	30 日 (月)	入学前教育
10 日 (火)	5 年次基礎学力強化補講	30 日 (月)	各学年履修ガイダンス説明会打ち合わせ
10 日 (火)	6 年次直前補講	31 日 (火)	入学前教育

(10) 平成 26 年度授業評価

学生の授業に対する評価

平成 26 年度前期 通常講義 授業評価総括表

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	94 0.9%	84 0.8%	1,070 10.8%	1,839 18.5%	6,847 68.9%	0 0.0%	9,934 100.0%	4.54
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	145 1.5%	241 2.4%	2,245 22.6%	3,659 36.8%	3,644 36.7%	0 0.0%	9,934 100.0%	4.05
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	276 2.8%	535 5.4%	2,814 28.3%	3,247 32.7%	3,062 30.8%	0 0.0%	9,934 100.0%	3.83
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	110 1.1%	239 2.4%	2,107 21.2%	3,343 33.7%	4,135 41.6%	0 0.0%	9,934 100.0%	4.12
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	176 1.8%	303 3.1%	2,536 25.5%	3,742 37.7%	3,177 32.0%	0 0.0%	9,934 100.0%	3.95
合 計	801 1.6%	1,402 2.8%	10,772 21.7%	15,830 31.9%	20,865 42.0%	0 0.0%	49,670 100.0%	4.10

【授業担当者について】

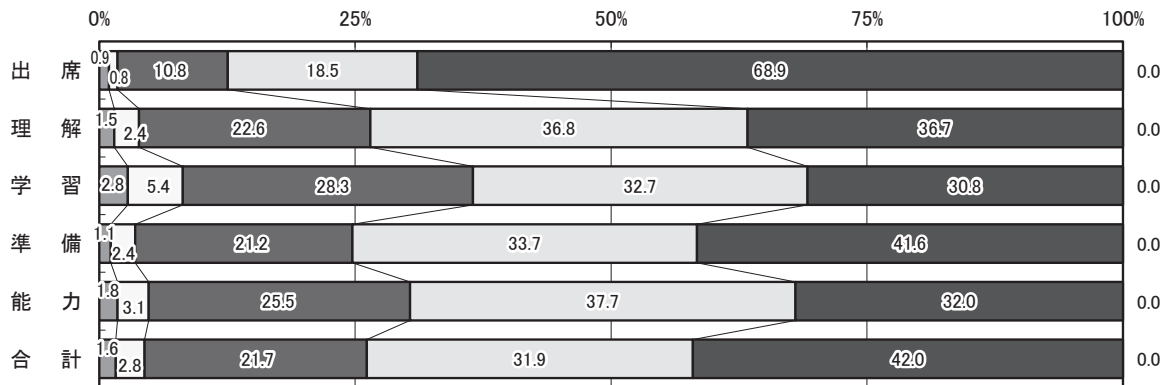
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	194 2.0%	350 3.5%	2,239 22.5%	3,147 31.7%	4,004 40.3%	0 0.0%	9,934 100.0%	4.05
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	161 1.6%	245 2.5%	1,988 20.0%	3,077 31.0%	4,463 44.9%	0 0.0%	9,934 100.0%	4.15
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	184 1.9%	268 2.7%	2,167 21.8%	3,132 31.5%	4,183 42.1%	0 0.0%	9,934 100.0%	4.09
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	274 2.8%	419 4.2%	2,325 23.4%	3,021 30.4%	3,895 39.2%	0 0.0%	9,934 100.0%	3.99
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	257 2.6%	375 3.8%	2,337 23.5%	3,063 30.8%	3,902 39.3%	0 0.0%	9,934 100.0%	4.00
合 計	1,070 2.2%	1,657 3.3%	11,056 22.3%	15,440 31.1%	20,447 41.2%	0 0.0%	49,670 100.0%	4.06

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	131 1.3%	156 1.6%	2,335 23.5%	3,188 32.1%	4,124 41.5%	0 0.0%	9,934 100.0%	4.11
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	198 2.0%	291 2.9%	2,348 23.6%	3,198 32.2%	3,899 39.2%	0 0.0%	9,934 100.0%	4.04
13 授業は分かり易かった。	361 3.6%	563 5.7%	2,406 24.2%	3,130 31.5%	3,474 35.0%	0 0.0%	9,934 100.0%	3.89
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	282 2.8%	421 4.2%	2,584 26.0%	3,200 32.2%	3,447 34.7%	0 0.0%	9,934 100.0%	3.92
15 私はこの授業に満足できた。	261 2.6%	389 3.9%	2,392 24.1%	3,326 33.5%	3,566 35.9%	0 0.0%	9,934 100.0%	3.96
合 計	1,233 2.5%	1,820 3.7%	12,065 24.3%	16,042 32.3%	18,510 37.3%	0 0.0%	49,670 100.0%	3.98

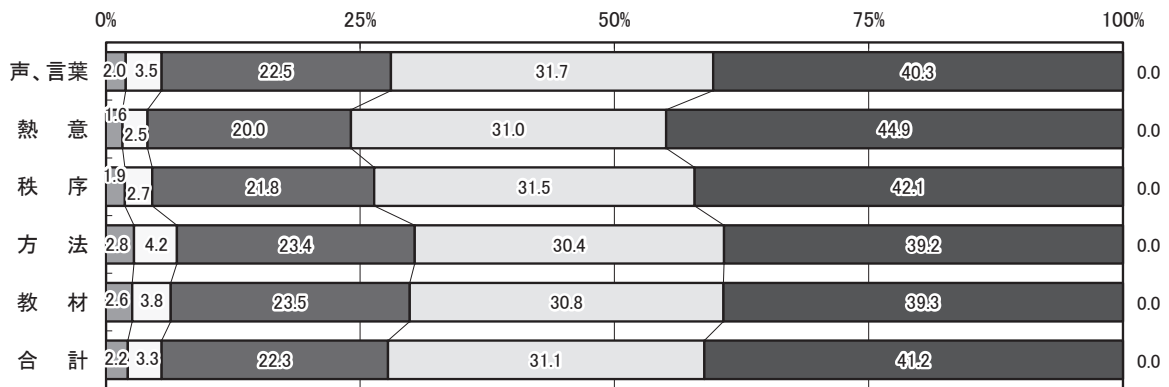
平成26年度前期 通常講義 授業評価総括表

【あなた自身のことについて】



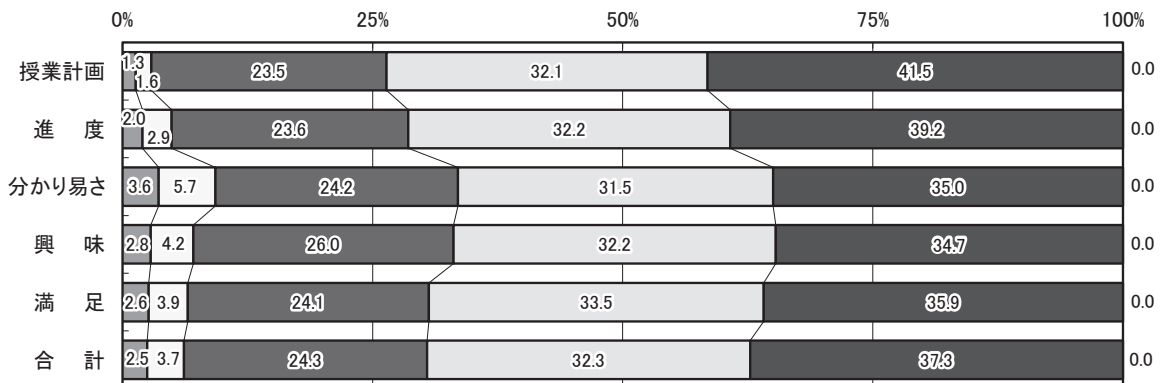
■ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



■ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



■ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度前期 通常講義 授業評価〈1年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	15	13	155	314	2,293	0	2,790	4.74
	0.5%	0.5%	5.6%	11.3%	82.2%	0.0%	100.0%	
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	38	74	535	1,066	1,077	0	2,790	4.10
	1.4%	2.7%	19.2%	38.2%	38.6%	0.0%	100.0%	
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	128	182	790	881	809	0	2,790	3.74
	4.6%	6.5%	28.3%	31.6%	29.0%	0.0%	100.0%	
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	22	70	491	952	1,255	0	2,790	4.20
	0.8%	2.5%	17.6%	34.1%	45.0%	0.0%	100.0%	
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	64	96	686	1,077	867	0	2,790	3.93
	2.3%	3.4%	24.6%	38.6%	31.1%	0.0%	100.0%	
合 計	267	435	2,657	4,290	6,301	0	13,950	4.14
	1.9%	3.1%	19.0%	30.8%	45.2%	0.0%	100.0%	

【授業担当者について】

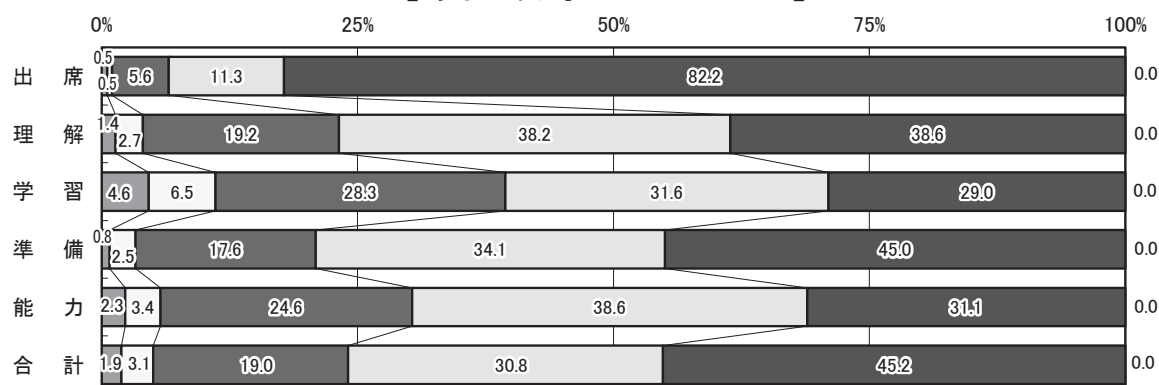
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	51	129	556	830	1,224	0	2,790	4.09
	1.8%	4.6%	19.9%	29.7%	43.9%	0.0%	100.0%	
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	41	94	482	789	1,384	0	2,790	4.21
	1.5%	3.4%	17.3%	28.3%	49.6%	0.0%	100.0%	
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	37	86	516	795	1,356	0	2,790	4.20
	1.3%	3.1%	18.5%	28.5%	48.6%	0.0%	100.0%	
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	78	135	591	759	1,227	0	2,790	4.05
	2.8%	4.8%	21.2%	27.2%	44.0%	0.0%	100.0%	
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	71	102	593	784	1,240	0	2,790	4.08
	2.5%	3.7%	21.3%	28.1%	44.4%	0.0%	100.0%	
合 計	278	546	2,738	3,957	6,431	0	13,950	4.13
	2.0%	3.9%	19.6%	28.4%	46.1%	0.0%	100.0%	

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	26	36	561	864	1,303	0	2,790	4.21
	0.9%	1.3%	20.1%	31.0%	46.7%	0.0%	100.0%	
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	47	80	574	884	1,205	0	2,790	4.12
	1.7%	2.9%	20.6%	31.7%	43.2%	0.0%	100.0%	
13 授業は分かり易かった。	123	208	567	853	1,039	0	2,790	3.89
	4.4%	7.5%	20.3%	30.6%	37.2%	0.0%	100.0%	
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	107	135	660	880	1,008	0	2,790	3.91
	3.8%	4.8%	23.7%	31.5%	36.1%	0.0%	100.0%	
15 私はこの授業に満足できた。	96	135	584	907	1,068	0	2,790	3.97
	3.4%	4.8%	20.9%	32.5%	38.3%	0.0%	100.0%	
合 計	399	594	2,946	4,388	5,623	0	13,950	4.02
	2.9%	4.3%	21.1%	31.5%	40.3%	0.0%	100.0%	

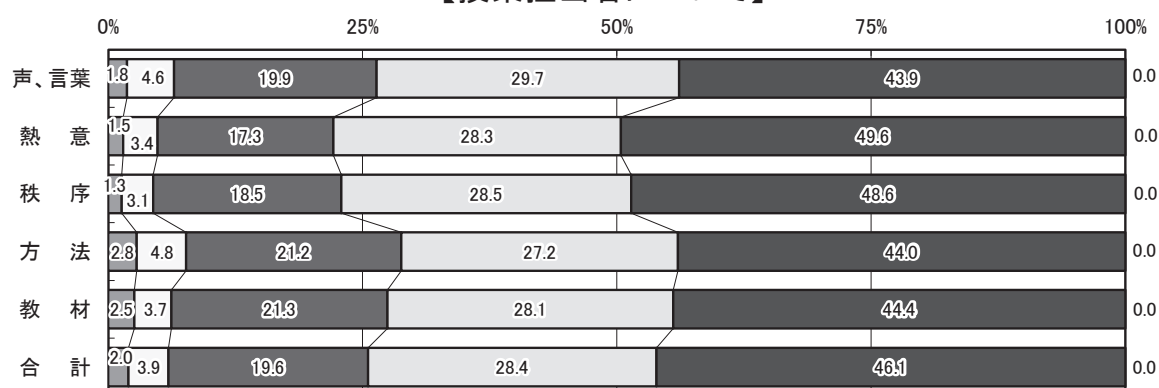
平成26年度前期 通常講義 授業評価〈1年〉

【あなた自身のことについて】



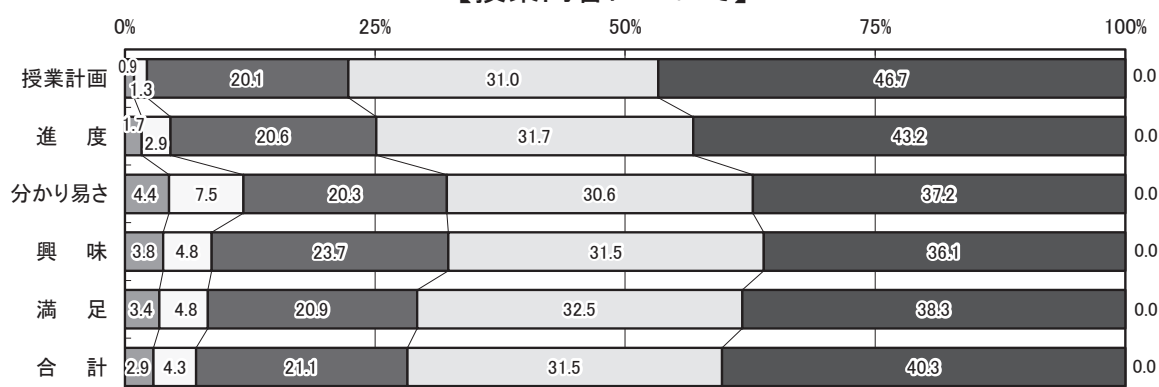
□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度前期 通常講義 授業評価〈2年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	32 1.1%	24 0.8%	431 14.8%	604 20.8%	1,815 62.5%	0 0.0%	2,906 100.0%	4.43
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	47 1.6%	72 2.5%	799 27.5%	1,041 35.8%	947 32.6%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.95
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	61 2.1%	190 6.5%	869 29.9%	949 32.7%	837 28.8%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.80
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	34 1.2%	86 3.0%	760 26.2%	971 33.4%	1,055 36.3%	0 0.0%	2,906 100.0%	4.01
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	40 1.4%	89 3.1%	855 29.4%	1,093 37.6%	829 28.5%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.89
合 計	214 1.5%	461 3.2%	3,714 25.6%	4,658 32.1%	5,483 37.7%	0 0.0%	14,530 100.0%	4.01

【授業担当者について】

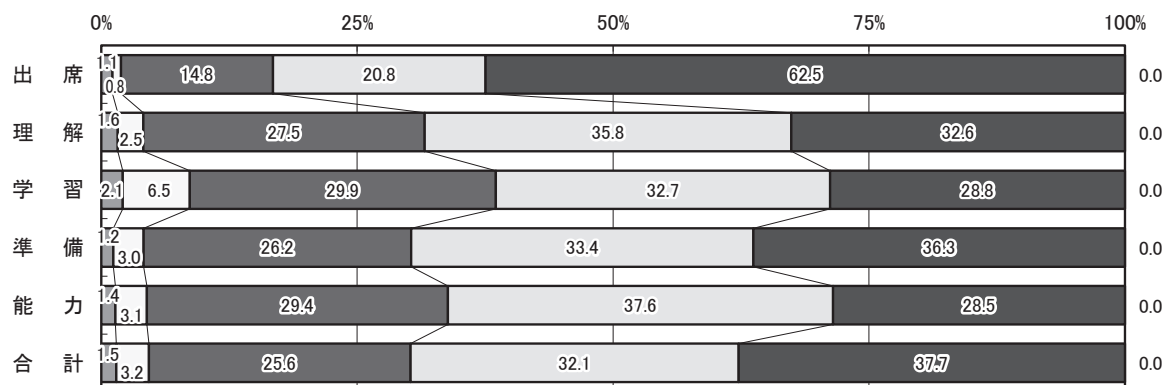
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	61 2.1%	102 3.5%	787 27.1%	947 32.6%	1,009 34.7%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.94
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	46 1.6%	67 2.3%	705 24.3%	991 34.1%	1,097 37.7%	0 0.0%	2,906 100.0%	4.04
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	58 2.0%	65 2.2%	734 25.3%	990 34.1%	1,059 36.4%	0 0.0%	2,906 100.0%	4.01
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	70 2.4%	94 3.2%	764 26.3%	941 32.4%	1,037 35.7%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.96
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	58 2.0%	94 3.2%	751 25.8%	938 32.3%	1,065 36.6%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.98
合 計	293 2.0%	422 2.9%	3,741 25.7%	4,807 33.1%	5,267 36.2%	0 0.0%	14,530 100.0%	3.99

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	36 1.2%	42 1.4%	796 27.4%	982 33.8%	1,050 36.1%	0 0.0%	2,906 100.0%	4.02
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	48 1.7%	71 2.4%	814 28.0%	960 33.0%	1,013 34.9%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.97
13 授業は分かり易かった。	86 3.0%	131 4.5%	842 29.0%	930 32.0%	917 31.6%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.85
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	62 2.1%	105 3.6%	889 30.6%	945 32.5%	905 31.1%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.87
15 私はこの授業に満足できた。	61 2.1%	94 3.2%	818 28.1%	981 33.8%	952 32.8%	0 0.0%	2,906 100.0%	3.92
合 計	293 2.0%	443 3.0%	4,159 28.6%	4,798 33.0%	4,837 33.3%	0 0.0%	14,530 100.0%	3.93

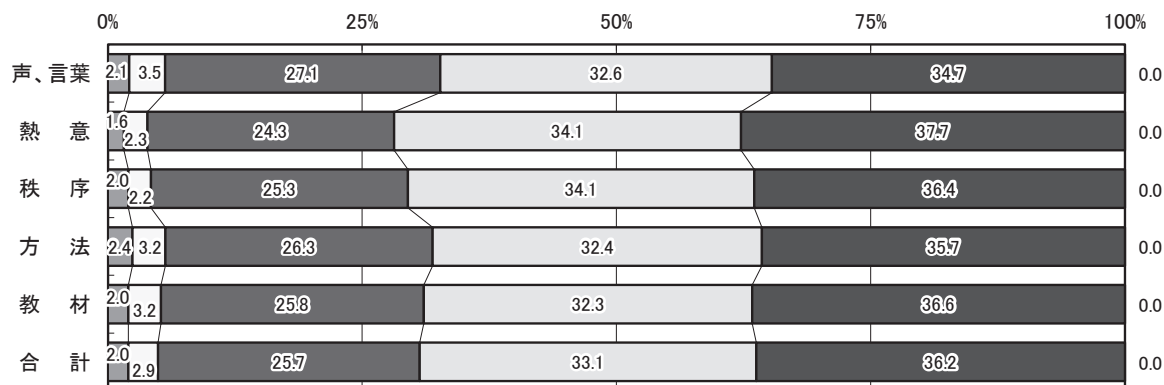
平成26年度前期 通常講義 授業評価〈2年〉

【あなた自身のことについて】



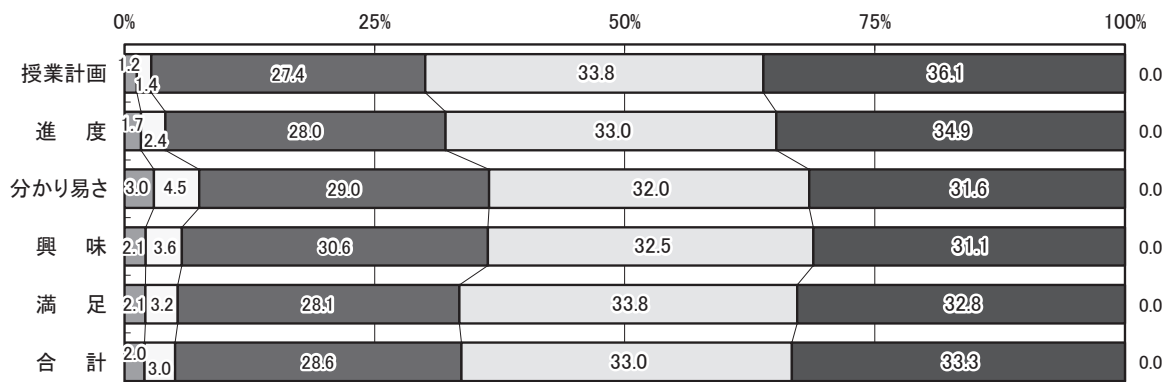
□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度前期 通常講義 授業評価〈3年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思	強くそう 思	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	23 0.9%	30 1.2%	323 12.9%	552 22.0%	1,580 63.0%	0 0.0%	2,508 100.0%	4.45
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	36 1.4%	67 2.7%	586 23.4%	890 35.5%	929 37.0%	0 0.0%	2,508 100.0%	4.04
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	39 1.6%	77 3.1%	679 27.1%	845 33.7%	868 34.6%	0 0.0%	2,508 100.0%	3.97
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	28 1.1%	53 2.1%	551 22.0%	835 33.3%	1,041 41.5%	0 0.0%	2,508 100.0%	4.12
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	42 1.7%	81 3.2%	653 26.0%	889 35.4%	843 33.6%	0 0.0%	2,508 100.0%	3.96
合 計	168 1.3%	308 2.5%	2,792 22.3%	4,011 32.0%	5,261 42.0%	0 0.0%	12,540 100.0%	4.11

【授業担当者について】

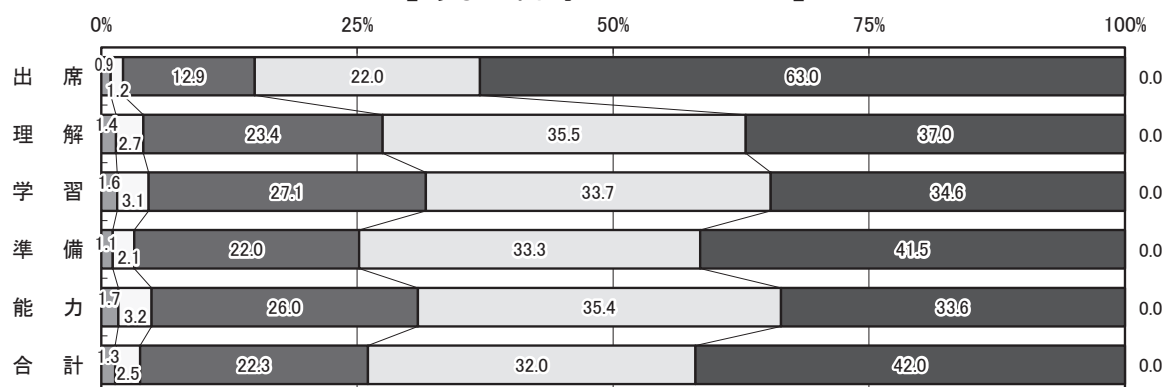
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思	強くそう 思	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	50 2.0%	78 3.1%	577 23.0%	774 30.9%	1,029 41.0%	0 0.0%	2,508 100.0%	4.06
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	47 1.9%	62 2.5%	547 21.8%	749 29.9%	1,103 44.0%	0 0.0%	2,508 100.0%	4.12
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	53 2.1%	98 3.9%	595 23.7%	751 29.9%	1,011 40.3%	0 0.0%	2,508 100.0%	4.02
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	89 3.5%	127 5.1%	631 25.2%	722 28.8%	939 37.4%	0 0.0%	2,508 100.0%	3.92
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	83 3.3%	114 4.5%	652 26.0%	741 29.5%	918 36.6%	0 0.0%	2,508 100.0%	3.92
合 計	322 2.6%	479 3.8%	3,002 23.9%	3,737 29.8%	5,000 39.9%	0 0.0%	12,540 100.0%	4.01

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思	強くそう 思	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	40 1.6%	55 2.2%	633 25.2%	730 29.1%	1,050 41.9%	0 0.0%	2,508 100.0%	4.07
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	70 2.8%	107 4.3%	625 24.9%	730 29.1%	976 38.9%	0 0.0%	2,508 100.0%	3.97
13 授業は分かり易かった。	100 4.0%	163 6.5%	636 25.4%	744 29.7%	865 34.5%	0 0.0%	2,508 100.0%	3.84
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	76 3.0%	122 4.9%	678 27.0%	799 31.9%	833 33.2%	0 0.0%	2,508 100.0%	3.87
15 私はこの授業に満足できた。	66 2.6%	116 4.6%	666 26.6%	804 32.1%	856 34.1%	0 0.0%	2,508 100.0%	3.90
合 計	352 2.8%	563 4.5%	3,238 25.8%	3,807 30.4%	4,580 36.5%	0 0.0%	12,540 100.0%	3.93

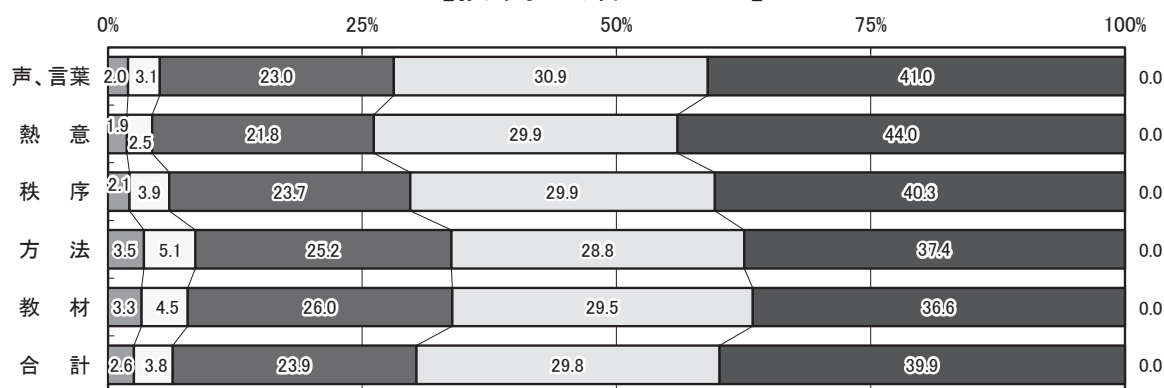
平成26年度前期 通常講義 授業評価〈3年〉

【あなた自身のことについて】



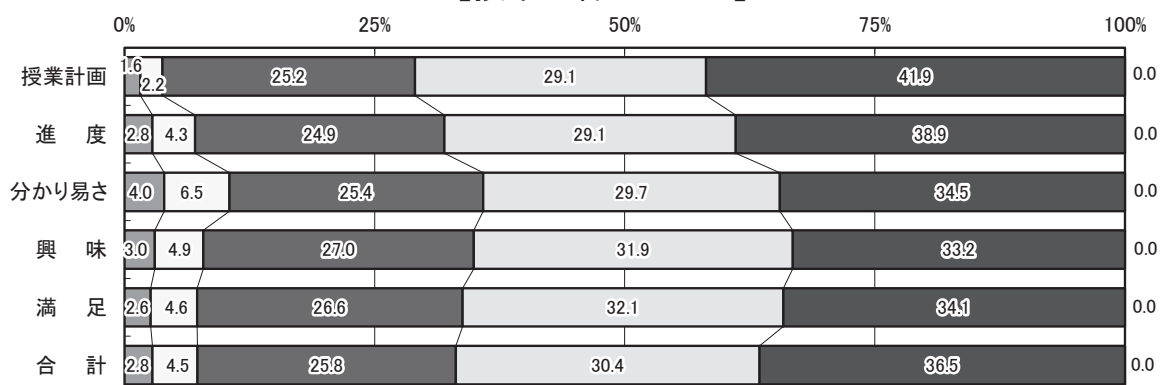
□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度前期 通常講義 授業評価〈4年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	16	8	121	229	620	0	994	4.44
	1.6%	0.8%	12.2%	23.0%	62.4%	0.0%	100.0%	
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	18	18	223	342	393	0	994	4.08
	1.8%	1.8%	22.4%	34.4%	39.5%	0.0%	100.0%	
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	20	27	250	337	360	0	994	4.00
	2.0%	2.7%	25.2%	33.9%	36.2%	0.0%	100.0%	
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	18	17	196	329	434	0	994	4.15
	1.8%	1.7%	19.7%	33.1%	43.7%	0.0%	100.0%	
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	23	22	221	361	367	0	994	4.03
	2.3%	2.2%	22.2%	36.3%	36.9%	0.0%	100.0%	
合 計	95	92	1,011	1,598	2,174	0	4,970	4.14
	1.9%	1.9%	20.3%	32.2%	43.7%	0.0%	100.0%	

【授業担当者について】

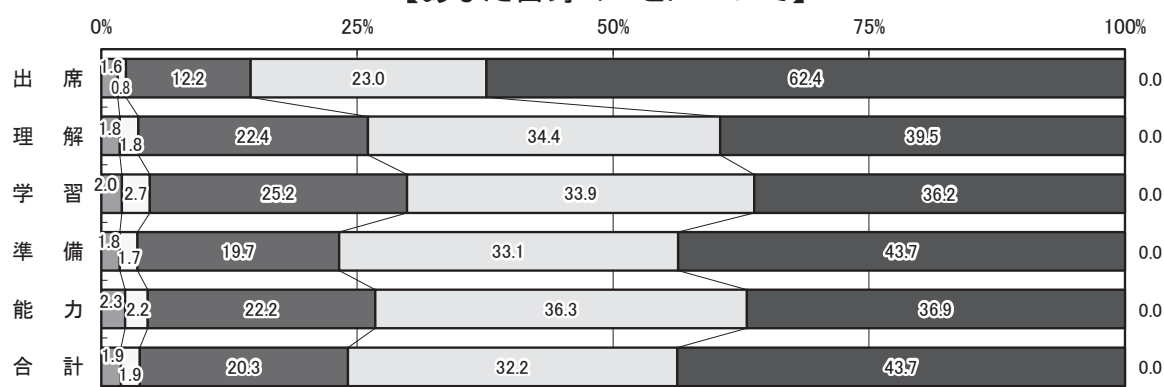
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	25	27	196	327	419	0	994	4.09
	2.5%	2.7%	19.7%	32.9%	42.2%	0.0%	100.0%	
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	19	18	190	301	466	0	994	4.18
	1.9%	1.8%	19.1%	30.3%	46.9%	0.0%	100.0%	
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	25	17	214	326	412	0	994	4.09
	2.5%	1.7%	21.5%	32.8%	41.4%	0.0%	100.0%	
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	28	40	219	334	373	0	994	3.99
	2.8%	4.0%	22.0%	33.6%	37.5%	0.0%	100.0%	
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	31	37	211	337	378	0	994	4.00
	3.1%	3.7%	21.2%	33.9%	38.0%	0.0%	100.0%	
合 計	128	139	1,030	1,625	2,048	0	4,970	4.07
	2.6%	2.8%	20.7%	32.7%	41.2%	0.0%	100.0%	

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	22	19	219	324	410	0	994	4.09
	2.2%	1.9%	22.0%	32.6%	41.2%	0.0%	100.0%	
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	25	23	223	343	380	0	994	4.04
	2.5%	2.3%	22.4%	34.5%	38.2%	0.0%	100.0%	
13 授業は分かり易かった。	38	43	244	315	354	0	994	3.91
	3.8%	4.3%	24.5%	31.7%	35.6%	0.0%	100.0%	
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	28	41	256	316	353	0	994	3.93
	2.8%	4.1%	25.8%	31.8%	35.5%	0.0%	100.0%	
15 私はこの授業に満足できた。	27	37	226	353	351	0	994	3.97
	2.7%	3.7%	22.7%	35.5%	35.3%	0.0%	100.0%	
合 計	140	163	1,168	1,651	1,848	0	4,970	3.99
	2.8%	3.3%	23.5%	33.2%	37.2%	0.0%	100.0%	

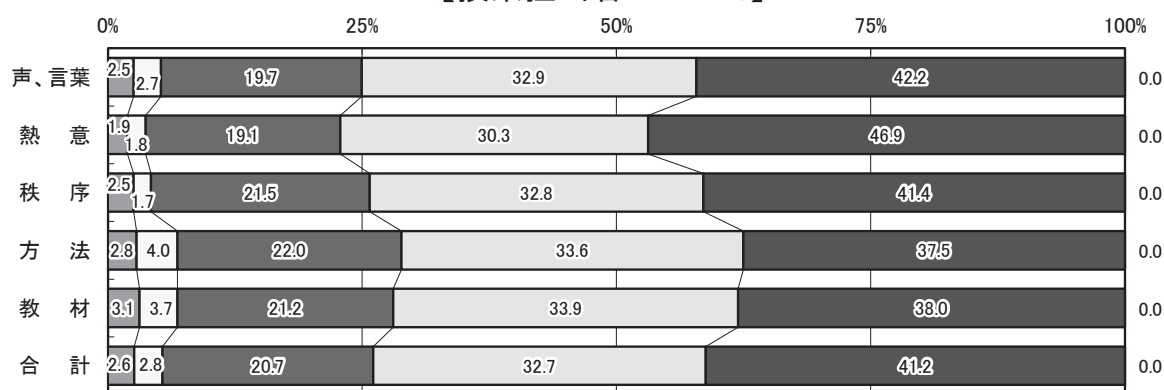
平成26年度前期 通常講義 授業評価〈4年〉

【あなた自身のことについて】



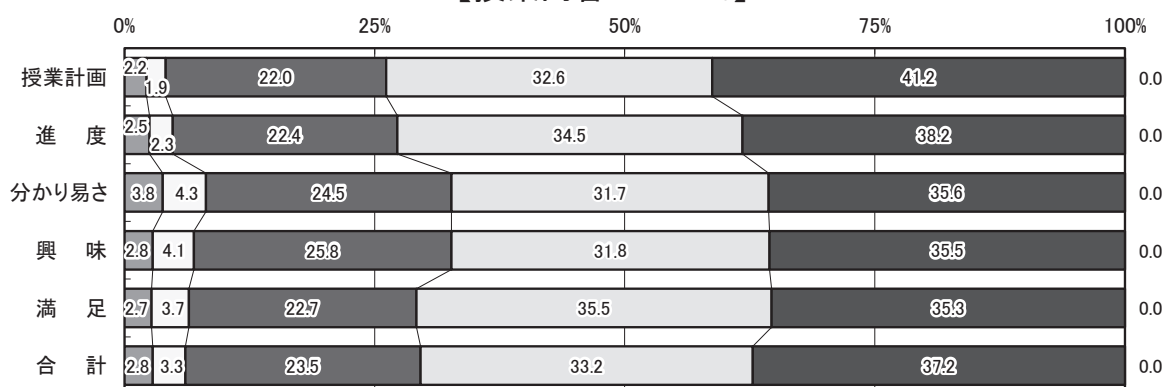
□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業担当者について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業内容について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

平成26年度前期 通常講義 授業評価〈6年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	8	9	40	140	539	0	736	4.62
	1.1%	1.2%	5.4%	19.0%	73.2%	0.0%	100.0%	
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	6	10	102	320	298	0	736	4.21
	0.8%	1.4%	13.9%	43.5%	40.5%	0.0%	100.0%	
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	28	59	226	235	188	0	736	3.67
	3.8%	8.0%	30.7%	31.9%	25.5%	0.0%	100.0%	
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	8	13	109	256	350	0	736	4.26
	1.1%	1.8%	14.8%	34.8%	47.6%	0.0%	100.0%	
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	7	15	121	322	271	0	736	4.13
	1.0%	2.0%	16.4%	43.8%	36.8%	0.0%	100.0%	
合 計	57	106	598	1,273	1,646	0	3,680	4.18
	1.5%	2.9%	16.3%	34.6%	44.7%	0.0%	100.0%	

【授業担当者について】

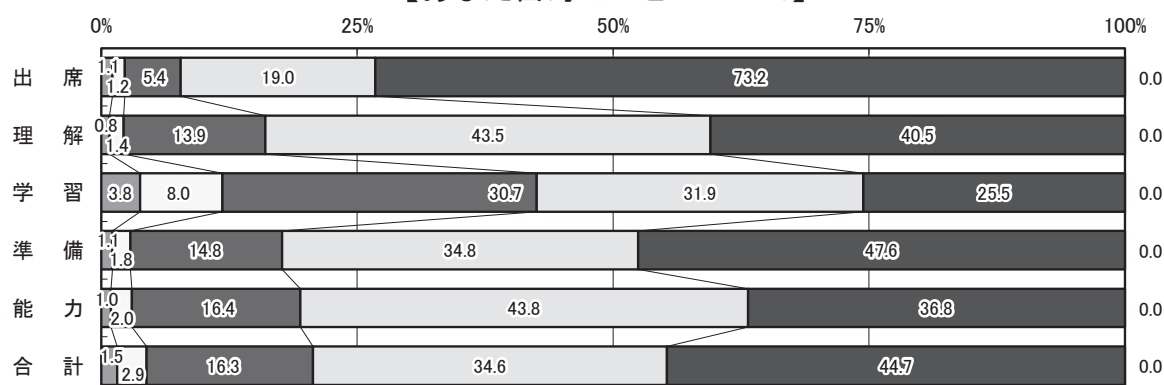
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	7	14	123	269	323	0	736	4.21
	1.0%	1.9%	16.7%	36.5%	43.9%	0.0%	100.0%	
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	8	4	64	247	413	0	736	4.43
	1.1%	0.5%	8.7%	33.6%	56.1%	0.0%	100.0%	
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	11	2	108	270	345	0	736	4.27
	1.5%	0.3%	14.7%	36.7%	46.9%	0.0%	100.0%	
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	9	23	120	265	319	0	736	4.17
	1.2%	3.1%	16.3%	36.0%	43.3%	0.0%	100.0%	
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	14	28	130	263	301	0	736	4.10
	1.9%	3.8%	17.7%	35.7%	40.9%	0.0%	100.0%	
合 計	49	71	545	1,314	1,701	0	3,680	4.24
	1.3%	1.9%	14.8%	35.7%	46.2%	0.0%	100.0%	

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	7	4	126	288	311	0	736	4.21
	1.0%	0.5%	17.1%	39.1%	42.3%	0.0%	100.0%	
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	8	10	112	281	325	0	736	4.23
	1.1%	1.4%	15.2%	38.2%	44.2%	0.0%	100.0%	
13 授業は分かり易かった。	14	18	117	288	299	0	736	4.14
	1.9%	2.4%	15.9%	39.1%	40.6%	0.0%	100.0%	
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	9	18	101	260	348	0	736	4.25
	1.2%	2.4%	13.7%	35.3%	47.3%	0.0%	100.0%	
15 私はこの授業に満足できた。	11	7	98	281	339	0	736	4.26
	1.5%	1.0%	13.3%	38.2%	46.1%	0.0%	100.0%	
合 計	49	57	554	1,398	1,622	0	3,680	4.22
	1.3%	1.5%	15.1%	38.0%	44.1%	0.0%	100.0%	

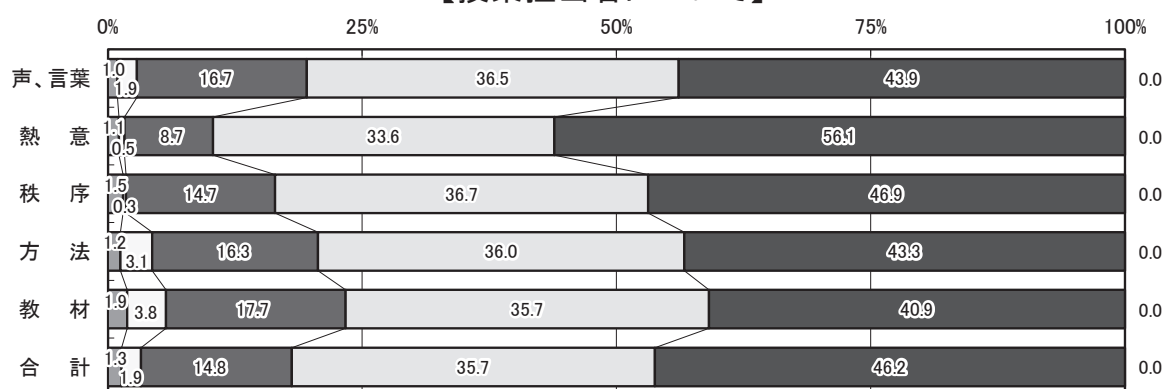
平成26年度前期 通常講義 授業評価〈6年〉

【あなた自身のことについて】



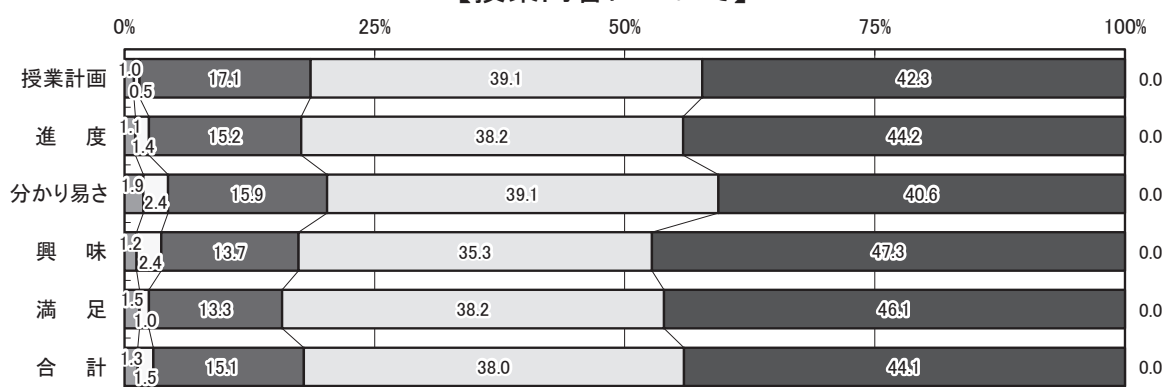
□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業担当者について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業内容について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

平成26年度前期 実習 授業評価総括表

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思	強くそう 思	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	12 0.8%	47 3.3%	324 22.5%	541 37.6%	516 35.8%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.04
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	67 4.7%	102 7.1%	301 20.9%	429 29.8%	541 37.6%	0 0.0%	1,440 100.0%	3.89
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	22 1.5%	40 2.8%	265 18.4%	409 28.4%	704 48.9%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.20
4 私は実験結果について十分に考察した。	23 1.6%	33 2.3%	310 21.5%	544 37.8%	530 36.8%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.06
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	14 1.0%	21 1.5%	305 21.2%	553 38.4%	547 38.0%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.11
合 計	138 1.9%	243 3.4%	1,505 20.9%	2,476 34.4%	2,838 39.4%	0 0.0%	7,200 100.0%	4.06

【実習担当者について】

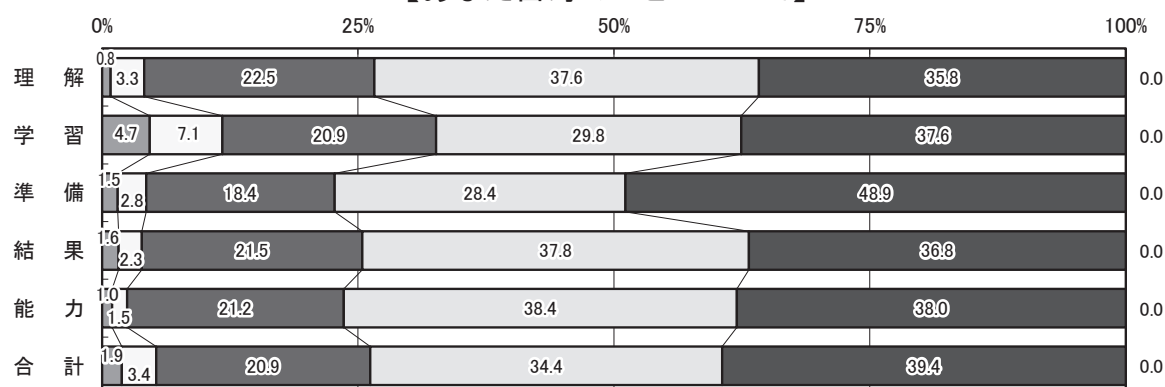
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思	強くそう 思	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	25 1.7%	51 3.5%	323 22.4%	514 35.7%	527 36.6%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.02
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	29 2.0%	47 3.3%	335 23.3%	522 36.3%	507 35.2%	0 0.0%	1,440 100.0%	3.99
8 実習全体の流れが示された。	31 2.2%	36 2.5%	291 20.2%	500 34.7%	582 40.4%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.09
9 実験の手順が的確に説明されていた。	40 2.8%	55 3.8%	307 21.3%	471 32.7%	567 39.4%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.02
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	20 1.4%	24 1.7%	272 18.9%	418 29.0%	706 49.0%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.23
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	42 2.9%	66 4.6%	332 23.1%	477 33.1%	523 36.3%	0 0.0%	1,440 100.0%	3.95
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	45 3.1%	65 4.5%	346 24.0%	515 35.8%	469 32.6%	0 0.0%	1,440 100.0%	3.90
合 計	232 2.3%	344 3.4%	2,206 21.9%	3,417 33.9%	3,881 38.5%	0 0.0%	10,080 100.0%	4.03

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思	強くそう 思	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	42 2.9%	66 4.6%	332 23.1%	477 33.1%	523 36.3%	0 0.0%	1,440 100.0%	3.95
14 実習は面白かった。	45 3.1%	65 4.5%	346 24.0%	515 35.8%	469 32.6%	0 0.0%	1,440 100.0%	3.90
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	12 0.8%	23 1.6%	342 23.8%	481 33.4%	582 40.4%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.11
16 私はこの実習に満足できた。	37 2.6%	54 3.8%	345 24.0%	444 30.8%	560 38.9%	0 0.0%	1,440 100.0%	4.00
合 計	136 2.4%	208 3.6%	1,365 23.7%	1,917 33.3%	2,134 37.0%	0 0.0%	5,760 100.0%	3.99

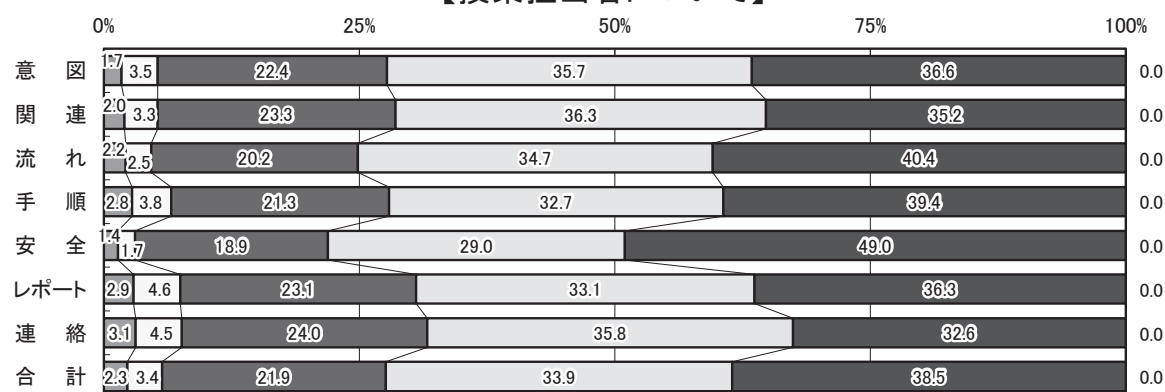
平成26年度前期 実習 授業評価総括表

【あなた自身のことについて】



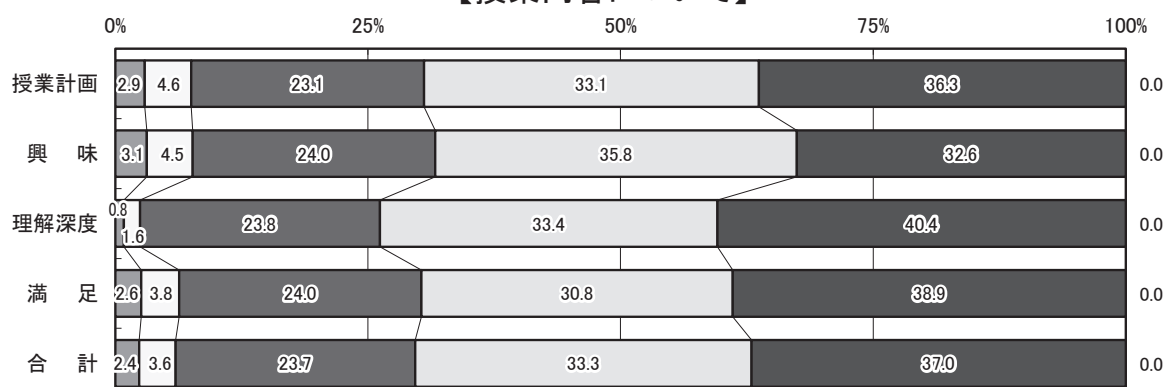
□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業担当者について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業内容について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

平成26年度前期 実習 授業評価〈1年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	2 1.1%	15 8.1%	61 33.0%	73 39.5%	34 18.4%	0 0.0%	185 100.0%	3.66
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	55 29.7%	71 38.4%	38 20.5%	18 9.7%	3 1.6%	0 0.0%	185 100.0%	2.15
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	9 4.9%	32 17.3%	49 26.5%	48 25.9%	47 25.4%	0 0.0%	185 100.0%	3.50
4 私は実験結果について十分に考察した。	12 6.5%	16 8.6%	71 38.4%	64 34.6%	22 11.9%	0 0.0%	185 100.0%	3.37
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	2 1.1%	3 1.6%	24 13.0%	82 44.3%	74 40.0%	0 0.0%	185 100.0%	4.21
合 計	80 8.6%	137 14.8%	243 26.3%	285 30.8%	180 19.5%	0 0.0%	925 100.0%	3.38

【実習担当者について】

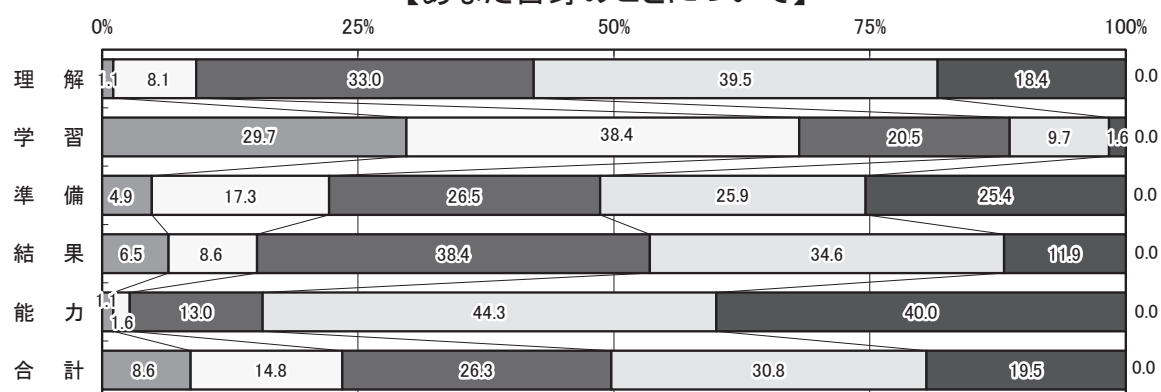
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	1 0.5%	13 7.0%	43 23.2%	84 45.4%	44 23.8%	0 0.0%	185 100.0%	3.85
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	4 2.2%	9 4.9%	46 24.9%	82 44.3%	44 23.8%	0 0.0%	185 100.0%	3.83
8 実習全体の流れが示された。	4 2.2%	5 2.7%	32 17.3%	83 44.9%	61 33.0%	0 0.0%	185 100.0%	4.04
9 実験の手順が的確に説明されていた。	5 2.7%	11 5.9%	37 20.0%	69 37.3%	63 34.1%	0 0.0%	185 100.0%	3.94
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	2 1.1%	2 1.1%	45 24.3%	48 25.9%	88 47.6%	0 0.0%	185 100.0%	4.18
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	2 1.1%	10 5.4%	41 22.2%	70 37.8%	62 33.5%	0 0.0%	185 100.0%	3.97
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	7 3.8%	10 5.4%	49 26.5%	72 38.9%	47 25.4%	0 0.0%	185 100.0%	3.77
合 計	25 1.9%	60 4.6%	293 22.6%	508 39.2%	409 31.6%	0 0.0%	1,295 100.0%	3.94

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	2 1.1%	10 5.4%	41 22.2%	70 37.8%	62 33.5%	0 0.0%	185 100.0%	3.97
14 実習は面白かった。	7 3.8%	10 5.4%	49 26.5%	72 38.9%	47 25.4%	0 0.0%	185 100.0%	3.77
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	0 0.0%	1 0.5%	55 29.7%	66 35.7%	63 34.1%	0 0.0%	185 100.0%	4.03
16 私はこの実習に満足できた。	7 3.8%	15 8.1%	52 28.1%	62 33.5%	49 26.5%	0 0.0%	185 100.0%	3.71
合 計	16 2.2%	36 4.9%	197 26.6%	270 36.5%	221 29.9%	0 0.0%	740 100.0%	3.87

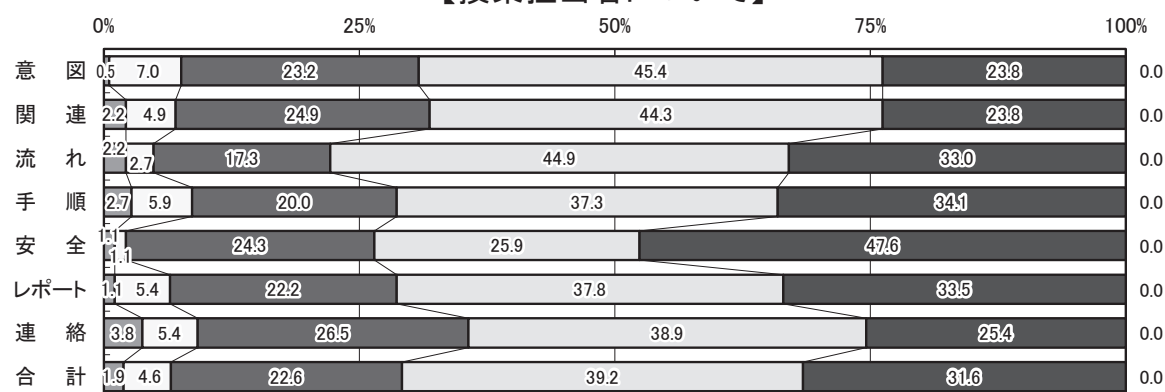
平成26年度前期 実習 授業評価〈1年〉

【あなた自身のことについて】



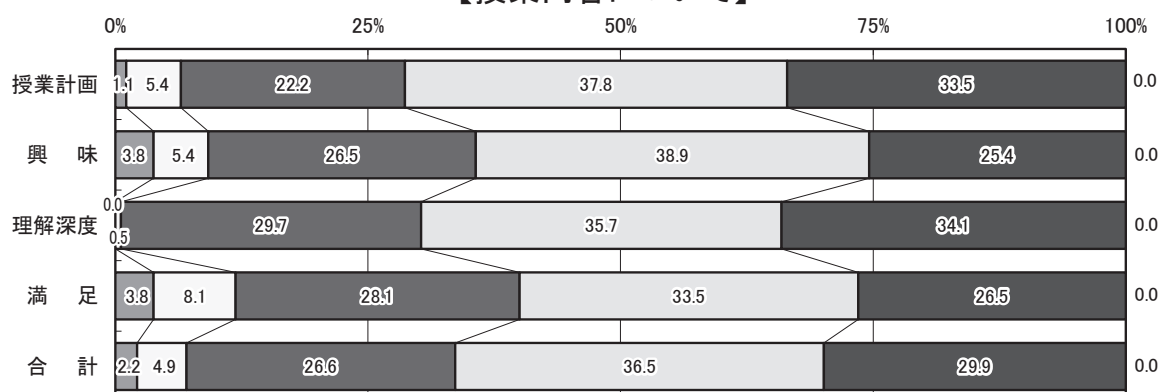
■ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



■ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



■ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度前期 実習 授業評価〈2年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4 0.8%	15 3.1%	115 24.0%	180 37.6%	165 34.4%	0 0.0%	479 100.0%	4.02
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	6 1.3%	16 3.3%	113 23.6%	165 34.4%	179 37.4%	0 0.0%	479 100.0%	4.03
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	6 1.3%	3 0.6%	84 17.5%	153 31.9%	233 48.6%	0 0.0%	479 100.0%	4.26
4 私は実験結果について十分に考察した。	5 1.0%	6 1.3%	104 21.7%	193 40.3%	171 35.7%	0 0.0%	479 100.0%	4.08
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	4 0.8%	6 1.3%	121 25.3%	181 37.8%	167 34.9%	0 0.0%	479 100.0%	4.05
合 計	25 1.0%	46 1.9%	537 22.4%	872 36.4%	915 38.2%	0 0.0%	2,395 100.0%	4.09

【実習担当者について】

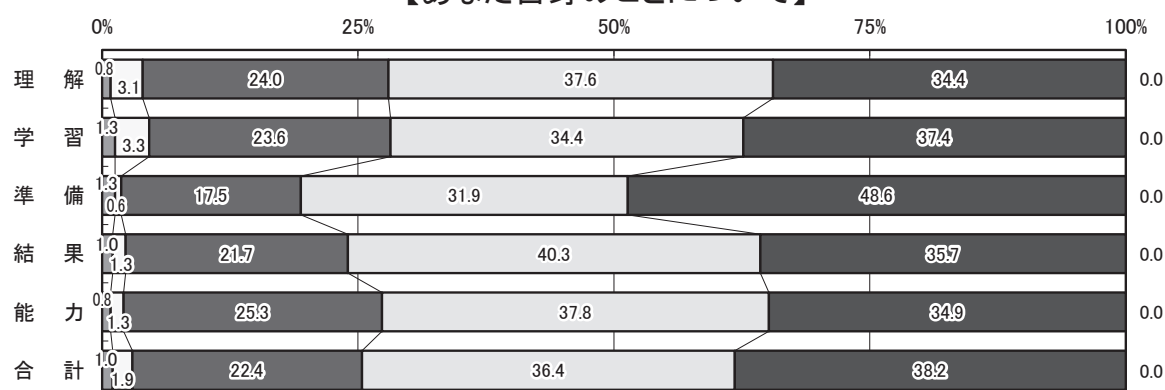
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	4 0.8%	9 1.9%	118 24.6%	171 35.7%	177 37.0%	0 0.0%	479 100.0%	4.06
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	6 1.3%	12 2.5%	133 27.8%	173 36.1%	155 32.4%	0 0.0%	479 100.0%	3.96
8 実習全体の流れが示された。	4 0.8%	9 1.9%	100 20.9%	171 35.7%	195 40.7%	0 0.0%	479 100.0%	4.14
9 実験の手順が的確に説明されていた。	4 0.8%	9 1.9%	105 21.9%	163 34.0%	198 41.3%	0 0.0%	479 100.0%	4.13
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	4 0.8%	5 1.0%	88 18.4%	149 31.1%	233 48.6%	0 0.0%	479 100.0%	4.26
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	13 2.7%	18 3.8%	129 26.9%	166 34.7%	153 31.9%	0 0.0%	479 100.0%	3.89
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	8 1.7%	14 2.9%	126 26.3%	185 38.6%	146 30.5%	0 0.0%	479 100.0%	3.93
合 計	43 1.3%	76 2.3%	799 23.8%	1,178 35.1%	1,257 37.5%	0 0.0%	3,353 100.0%	4.05

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	13 2.7%	18 3.8%	129 26.9%	166 34.7%	153 31.9%	0 0.0%	479 100.0%	3.89
14 実習は面白かった。	8 1.7%	14 2.9%	126 26.3%	185 38.6%	146 30.5%	0 0.0%	479 100.0%	3.93
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	3 0.6%	6 1.3%	120 25.1%	172 35.9%	178 37.2%	0 0.0%	479 100.0%	4.08
16 私はこの実習に満足できた。	4 0.8%	12 2.5%	135 28.2%	135 28.2%	193 40.3%	0 0.0%	479 100.0%	4.05
合 計	28 1.5%	50 2.6%	510 26.6%	658 34.3%	670 35.0%	0 0.0%	1,916 100.0%	3.99

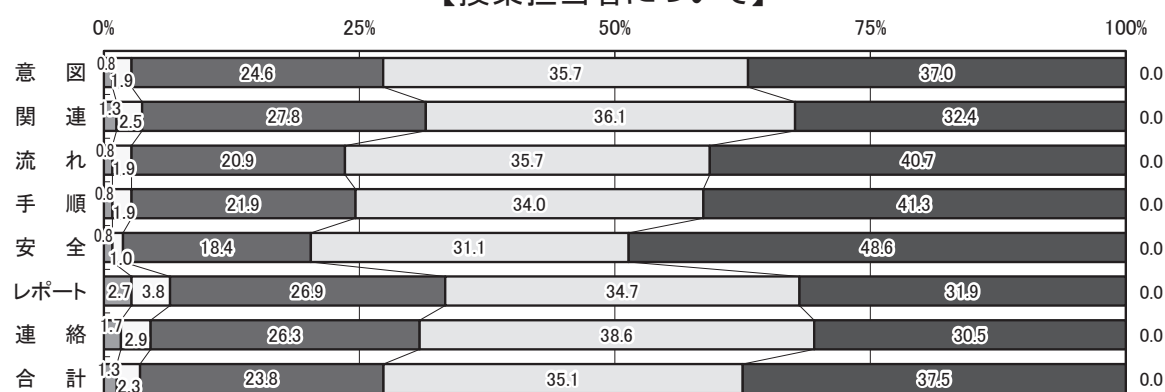
平成26年度前期 実習 授業評価〈2年〉

【あなた自身のことについて】



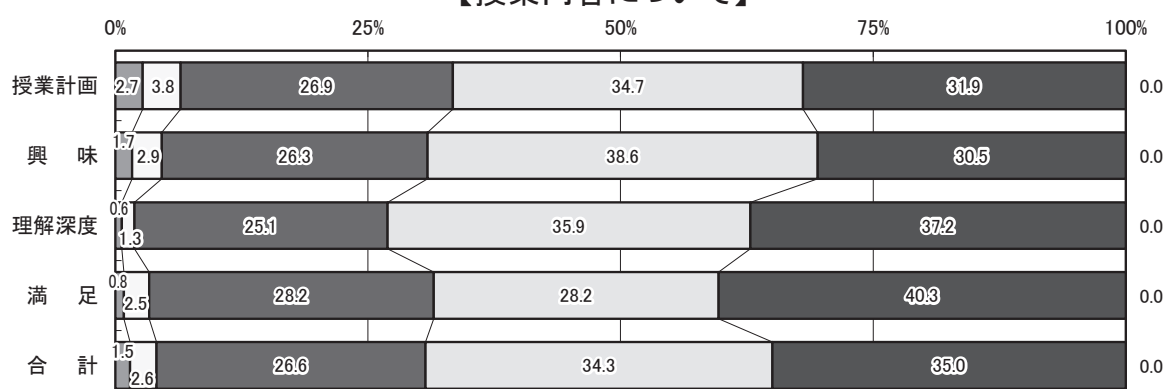
■全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業担当者について】



■全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業内容について】



■全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

平成26年度前期 実習 授業評価〈3年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	0 0.0%	9 2.2%	72 17.3%	151 36.2%	185 44.4%	0 0.0%	417 100.0%	4.23
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	0 0.0%	3 0.7%	74 17.7%	132 31.7%	208 49.9%	0 0.0%	417 100.0%	4.31
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	0 0.0%	1 0.2%	58 13.9%	105 25.2%	253 60.7%	0 0.0%	417 100.0%	4.46
4 私は実験結果について十分に考察した。	0 0.0%	3 0.7%	65 15.6%	147 35.3%	202 48.4%	0 0.0%	417 100.0%	4.31
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	1 0.2%	6 1.4%	78 18.7%	147 35.3%	185 44.4%	0 0.0%	417 100.0%	4.22
合 計	1 0.0%	22 1.1%	347 16.6%	682 32.7%	1,033 49.5%	0 0.0%	2,085 100.0%	4.31

【実習担当者について】

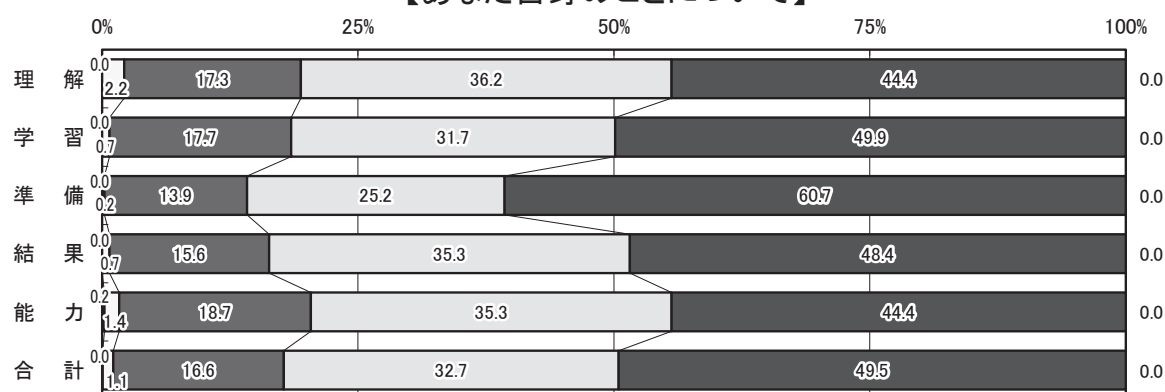
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	5 1.2%	17 4.1%	79 18.9%	130 31.2%	186 44.6%	0 0.0%	417 100.0%	4.14
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	7 1.7%	11 2.6%	77 18.5%	138 33.1%	184 44.1%	0 0.0%	417 100.0%	4.15
8 実習全体の流れが示された。	8 1.9%	11 2.6%	68 16.3%	130 31.2%	200 48.0%	0 0.0%	417 100.0%	4.21
9 実験の手順が的確に説明されていた。	12 2.9%	20 4.8%	71 17.0%	123 29.5%	191 45.8%	0 0.0%	417 100.0%	4.11
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	3 0.7%	14 3.4%	58 13.9%	121 29.0%	221 53.0%	0 0.0%	417 100.0%	4.30
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	12 2.9%	18 4.3%	76 18.2%	120 28.8%	191 45.8%	0 0.0%	417 100.0%	4.10
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	13 3.1%	23 5.5%	80 19.2%	143 34.3%	158 37.9%	0 0.0%	417 100.0%	3.98
合 計	60 2.1%	114 3.9%	509 17.4%	905 31.0%	1,331 45.6%	0 0.0%	2,919 100.0%	4.14

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	12 2.9%	18 4.3%	76 18.2%	120 28.8%	191 45.8%	0 0.0%	417 100.0%	4.10
14 実習は面白かった。	13 3.1%	23 5.5%	80 19.2%	143 34.3%	158 37.9%	0 0.0%	417 100.0%	3.98
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	1 0.2%	6 1.4%	76 18.2%	142 34.1%	192 46.0%	0 0.0%	417 100.0%	4.24
16 私はこの実習に満足できた。	8 1.9%	8 1.9%	74 17.7%	124 29.7%	203 48.7%	0 0.0%	417 100.0%	4.21
合 計	34 2.0%	55 3.3%	306 18.3%	529 31.7%	744 44.6%	0 0.0%	1,668 100.0%	4.14

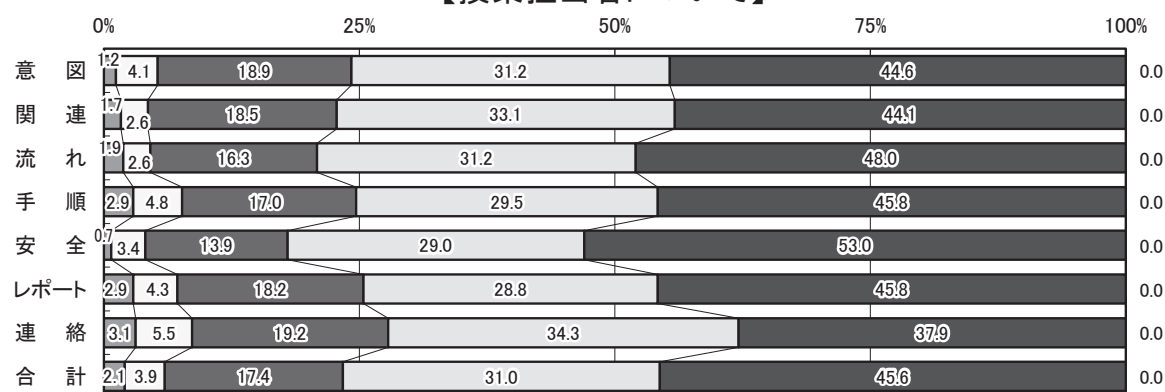
平成26年度前期 実習 授業評価〈3年〉

【あなた自身のことについて】



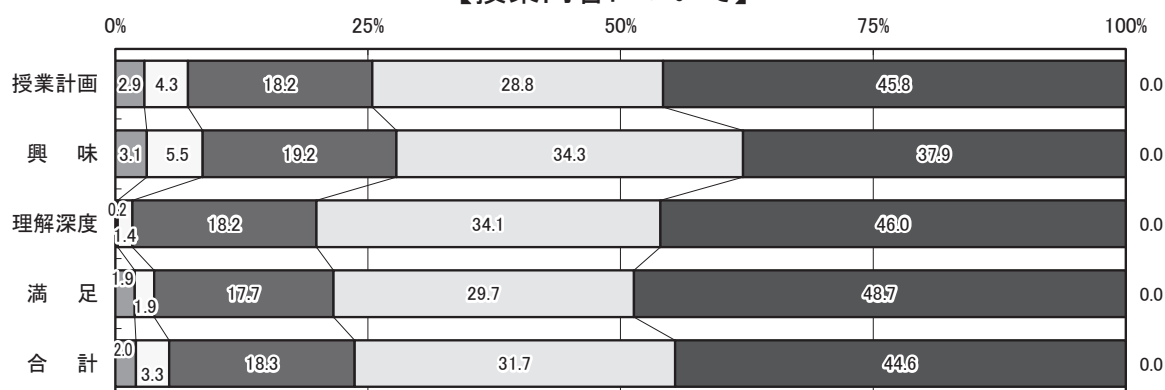
■全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う ■無回答

【授業担当者について】



■全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う ■無回答

【授業内容について】



■全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う ■無回答

平成26年度前期 実習 授業評価〈4年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	6 1.7%	8 2.2%	76 21.2%	137 38.2%	132 36.8%	0 0.0%	359 100.0%	4.06
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	6 1.7%	12 3.3%	76 21.2%	114 31.8%	151 42.1%	0 0.0%	359 100.0%	4.09
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	7 1.9%	4 1.1%	74 20.6%	103 28.7%	171 47.6%	0 0.0%	359 100.0%	4.19
4 私は実験結果について十分に考察した。	6 1.7%	8 2.2%	70 19.5%	140 39.0%	135 37.6%	0 0.0%	359 100.0%	4.09
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	7 1.9%	6 1.7%	82 22.8%	143 39.8%	121 33.7%	0 0.0%	359 100.0%	4.02
合 計	32 1.8%	38 2.1%	378 21.1%	637 35.5%	710 39.6%	0 0.0%	1,795 100.0%	4.09

【実習担当者について】

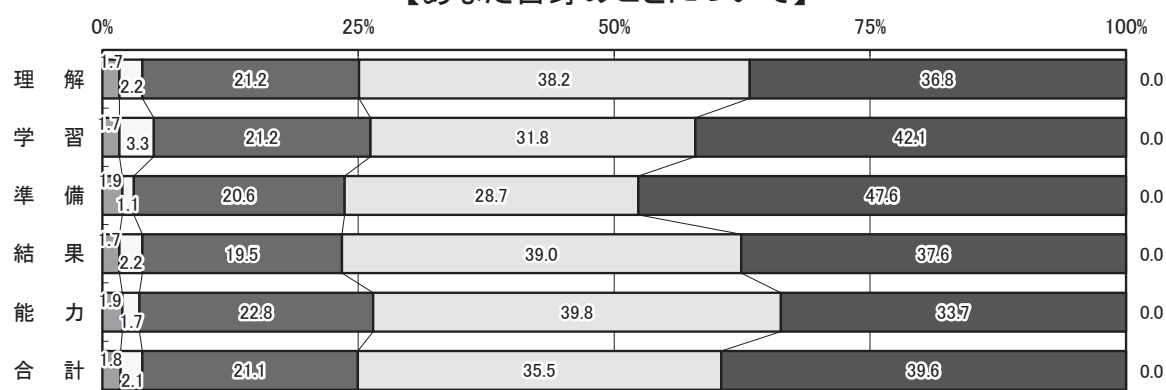
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	15 4.2%	12 3.3%	83 23.1%	129 35.9%	120 33.4%	0 0.0%	359 100.0%	3.91
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	12 3.3%	15 4.2%	79 22.0%	129 35.9%	124 34.5%	0 0.0%	359 100.0%	3.94
8 実習全体の流れが示された。	15 4.2%	11 3.1%	91 25.3%	116 32.3%	126 35.1%	0 0.0%	359 100.0%	3.91
9 実験の手順が的確に説明されていた。	19 5.3%	15 4.2%	94 26.2%	116 32.3%	115 32.0%	0 0.0%	359 100.0%	3.82
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	11 3.1%	3 0.8%	81 22.6%	100 27.9%	164 45.7%	0 0.0%	359 100.0%	4.12
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	15 4.2%	20 5.6%	86 24.0%	121 33.7%	117 32.6%	0 0.0%	359 100.0%	3.85
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	17 4.7%	18 5.0%	91 25.3%	115 32.0%	118 32.9%	0 0.0%	359 100.0%	3.83
合 計	104 4.1%	94 3.7%	605 24.1%	826 32.9%	884 35.2%	0 0.0%	2,513 100.0%	3.91

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	15 4.2%	20 5.6%	86 24.0%	121 33.7%	117 32.6%	0 0.0%	359 100.0%	3.85
14 実習は面白かった。	17 4.7%	18 5.0%	91 25.3%	115 32.0%	118 32.9%	0 0.0%	359 100.0%	3.83
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	8 2.2%	10 2.8%	91 25.3%	101 28.1%	149 41.5%	0 0.0%	359 100.0%	4.04
16 私はこの実習に満足できた。	18 5.0%	19 5.3%	84 23.4%	123 34.3%	115 32.0%	0 0.0%	359 100.0%	3.83
合 計	58 4.0%	67 4.7%	352 24.5%	460 32.0%	499 34.7%	0 0.0%	1,436 100.0%	3.89

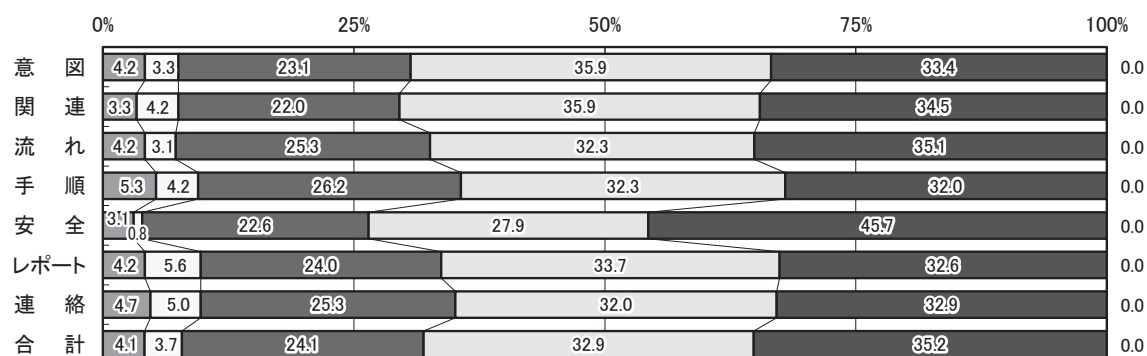
平成26年度前期 実習 授業評価〈4年〉

【あなた自身のことについて】



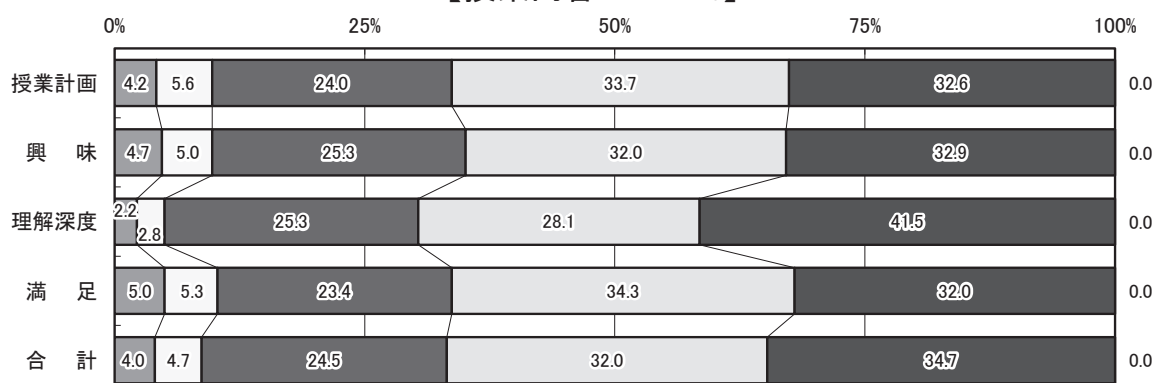
□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

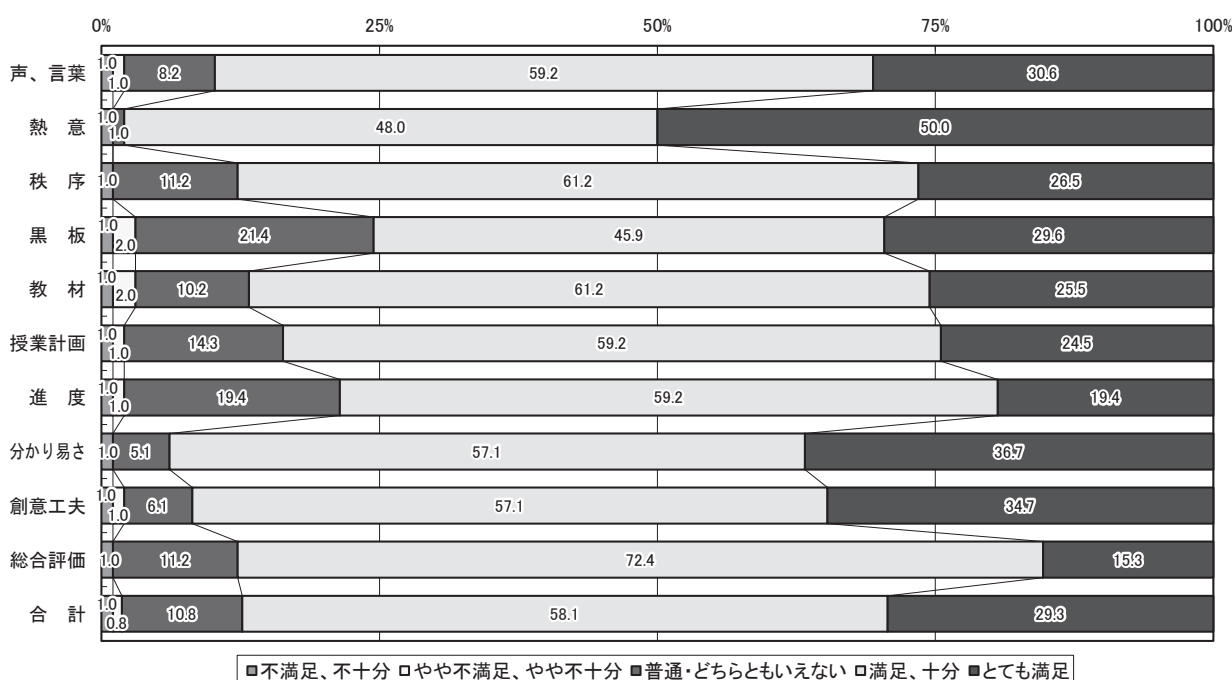
総括表

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・ どちらとも いえない	満足 十分	とても 満足	無回答	合計	平均
問1 授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	1 1.0%	1 1.0%	8 8.2%	58 59.2%	30 30.6%	0 0.0%	98 100.0%	4.17
問2 授業に対して熱意を持って臨んだ。	1 1.0%	0 0.0%	1 1.0%	47 48.0%	49 50.0%	0 0.0%	98 100.0%	4.46
問3 教室内の秩序は保つ努力をしていた。	1 1.0%	0 0.0%	11 11.2%	60 61.2%	26 26.5%	0 0.0%	98 100.0%	4.12
問4 黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	1 1.0%	2 2.0%	21 21.4%	45 45.9%	29 29.6%	0 0.0%	98 100.0%	4.01
問5 教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	1 1.0%	2 2.0%	10 10.2%	60 61.2%	25 25.5%	0 0.0%	98 100.0%	4.08
問6 授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	1 1.0%	1 1.0%	14 14.3%	58 59.2%	24 24.5%	0 0.0%	98 100.0%	4.05
問7 授業の進み具合（進度）は適切であった。	1 1.0%	1 1.0%	19 19.4%	58 59.2%	19 19.4%	0 0.0%	98 100.0%	3.95
問8 授業を分かり易くする工夫をした。	1 1.0%	0 0.0%	5 5.1%	56 57.1%	36 36.7%	0 0.0%	98 100.0%	4.29
問9 授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	1 1.0%	1 1.0%	6 6.1%	56 57.1%	34 34.7%	0 0.0%	98 100.0%	4.23
問10 ご自身の総合評価を書いて下さい。	1 1.0%	0 0.0%	11 11.2%	71 72.4%	15 15.3%	0 0.0%	98 100.0%	4.01
合計	10 1.0%	8 0.8%	106 10.8%	569 58.1%	287 29.3%	0 0.0%	980 100.0%	4.14

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

総括表



平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

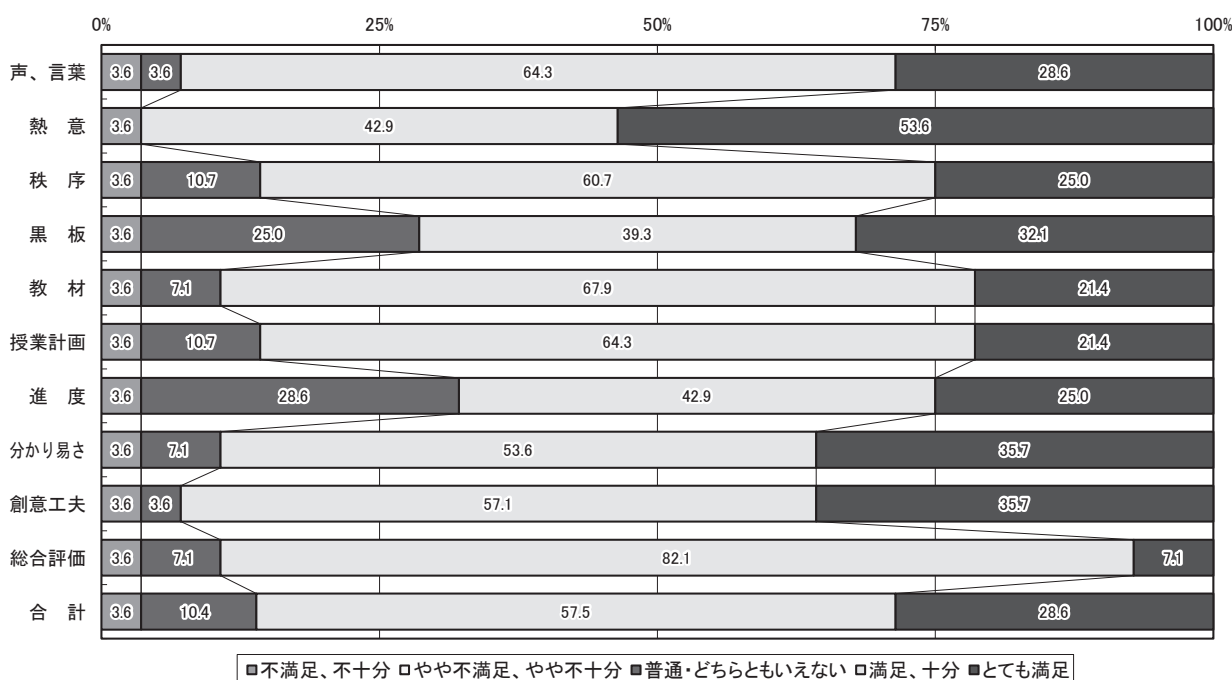
1 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	1 3.6%	0 0.0%	1 3.6%	18 64.3%	8 28.6%	0 0.0%	28 100.0%	4.14
問2 授業に対して熱意を持って臨んだ。	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	12 42.9%	15 53.6%	0 0.0%	28 100.0%	4.43
問3 教室内の秩序は保つ努力をしていた。	1 3.6%	0 0.0%	3 10.7%	17 60.7%	7 25.0%	0 0.0%	28 100.0%	4.04
問4 黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	1 3.6%	0 0.0%	7 25.0%	11 39.3%	9 32.1%	0 0.0%	28 100.0%	3.96
問5 教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	1 3.6%	0 0.0%	2 7.1%	19 67.9%	6 21.4%	0 0.0%	28 100.0%	4.04
問6 授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	1 3.6%	0 0.0%	3 10.7%	18 64.3%	6 21.4%	0 0.0%	28 100.0%	4.00
問7 授業の進み具合（進度）は適切であった。	1 3.6%	0 0.0%	8 28.6%	12 42.9%	7 25.0%	0 0.0%	28 100.0%	3.86
問8 授業を分かり易くする工夫をした。	1 3.6%	0 0.0%	2 7.1%	15 53.6%	10 35.7%	0 0.0%	28 100.0%	4.18
問9 授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	1 3.6%	0 0.0%	1 3.6%	16 57.1%	10 35.7%	0 0.0%	28 100.0%	4.21
問10 ご自身の総合評価を書いて下さい。	1 3.6%	0 0.0%	2 7.1%	23 82.1%	2 7.1%	0 0.0%	28 100.0%	3.89
合 計	10 3.6%	0 0.0%	29 10.4%	161 57.5%	80 28.6%	0 0.0%	280 100.0%	4.08

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

1 年



平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

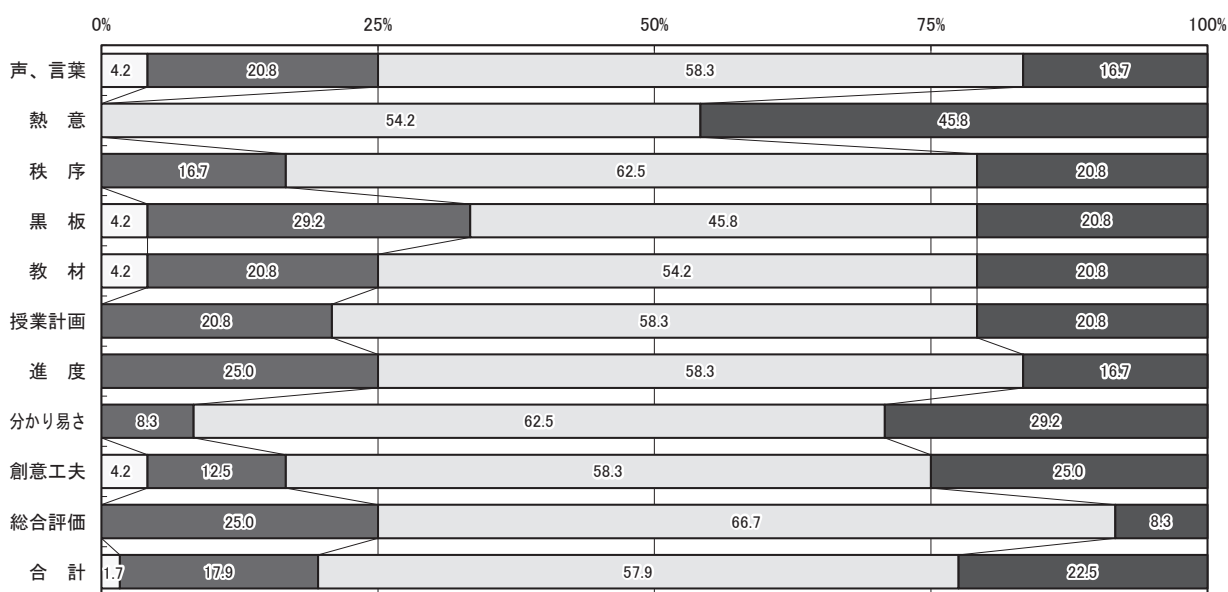
2 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・ どちらとも いえない	満足 十分	とても 満足	無回答	合計	平均
問1 授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	0 0.0%	1 4.2%	5 20.8%	14 58.3%	4 16.7%	0 0.0%	24 100.0%	3.88
問2 授業に対して熱意を持って臨んだ。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 54.2%	11 45.8%	0 0.0%	24 100.0%	4.46
問3 教室内の秩序は保つ努力をしていた。	0 0.0%	0 0.0%	4 16.7%	15 62.5%	5 20.8%	0 0.0%	24 100.0%	4.04
問4 黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	0 0.0%	1 4.2%	7 29.2%	11 45.8%	5 20.8%	0 0.0%	24 100.0%	3.83
問5 教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	0 0.0%	1 4.2%	5 20.8%	13 54.2%	5 20.8%	0 0.0%	24 100.0%	3.92
問6 授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	5 20.8%	14 58.3%	5 20.8%	0 0.0%	24 100.0%	4.00
問7 授業の進み具合（進度）は適切であった。	0 0.0%	0 0.0%	6 25.0%	14 58.3%	4 16.7%	0 0.0%	24 100.0%	3.92
問8 授業を分かり易くする工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	15 62.5%	7 29.2%	0 0.0%	24 100.0%	4.21
問9 授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	0 0.0%	1 4.2%	3 12.5%	14 58.3%	6 25.0%	0 0.0%	24 100.0%	4.04
問10 ご自身の総合評価を書いて下さい。	0 0.0%	0 0.0%	6 25.0%	16 66.7%	2 8.3%	0 0.0%	24 100.0%	3.83
合 計	0 0.0%	4 1.7%	43 17.9%	139 57.9%	54 22.5%	0 0.0%	240 100.0%	4.01

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

2 年



■不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

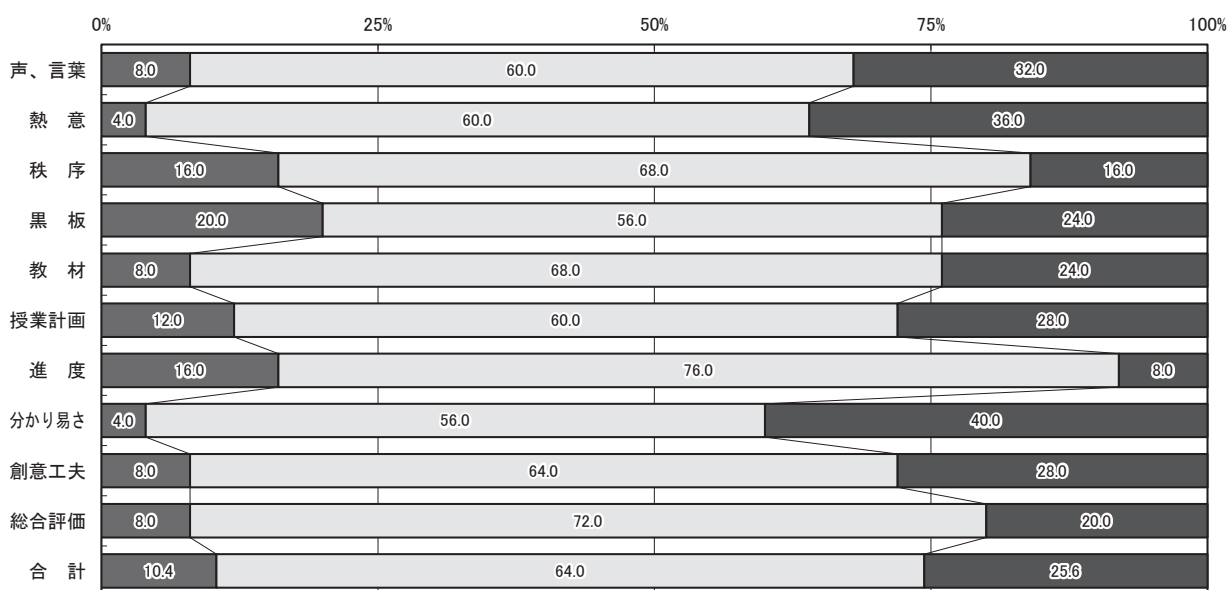
3 年

	不満足 不十分	やや不満 やや不十分	普通・ どちらとも いえない	満足 十分	とても 満足	無回答	合計	平均
問1 授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	0 0.0%	0 0.0%	2 8.0%	15 60.0%	8 32.0%	0 0.0%	25 100.0%	4.24
問2 授業に対して熱意を持って臨んだ。	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	15 60.0%	9 36.0%	0 0.0%	25 100.0%	4.32
問3 教室内の秩序は保つ努力をしていた。	0 0.0%	0 0.0%	4 16.0%	17 68.0%	4 16.0%	0 0.0%	25 100.0%	4.00
問4 黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	0 0.0%	0 0.0%	5 20.0%	14 56.0%	6 24.0%	0 0.0%	25 100.0%	4.04
問5 教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	0 0.0%	0 0.0%	2 8.0%	17 68.0%	6 24.0%	0 0.0%	25 100.0%	4.16
問6 授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	3 12.0%	15 60.0%	7 28.0%	0 0.0%	25 100.0%	4.16
問7 授業の進み具合（進度）は適切であった。	0 0.0%	0 0.0%	4 16.0%	19 76.0%	2 8.0%	0 0.0%	25 100.0%	3.92
問8 授業を分かり易くする工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	14 56.0%	10 40.0%	0 0.0%	25 100.0%	4.36
問9 授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	0 0.0%	0 0.0%	2 8.0%	16 64.0%	7 28.0%	0 0.0%	25 100.0%	4.20
問10 ご自身の総合評価を書いて下さい。	0 0.0%	0 0.0%	2 8.0%	18 72.0%	5 20.0%	0 0.0%	25 100.0%	4.12
合 計	0 0.0%	0 0.0%	26 10.4%	160 64.0%	64 25.6%	0 0.0%	250 100.0%	4.15

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

3 年



□不満足、不十分 □やや不満、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

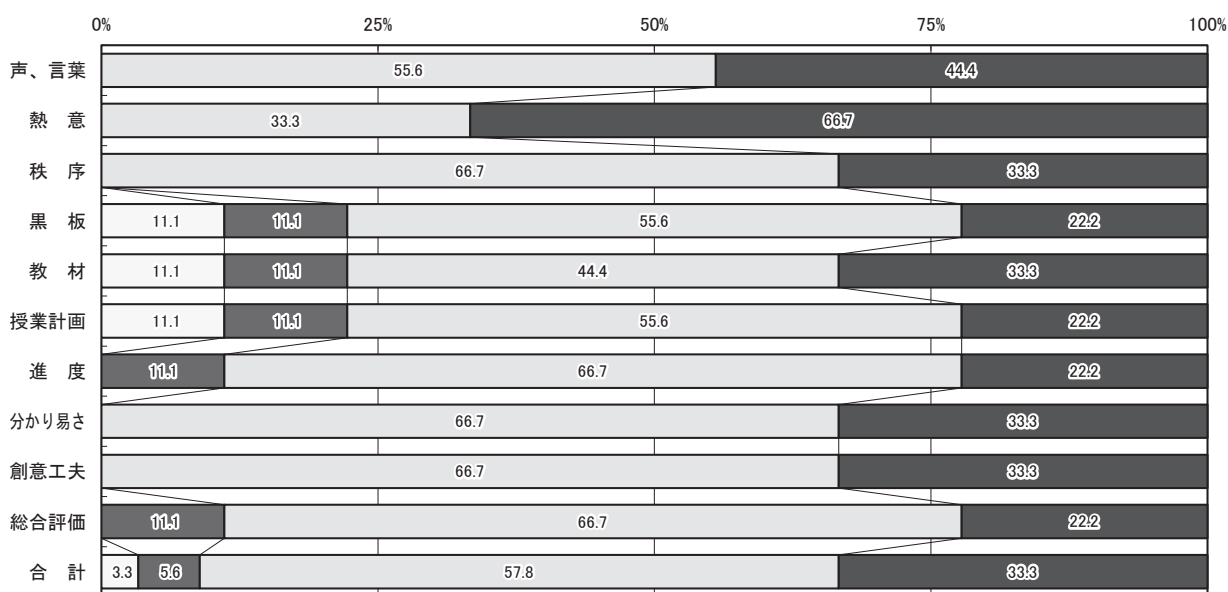
4 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・ どちらとも いえない	満足 十分	とても 満足	無回答	合計	平均
問1 授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 55.6%	4 44.4%	0 0.0%	9 100.0%	4.44
問2 授業に対して熱意を持って臨んだ。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	6 66.7%	0 0.0%	9 100.0%	4.67
問3 教室内の秩序は保つ努力をしていた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 66.7%	3 33.3%	0 0.0%	9 100.0%	4.33
問4 黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	5 55.6%	2 22.2%	0 0.0%	9 100.0%	3.89
問5 教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	4 44.4%	3 33.3%	0 0.0%	9 100.0%	4.00
問6 授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	5 55.6%	2 22.2%	0 0.0%	9 100.0%	3.89
問7 授業の進み具合（進度）は適切であった。	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	6 66.7%	2 22.2%	0 0.0%	9 100.0%	4.11
問8 授業を分かり易くする工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 66.7%	3 33.3%	0 0.0%	9 100.0%	4.33
問9 授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 66.7%	3 33.3%	0 0.0%	9 100.0%	4.33
問10 ご自身の総合評価を書いて下さい。	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	6 66.7%	2 22.2%	0 0.0%	9 100.0%	4.11
合 計	0 0.0%	3 3.3%	5 5.6%	52 57.8%	30 33.3%	0 0.0%	90 100.0%	4.21

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

4 年



□不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

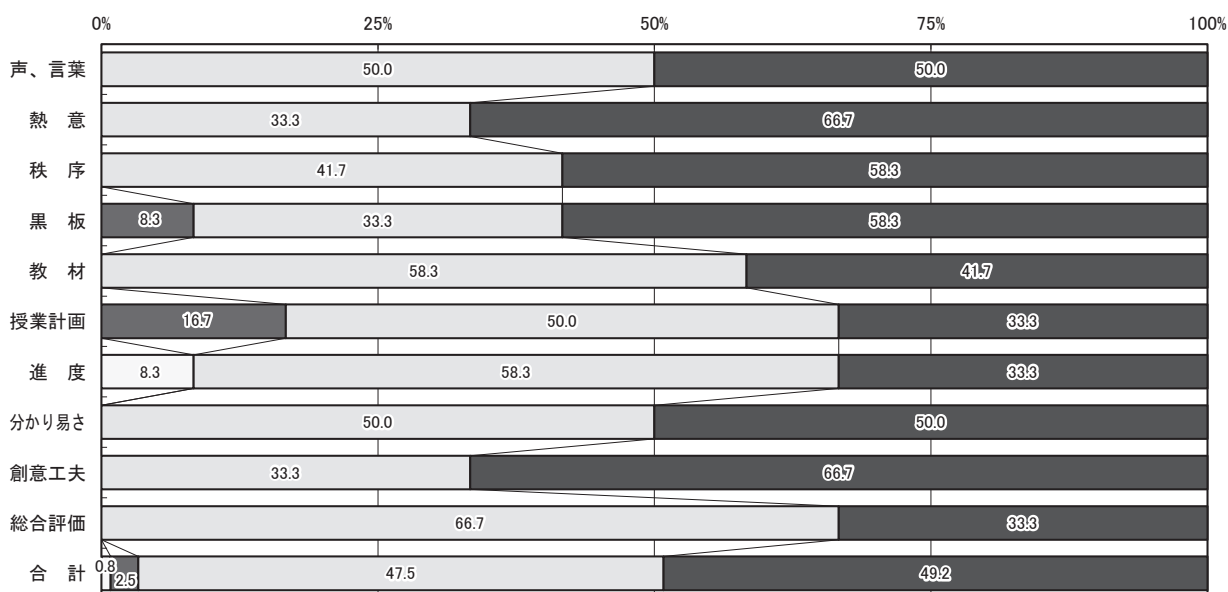
5 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 50.0%	6 50.0%	0 0.0%	12 100.0%	4.50
問2 授業に対して熱意を持って臨んだ。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 33.3%	8 66.7%	0 0.0%	12 100.0%	4.67
問3 教室内の秩序は保つ努力をしていた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 41.7%	7 58.3%	0 0.0%	12 100.0%	4.58
問4 黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	4 33.3%	7 58.3%	0 0.0%	12 100.0%	4.50
問5 教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 58.3%	5 41.7%	0 0.0%	12 100.0%	4.42
問6 授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	6 50.0%	4 33.3%	0 0.0%	12 100.0%	4.17
問7 授業の進み具合（進度）は適切であった。	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	7 58.3%	4 33.3%	0 0.0%	12 100.0%	4.17
問8 授業を分かり易くする工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 50.0%	6 50.0%	0 0.0%	12 100.0%	4.50
問9 授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 33.3%	8 66.7%	0 0.0%	12 100.0%	4.67
問10 ご自身の総合評価を書いて下さい。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 66.7%	4 33.3%	0 0.0%	12 100.0%	4.33
合 計	0 0.0%	1 0.8%	3 2.5%	57 47.5%	59 49.2%	0 0.0%	120 100.0%	4.45

平成26年度前期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

5 年



□不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

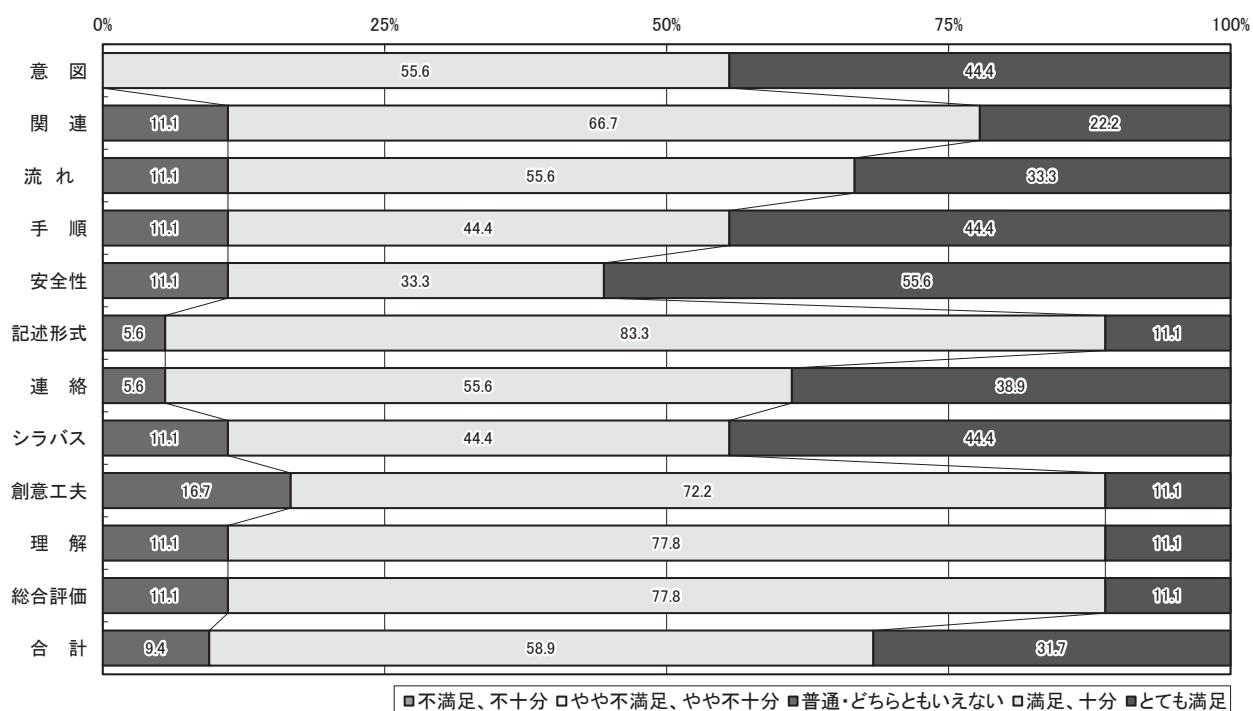
総括表

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 55.6%	8 44.4%	0 0.0%	18 100.0%	4.44
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	12 66.7%	4 22.2%	0 0.0%	18 100.0%	4.11
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	10 55.6%	6 33.3%	0 0.0%	18 100.0%	4.22
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	8 44.4%	8 44.4%	0 0.0%	18 100.0%	4.33
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	6 33.3%	10 55.6%	0 0.0%	18 100.0%	4.44
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	15 83.3%	2 11.1%	0 0.0%	18 100.0%	4.06
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	10 55.6%	7 38.9%	0 0.0%	18 100.0%	4.33
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	8 44.4%	8 44.4%	0 0.0%	18 100.0%	4.33
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	3 16.7%	13 72.2%	2 11.1%	0 0.0%	18 100.0%	3.94
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	14 77.8%	2 11.1%	0 0.0%	18 100.0%	4.00
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	14 77.8%	2 11.1%	0 0.0%	18 100.0%	4.00
合 計	0 0.0%	0 0.0%	17 9.4%	106 58.9%	57 31.7%	0 0.0%	180 100.0%	4.22

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

総括表



平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

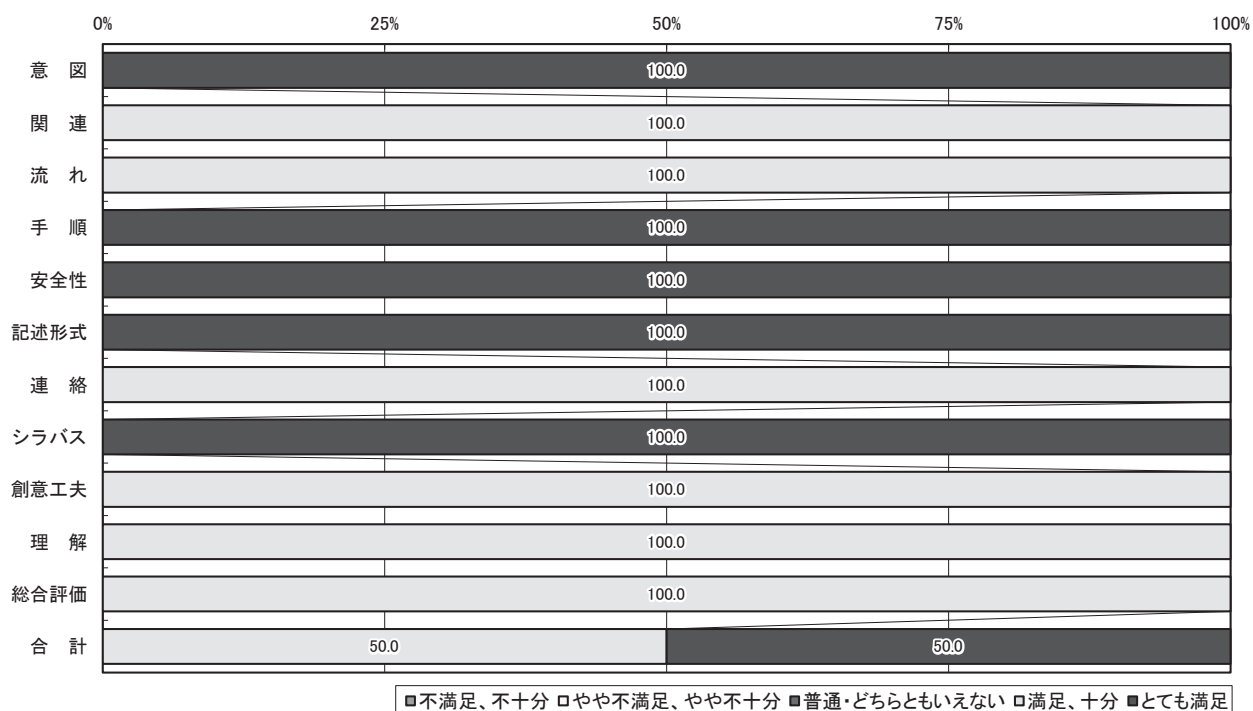
1 年

	不満足 不十分	やや不満 やや不十分	普通・ どちらとも いえない	満 十 分	とて も 満 足	無回答	合 計	平 均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	5.00
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	4.00
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	4.00
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	5.00
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	5.00
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	5.00
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	4.00
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	5.00
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	4.00
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	4.00
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	4.00
合 計	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 50.0%	10 50.0%	0 0.0%	20 100.0%	4.50

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

1 年



平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

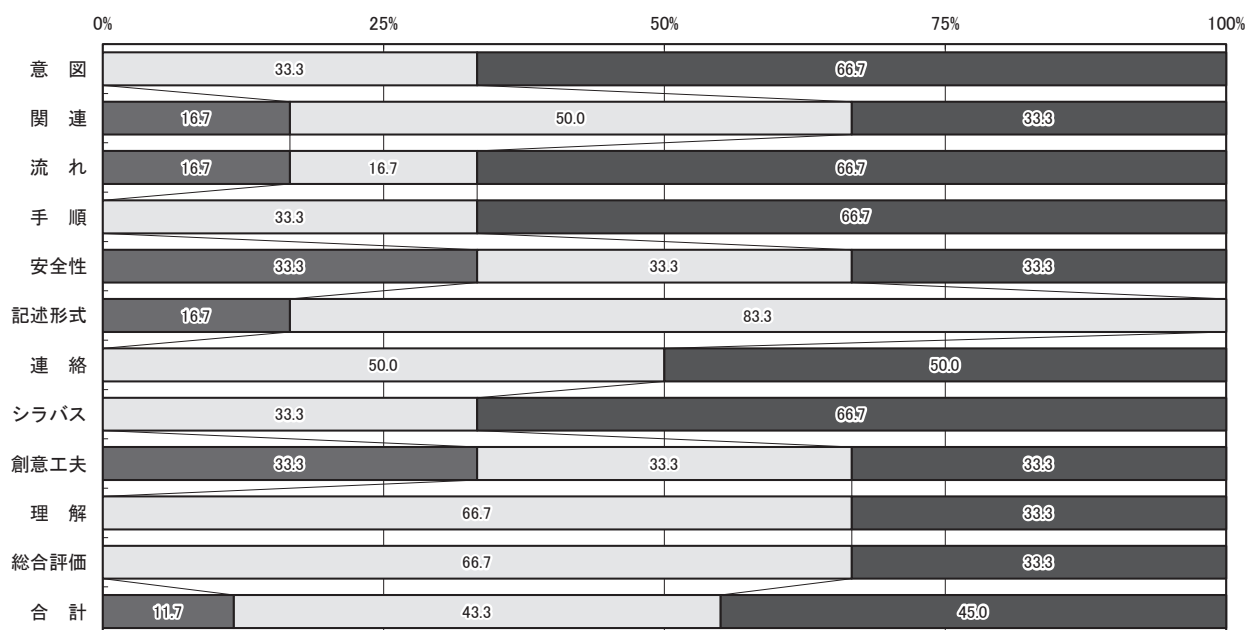
2 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	6 100.0%	4.67
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.17
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	4 66.7%	0 0.0%	6 100.0%	4.50
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	6 100.0%	4.67
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.00
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	3.83
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%	6 100.0%	4.50
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	6 100.0%	4.67
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.00
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 66.7%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.33
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 66.7%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.33
合 計	0 0.0%	0 0.0%	7 11.7%	26 43.3%	27 45.0%	0 0.0%	60 100.0%	4.33

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

2 年



■不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

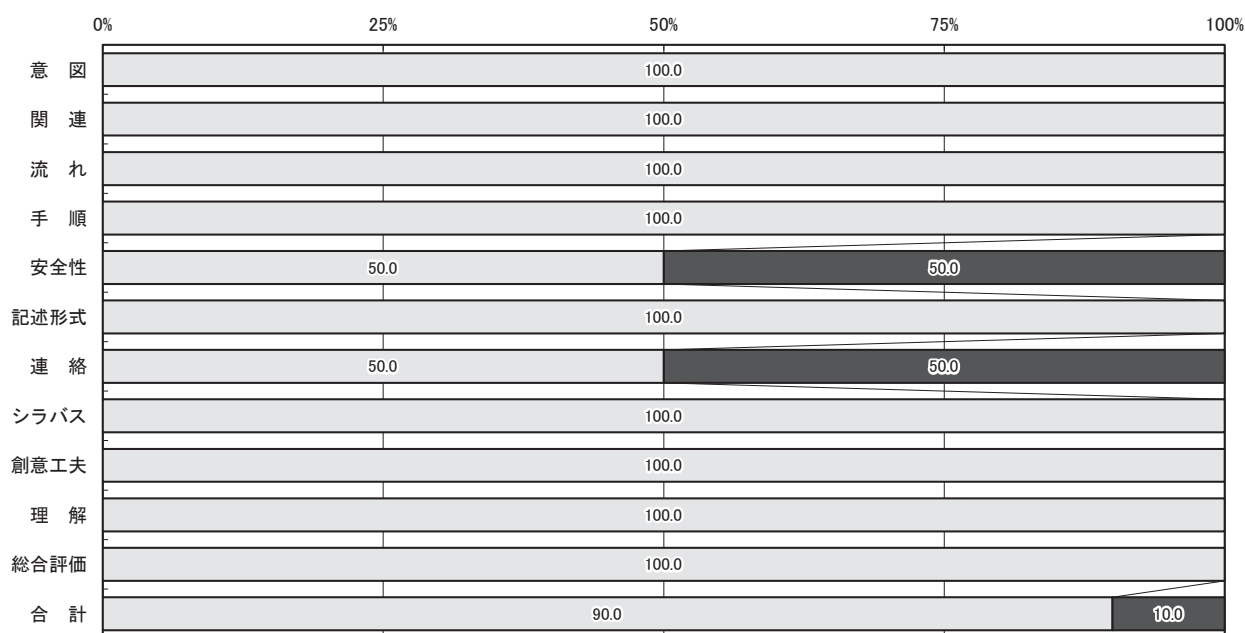
3 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
合 計	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	36 90.0%	4 10.0%	0 0.0%	40 100.0%	4.10

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

3 年



□不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

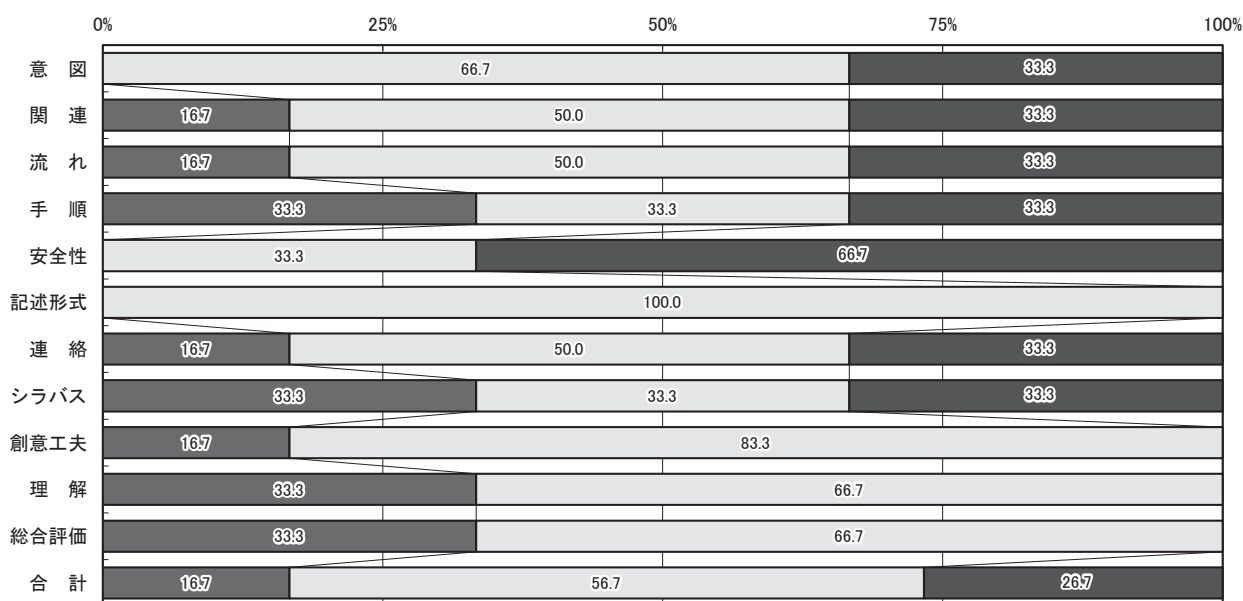
4 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 66.7%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.33
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.17
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.17
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.00
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	6 100.0%	4.67
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	4.00
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.17
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%	4.00
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	3.83
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	3.67
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	3.67
合 計	0 0.0%	0 0.0%	10 16.7%	34 56.7%	16 26.7%	0 0.0%	60 100.0%	4.10

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

4 年



□不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度後期 通常講義 授業評価総括表

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	58	81	1,105	1,574	4,959	0	7,777	4.45
	0.7%	1.0%	14.2%	20.2%	63.8%	0.0%	100.0%	
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	81	196	1,778	2,925	2,797	0	7,777	4.05
	1.0%	2.5%	22.9%	37.6%	36.0%	0.0%	100.0%	
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	151	385	2,260	2,566	2,415	0	7,777	3.86
	1.9%	5.0%	29.1%	33.0%	31.1%	0.0%	100.0%	
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	55	182	1,845	2,539	3,156	0	7,777	4.10
	0.7%	2.3%	23.7%	32.6%	40.6%	0.0%	100.0%	
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	113	230	2,072	2,814	2,548	0	7,777	3.96
	1.5%	3.0%	26.6%	36.2%	32.8%	0.0%	100.0%	
合 計	458	1,074	9,060	12,418	15,875	0	38,885	4.08
	1.2%	2.8%	23.3%	31.9%	40.8%	0.0%	100.0%	

【授業担当者について】

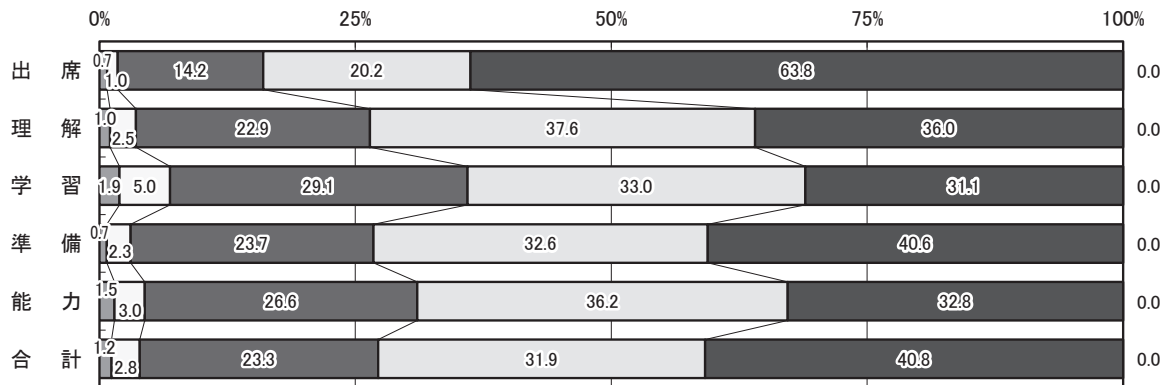
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	158	307	1,849	2,350	3,113	0	7,777	4.02
	2.0%	3.9%	23.8%	30.2%	40.0%	0.0%	100.0%	
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	119	195	1,701	2,418	3,344	0	7,777	4.12
	1.5%	2.5%	21.9%	31.1%	43.0%	0.0%	100.0%	
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	137	219	1,805	2,397	3,219	0	7,777	4.07
	1.8%	2.8%	23.2%	30.8%	41.4%	0.0%	100.0%	
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	218	320	1,887	2,331	3,021	0	7,777	3.98
	2.8%	4.1%	24.3%	30.0%	38.8%	0.0%	100.0%	
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	189	289	1,896	2,405	2,998	0	7,777	3.99
	2.4%	3.7%	24.4%	30.9%	38.5%	0.0%	100.0%	
合 計	821	1,330	9,138	11,901	15,695	0	38,885	4.04
	2.1%	3.4%	23.5%	30.6%	40.4%	0.0%	100.0%	

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	115	124	1,906	2,530	3,102	0	7,777	4.08
	1.5%	1.6%	24.5%	32.5%	39.9%	0.0%	100.0%	
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	152	221	1,907	2,439	3,058	0	7,777	4.03
	2.0%	2.8%	24.5%	31.4%	39.3%	0.0%	100.0%	
13 授業は分かり易かった。	263	431	1,916	2,361	2,806	0	7,777	3.90
	3.4%	5.5%	24.6%	30.4%	36.1%	0.0%	100.0%	
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	216	316	2,053	2,501	2,691	0	7,777	3.92
	2.8%	4.1%	26.4%	32.2%	34.6%	0.0%	100.0%	
15 私はこの授業に満足できた。	197	296	1,896	2,530	2,858	0	7,777	3.97
	2.5%	3.8%	24.4%	32.5%	36.7%	0.0%	100.0%	
合 計	943	1,388	9,678	12,361	14,515	0	38,885	3.98
	2.4%	3.6%	24.9%	31.8%	37.3%	0.0%	100.0%	

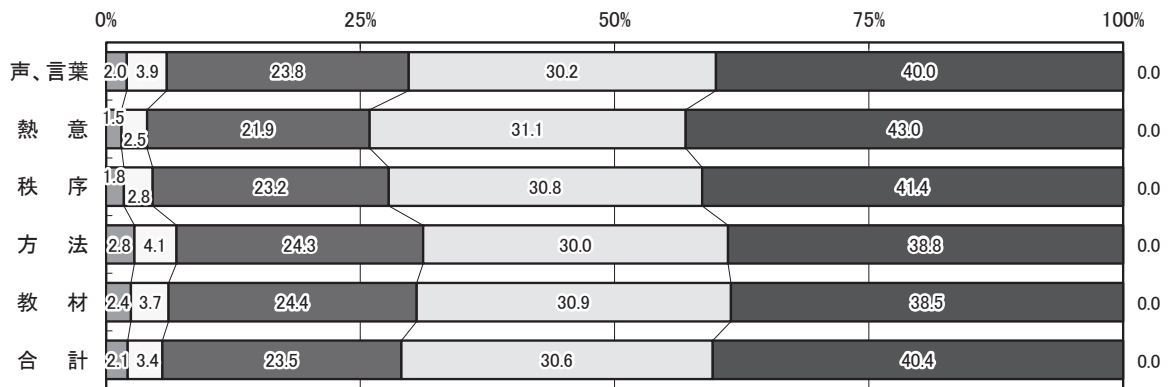
平成26年度後期 通常講義 授業評価総括表

【あなた自身のことについて】



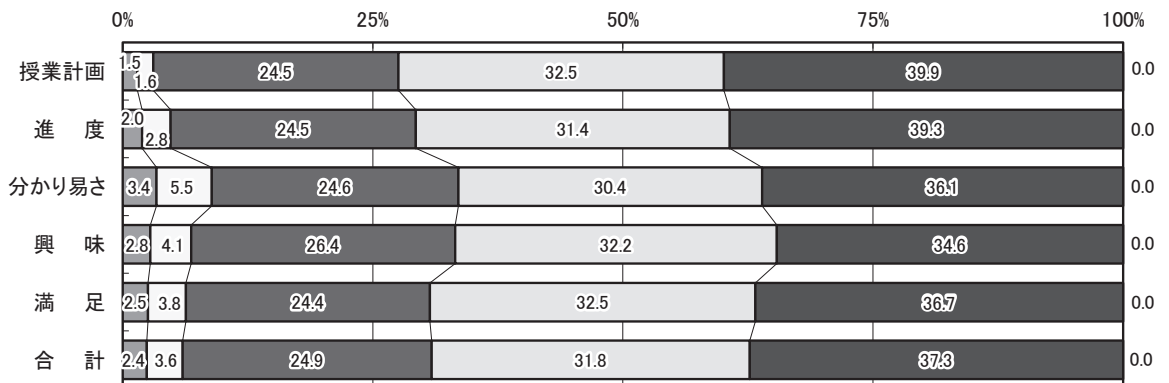
□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業担当者について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業内容について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

平成26年度後期 通常講義 授業評価〈1年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	22 0.7%	25 0.8%	388 11.7%	699 21.0%	2,193 65.9%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.51
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	28 0.8%	86 2.6%	669 20.1%	1,425 42.8%	1,119 33.6%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.06
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	77 2.3%	187 5.6%	911 27.4%	1,255 37.7%	897 27.0%	0 0.0%	3,327 100.0%	3.81
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	17 0.5%	77 2.3%	730 21.9%	1,261 37.9%	1,242 37.3%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.09
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	55 1.7%	121 3.6%	837 25.2%	1,379 41.4%	935 28.1%	0 0.0%	3,327 100.0%	3.91
合 計	199 1.2%	496 3.0%	3,535 21.3%	6,019 36.2%	6,386 38.4%	0 0.0%	16,635 100.0%	4.08

【授業担当者について】

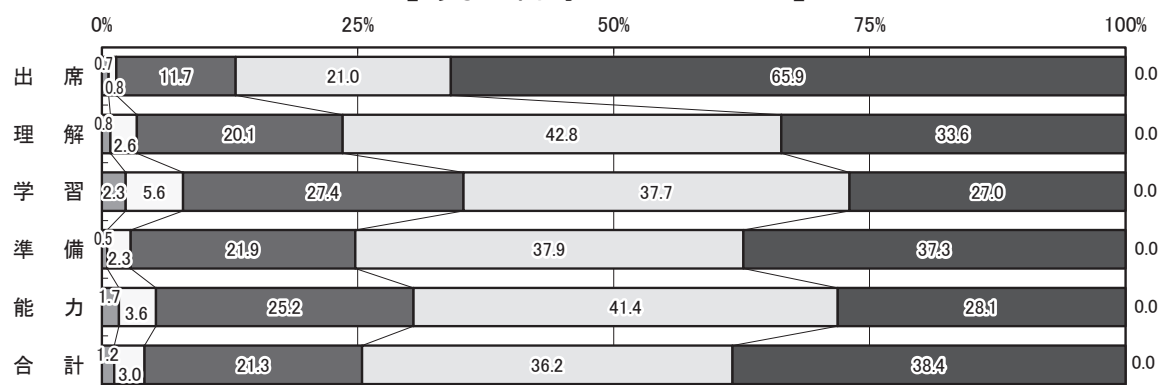
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	63 1.9%	147 4.4%	739 22.2%	1,086 32.6%	1,292 38.8%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.02
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	39 1.2%	85 2.6%	680 20.4%	1,118 33.6%	1,405 42.2%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.13
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	43 1.3%	95 2.9%	705 21.2%	1,096 32.9%	1,388 41.7%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.11
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	90 2.7%	140 4.2%	739 22.2%	1,077 32.4%	1,281 38.5%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.00
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	67 2.0%	115 3.5%	759 22.8%	1,107 33.3%	1,279 38.4%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.03
合 計	302 1.8%	582 3.5%	3,622 21.8%	5,484 33.0%	6,645 39.9%	0 0.0%	16,635 100.0%	4.06

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	33 1.0%	45 1.4%	736 22.1%	1,208 36.3%	1,305 39.2%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.11
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	52 1.6%	87 2.6%	772 23.2%	1,117 33.6%	1,299 39.0%	0 0.0%	3,327 100.0%	4.06
13 授業は分かり易かった。	115 3.5%	202 6.1%	794 23.9%	1,083 32.6%	1,133 34.1%	0 0.0%	3,327 100.0%	3.88
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	99 3.0%	156 4.7%	862 25.9%	1,151 34.6%	1,059 31.8%	0 0.0%	3,327 100.0%	3.88
15 私はこの授業に満足できた。	89 2.7%	135 4.1%	760 22.8%	1,209 36.3%	1,134 34.1%	0 0.0%	3,327 100.0%	3.95
合 計	388 2.3%	625 3.8%	3,924 23.6%	5,768 34.7%	5,930 35.6%	0 0.0%	16,635 100.0%	3.98

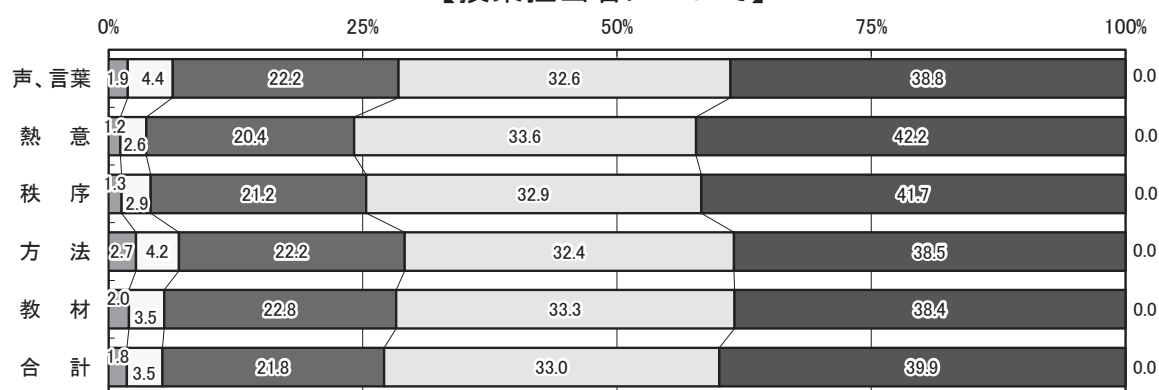
平成26年度後期 通常講義 授業評価〈1年〉

【あなた自身のことについて】



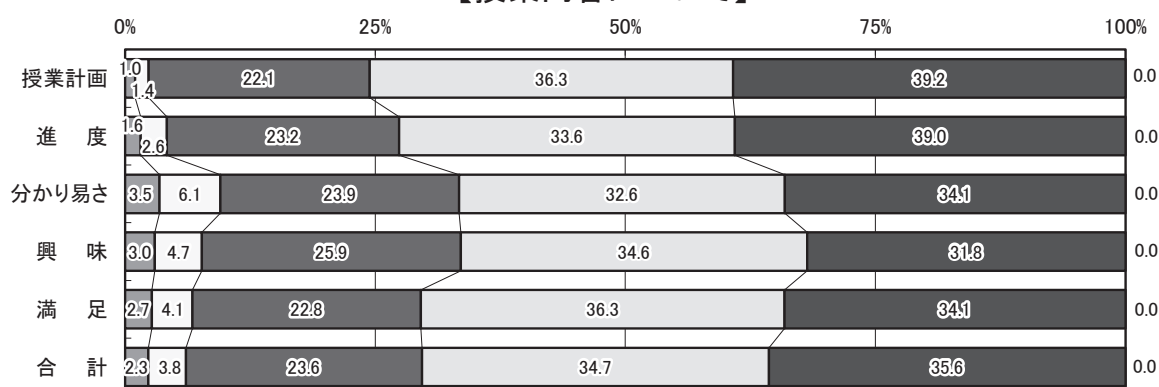
□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度後期 通常講義 授業評価〈2年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	12 0.6%	11 0.6%	302 15.2%	418 21.1%	1,238 62.5%	0 0.0%	1,981 100.0%	4.44
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	17 0.9%	44 2.2%	551 27.8%	745 37.6%	624 31.5%	0 0.0%	1,981 100.0%	3.97
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	43 2.2%	129 6.5%	671 33.9%	603 30.4%	535 27.0%	0 0.0%	1,981 100.0%	3.74
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	6 0.3%	56 2.8%	559 28.2%	638 32.2%	722 36.4%	0 0.0%	1,981 100.0%	4.02
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	11 0.6%	51 2.6%	627 31.7%	724 36.5%	568 28.7%	0 0.0%	1,981 100.0%	3.90
合 計	89 0.9%	291 2.9%	2,710 27.4%	3,128 31.6%	3,687 37.2%	0 0.0%	9,905 100.0%	4.01

【授業担当者について】

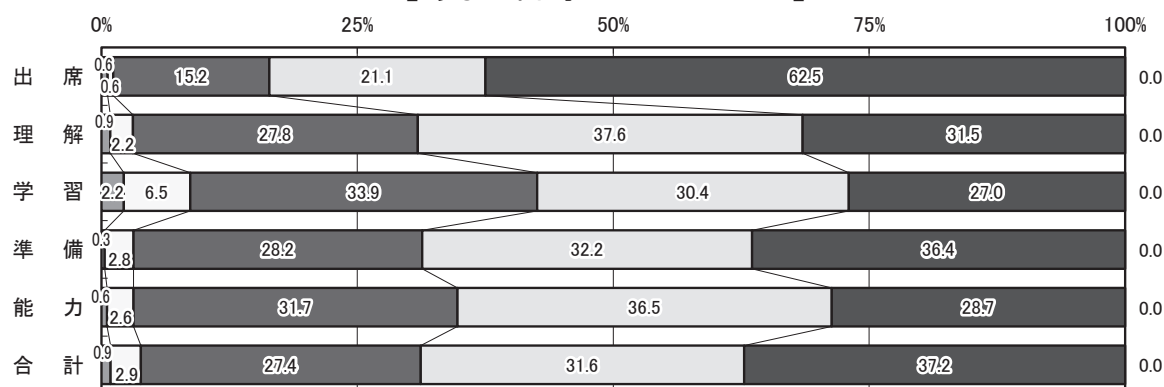
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	31 1.6%	86 4.3%	538 27.2%	584 29.5%	742 37.5%	0 0.0%	1,981 100.0%	3.97
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	20 1.0%	44 2.2%	472 23.8%	605 30.5%	840 42.4%	0 0.0%	1,981 100.0%	4.11
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	23 1.2%	46 2.3%	508 25.6%	606 30.6%	798 40.3%	0 0.0%	1,981 100.0%	4.07
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	46 2.3%	84 4.2%	531 26.8%	566 28.6%	754 38.1%	0 0.0%	1,981 100.0%	3.96
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	34 1.7%	85 4.3%	510 25.7%	628 31.7%	724 36.5%	0 0.0%	1,981 100.0%	3.97
合 計	154 1.6%	345 3.5%	2,559 25.8%	2,989 30.2%	3,858 39.0%	0 0.0%	9,905 100.0%	4.01

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	15 0.8%	24 1.2%	564 28.5%	656 33.1%	722 36.4%	0 0.0%	1,981 100.0%	4.03
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	17 0.9%	64 3.2%	524 26.5%	655 33.1%	721 36.4%	0 0.0%	1,981 100.0%	4.01
13 授業は分かり易かった。	56 2.8%	123 6.2%	537 27.1%	590 29.8%	675 34.1%	0 0.0%	1,981 100.0%	3.86
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	38 1.9%	76 3.8%	578 29.2%	631 31.9%	658 33.2%	0 0.0%	1,981 100.0%	3.91
15 私はこの授業に満足できた。	28 1.4%	76 3.8%	546 27.6%	619 31.2%	712 35.9%	0 0.0%	1,981 100.0%	3.96
合 計	154 1.6%	363 3.7%	2,749 27.8%	3,151 31.8%	3,488 35.2%	0 0.0%	9,905 100.0%	3.95

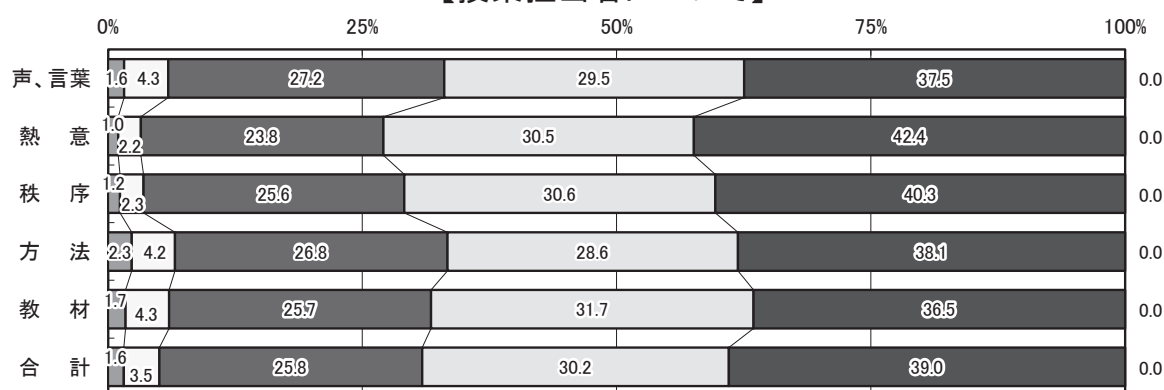
平成26年度後期 通常講義 授業評価〈2年〉

【あなた自身のことについて】



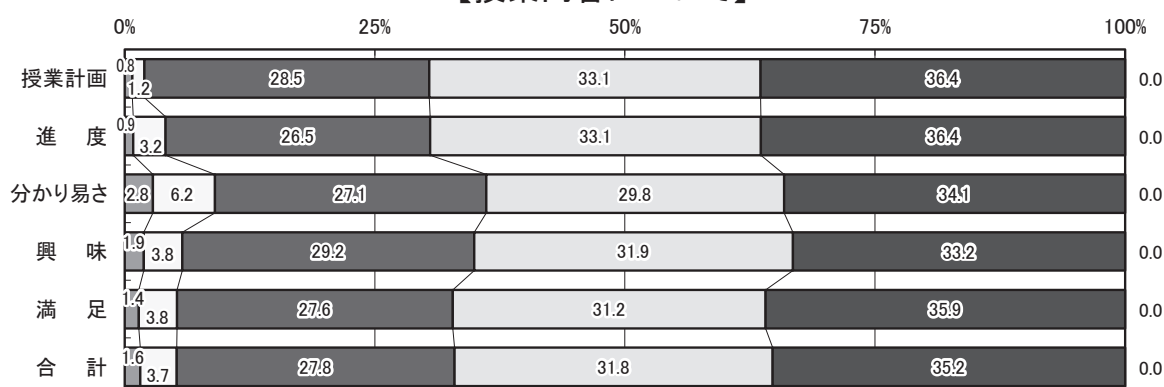
□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度後期 通常講義 授業評価〈3年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私は学期を通じてこの授業によく出席した。	24	45	415	457	1,528	0	2,469	4.39
	1.0%	1.8%	16.8%	18.5%	61.9%	0.0%	100.0%	
2 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	36	66	558	755	1,054	0	2,469	4.10
	1.5%	2.7%	22.6%	30.6%	42.7%	0.0%	100.0%	
3 私はこの授業のために授業時間以外にも学習(予習・復習)した。	31	69	678	708	983	0	2,469	4.03
	1.3%	2.8%	27.5%	28.7%	39.8%	0.0%	100.0%	
4 私は課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。	32	49	556	640	1,192	0	2,469	4.18
	1.3%	2.0%	22.5%	25.9%	48.3%	0.0%	100.0%	
5 私はこの授業によって自分の能力を伸ばすことができた。	47	58	608	711	1,045	0	2,469	4.07
	1.9%	2.3%	24.6%	28.8%	42.3%	0.0%	100.0%	
合 計	170	287	2,815	3,271	5,802	0	12,345	4.15
	1.4%	2.3%	22.8%	26.5%	47.0%	0.0%	100.0%	

【授業担当者について】

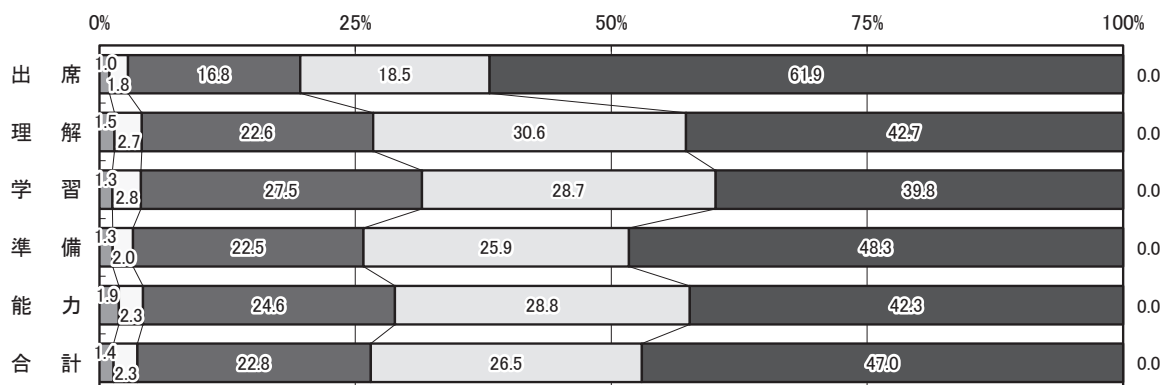
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 教員の声、言葉は明瞭で、聞き取りやすかった。	64	74	572	680	1,079	0	2,469	4.07
	2.6%	3.0%	23.2%	27.5%	43.7%	0.0%	100.0%	
7 教員は熱意を持って授業に臨んでいた。	60	66	549	695	1,099	0	2,469	4.10
	2.4%	2.7%	22.2%	28.1%	44.5%	0.0%	100.0%	
8 教員は教室内の秩序を保つ努力を行っていた。	71	78	592	695	1,033	0	2,469	4.03
	2.9%	3.2%	24.0%	28.1%	41.8%	0.0%	100.0%	
9 授業の方法(黒板・プロジェクター)は適切であった。	82	96	617	688	986	0	2,469	3.97
	3.3%	3.9%	25.0%	27.9%	39.9%	0.0%	100.0%	
10 教員は教材(教科書、配布資料等)を適切に用いた。	88	89	627	670	995	0	2,469	3.97
	3.6%	3.6%	25.4%	27.1%	40.3%	0.0%	100.0%	
合 計	365	403	2,957	3,428	5,192	0	12,345	4.03
	3.0%	3.3%	24.0%	27.8%	42.1%	0.0%	100.0%	

【授業内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
11 授業計画(シラバス)の記載内容が授業で行われていた。	67	55	606	666	1,075	0	2,469	4.06
	2.7%	2.2%	24.5%	27.0%	43.5%	0.0%	100.0%	
12 授業の進み具合(進度)は適切であった。	83	70	611	667	1,038	0	2,469	4.02
	3.4%	2.8%	24.7%	27.0%	42.0%	0.0%	100.0%	
13 授業は分かり易かった。	92	106	585	688	998	0	2,469	3.97
	3.7%	4.3%	23.7%	27.9%	40.4%	0.0%	100.0%	
14 この授業で取り扱われた内容に興味を持てた。	79	84	613	719	974	0	2,469	3.98
	3.2%	3.4%	24.8%	29.1%	39.4%	0.0%	100.0%	
15 私はこの授業に満足できた。	80	85	590	702	1,012	0	2,469	4.00
	3.2%	3.4%	23.9%	28.4%	41.0%	0.0%	100.0%	
合 計	401	400	3,005	3,442	5,097	0	12,345	4.01
	3.2%	3.2%	24.3%	27.9%	41.3%	0.0%	100.0%	

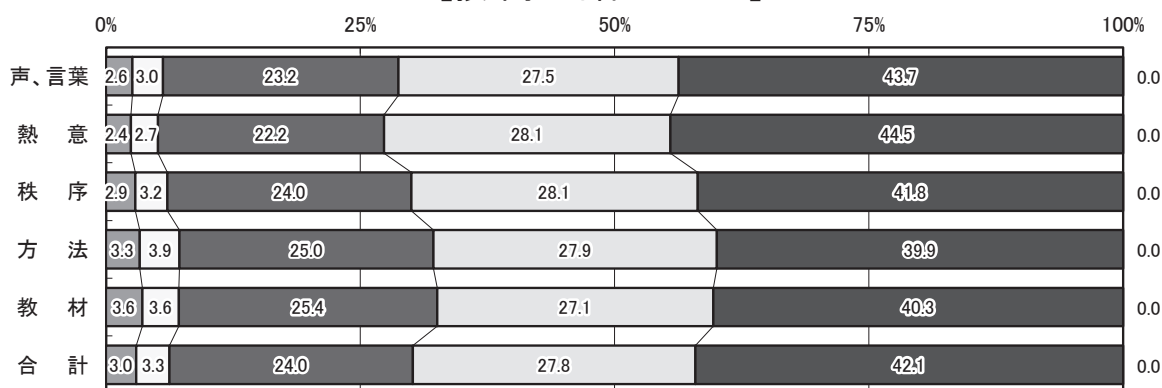
平成26年度後期 通常講義 授業評価〈3年〉

【あなた自身のことについて】



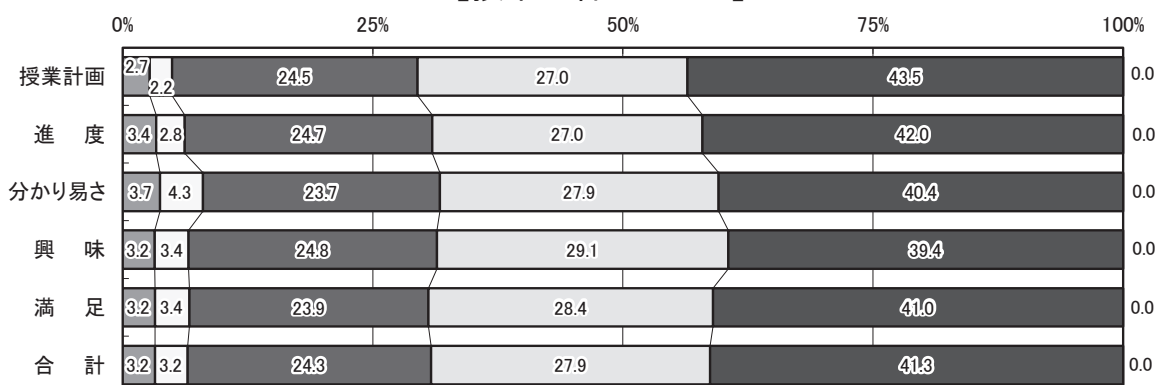
□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度後期 実習 授業評価総括表

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	14 1.2%	12 1.0%	227 19.3%	456 38.8%	465 39.6%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.15
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	25 2.1%	34 2.9%	249 21.2%	391 33.3%	475 40.5%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.07
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	14 1.2%	12 1.0%	196 16.7%	331 28.2%	621 52.9%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.31
4 私は実験結果について十分に考察した。	12 1.0%	14 1.2%	228 19.4%	431 36.7%	489 41.7%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.17
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	15 1.3%	14 1.2%	217 18.5%	455 38.8%	473 40.3%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.16
合 計	80 1.4%	86 1.5%	1,117 19.0%	2,064 35.2%	2,523 43.0%	0 0.0%	5,870 100.0%	4.17

【実習担当者について】

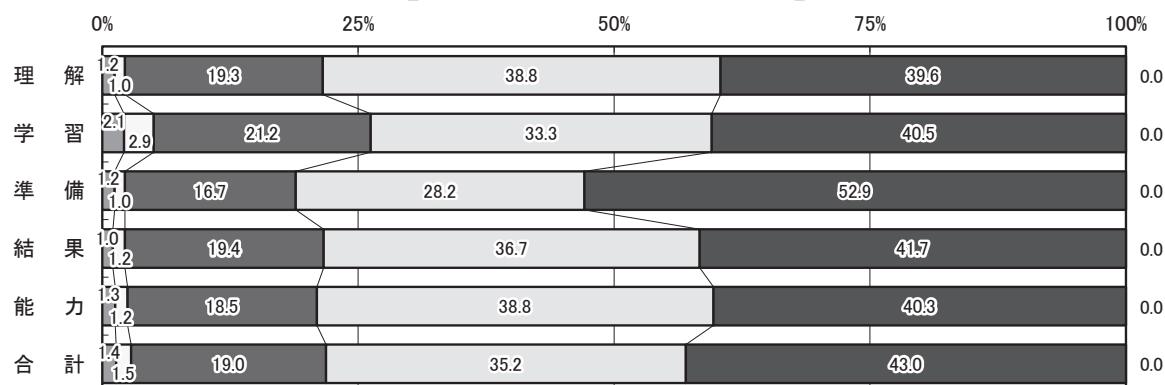
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	24 2.0%	28 2.4%	232 19.8%	394 33.6%	496 42.2%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.12
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	23 2.0%	21 1.8%	255 21.7%	401 34.2%	474 40.4%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.09
8 実習全体の流れが示された。	26 2.2%	21 1.8%	217 18.5%	385 32.8%	525 44.7%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.16
9 実験の手順が的確に説明されていた。	35 3.0%	33 2.8%	226 19.3%	363 30.9%	517 44.0%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.10
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	29 2.5%	21 1.8%	192 16.4%	355 30.2%	577 49.1%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.22
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	37 3.2%	40 3.4%	252 21.5%	370 31.5%	475 40.5%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.03
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	43 3.7%	40 3.4%	277 23.6%	385 32.8%	429 36.5%	0 0.0%	1,174 100.0%	3.95
合 計	217 2.6%	204 2.5%	1,651 20.1%	2,653 32.3%	3,493 42.5%	0 0.0%	8,218 100.0%	4.10

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	37 3.2%	40 3.4%	252 21.5%	370 31.5%	475 40.5%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.03
14 実習は面白かった。	43 3.7%	40 3.4%	277 23.6%	385 32.8%	429 36.5%	0 0.0%	1,174 100.0%	3.95
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	20 1.7%	15 1.3%	245 20.9%	401 34.2%	493 42.0%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.13
16 私はこの実習に満足できた。	36 3.1%	32 2.7%	219 18.7%	359 30.6%	528 45.0%	0 0.0%	1,174 100.0%	4.12
合 計	136 2.9%	127 2.7%	993 21.1%	1,515 32.3%	1,925 41.0%	0 0.0%	4,696 100.0%	4.06

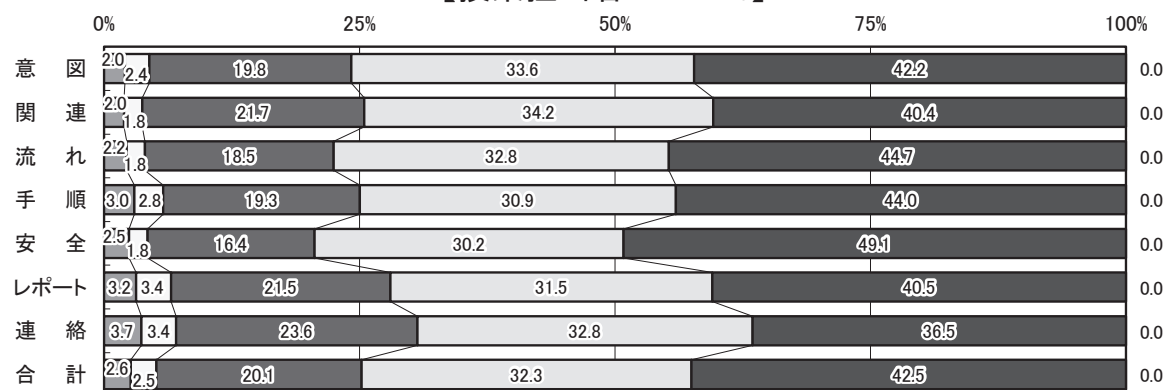
平成26年度後期 実習 授業評価総括表

【あなた自身のことについて】



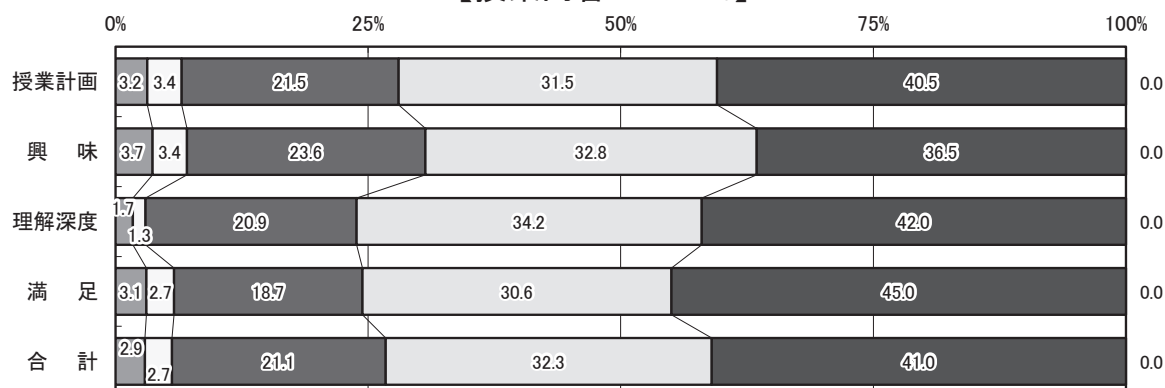
■全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業担当者について】



■全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業内容について】



■全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

平成26年度後期 実習 授業評価〈1年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	6 1.9%	2 0.6%	44 14.0%	154 48.9%	109 34.6%	0 0.0%	315 100.0%	4.14
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	15 4.8%	17 5.4%	80 25.4%	97 30.8%	106 33.7%	0 0.0%	315 100.0%	3.83
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	7 2.2%	3 1.0%	36 11.4%	104 33.0%	165 52.4%	0 0.0%	315 100.0%	4.32
4 私は実験結果について十分に考察した。	5 1.6%	4 1.3%	56 17.8%	135 42.9%	115 36.5%	0 0.0%	315 100.0%	4.11
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	8 2.5%	4 1.3%	39 12.4%	143 45.4%	121 38.4%	0 0.0%	315 100.0%	4.16
合 計	41 2.6%	30 1.9%	255 16.2%	633 40.2%	616 39.1%	0 0.0%	1,575 100.0%	4.11

【実習担当者について】

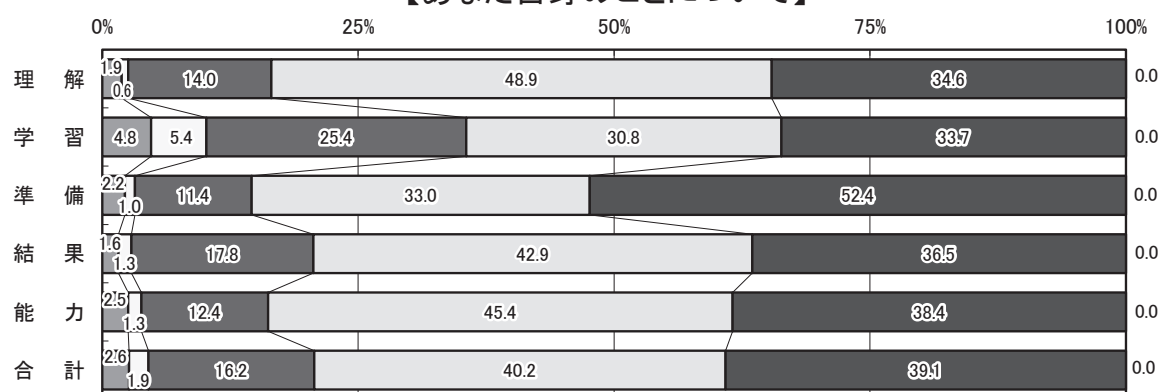
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	8 2.5%	7 2.2%	46 14.6%	112 35.6%	142 45.1%	0 0.0%	315 100.0%	4.18
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	10 3.2%	1 0.3%	55 17.5%	126 40.0%	123 39.0%	0 0.0%	315 100.0%	4.11
8 実習全体の流れが示された。	7 2.2%	3 1.0%	39 12.4%	105 33.3%	161 51.1%	0 0.0%	315 100.0%	4.30
9 実験の手順が的確に説明されていた。	10 3.2%	8 2.5%	40 12.7%	109 34.6%	148 47.0%	0 0.0%	315 100.0%	4.20
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	10 3.2%	7 2.2%	32 10.2%	100 31.7%	166 52.7%	0 0.0%	315 100.0%	4.29
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	12 3.8%	7 2.2%	49 15.6%	119 37.8%	128 40.6%	0 0.0%	315 100.0%	4.09
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	11 3.5%	14 4.4%	65 20.6%	123 39.0%	102 32.4%	0 0.0%	315 100.0%	3.92
合 計	68 3.1%	47 2.1%	326 14.8%	794 36.0%	970 44.0%	0 0.0%	2,205 100.0%	4.16

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	12 3.8%	7 2.2%	49 15.6%	119 37.8%	128 40.6%	0 0.0%	315 100.0%	4.09
14 実習は面白かった。	11 3.5%	14 4.4%	65 20.6%	123 39.0%	102 32.4%	0 0.0%	315 100.0%	3.92
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	7 2.2%	2 0.6%	63 20.0%	118 37.5%	125 39.7%	0 0.0%	315 100.0%	4.12
16 私はこの実習に満足できた。	14 4.4%	4 1.3%	37 11.7%	105 33.3%	155 49.2%	0 0.0%	315 100.0%	4.22
合 計	44 3.5%	27 2.1%	214 17.0%	465 36.9%	510 40.5%	0 0.0%	1,260 100.0%	4.09

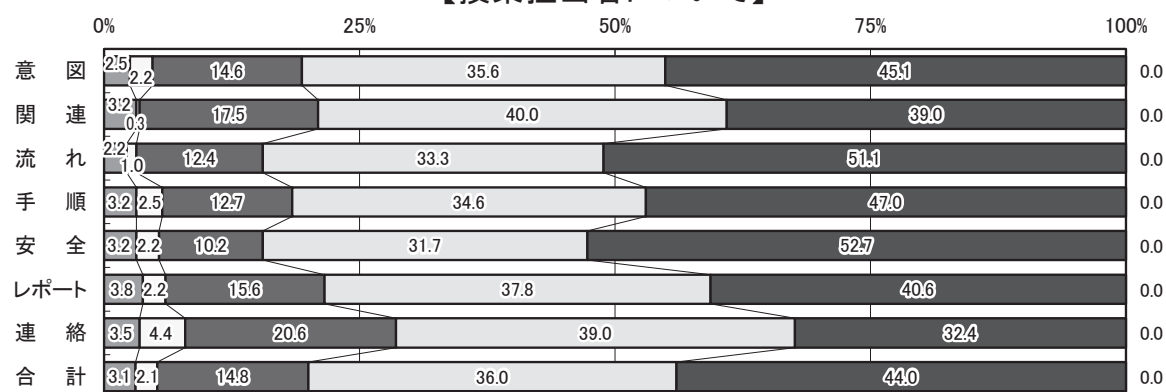
平成26年度後期 実習 授業評価〈1年〉

【あなた自身のことについて】



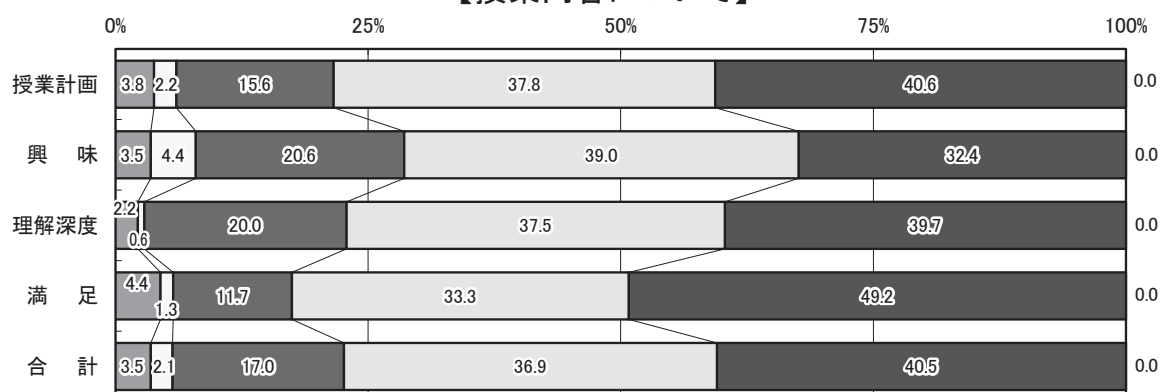
□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度後期 実習 授業評価〈2年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	1 0.4%	4 1.4%	62 22.1%	122 43.4%	92 32.7%	0 0.0%	281 100.0%	4.07
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	0 0.0%	9 3.2%	52 18.5%	114 40.6%	106 37.7%	0 0.0%	281 100.0%	4.13
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	1 0.4%	3 1.1%	50 17.8%	91 32.4%	136 48.4%	0 0.0%	281 100.0%	4.27
4 私は実験結果について十分に考察した。	0 0.0%	5 1.8%	53 18.9%	116 41.3%	107 38.1%	0 0.0%	281 100.0%	4.16
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	0 0.0%	4 1.4%	52 18.5%	138 49.1%	87 31.0%	0 0.0%	281 100.0%	4.10
合 計	2 0.1%	25 1.8%	269 19.1%	581 41.4%	528 37.6%	0 0.0%	1,405 100.0%	4.14

【実習担当者について】

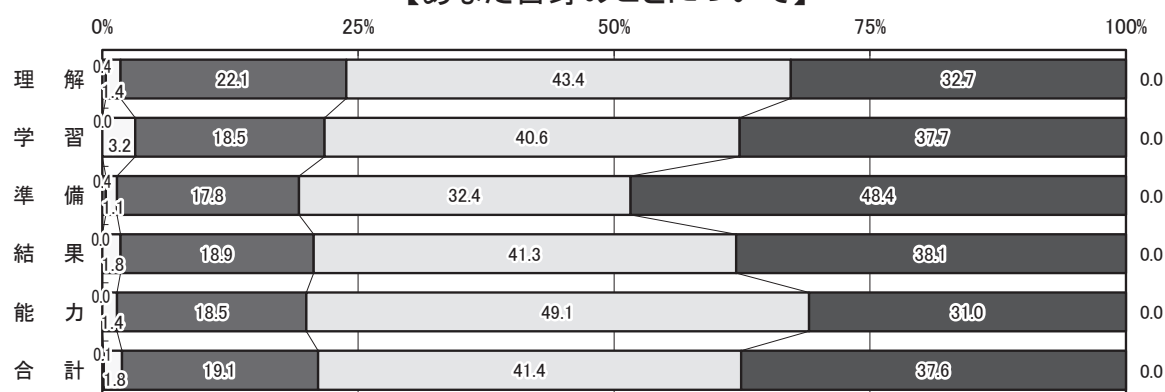
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	1 0.4%	6 2.1%	49 17.4%	110 39.1%	115 40.9%	0 0.0%	281 100.0%	4.18
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	0 0.0%	5 1.8%	61 21.7%	105 37.4%	110 39.1%	0 0.0%	281 100.0%	4.14
8 実習全体の流れが示された。	1 0.4%	5 1.8%	47 16.7%	108 38.4%	120 42.7%	0 0.0%	281 100.0%	4.21
9 実験の手順が的確に説明されていた。	1 0.4%	7 2.5%	46 16.4%	101 35.9%	126 44.8%	0 0.0%	281 100.0%	4.22
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	1 0.4%	4 1.4%	45 16.0%	100 35.6%	131 46.6%	0 0.0%	281 100.0%	4.27
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	4 1.4%	10 3.6%	62 22.1%	102 36.3%	103 36.7%	0 0.0%	281 100.0%	4.03
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	1 0.4%	9 3.2%	74 26.3%	101 35.9%	96 34.2%	0 0.0%	281 100.0%	4.00
合 計	9 0.5%	46 2.3%	384 19.5%	727 37.0%	801 40.7%	0 0.0%	1,967 100.0%	4.15

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	4 1.4%	10 3.6%	62 22.1%	102 36.3%	103 36.7%	0 0.0%	281 100.0%	4.03
14 実習は面白かった。	1 0.4%	9 3.2%	74 26.3%	101 35.9%	96 34.2%	0 0.0%	281 100.0%	4.00
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	0 0.0%	2 0.7%	57 20.3%	113 40.2%	109 38.8%	0 0.0%	281 100.0%	4.17
16 私はこの実習に満足できた。	3 1.1%	5 1.8%	59 21.0%	94 33.5%	120 42.7%	0 0.0%	281 100.0%	4.15
合 計	8 0.7%	26 2.3%	252 22.4%	410 36.5%	428 38.1%	0 0.0%	1,124 100.0%	4.09

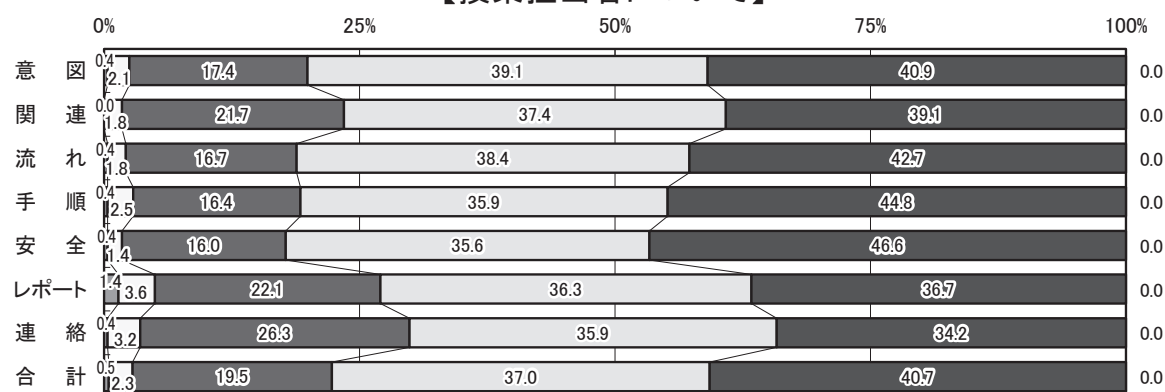
平成26年度後期 実習 授業評価〈2年〉

【あなた自身のことについて】



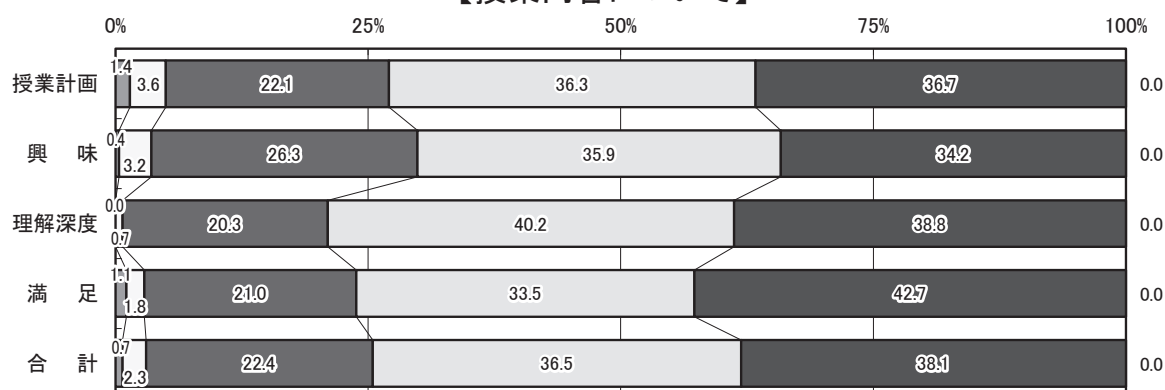
□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業担当者について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業内容について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

平成26年度後期 実習 授業評価〈3年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	7 1.4%	6 1.2%	109 22.1%	160 32.5%	211 42.8%	0 0.0%	493 100.0%	4.14
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	9 1.8%	8 1.6%	106 21.5%	153 31.0%	217 44.0%	0 0.0%	493 100.0%	4.14
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	6 1.2%	6 1.2%	100 20.3%	119 24.1%	262 53.1%	0 0.0%	493 100.0%	4.27
4 私は実験結果について十分に考察した。	7 1.4%	4 0.8%	105 21.3%	150 30.4%	227 46.0%	0 0.0%	493 100.0%	4.19
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	7 1.4%	5 1.0%	117 23.7%	156 31.6%	208 42.2%	0 0.0%	493 100.0%	4.12
合 計	36 1.5%	29 1.2%	537 21.8%	738 29.9%	1,125 45.6%	0 0.0%	2,465 100.0%	4.17

【実習担当者について】

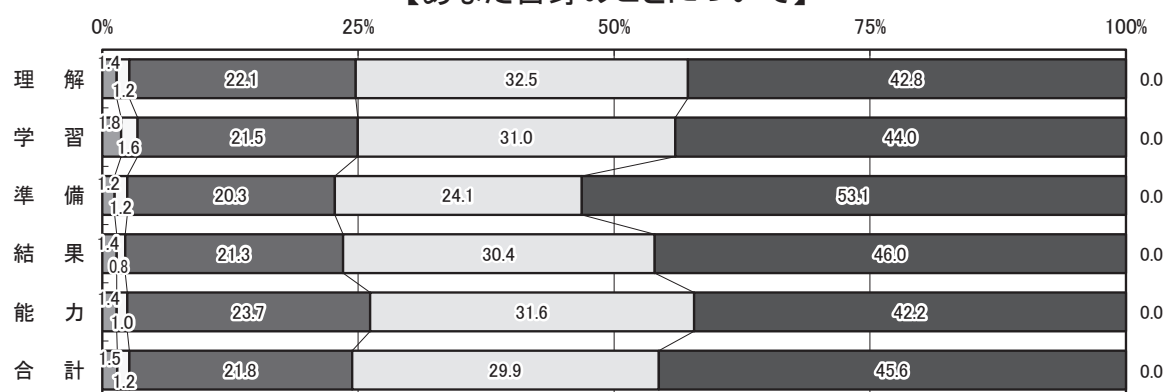
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	15 3.0%	14 2.8%	122 24.7%	146 29.6%	196 39.8%	0 0.0%	493 100.0%	4.00
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	13 2.6%	14 2.8%	123 24.9%	142 28.8%	201 40.8%	0 0.0%	493 100.0%	4.02
8 実習全体の流れが示された。	18 3.7%	12 2.4%	121 24.5%	144 29.2%	198 40.2%	0 0.0%	493 100.0%	4.00
9 実験の手順が的確に説明されていた。	24 4.9%	16 3.2%	125 25.4%	131 26.6%	197 40.0%	0 0.0%	493 100.0%	3.94
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	17 3.4%	9 1.8%	104 21.1%	138 28.0%	225 45.6%	0 0.0%	493 100.0%	4.11
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	21 4.3%	17 3.4%	124 25.2%	120 24.3%	211 42.8%	0 0.0%	493 100.0%	3.98
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	29 5.9%	15 3.0%	121 24.5%	130 26.4%	198 40.2%	0 0.0%	493 100.0%	3.92
合 計	137 4.0%	97 2.8%	840 24.3%	951 27.6%	1,426 41.3%	0 0.0%	3,451 100.0%	3.99

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	21 4.3%	17 3.4%	124 25.2%	120 24.3%	211 42.8%	0 0.0%	493 100.0%	3.98
14 実習は面白かった。	29 5.9%	15 3.0%	121 24.5%	130 26.4%	198 40.2%	0 0.0%	493 100.0%	3.92
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	13 2.6%	9 1.8%	112 22.7%	143 29.0%	216 43.8%	0 0.0%	493 100.0%	4.10
16 私はこの実習に満足できた。	18 3.7%	21 4.3%	109 22.1%	129 26.2%	216 43.8%	0 0.0%	493 100.0%	4.02
合 計	81 4.1%	62 3.1%	466 23.6%	522 26.5%	841 42.6%	0 0.0%	1,972 100.0%	4.00

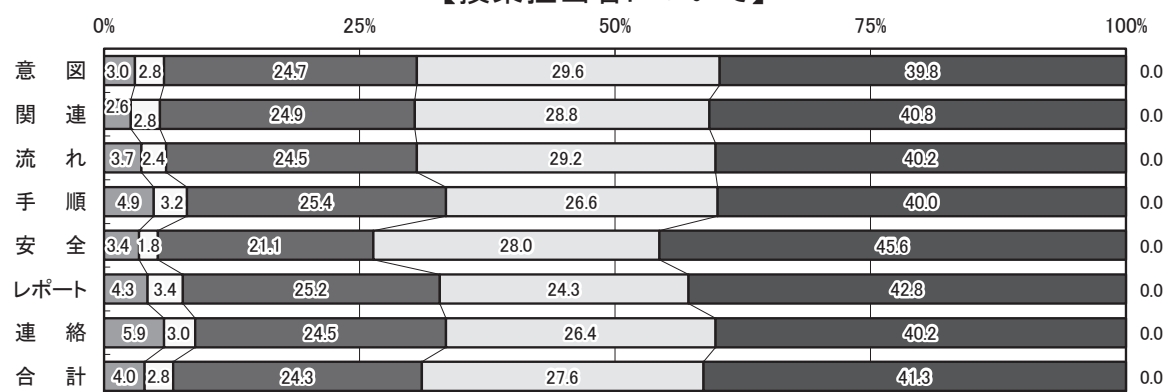
平成26年度後期 実習 授業評価〈3年〉

【あなた自身のことについて】



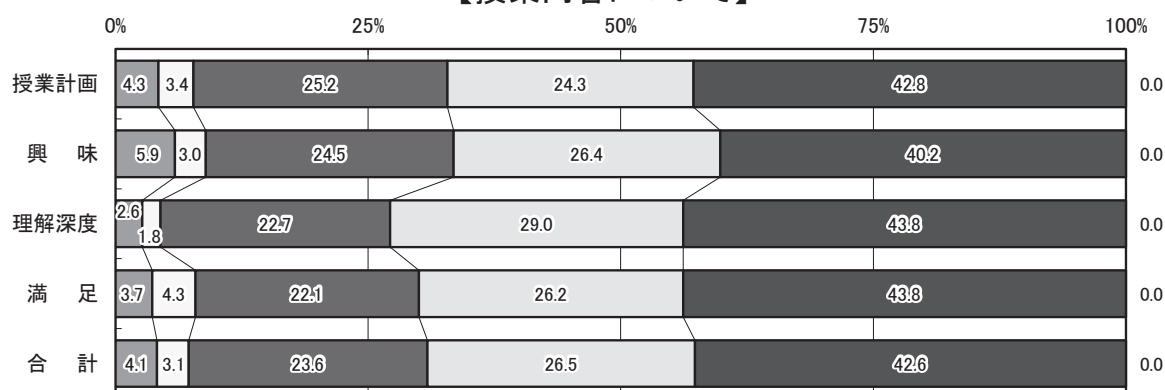
□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業担当者について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

【授業内容について】



□ 全くそう思わない □ あまりそう思わない ■ 普通・どちらともいえない □ ややそう思う ■ 強くそう思う □ 無回答

平成26年度後期 実習 授業評価〈4年〉

【あなた自身のことについて】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
1 私はこの実習で何を学ぶのかを明確に理解していた。	0 0.0%	0 0.0%	12 14.1%	20 23.5%	53 62.4%	0 0.0%	85 100.0%	4.48
2 私はこの実習のために授業時間外にも学習（予習・復習）をした。	1 1.2%	0 0.0%	11 12.9%	27 31.8%	46 54.1%	0 0.0%	85 100.0%	4.38
3 私は実習の準備に真剣に取り組んだ。	0 0.0%	0 0.0%	10 11.8%	17 20.0%	58 68.2%	0 0.0%	85 100.0%	4.56
4 私は実験結果について十分に考察した。	0 0.0%	1 1.2%	14 16.5%	30 35.3%	40 47.1%	0 0.0%	85 100.0%	4.28
5 私は実習によって自分の能力を伸ばすことができた。	0 0.0%	1 1.2%	9 10.6%	18 21.2%	57 67.1%	0 0.0%	85 100.0%	4.54
合 計	1 0.2%	2 0.5%	56 13.2%	112 26.4%	254 59.8%	0 0.0%	425 100.0%	4.45

【実習担当者について】

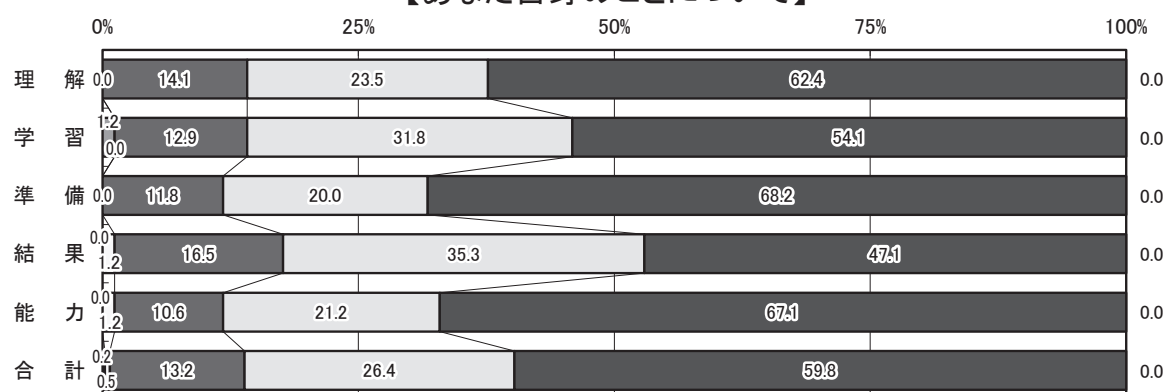
	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
6 実習・実験の意図が明確に説明されていた。	0 0.0%	1 1.2%	15 17.6%	26 30.6%	43 50.6%	0 0.0%	85 100.0%	4.31
7 講義科目との関連が十分に説明されていた。	0 0.0%	1 1.2%	16 18.8%	28 32.9%	40 47.1%	0 0.0%	85 100.0%	4.26
8 実習全体の流れが示された。	0 0.0%	1 1.2%	10 11.8%	28 32.9%	46 54.1%	0 0.0%	85 100.0%	4.40
9 実験の手順が的確に説明されていた。	0 0.0%	2 2.4%	15 17.6%	22 25.9%	46 54.1%	0 0.0%	85 100.0%	4.32
10 実験の安全性が十分に確保されていた。	1 1.2%	1 1.2%	11 12.9%	17 20.0%	55 64.7%	0 0.0%	85 100.0%	4.46
11 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	6 7.1%	17 20.0%	29 34.1%	33 38.8%	0 0.0%	85 100.0%	4.05
12 教員間の連絡が密にとれ、実習科目としてまとまりがあるものだった。	2 2.4%	2 2.4%	17 20.0%	31 36.5%	33 38.8%	0 0.0%	85 100.0%	4.07
合 計	3 0.5%	14 2.4%	101 17.0%	181 30.4%	296 49.7%	0 0.0%	595 100.0%	4.27

【実習内容について】

	全くそう 思わない	あまりそう 思わない	普 通・ どちらとも いえない	ややそう 思 っ	強くそう 思 っ	無 回 答	合 計	平 均
13 シラバスの記載内容で実習が行われた。	0 0.0%	6 7.1%	17 20.0%	29 34.1%	33 38.8%	0 0.0%	85 100.0%	4.05
14 実習は面白かった。	2 2.4%	2 2.4%	17 20.0%	31 36.5%	33 38.8%	0 0.0%	85 100.0%	4.07
15 実習により関連する講義科目の理解が深まった。	0 0.0%	2 2.4%	13 15.3%	27 31.8%	43 50.6%	0 0.0%	85 100.0%	4.31
16 私はこの実習に満足できた。	1 1.2%	2 2.4%	14 16.5%	31 36.5%	37 43.5%	0 0.0%	85 100.0%	4.19
合 計	3 0.9%	12 3.5%	61 17.9%	118 34.7%	146 42.9%	0 0.0%	340 100.0%	4.15

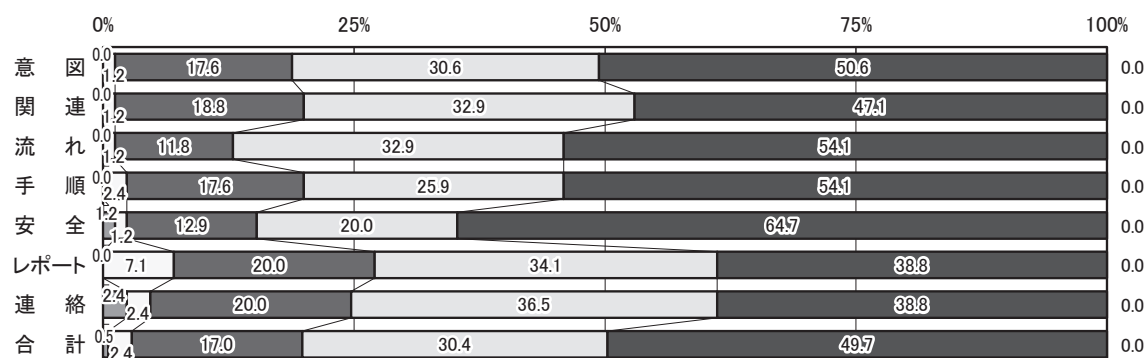
平成26年度後期 実習 授業評価〈4年〉

【あなた自身のことについて】



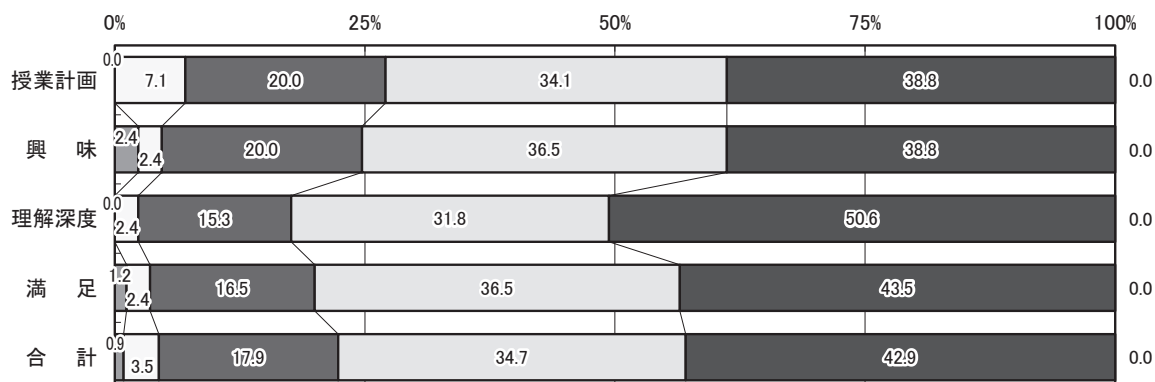
□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業担当者について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

【授業内容について】



□全くそう思わない □あまりそう思わない ■普通・どちらともいえない □ややそう思う ■強くそう思う □無回答

平成26年度後期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

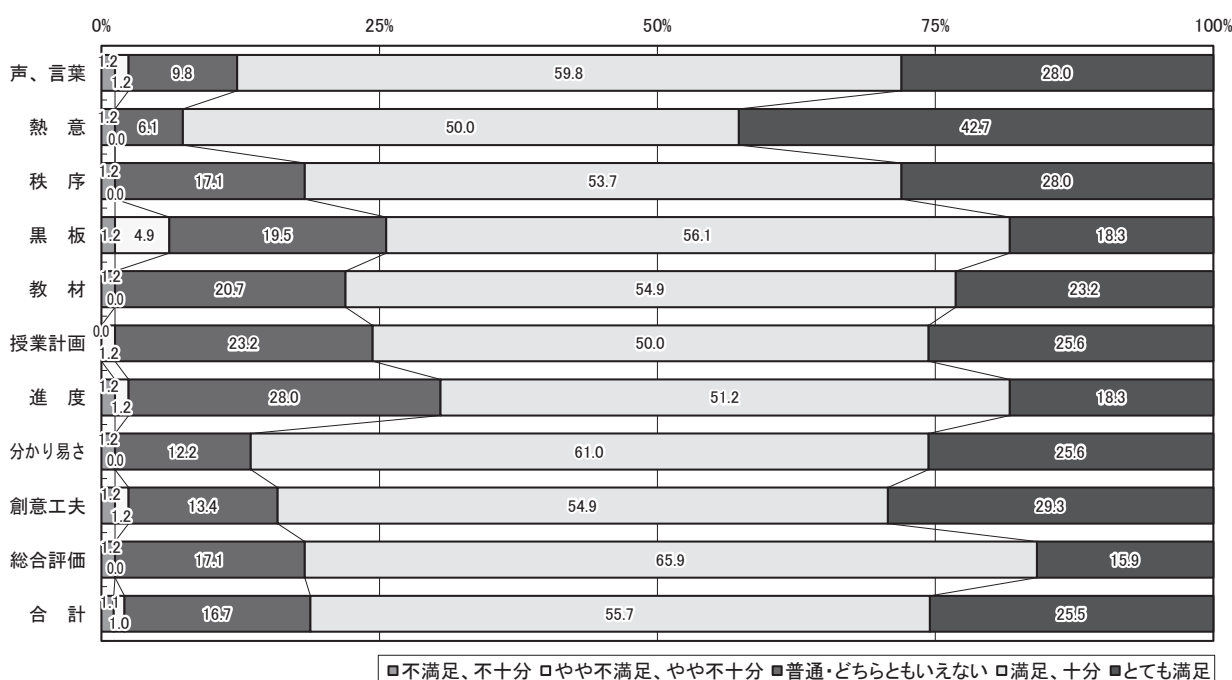
総括表

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	1 1.2%	1 1.2%	8 9.8%	49 59.8%	23 28.0%	0 0.0%	82 100.0%	4.12
問2 授業に対して熱意を持って臨んだ。	1 1.2%	0 0.0%	5 6.1%	41 50.0%	35 42.7%	0 0.0%	82 100.0%	4.33
問3 教室内の秩序は保つ努力をしていた。	1 1.2%	0 0.0%	14 17.1%	44 53.7%	23 28.0%	0 0.0%	82 100.0%	4.07
問4 黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	1 1.2%	4 4.9%	16 19.5%	46 56.1%	15 18.3%	0 0.0%	82 100.0%	3.85
問5 教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	1 1.2%	0 0.0%	17 20.7%	45 54.9%	19 23.2%	0 0.0%	82 100.0%	3.99
問6 授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	0 0.0%	1 1.2%	19 23.2%	41 50.0%	21 25.6%	0 0.0%	82 100.0%	4.00
問7 授業の進み具合（進度）は適切であった。	1 1.2%	1 1.2%	23 28.0%	42 51.2%	15 18.3%	0 0.0%	82 100.0%	3.84
問8 授業を分かり易くする工夫をした。	1 1.2%	0 0.0%	10 12.2%	50 61.0%	21 25.6%	0 0.0%	82 100.0%	4.10
問9 授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	1 1.2%	1 1.2%	11 13.4%	45 54.9%	24 29.3%	0 0.0%	82 100.0%	4.10
問10 ご自身の総合評価を書いて下さい。	1 1.2%	0 0.0%	14 17.1%	54 65.9%	13 15.9%	0 0.0%	82 100.0%	3.95
合計	9 1.1%	8 1.0%	137 16.7%	457 55.7%	209 25.5%	0 0.0%	820 100.0%	4.04

平成26年度後期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

総括表



平成26年度後期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

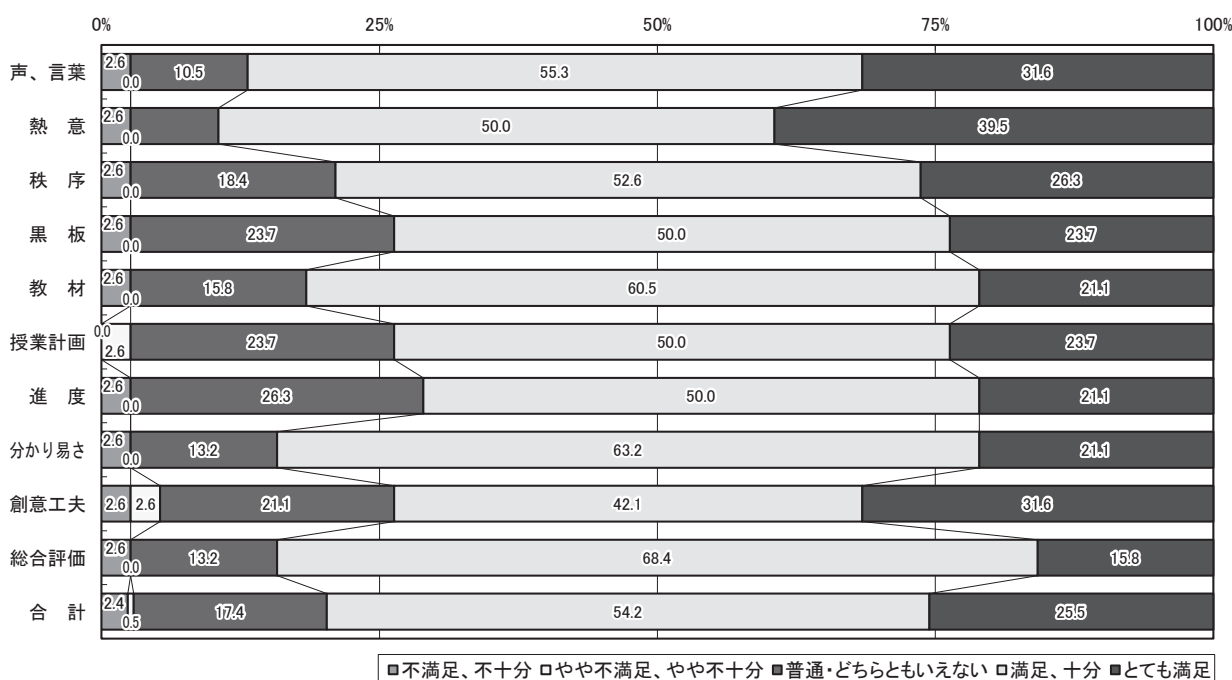
1 年

		不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1	授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	1 2.6%	0 0.0%	4 10.5%	21 55.3%	12 31.6%	0 0.0%	38 100.0%	4.13
問2	授業に対して熱意を持って臨んだ。	1 2.6%	0 0.0%	3 7.9%	19 50.0%	15 39.5%	0 0.0%	38 100.0%	4.24
問3	教室内の秩序は保つ努力をしていた。	1 2.6%	0 0.0%	7 18.4%	20 52.6%	10 26.3%	0 0.0%	38 100.0%	4.00
問4	黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	1 2.6%	0 0.0%	9 23.7%	19 50.0%	9 23.7%	0 0.0%	38 100.0%	3.92
問5	教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	1 2.6%	0 0.0%	6 15.8%	23 60.5%	8 21.1%	0 0.0%	38 100.0%	3.97
問6	授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	0 0.0%	1 2.6%	9 23.7%	19 50.0%	9 23.7%	0 0.0%	38 100.0%	3.95
問7	授業の進み具合（進度）は適切であった。	1 2.6%	0 0.0%	10 26.3%	19 50.0%	8 21.1%	0 0.0%	38 100.0%	3.87
問8	授業を分かり易くする工夫をした。	1 2.6%	0 0.0%	5 13.2%	24 63.2%	8 21.1%	0 0.0%	38 100.0%	4.00
問9	授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	1 2.6%	1 2.6%	8 21.1%	16 42.1%	12 31.6%	0 0.0%	38 100.0%	3.97
問10	ご自身の総合評価を書いて下さい。	1 2.6%	0 0.0%	5 13.2%	26 68.4%	6 15.8%	0 0.0%	38 100.0%	3.95
合 計		9 2.4%	2 0.5%	66 17.4%	206 54.2%	97 25.5%	0 0.0%	380 100.0%	4.00

平成26年度後期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

1 年



平成26年度後期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

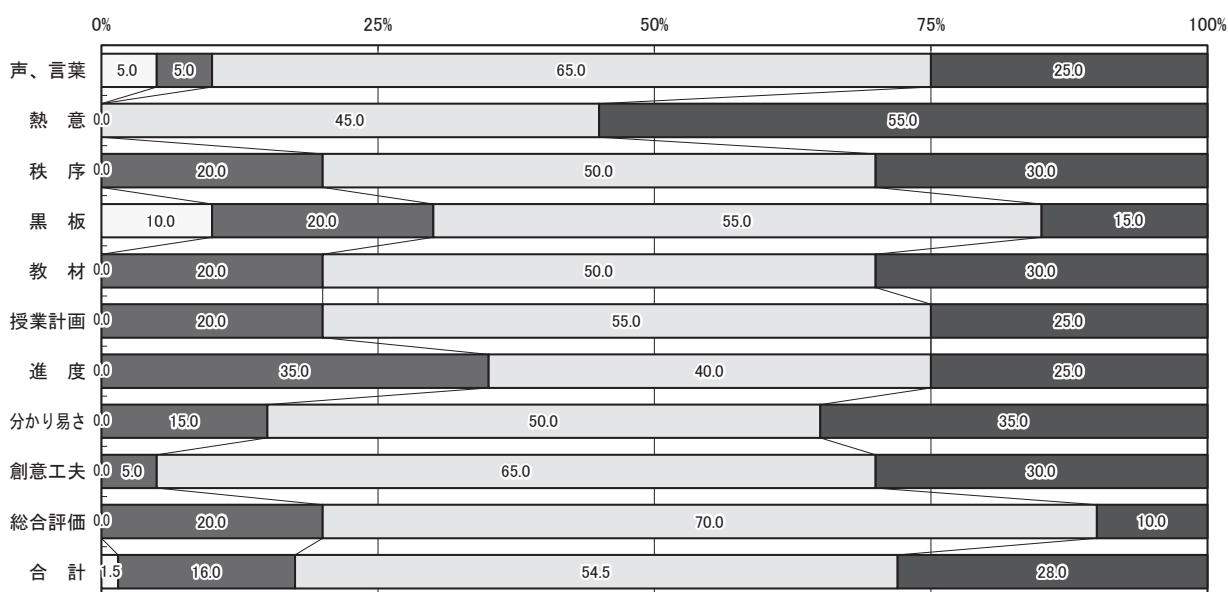
2 年

	不満足 不十分	やや不満 やや不十分	普通・ どちらとも いえない	満足 十分	とても 満足	無回答	合計	平均
問1 授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	0 0.0%	1 5.0%	1 5.0%	13 65.0%	5 25.0%	0 0.0%	20 100.0%	4.10
問2 授業に対して熱意を持って臨んだ。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 45.0%	11 55.0%	0 0.0%	20 100.0%	4.55
問3 教室内の秩序は保つ努力をしていた。	0 0.0%	0 0.0%	4 20.0%	10 50.0%	6 30.0%	0 0.0%	20 100.0%	4.10
問4 黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	0 0.0%	2 10.0%	4 20.0%	11 55.0%	3 15.0%	0 0.0%	20 100.0%	3.75
問5 教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	0 0.0%	0 0.0%	4 20.0%	10 50.0%	6 30.0%	0 0.0%	20 100.0%	4.10
問6 授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	4 20.0%	11 55.0%	5 25.0%	0 0.0%	20 100.0%	4.05
問7 授業の進み具合（進度）は適切であった。	0 0.0%	0 0.0%	7 35.0%	8 40.0%	5 25.0%	0 0.0%	20 100.0%	3.90
問8 授業を分かり易くする工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	3 15.0%	10 50.0%	7 35.0%	0 0.0%	20 100.0%	4.20
問9 授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	13 65.0%	6 30.0%	0 0.0%	20 100.0%	4.25
問10 ご自身の総合評価を書いて下さい。	0 0.0%	0 0.0%	4 20.0%	14 70.0%	2 10.0%	0 0.0%	20 100.0%	3.90
合 計	0 0.0%	3 1.5%	32 16.0%	109 54.5%	56 28.0%	0 0.0%	200 100.0%	4.09

平成26年度後期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

2 年



■不満足、不十分 □やや不満、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度後期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

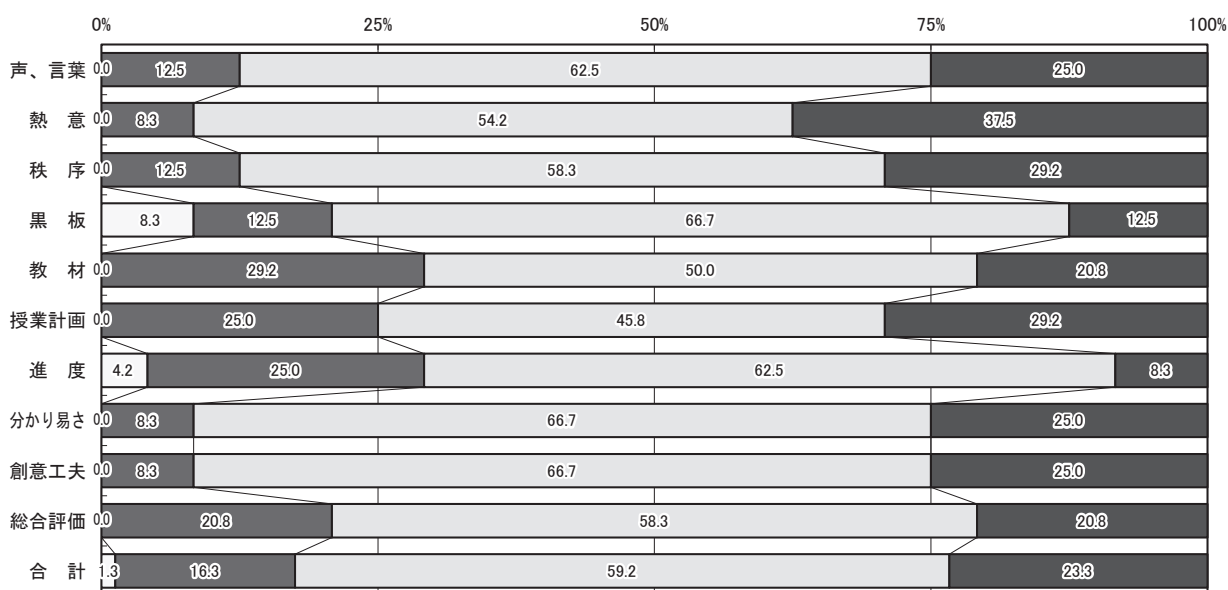
3 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・ どちらとも いえない	満足 十分	とても 満足	無回答	合計	平均
問1 授業に際し、声、言葉は明瞭に、聞き取りやすく話した。	0 0.0%	0 0.0%	3 12.5%	15 62.5%	6 25.0%	0 0.0%	24 100.0%	4.13
問2 授業に対して熱意を持って臨んだ。	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	13 54.2%	9 37.5%	0 0.0%	24 100.0%	4.29
問3 教室内の秩序は保つ努力をしていた。	0 0.0%	0 0.0%	3 12.5%	14 58.3%	7 29.2%	0 0.0%	24 100.0%	4.17
問4 黒板やプロジェクター等を適切に使用した。	0 0.0%	2 8.3%	3 12.5%	16 66.7%	3 12.5%	0 0.0%	24 100.0%	3.83
問5 教材（教科書・配布資料等）を適切に利用した。	0 0.0%	0 0.0%	7 29.2%	12 50.0%	5 20.8%	0 0.0%	24 100.0%	3.92
問6 授業計画（シラバス）の記載内容を授業の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	6 25.0%	11 45.8%	7 29.2%	0 0.0%	24 100.0%	4.04
問7 授業の進み具合（進度）は適切であった。	0 0.0%	1 4.2%	6 25.0%	15 62.5%	2 8.3%	0 0.0%	24 100.0%	3.75
問8 授業を分かり易くする工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	16 66.7%	6 25.0%	0 0.0%	24 100.0%	4.17
問9 授業で取り扱った内容に興味を持たせるように創意工夫した。	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	16 66.7%	6 25.0%	0 0.0%	24 100.0%	4.17
問10 ご自身の総合評価を書いて下さい。	0 0.0%	0 0.0%	5 20.8%	14 58.3%	5 20.8%	0 0.0%	24 100.0%	4.00
合 計	0 0.0%	3 1.3%	39 16.3%	142 59.2%	56 23.3%	0 0.0%	240 100.0%	4.05

平成26年度後期 通常授業

授業に関する調査（教員用）

3 年



■不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度後期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

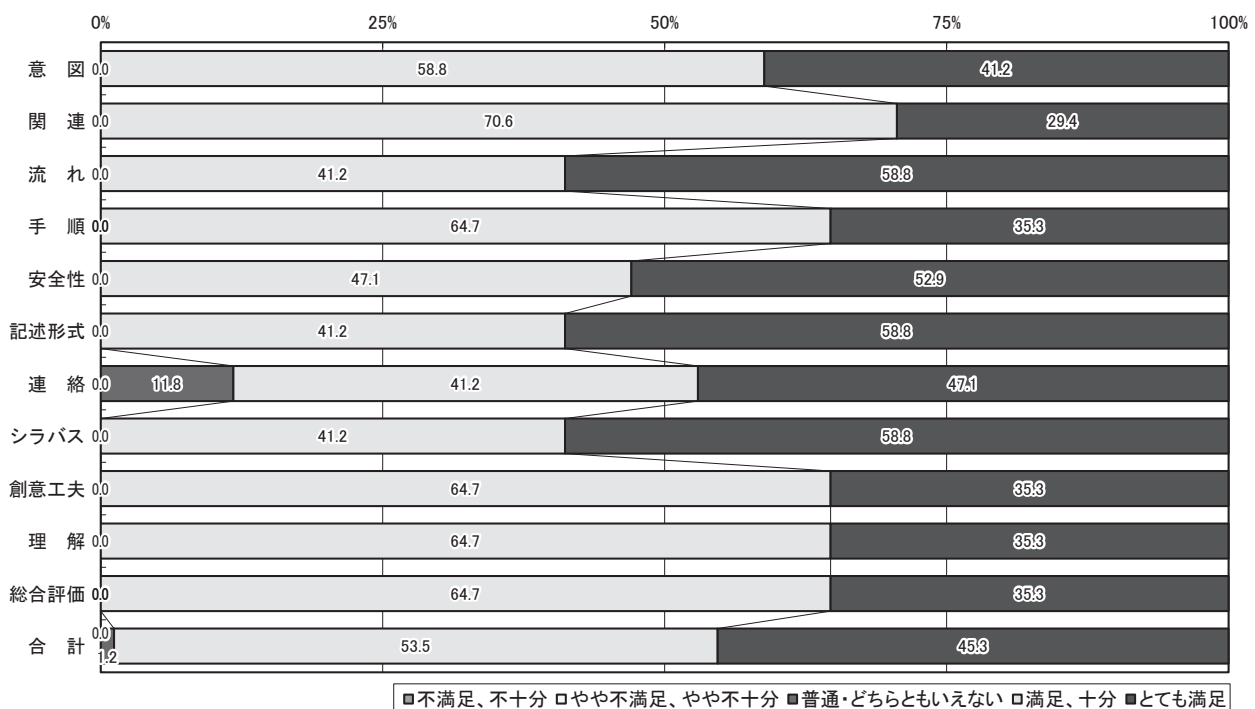
総括表

	不満足 不十分	やや不満 やや不十分	普通・ どちらとも いえない	満 足	とて も満 足	無回答	合 計	平 均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 58.8%	7 41.2%	0 0.0%	17 100.0%	4.41
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 70.6%	5 29.4%	0 0.0%	17 100.0%	4.29
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 41.2%	10 58.8%	0 0.0%	17 100.0%	4.59
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 64.7%	6 35.3%	0 0.0%	17 100.0%	4.35
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 47.1%	9 52.9%	0 0.0%	17 100.0%	4.53
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 41.2%	10 58.8%	0 0.0%	17 100.0%	4.59
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	2 11.8%	7 41.2%	8 47.1%	0 0.0%	17 100.0%	4.35
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 41.2%	10 58.8%	0 0.0%	17 100.0%	4.59
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 64.7%	6 35.3%	0 0.0%	17 100.0%	4.35
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 64.7%	6 35.3%	0 0.0%	17 100.0%	4.35
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 64.7%	6 35.3%	0 0.0%	17 100.0%	4.35
合 計	0 0.0%	0 0.0%	2 1.2%	91 53.5%	77 45.3%	0 0.0%	170 100.0%	4.44

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

総括表



平成26年度後期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

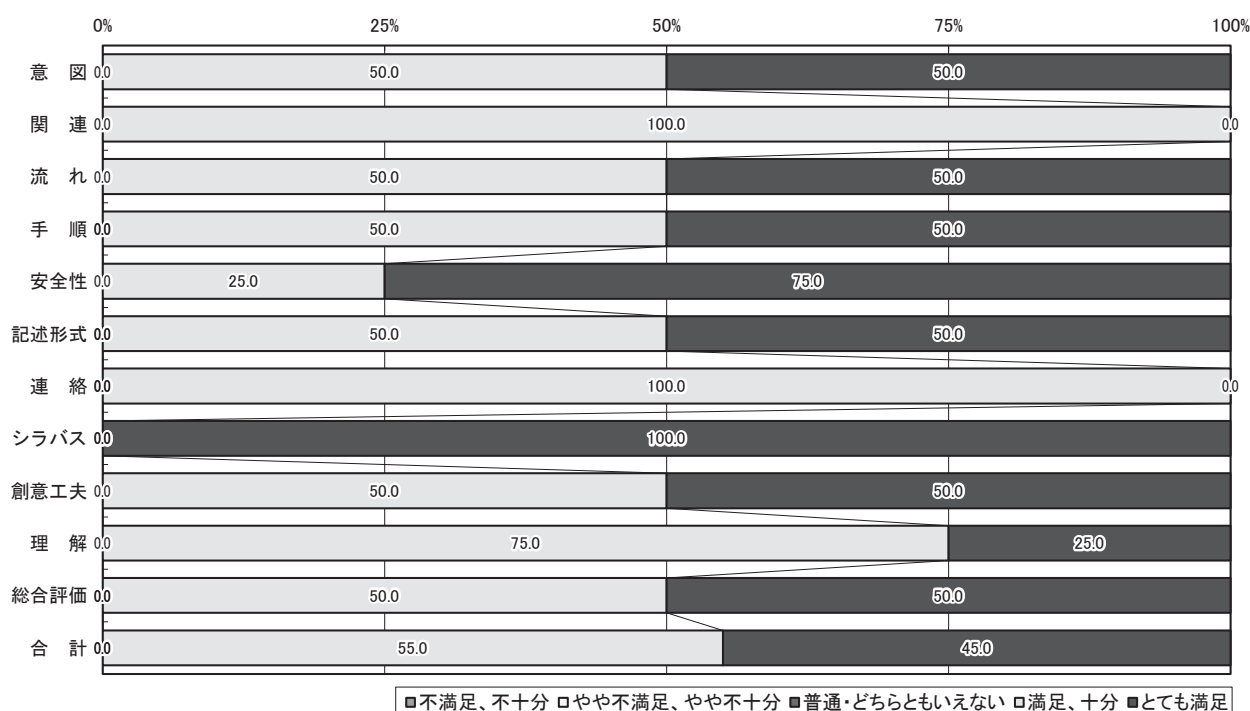
1 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・ どちらとも いえない	満足 十分	とても 満足	無回答	合計	平均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.75
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.00
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%	5.00
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.25
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
合計	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 55.0%	18 45.0%	0 0.0%	40 100.0%	4.45

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

1 年



平成26年度後期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

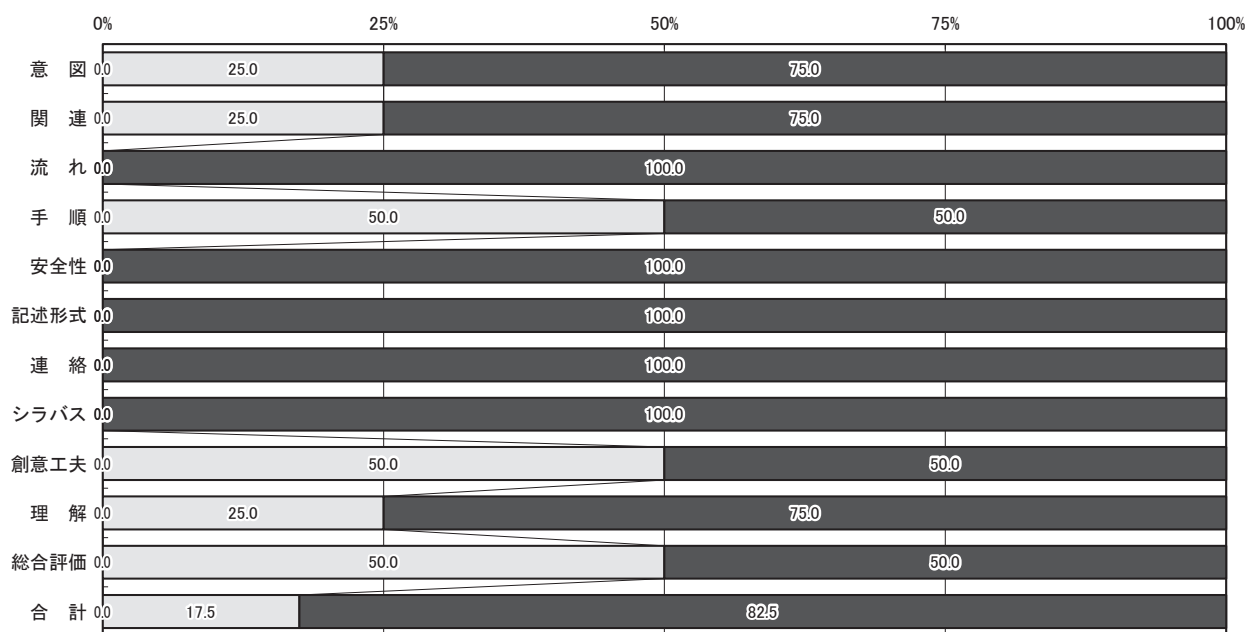
2 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.75
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.75
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%	5.00
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%	5.00
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%	5.00
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%	5.00
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%	5.00
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.75
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%	4.50
合 計	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 17.5%	33 82.5%	0 0.0%	40 100.0%	4.83

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

2 年



■不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度後期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

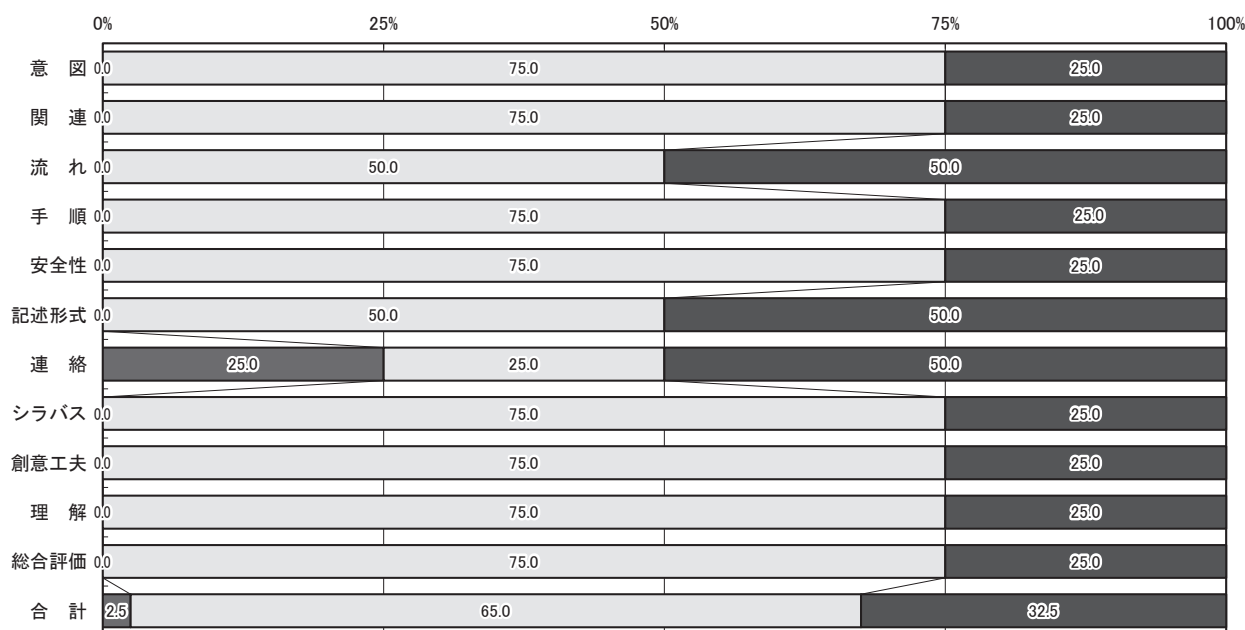
3 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.25
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.25
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 50.0%	4 50.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.50
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.25
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.25
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 50.0%	4 50.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.50
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	2 25.0%	4 50.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.25
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.25
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.25
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.25
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%	4.25
合 計	0 0.0%	0 0.0%	2 2.5%	52 65.0%	26 32.5%	0 0.0%	80 100.0%	4.30

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

3 年



■不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

平成26年度後期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

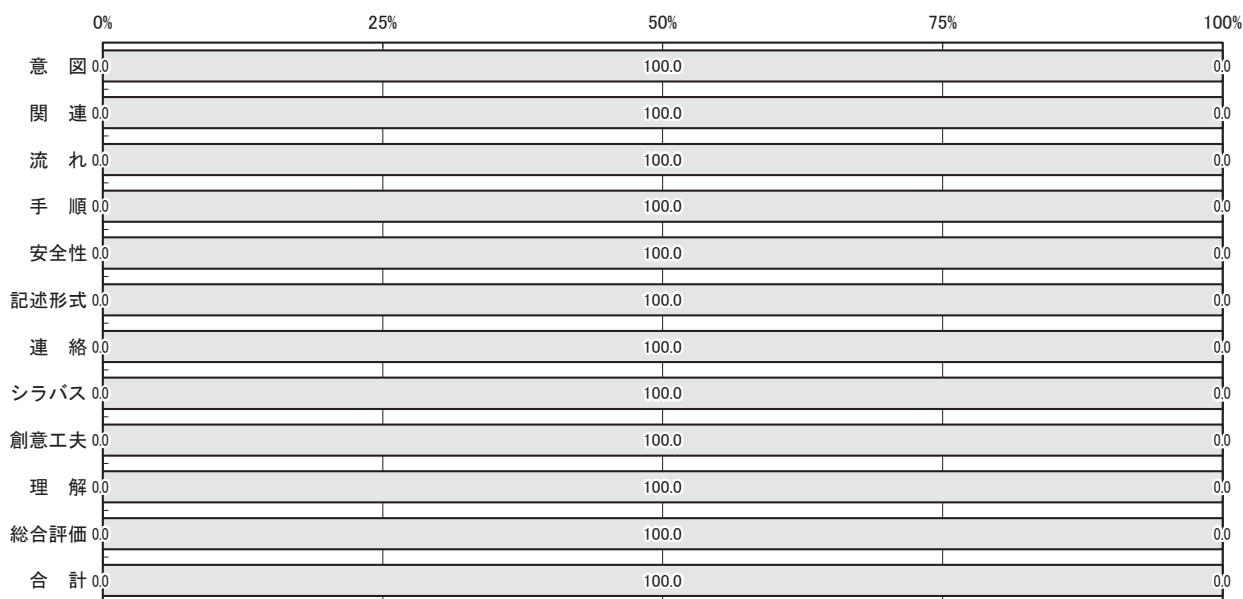
4 年

	不満足 不十分	やや不満足 やや不十分	普通・どちらとも いえない	満足 十分	とても満足	無回答	合計	平均
問1 実習・実験の意図を明確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問2 講義科目との関連を十分に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問3 実習全体の流れを示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問4 実験の手順を的確に説明した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問5 実験の安全性を十分に確保した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問6 実習レポートの記載形式等を予め明確に示した。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問7 教員間で連絡を密にとり、実習科目としてまとまりがあるものにした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問8 シラバスの記載内容を実習の中で行った。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問9 実習で取り扱った内容に興味を持たせるよう創意工夫をした。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問10 実習により関連する講義科目の理解を深めることができた。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
問11 ご自身の総合評価を書いてください。	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4.00
合 計	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%	4.00

平成26年度前期 実習授業

実習に関する調査（教員用）

4 年



□不満足、不十分 □やや不満足、やや不十分 ■普通・どちらともいえない □満足、十分 ■とても満足

(11) 卒業実習教育（総合薬学研究）論文一覧

[薬剤学研究室]

総合薬学コース

- 三上真智子 アデノウイルスベクターのイメージング方法の開発
水田 彩絵 上皮細胞におけるアデノウイルス感染に関わる Snail 転写因子の影響
田仲 新人 アデノウイルス knob タンパク質を利用した CAR 標的がん治療システムの構築
寺田 藍里 細胞遊走能に及ぼすアデノウイルス knob 領域の影響
島田 友幸 直接打錠法による遅延放出型製剤の調製と評価
小野真梨子 架橋型ポリビニルピロリドンを用いた乾式法によるニフェジピンの固体分散体調製に及ぼす水の影響
齊藤明日美 メタクリル酸コポリマー L を用いた油状薬物の固形製剤化
藤野真奈美 ウフェナマートの皮膚移行に及ぼす皮膚状態の影響
伊達 友哉 水溶性高分子の皮膚移行に及ぼすナノ粒子の影響

臨床薬学コース

- 小林 令奈 放出制御型有核錠における核錠の設計
和田美由子 乳化剤として疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロースを用いた o/w 型乳剤性ローションの調製と評価

- 有路千奈美 メトキシケイ皮酸 2-エチルヘキシルの皮膚移行性に及ぼす高分子の影響

情報薬学コース

- 北村健太 細胞膜透過促進能を持つアデノウイルス shaft タンパク質の結合要因の解明

[薬物動態学研究室]

総合薬学コース

- 安達昂一郎 フタル酸エステル類の生体内運命を実証するヒト肝移植マウスと生理学的薬物動態モデルの活用に関する研究
宮口 貴守 ヒト肝移植マウスを活用したビスフェノール A の体内動態を指標としたヒトの安全性評価に関する研究
菅原 大輔 ミニブタを活用したヒトのベラパミルによる房室ブロック発現リスクに関する研究
田村 和章 活性代謝物の抱合反応を触媒するカニクイザルのグルタチオン S-転移酵素分子種に関する研究
澤谷 怜 チトクロム P450 2A6 全欠損型遺伝子の迅速判定法に関する研究

臨床薬学コース

- 若林あかり 腎疾患患者におけるトリメチルアミンおよび *N*-酸化体の体内運命に関する研究
豊川 千愛 フラビン含有モノオキシゲナーゼ 3 遺伝子変異および腎機能低下が及ぼすトリメチルアミン生体内運命に関する研究
小泉 綾乃 レボカルニチン投与時の透析患者におけるトリメチルアミンおよび *N*-酸化体の体内動態に関する研究
土屋 有加 食品添加物鉄クロロフィリンのトリメチルアミンに及ぼす影響に関する研究

情報薬学コース

- 萩平 悠也 マーモセット新規チトクロム P450 2D 分子種の同定および機能解析に関する研究

[薬理学研究室]

総合薬学コース

- 藤原 蓉子 MAP キナーゼ活性に対するノビレチンとその構造類似物質の影響
日野水 春香 MAP キナーゼ活性におけるノビレチンの影響
佐藤 春香 NOS 発現細胞を用いたニコチン誘発性 Ca^{2+} 流入作用
番匠 理絵 各種 Ca^{2+} 流入薬による神経突起伸長作用
加藤 一樹 大腸菌を用いたイオウ転移酵素発現の最適化
佐藤 美香 システイン残基修飾によるシスタチオニン γ -リアーゼの活性制御
橋本 陽介 S-ニトロソ化修飾を介したシスタチオニン γ -リアーゼの活性制御
松坂 直美 活性イオウによるカルモデュリンキナーゼの新規活性制御
三木 亮介 細胞内イオウ転移酵素発現による NO 合成酵素活性制御
荒木 笙馬 シスタチオニン β -合成酵素の活性制御メカニズム

臨床薬学コース

北角奈美	エストロゲンによるアルツハイマー病予防
唐澤菜々子	脳由来神経栄養因子BDNFによる抗うつ作用
中沢瑛里	グルタミン酸受容体をターゲットにしたうつ病の新薬開発の展望

[薬物治療学研究室]

総合薬学コース

稲川亜矢子	SYNCRIP ノックアウトマウスの骨格解析
關内 和葵	SYNCRIP ノックアウトマウスの中樞神経系の組織学的解析
中川 秀一	SYNCRIP ノックアウトマウスの心臓発達異常について
猪口 恵美	リン酸化パターンによる IRBIT の標的分子選別機構について
角 知英	各標的分子との相互作用に直接関わる IRBIT リン酸化部位の同定
菅井かれん	IRBIT による autophagy の抑制的な調節機構について
杉山 友梨	脂肪細胞分化における IRBIT の役割
白石 葵	マウス悪性黒色腫細胞における Long-IRBIT を介した細胞移動の制御

臨床薬学コース

長谷川尚美	脳型 NBCE1 特異的なグリア細胞内 pH 調節機構について
柏木 舞	NBCE1 ノックアウトマウスの中樞神経系の組織学的解析
小林 由佳	転移性乳癌に対するアナストロゾールとフルベストラントの併用療法の効果について

情報薬学コース

吉田 奈生	新規経口抗凝固薬の実力を探る
-------	----------------

[衛生化学研究室]

総合薬学コース

明石 悠佳	メタロチオネイン欠損細胞を用いた重金属応答性転写因子 MTF-1 の活性化機構の解明
山下佳那子	selenophosphate の構造解析のための変異型 selenophosphate synthetase 2 の作製と活性の評価
鈴木英梨奈	チオプリンメチル基転移酵素過発現細胞の作製及びテルルに対する毒性評価
塚本 泰代	ラットにおける有機及び無機テルル化合物の体内分布及び生体影響
萩原 優	ブロッコリーにおけるテルル代謝物の解析
海藤 智仁	亜セレン酸を摂取したウズラにおける卵への水銀移行と分布にセレンが及ぼす影響
長谷川早喜	ラットにおける新規セレン代謝物セレノシアネートの生体内挙動の解析

臨床薬学コース

内山 敬亮	メタロチオネイン欠損細胞における重金属応答転写因子 MTF-1 の細胞内挙動の解析
今井 俊輔	ウィルソン病をはじめとする銅関連肝疾患に関する調査研究
仲田総一郎	水銀曝露と自閉症との関連に関する調査研究

情報薬学コース

深瀬 絢葉	アルミニウムを含む食品添加物に関する調査研究
-------	------------------------

[生化学研究室]

総合薬学コース

木村 栄希	TMED10 による TGF- β 依存的細胞遊走亢進の抑制作用
赤津 凌介	PDZK1IP1 による TGF- β シグナル抑制メカニズム
萩 なつみ	TGF- β は A549 細胞において C/EBP β 及び SREBP-1 の発現を促進する
酒井 楓	TGF- β ファミリーシグナル依存的に脂肪細胞成熟過程を制御するタンパク質の同定
海老沢昌泰	MSK1 を介した BMP シグナルによる軟骨細胞分化促進
葛 祐妃	TGF- β /Smad シグナルによるチトクローム P-450(CYP1A1) 遺伝子発現制御
菊間 美咲	転写抑制因子 AhRR を介した TGF- β シグナルによる CYP1A1 遺伝子発現抑制
福田 真弓	ベンツピレン誘発遺伝子損傷を TGF- β が抑制する
木村 真央	TGF- β シグナル関連分子欠損マウス由来胎仔線維芽細胞(MEF)を用いた TGF- β シグナル解析
小保方汐里	慢性大腸炎で誘発されるマウス大腸発がんモデルの確立
渡辺彩弥加	肺線維症モデルを用いた TMEMPAI ファミリー欠損マウスの病態解析
小西 勇太	C18ORF1 による Hippo シグナル抑制機構

[統合感染免疫学研究室]

総合薬学コース

- 小林 基恵 臨床分離黄色ブドウ球菌に対する ursolic acid の抗菌活性について
松嶋香菜子 farnesol による HMG-CoA 還元酵素の凝集と活性阻害の関係
小見 治加 鎖状アルコールの炭素鎖の違いによる抗菌作用の変化
尾方 祐子 共焦点レーザー顕微鏡を用いたユビキチン化による膜タンパク質輸送機構の解析
春原 悠希 ユビキチン依存性膜タンパク質輸送機構に関連する分子の探索

臨床薬学コース

- 加藤 悠 C.Difficile 感染症の予防策とその治療について

[天然物化学研究室]

総合薬学コース

- 内田亜里沙 イノモトソウ由来スクアレン環化酵素の機能解析
菊池 友希 トリテルペン非産生シダ植物由来スクアレン環化酵素のクローニング
高澤 彩香 Adiantum davidii のトリテルペノイド (1)
舟木 絵梨 Gentiana straminea 根のトリテルペノイド
橋本 悠 Gentiana straminea 地上部のトリテルペノイド

臨床薬学コース

- 川畑 舞佐子 オウレン基原植物の分子系統解析
小宮 聡理 Adiantum davidii のトリテルペノイド (2)
川口 陽菜 天然物を起源とした機能性食品について ~ St. John's Wort について~
中村 香織 Swertia ciliata のトリテルペノイド
森本 美緒 天然物を起源とした機能性食品について ~ Yohimbe について~

情報薬学コース

- 多賀谷侑加 天然物を起源とした機能性食品について ~大豆イソフラボンについて~

[薬化学研究室研究室]

総合薬学コース

- 土屋 貴久 チオールを用いるアルキニル O-tert-ブチルジフェニルシリルオキシムのラジカル環化反応の適用拡大
濱 沙織 C-カルボキシルニトロンの付加環化反応を用いる HPA-12 の合成研究
善財さくらこ N-置換アレニルニトロンの分子内付加環化反応
白田 大 金触媒を用いるスチレン類の二量化反応の開発
原田万由桂 金触媒による Meyer-Schuster 転位反応と Aza-Michael 付加反応を利用した含窒素環状化合物の合成
濱崎 悠帆 金触媒を用いる多置換環状エーテル類合成法の開発
江口 大介 金触媒によるタンデム反応を利用した 1,3-ジヒドロベンゾ[cd]インドール骨格の構築法の開発

[医薬分子化学研究室]

総合薬学コース

- 久保 惇 π - π Stacking Interaction を指向した新規ビタミン D アナログの設計と合成
岡崎 由衣 酸性基としてボロン酸をもつ CPB 阻害剤の合成と生物活性評価
片岡 沙織 核内受容体とコファクターペプチドの相互作用に関する研究
金森 聡 ドコサヘキサエン酸 (DHA) の中間体の合成研究
今福 千晶 A 環にリンカーを付与した新規ビタミン D 誘導体の創製
高梨 由佳 アミノピリジンを有する CPB 阻害剤の合成と SAR
西方貴美奈 PPAR γ のリガンドによるリン酸化阻害機構におけるヘリックス 3 と β シート間の相互作用に関する研究
田部井未来 側鎖末端に複素環をもつ新規ビタミン D 誘導体の合成研究
梶 江里香 共有結合を指向した新規 PPAR γ 選択的リガンドの合成研究
柳澤 祐希 Epigallocatechin gallate (EGCG) のプレニル化体合成及び抗腫瘍活性の評価

臨床薬学コース

- 駒井 真祐 Lepidium virginicum から抽出・単離した化合物の細胞増殖阻害作用及びラジカル除去反応の活性試験
- 城島 悠輔 Lepidium virginicum からの化合物の単離・同定及び細胞増殖阻害活性とラジカル除去活性の評価

情報薬学コース

- 星野 咲季 マイクロウェーブを用いた効率的なポリペプチド合成方法の確立

[薬品化学研究室]

総合薬学コース

- 児玉 大樹 大環状 *N*-アルキルピリジンカルボン酸アミド三量体をホスト分子とした共結晶
- 佐藤 正規 *N*-アリアル-*N*-トロポニル型芳香族アミドの立体構造特性と構造変換
- 張谷香奈恵 3,5-置換型大環状ピリジンカルボン酸アミドの立体構造特性と酸塩基反応に基づく構造変換

臨床薬学コース

- 濱田 枝里 高脂血症治療薬および高血圧治療薬における構造の違いによる作用の違い

[薬品物理化学研究室]

総合薬学コース

- 大湾 朝允 がん治療を目的とする放射性標識抗腫瘍抗体フラグメントのための新規放射性標識試薬の設計と合成
- 谷口久仁子 ドキシフルリジンのがん細胞殺傷作用とチミジンホスホリラーゼ発現との関連性
- 臨床薬学コース
- 塚越 崇大 神奈川県および群馬県の環境放射線量に関する研究
- 山藤 瞭 がんの 5-フルオロウラシル耐性機序に関する文献調査
- 山下 夏織 アラニンアミドで修飾したウラシル誘導体のチミジンホスホリラーゼ阻害活性

[薬品分析化学研究室]

総合薬学コース

- 天野 裕理 擬似海水中でのパーミキュライトによる Cs 吸着とカラム法への応用
- 大沼 範顕 MK-801 投与統合失調症モデルラットにおける cholecystokinin-8 生合成酵素の変動について
- 金子 瑞紀 MK-801 投与統合失調症モデルラットにおける cholecystokinin-8 代謝酵素の変動について
- 川村 瞳 他イオン共存下でのスポンジ状に成形したナトリウムテニオライトによる Cs 吸着
- 草柳 友貴 スポンジ状に成形したナトリウム型合成雲母の Cs 吸着材としての検討
- 品川真理子 水素分子の抗酸化活性と速度論的同位体効果による水素分子生成機構に関する研究
- 菅原 亜友 合成光学異性体の細胞増殖阻害活性に見られる細胞膜電位変化に関する研究
- 立石 香織 シトシン-メチル化 DNA に対する制がん剤シスプラチンの作用と T24 細胞への応用に関する研究
- 茅野 雅広 Alzheimer 病関連アミロイド β タンパクのアミロイド凝集と凝集阻害化合物の活性に関する研究
- 中山葉津子 U373 細胞での H_2O_2 処理による Glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase の分解機構について
- 元木 香里 アストロサイトでの 4-Hydroxy-2-nonenal による Glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase の修飾について

臨床薬学コース

- 貞方わかな 中等度～重度のアルツハイマー病におけるメマンチンの認知効果

情報薬学コース

- 川本真理子 ナトリウムテニオライトの粒子径による Cs の吸着の違いについて

[医薬情報評価教育 戸田研究室]

臨床薬学コース

- 大鷹 美紀 一般用医薬品第 1 類の適正販売における薬剤師の役割
- 掛川 隆司 後発医薬品の普及の現状と今後の展望
- 須崎 美泉 漢方製剤の服用コンプライアンス改善への試み
- 鈴木 麻里 病院・薬局実習に対する事前実習の効果

辻 明里 "葉酸サプリメントの使用に関する情報の在り方 ～妊婦の適正使用について～"
藤島 龍太 アルツハイマー型認知症における周辺症状の治療
情報薬学コース
村田 隆之 スイッチ OTC の使用の現状と薬剤師の役割

[医薬情報評価教育 串田研究室]

臨床薬学コース

森本 将郎 在宅医療における薬物治療の共同管理について～訪問看護師が必要とする薬剤情報とその利用について～
平澤伸一郎 在宅医療における苦痛緩和のための鎮静について
堀井 孝太 薬剤師の訪問活動に関する業務分析～調剤報酬の評価について～
都島 千秋 在宅医療を支援する薬局の機能評価-薬局の責務について～

[臨床化学分析教育 福森研究室]

臨床薬学コース

福田慎一郎 偽膜性大腸炎の最新の治療と薬物治療
松永 裕泰 消化性潰瘍の病態と薬物治療
室橋 光 2型糖尿病における SGLT2 阻害薬に関する研究

[臨床化学分析教育 千葉研究室]

臨床薬学コース

小野 凌 唾液と唾液腺の疾患に関する調査研究
小西 舞 ルテニウム錯体化学発光法を用いたミルタザピンの分析
酒主 友英 血糖コントロールと糖尿病性合併症の因果関係
志村 航 精油の光毒性に関する調査研究
山本 大策 うつ病治療における SSRI, SNRI, NaSSA の比較検討

情報薬学コース

羽鳥 良 うつ病におけるアロマセラピーの有用性に関する検討

[薬品作用学教育 田口研究室]

総合薬学コース

坪井真友子 オキサリプラチン誘発末梢神経障害における Ca^{2+} チャネルサブユニット $\text{Ca}_v2.1$ の関与
日比彩円香 パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄での P2X4 受容体の関与
蒲田侑加子 脊髄の温度感受性イオンチャネル TRPV1 発現に対するパクリタキセルの影響

臨床薬学コース

中里 友美 オキサリプラチン投与によって誘発される末梢神経障害における MAPK への影響
山下 瑠璃 がん患者における緩和ケア早期導入の有用性についての文献調査

情報薬学コース

溝部 杏奈 分子標的治療薬ボルテゾミブによる末梢神経障害の文献調査
渋谷 英晃 指定麻薬メフェドロン of 脳内ドパミンとセロトニン遊離についての文献調査

[薬品作用学教育 萩原研究室]

臨床薬学コース

鈴木 智子 物忘れ外来で使われている漢方薬
藤沼 景子 更年期障害の現状と問題点
林志 帆子 膜性腎症における薬物治療
駒井優紀子 緩徐進行型 1 型糖尿病患者に対する経口血糖降下薬治療について
板垣 星香 大腸癌治療の現状と今後について

[薬品作用学教育 濱島研究室]

臨床薬学コース

西田 彩生 新たな COPD 治療薬としてのマクロライド系抗菌薬
稲本 莉子 日本で注目される β -ラクタマーゼ産生菌

牟田 幸世 薬剤耐性菌による環境汚染
古川 安奈 世界に拡散するトロピカルディジーズ

[薬品作用学教育 堀口研究室]

総合薬学コース

元山 莉那 2-Benzofuranylethylamine と各種アルデヒド類との改良 Pictet-Spengler 反応
小野 友樹 2-Phenoxyethylamine を出発物質とした 5 置換-2,3,4,5-tetrahydrobenzo[f][1,4]oxazepine 類の合成

臨床薬学コース

川瀬 啓太 溶連菌感染症とその治療薬の選択について
小林 詩織 在宅緩和ケアにおける薬剤師
袴田加奈子 膀胱がん化学療法における薬剤師の関わり
小田島総一郎 抗菌薬使用時の薬物性肝障害
加瀬 博貴 H I V ウィルス感染症とその治療薬の現在

情報薬学コース

岩本 祐豊 新規承認された配合錠の役割

[漢方治療学教育 北島研究室]

臨床薬学コース

田中 咲穂 モモのつぼみ(白桃花)の成分検索 その2:フラボノイド配糖体と核酸成分
大場 久美 冷え症に効果的な食養生に関する考察
深澤 香菜 穀物の気味とトウモロコシのヒゲ(南蛮毛)の甘い香りの成分

情報薬学コース

八巻 芳 モモのつぼみ(白桃花)の成分検索 その1:マンデル酸配糖体とその関連化合物

[漢方治療 高野研究室]

総合薬学コース

甲斐 智洋 鳥取県産オウレン属植物の分子系統学的検討
小山 知美 ドライアイモデル動物に対する涙液分泌維持作用を有する生薬キジツ(枳実)の有効成分の探索
高橋 和大 北海道産タンポポの DNA 塩基配列からみた系統学的分類

臨床薬学コース

新村 卓美 生薬の品質評価に関する調査研究
野口 孝香 アルツハイマー型認知症における $A\beta$ プロテインに対する *Withania somnifera* の作用
野澤 愛美 黄耆含有成分のアディポネクチン産生による糖尿病への効果
引地 紗也 生薬の美白化粧品への応用に関する調査研究
萩原 慎子 認知症に対する抑肝散の有用性に対する調査研究

情報薬学コース

菊池聖衣良 腎疾患治療及び予防における漢方の介入に関する調査研究

[薬剤師実務教育 濱本研究室]

臨床薬学コース

瀬角 りほ 信州大学医学部附属病院における ESBL 産生 *Escherichia coli* を起因菌とする尿路感染症のリスク因子の探索
山口 涼 キサンチンオキシダーゼ阻害作用を持つ既存薬のラット急性膀胱炎に対する効果

[薬剤師実務教育 廣原研究室]

臨床薬学コース

島田友里恵 糖尿病治療についての検討
鷹取 悠子 大腸がんの化学療法について
森谷 建 高血圧治療について
長谷川由佳 糖尿病治療薬について
古川 祐也 大腸がんと薬剤師の関わりについて
沼田 裕貴 煙草が身体にもたらす影響と作用機序

[薬剤師実務教育 渡部研究室]

臨床薬学コース

寺師 優以	腎機能障害患者における抗凝固薬 Rivaroxaban の適正使用の評価
深沢 俊介	長野県上田地域における高齢者に対する処方状況とその考察
横林 秀明	フェニトイン投与による傾眠症状を生じた在宅高齢者の一症例
船渡川 暢	薬剤師の介入によって独居型施設高齢者の服薬コンプライアンスが改善した一症例
鶴田 智穂	アロマターゼ阻害薬レトロゾールによる関節症状の発生の実態
中畝 彩花	トリプルネガティブ乳癌に対する術前化学療法の治療効果における Ki-67 の意義

[数理学 瀧澤研究室]

臨床薬学コース

三木 杏奈	Android 携帯端末における服薬管理システムの開発
片倉 裕貴	Java による慢性疾患患者の体調管理システムの開発
北村 祥章	クラウドサービス型服薬管理システムの開発

[化学系薬学教育 毛利研究室]

総合薬学コース

伊奈 悟	<i>N</i> -(2-Phenoxyethyl)formamide を出発物質とした 5 置換 -2,3,4,5-tetrahydrobenzo[<i>f</i>][1,4]oxazepne 類の合成
新津 美貴	2-Benzothienylethylamine と各種アルデヒド類との改良 Pictet-Spengler 反応

臨床薬学コース

金子 沙代	関節リウマチとその治療薬
岸田早紀子	ピロリ菌とその除菌薬
佐藤奈々子	脂質異常症とその治療
富樫 真澄	糖尿病治療における治療薬の選択

情報薬学コース

藤盛 健司	臨床現場における医療用麻薬の使用
-------	------------------

[化学系薬学教育 小池研究室]

臨床薬学コース

野田 愛実	自然[温泉]療法：炭酸水素塩泉の化学成分と無機医薬品[JP: Sodium Bicarbonate]及び糖尿病
落合 里咲	自然[芳香]療法：精油医薬品[JP・EP: Clove Oil]の読解と化学成分について
中村 恵	自然[芳香]療法：精油医薬品[JP: Fennel Oil, EP: Bitter-fennel herb Oil]の読解と化学成分について

情報薬学コース

志田歩奈美	芳香性精油医薬品：ヨーロッパ薬局方[EP: Eucalyptus Oil, EP: Lavender Oil]の読解について
-------	--

[生物系薬学教育 船本研究室]

臨床薬学コース

大柳 藍	抗がん剤の副作用における嘔吐の治療と対策
佐野 知美	末梢神経障害の実態と対策
長野 知之	心筋梗塞二次予防における β 遮断薬の投与量について
山家 裕司	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の病態と治療に関する調査研究
安東 勇徳	歯周病が全身疾患に及ぼす影響について

[生物系薬学教育 中里研究室]

総合薬学コース

樋熊 浩一	ミトリササゲ由来 α - GAL の c DNA クローニングと解析
-------	---

臨床薬学コース

矢野祐美子	認知症患者における服薬介助の現状とコンプライアンスのさらなる向上
高橋 航	サプリメントによる健康被害と今後の展望

[臨床心理研究室]

総合薬学コース

坂口 祐太 子どもの外遊びの充実とけがへの対策：冒険遊び場の救急箱実態調査より

臨床薬学コース

榊原久美子 小学生を対象とした薬育とキャリア教育プログラムの検討

竹内 辰徳 中学生の医薬品適正使用行動の研究：思春期の発達課題との関連を中心に

[英語・堀内研究室]

臨床薬学コース

津倉 千裕 薬局と老人福祉施設・有料老人ホーム・介護サービス施設及び事業者との関わり

清水 沙紀 薬剤師にこれから求められる聴覚障害者への対応

情報薬学コース

佐藤 果林 ヒトパピローマウイルスワクチンの有用性と今後の課題

[体育研究室]

臨床薬学コース

大山 悟史 "大規模災害時における初動救急体制の考察－応急手当医薬品の供給管理に注目して－"

丸山 周平 "大規模災害時における初動救急体制の考察－都市型災害に備えて－"

情報薬学コース

安藤はるか スポーツファーマシストの存在意義

(12) 第 99 回薬剤師国家試験合格状況

	総 数			6 年制 (現役生)			6 年制 (既卒生)			その他		
	受験者数	合格者数	合格率 (%)	受験者数	合格者数	合格率 (%)	受験者数	合格者数	合格率 (%)	受験者数	合格者数	合格率 (%)
全 国	12,019	7,312	60.84%	8,822	6,219	70.49%	2,517	1,003	39.85%	680	90	13.24%
私 立 計	11,125	6,684	60.08%	8,139	5,658	69.52%	2,451	980	39.98%	535	46	8.60%
本 学	234	193	82.48%	207	175	84.54%	26	18	69.23%	1	0	0.00%

2. 大学院薬学研究科

(1) 大学院教育担当

薬化学研究室	※学 長	西 島 正 弘	
	※教 授	田 村 修	
	講 師	森 田 延 嘉	
天然物化学研究室	※准教授	中 根 孝 久	
医薬分子化学研究室	※教 授	山 本 恵 子	
	講 師	伊 藤 俊 将	
薬品化学研究室	教 授	岡 本 巖	
	准教授	山 崎 龍	
薬品物理化学研究室	※教 授	秋 澤 宏 行	
衛生化学研究室	※教 授	小 椋 康 光	
	講 師	阿 南 弥寿美	
生化学研究室	※教 授	伊 東 進	
生物系薬学教育 船本研究室	※教 授	船 本 常 男	
化学系薬学教育 毛利研究室	教 授	毛 利 邦 彦	
統合感染免疫学研究室	※教 授	石 戸 聡	
薬品分析化学研究室	※教 授	知久馬 敏 幸	
	准教授	小 林 茂 樹	
	講 師	鈴 木 憲 子	
薬剤学研究室	※教 授	渡 邊 善 照	薬学研究科長
	准教授	藤 井 まき子	
	講 師	小 泉 直 也	
薬物動態学研究室	※教 授	山 崎 浩 史	
	講 師	村 山 典 恵	
	講 師	清 水 万紀子	
薬理学研究室	※教 授	渡 邊 泰 男	
	講 師	神 戸 敏 江	
薬物治療学研究室	※教 授	水 谷 顕 洋	
学習支援室	※教 授	宇 都 宮 郁	
	准教授	井 上 能 博	
	講 師	池 野 聡 一	
臨床化学分析教育 千葉研究室	教 授	千 葉 良 子	
薬品作用学教育 田口研究室	※教 授	田 口 恭 治	
薬品作用学教育 濱島研究室	※教 授	濱 島 肇	
薬品作用学教育 堀口研究室	※教 授	堀 口 よし江	
漢方治療学教育 北島研究室	※教 授	北 島 潤 一	
漢方治療学教育 高野研究室	教 授	高 野 昭 人	
薬剤師実務教育 濱本研究室	※教 授	濱 本 知 之	
薬剤師実務教育 山本研究室	教 授	山 本 美智子	
薬剤師実務教育 渡部研究室	准教授	渡 部 一 宏	
臨床薬学教育	准教授	増 田 豊	
	准教授	小野寺 敏	
	講 師	高 田 公 彦	
応用数学 繁田研究室	准教授	繁 田 岳 美	
数理科学 瀧澤研究室	講 師	瀧 澤 誠	

※は大学院薬学研究科委員会委員

(2) 主な学年歴

月日(曜)	大学院行事項目
4月 5日(土)	入学式・新入生ガイダンス
7月19日(土)	論文博士公開論文発表
7月28日(月)	修士推薦及び一般入学試験(1次)
7月28日(月)	博士推薦入学試験
7月30日(水)	修士推薦及び一般入学試験(1次) 合格発表
7月30日(水)	博士入学試験合格発表
9月17日(水)	学位論文審査判定
9月27日(土)	論文博士学位授与式
9月26日(金)	博士一般入学試験(1次)
9月30日(火)	博士一般入学試験(1次) 合格発表
1月31日(土)	課程博士・論文博士公開論文発表
1月31日(土)	薬科学専攻修士論文発表
2月25日(水)	修士・博士学位論文審査判定
2月25日(水)	博士課程2年次学生中間報告会
3月10日(火)	修士推薦及び一般入学試験(2次)
3月10日(火)	博士社会人推薦及び一般入学試験(2次)
3月12日(木)	修士推薦及び一般入学試験(2次) 合格発表
3月12日(木)	博士社会人推薦及び一般入学試験(2次) 合格発表
3月 5日(木)	学位記授与式(修了式)

(3) 大学院薬学研究科委員会の日程と議題

4月 4日(金)	第1号議案	人事に関する件
	第2号議案	大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程廃止に関する件
	報告事項1	博士論文の公表に関する件
4月16日(水)	第1号議案	人事に関する件
	第2号議案	平成26年度大学院入試管理委員会に関する件
	第3号議案	平成26年度大学院自己点検・評価委員会に関する件
	第4号議案	本学学位規程第6条に基づく平成26年度前期博士学位申請に関する件
	第5号議案	学籍に関する件
	第6号議案	平成26年度ティーチング・アシスタント候補者に関する件
	第7号議案	平成26年度大学院学生外部機関派遣に関する件
	報告事項1	平成26年度特別講義開催募集に関する件
	報告事項2	平成26年度大学院修士課程、博士課程受講者に関する件
5月17日(土)	第1号議案	本学学位規程第6条に基づく平成26年度前期博士学位申請予備審査に関する件
	報告事項1	博士学位論文の内容に関する学術誌への公表報告について
5月21日(水)	第1号議案	本学学位規程第6条に基づく平成26年度前期博士学位申請者公開論文発表会に関する件
	第2号議案	平成26年度特別講義に関する件
	第3号議案	平成27年度大学院入学試験に関する件
	報告事項1	日本薬学会博士課程奨学制度に関する件
6月13日(金)	第1号議案	大学院運営小委員会(案)に関する件
	第2号議案	平成27年度入学試験学生募集要項に関する件
	第3号議案	昭和薬科大学大学院奨学資金に関する件
	報告事項1	大学院自己点検・評価に関する件
7月19日(土)	第1号議案	本学学位規程第6条に基づく平成26年度前期博士学位申請者論文審査に関する件
	報告事項1	平成27年度大学院薬学研究科入学試験志願状況について

7月29日(火)	第1号議案	平成27年度大学院博士課程入学試験に関する件
	第2号議案	昭和薬科大学学位規程及び同施行細則の規定に基づく学力試験内規に関する件
	第3号議案	日本薬学会「長井記念薬学研究奨励金」応募推薦手順(案)に関する件
	報告事項1	平成26年度学校法人基礎調査e-マネージャ「大学ポートレート」について
9月17日(水)	第1号議案	平成26年度前期学位規程第6条による博士論文審査に関する件
	報告事項1	大学院自己点検・評価報告に関する件
	報告事項2	長井記念薬学研究支援事業に関する件
	報告事項3	平成27年度大学院入学試験に関する件
10月8日(水)	第1号議案	本学学位規程第6条に基づく平成26年度後期博士学位申請予備審査に関する件
	報告事項1	長井記念薬学研究支援事業に関する件
11月5日(水)	第1号議案	本学学位規程第6条に基づく平成25年度後期博士学位申請予備審査に関する件
12月17日(水)	第1号議案	平成27年度大学院シラバスに関する件
	報告事項1	大学院学則に関する件
	報告事項2	大学院FDワークショップに関する件
	報告事項3	長井記念薬学研究支援事業に関する件
1月13日(火)	第1号議案	大学院学則に関する件
	第2号議案	本学学位規程第6条に基づく平成26年度後期博士学位申請者公開論文発表会に関する件
	第3号議案	平成26年度大学院博士課程2年次学生中間報告会に関する件
	報告事項1	平成27年度大学院教育担当者選任のための論文調査に関する件
1月31日(土)	第1号議案	本学学位規程第6条に基づく平成26年度後期博士学位申請者論文審査に関する件
	報告事項1	学位論文報告について
2月18日(水)	第1号議案	大学院学則等に関する件
	第2号議案	大学院運営小委員会に関する件
2月25日(水)	第1号議案	平成26年度大学院教育担当者(研究指導教員)に関する件
	第2号議案	平成26年度大学院行事日程に関する件
	第3号議案	平成27年度大学院シラバスに関する件
3月11日(水)	第1号議案	平成27年度大学院博士課程入学試験に関する件
	第2号議案	特別研究学生に関する件
	第3号議案	平成27年度大学院行事日程に関する件
	第4号議案	平成27年度開講科目に関する件
	第5号議案	平成28年度大学院入学試験に関する件
	第6号議案	大学院入試関連内規等に関する件
3月18日(土)	第1号議案	大学院学生授業料免除に関する件

(4) 修了者数・入学者数(平成26年度)

26年度入学者	薬科学専攻修士課程	1名
	薬学専攻博士課程(4年制)	1名
26年度修了者	薬科学専攻修士課程	0名

(5) 入学試験概要(平成26年度実施)

	月	日	志願者	受験者	合格者
薬学専攻博士課程(4年制)(推薦)	7月	28日(月)	4名	4名	4名
薬科学専攻修士課程(推薦1次)	7月	28日(月)	0名	0名	0名
薬科学専攻修士課程(一般1次)	7月	28日(月)	0名	0名	0名
薬学専攻博士課程(4年制)(一般1次)	9月	26日(金)	0名	0名	0名
薬科学専攻修士課程(推薦2次)	3月	10日(火)	0名	0名	0名
薬科学専攻修士課程(一般2次)	3月	10日(火)	0名	0名	0名
薬学専攻博士課程(4年制)(一般2次)	3月	10日(火)	2名	2名	2名

(6) 学位授与者数（平成 26 年度）

薬科学専攻修士課程	修士（薬科学）		0 名
薬学専攻博士課程	博士（薬学）	学位規程第 5 条	0 名
薬学専攻	博士（薬学）	学位規程第 6 条	3 名

(7) 留学者数

修士課程・博士課程 0 名

(8) 大学院在籍学生数

平成 26 年 5 月 1 日

学年	学科	男	女	総計
M1	薬科学専攻修士課程	0	1	1
	修士課程合計	0	1	1
D1	薬学専攻博士課程	1	0	1
D2	薬学専攻博士課程	4	0	4
D3	薬学専攻博士課程	2	1	3
	博士課程合計	7	1	8
	大学院総計	7	2	9

(9) 大学院博士論文題目（学位規程第 5 条）

氏 名 論文題目
なし

(10) 大学院博士論文題目（学位規程第 6 条）

氏 名 論文題目
仲丸 善喜 2 型糖尿病治療薬テネリグリプチンのヒト体内動態特性および変動予測に関する研究
石川 将己 生体試料中の脂質メタボローム解析とその臨床適応に関する研究
堀田 紗綾子 IgG anti-GM1 monoclonal antibody の運動神経・筋接合部における免疫組織化学的・電気生理学的研究

(11) 大学院修士論文題目

〈薬科学専攻修士課程〉
なし

(12) 特別講義・その他講演

特別講義

講演題目 医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究
講演者 浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部
教授 川上 純一 博士
招聘者 医療薬学教育研究センター 濱本 知之 教授
講演日 平成 26 年 6 月 11 日（水）

講演題目 臨床薬理学的アプローチによる小児個別化適正投与の基礎と実践
～米国小児専門病院での薬学出身者の挑戦～
講演者 Cinicinnati Children's Hospital Medical Center (Cincinnati, Ohio, USA),
Division of Clinical Pharmacology
准教授 福田 剛史 博士
招聘者 薬物動態学研究室 山崎 浩史 教授
講演日 平成 26 年 6 月 27 日（金）

- 講演題目 ヒトの観察に基づくカドミウムの毒性学研究
講演者 北里大学医学部
教授 堀口 兵剛 博士
招聘者 衛生化学研究室 小椋 康光 教授
講演日 平成26年7月28日(月)
- 講演題目 ウイルスRNAセンサー RIGによる自然免疫機構
講演者 京都大学ウイルス研究所 教授 藤田 尚志 博士
招聘者 生化学研究室 伊東 進 教授
講演日 平成26年11月11日(金)
- 講演題目 プロセス解析工学 (PAT)による新しい品質試験・製造工程管理
：製薬分野における品質評価ツールのトレンドと非破壊分光分析技術
講演者 国立医薬品食品衛生研究所 薬品部 坂本 知昭 博士
招聘者 薬品分析学研究室 知久馬 敏幸 教授
講演日 平成26年11月25日(火)
- 講演題目 医薬品開発とレギュラトリーサイエンスの役割
講演者 厚生労働省 医薬品医療機器総合機構 四方田 千佳子 博士
招聘者 薬剤学研究室 渡邊 善照 教授
講演日 平成26年11月27日(木)
- 講演題目 生命科学研究のための有機化学
講演者 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所
生命有機化学分野 教授 細谷 孝充 博士
招聘者 医薬分子化学研究室 山本 恵子 教授
講演日 平成26年12月5日(金)
- 講演題目 油はなぜ体に必要か？
－脂質代謝酵素のノックアウトマウスから脂質の重要性を考える－
講演者 公益財団法人 東京都医学総合研究所 生体分子先端研究分野
脂質代謝プロジェクトリーダー 村上 誠 博士
招聘者 西島 正弘 学長
講演日 平成26年12月19日(金)
- 講演題目 汎用ヒト型ロボット＜まほろ＞によるライフサイエンス革命
講演者 産業技術総合研究所 創薬分子プロファイリング研究センター
センター長 夏目 徹 博士
招聘者 薬物治療学研究室 水谷 顕洋 教授
講演日 平成27年1月20日(火)

(13) 平成 27 年 3 月 修了生進路別人数表 (大学院)

平成 27 年 5 月 1 日現在

		薬学科		総計	割合 (%)
		男	女		
進 学	本学				
	他大学				
	進 学	0	0		
就 職	製薬企業 (MR)				
	製薬企業 (研究)				
	製薬企業 (開発)				
	製薬企業 (開発以外)				
	製薬企業	0	0		
	企業 (CRO・SMO)				
	企業 (化粧品)				
	企業 (卸)				
	企業 (その他)				
	そ の 他 企 業	0	0		
	製薬企業・その他企業合計	0	0		
	病院 (国立)				
	病院 (公立)				
	病院 (私立)				
	研修生				
	病 院	0	0		
	薬局 (調剤薬局)				
	薬局 (調剤併設ドラッグストア)				
	薬 局	0	0		
	公 務 員				
教育 (研究生)・その他等		0	0		
進路決定者合計		0	0		
就職せず (留学等)					
活 動 中					
判断保留中・国試後 (未定)					
進路未決定者 (未提出)					
総 計		0	0		0

(14) 平成 27 年 3 月大学院修了生進路一覧

該当者なし

(15) 大学院 FD 活動

平成 26 年度昭和薬科大学大学院

FD ワークショップ

「大学院（博士課程、修士課程）への入学者を増やすための方策」

主催：昭和薬科大学大学院薬学研究科委員会

日時：平成 27 年 3 月 18 日（水）午後 1 時～ 4 時 15 分

場所：第 2 講義棟 4 階、中ゼミ室（413 ～ 414 集合場所）、小ゼミ室

参加者：平成 26 年度薬学研究科委員会委員及び教育担当者（辞令交付対象者）

オーガナイザー：西島 正弘 学長

タスクフォース：大学院運営小委員会

プログラム

（P：全体会議 S：スモールグループディスカッション）

オリエンテーション（中ゼミ室）

13:00	P	挨拶 西島 正弘 学長	5 分
13:05	P	趣旨説明 渡邊 善照 研究科長	10 分
～ 13:25		イントロダクション（現況説明、作業説明）	

SGD

		チーム I ～ IV 毎に小ゼミ室へ移動 <休憩・準備 5 分>	
13:30	S	グループディスカッション 司会、発表者、書記指名	
～ 15:30	S	グループディスカッション 討論、発表スライド作成	120 分
		中ゼミ室へ移動 <休憩 5 分>	
15:35	P	チーム発表（発表、各チーム 5 分）と総合討論 15 分	
		進行役（タスクフォース）研究科長、大学院運営小委員会委員	35 分
16:10		挨拶・講評 西島 正弘 学長	5 分
16:15		終了	

(16) 大学院短報

本年度より、本学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程は、6 年制薬学部を基礎とする薬学専攻博士課程（標準修業年限 4 年、以下 4 年制博士課程、入学定員 3 名）に統一された。4 年制博士課程では、平成 24 年度に第 1 期学生が入学後、毎年度順調に入学者が増加し、本年度の在籍者は 3 年次 3 名、2 年次 4 名（うち社会人大学院学生 1 名）、2 年次 1 名となっている。平成 27 年度の入学者選抜を行い 4 名（うち社会人大学院学生 1 名）が入学する見込みとなった。なお、次年（平成 27 年）度には、第 1 期が博士課程を修了する見込みである。薬科学専攻修士課程では、平成 25 年度入学（1 名）が 2 年次となり課程を修了した。平成 22 年度から毎年実施している大学院担当教員による FD ワークショップを本年度も実施した。

3. 常設委員会

(1) 庶務委員会

委員会の開催

日 時：平成26年4月23日

1. 幹事選任に関する件
2. B予算機器の機種変更に関する件

日 時：平成26年5月8日

1. B予算機器の機種変更に関する件
2. B予算機器購入価格の下限の変更に関する件
3. ドライ（通称）な研究に対する予算補助に関する件

日 時：平成26年5月21日（メール委員会）

1. 庶務委員会管理予算（修繕費）の執行に関する件

日 時：平成26年6月4日

1. 平成26年度短期国外出張申請（追加募集）に関する件
2. 新たな研究助成金に関する件
3. B予算対象機器の下限の引き下げに関する件
4. 旅費規程改正に関する件

日 時：平成26年11月5日

1. 平成27年度 A～D予算申請に関する件
2. 庶務委員会管理予算（機器備品費）の執行に関する件
3. 平成27年度短期国外出張申請受付に関する件

日 時：平成26年11月28日

1. 平成26年度B予算の機器購入に関する件

日 時：平成27年1月21日

1. 庶務委員会管理予算（機器備品費）の執行に関する件
2. 平成27年度 短期国外出張に関する件
3. 平成27年度 研究室基礎予算の配分案に関する件
4. 研究室予算の執行超過に伴うペナルティーの改正にかかる検討のお願い

日 時：平成27年2月13日

1. 平成27年度 短期国外出張に関する件（継続）
2. 平成27年度 研究室基礎予算の配分案に関する件（継続）
3. 庶務委員会内規改正に関する件

活動状況

本年度は、B予算の申請が少ない年度であったため、委員会の開催日は昨年度よりは少なくなっている。本年度も適正な予算の執行に尽力した。問題なく職務を全うした。

自己点検評価

修繕費の執行、庶務委員会管理予算（機器備品費）の執行等ごとに、教授会等で丁寧な説明をしている。このため、適正な執行に教員全員の理解がすすんでいると評価できる。

別表1 平成26年度購入 教育研究用機器備品費

B 教育研究用機器（価格100万円以上500万円未満）

研究室	共同購入研究室	品 名（規格・形式）	数量（式）
薬 剤 学		噴霧乾燥機（スプレードライヤー） SD-1000	1
薬 物 動 態 学		超低温フリーザー（MDF-U33V-PJ）	1
薬 理 学		遠心機 Sorvall Legend XTR 75004522	1
薬 理 学		低温クロマトグラフィシステム AKTAprime plus	1
薬 理 学		CO ₂ インキュベーター MCO-18AC-PJ パナソニック	1
薬 物 治 療 学		VT1200S 振動刀ミクロトーム	1
衛 生 化 学		リアルタイムPCR解析システム 185-5201J1 CFX Connect	1
生 化 学		細胞保存用液体窒素タンクシステム	1
生 化 学		細胞培養システム	1
薬 化 学		YMCマルチ分取HPLC YMCテクノスLC-Forte/R	1
医薬分子化学		フラッシュクロマトグラフィシステム一式	1
薬品物理化学		高速液体クロマトグラフ	1
薬品物理化学		ユニバーサルマイクロプレート分光光度計 Epoch	1
薬品物理化学		オールインワン ケミカルイメージャー Omega LumG	1
薬品分析化学		自動比表面積／細孔分布測定装置 BELSORP-miniII	1

別表2 平成26年度 短期国外出張

研究室	学 会 名	発表方法	演 題 名	目的地	学会期間
薬物動態学	第19回 国際薬物動態学会	ポスター	日本人集団において見出されたトリメチル アミン尿症の原因となるフラビン含有モ ノオキシゲナーゼ3遺伝子多型	米 国 サンフランシスコ	10/18～23
数 理 科 学	第4回 日米物理学会合同核物理分科会	口 頭 (予定)	エキゾチックハドロン構造について (仮)	米 国 ハワイ	10/8～11
薬物動態学	第19回 国際薬物動態学会	ポスター	サリドマイドのヒトシトクロムP450酵素 の転写誘導機能	米 国 サンフランシスコ	10/18～23
薬 化 学	第5回 化学会議（化学と分子科学・ヨーロッパ 協会）	ポスター	金触媒によるMeyer-Shuster転移反応と oxa-Michael付加反応を利用した環状エー テルの合成	トルコ協和国 イスタンブール	8/31～9/4
薬 品 化 学	第248回 アメリカ化学会国際会議	ポスター	トロポロンとビリジンを有するN,N-ジア リール型芳香族アミドの立体構造特性と 構造変換	米 国 サンフランシスコ	8/10～14
薬 理 学	第8回 国際NO学会	ポスター	硫黄転移酵素の翻訳後修飾による制御（仮 題）	米 国 クリーブランド	6/16～20
臨床心理学	第3回 アジア子ども権利フォーラム 2014 モンゴル大会	口 頭	子どもにやさしい町づくりと議長・事例 報告	モンゴル ウランバートル	8/23～24

(2) 教務委員会

委員会の開催

平成 25 年 4 月 7 日 (月) (メール委員会)

1. 科目責任者及び科目担当者変更について

平成 26 年 4 月 11 日 (金)

1. 新モデルコアカリキュラムについて

平成 26 年 4 月 12 日 (土) (メール委員会)

1. 卒業延期生の卒業認定について

平成 26 年 4 月 16 日 (水) (メール委員会)

1. 外部機関卒業実習教育について

平成 26 年 4 月 30 日 (水)

1. 平成 26 年度教務委員会幹事について
2. 新モデルコアカリキュラムについて
3. プレイスメントテストの結果について

平成 26 年 5 月 14 日 (水) (メール委員会)

1. 平成 25 年度 5 年次生の 6 年次への進級について
2. 平成 26 年度非常勤講師委嘱の取り下げについて

平成 26 年 6 月 11 日 (水)

1. 平成 26 年度卒業発表会について
2. 総合薬学演習評価について
3. 教育評価機構評価書分担について
4. 新コア単位変更について
5. 前期未修得科目を有している学生の保護者への連絡について
6. 外部機関における卒業実習教育について
7. 1 年次プレスメントテスト追加について
8. 4 年次総合確認試験日程変更について

平成 26 年 6 月 13 日 (金) (メール委員会)

1. 科目内容の変更について
2. 衛生化学担当講義の開講時期変更について

平成 26 年 7 月 4 日 (金)

1. 非常勤講師担当科目追加について
2. 学校法人基礎調査における教育情報調査資料の分担について
3. カリキュラム・ポリシーの策定について
4. 教育課程編成・実施内容の草案について
5. 卒業論文発表会タイムスケジュール (案) について
6. 「人と文化 I ～IV」分野科目追加について

報 告

1. 早期体験学習創薬関連企業工場及び公的研究機関見学実習について

平成 26 年 7 月 9 日 (水) (持回り委員会)

1. 非常勤講師委嘱の取り下げについて
2. 非常勤講師委嘱について

平成 26 年 7 月 11 日 (金) (持回り委員会)

1. 非常勤講師委嘱について

平成26年7月28日(月)(持回り委員会)

1. 卒業延期生「最終総合演習」成績について
2. 「最終総合演習」成績基準について

平成26年7月31日(木)

1. 非常勤講師委嘱について
2. カリキュラムポリシーの策定について
3. 早期体験学習施設見学実習について
4. オムニバス講義等の1年生科目に対するコーディネーター対応願いについて
5. 平成27年度2年次「人と文化Ⅴ：社会のしくみ」時間割変更について
6. 研究室所属学生コース変更について
7. 一部教養講義のA、B合同講義移行について
8. 4年生定期試験未受験者に関する科目最終試験の取り扱いについて
9. 新コア改訂に伴う学則及び試験及び履修規程改訂について
10. 新コアカリキュラム改訂に伴う進級基準について

平成26年8月8日(金)

1. 卒業延期生について

平成26年9月2日(月)

1. 非常勤講師委嘱について

平成26年9月6日(土)

1. 卒業延期生の卒業判定について
2. 前期留年生について
3. 5者面談について
4. 各学年科目別未修得者について
5. 卒業論文発表会日程(案)について
6. 3年生研究室配属スケジュール(案)について
7. 新コア進級基準改定版について
8. 学部履修及び試験規程について

報 告

1. 新コアに伴う教育課程編成・実施内容の草案作成について
2. 薬学教育評価機構評価書作成について
3. カリキュラム・ポリシーの策定について

平成26年9月16日(火)(持ち回り委員会)

1. 卒業延期生の卒業判定について

平成26年10月16日(木)(持ち回り委員会)

1. 科目担当者追加について
2. 非常勤講師委嘱取り下げについて

平成26年11月4日(火)

1. 平成27年度教務委員会関連予算案に関する件
2. 平成27年度時間割(案)及び実習日程表(案)に関する件
3. ディプロマ・ポリシーに関する件
4. 4年次前期留年生に関する件
5. 3年次基礎学力アップ補講に関する件
6. 1年次プレイスメントテストⅡ結果に関する件

平成26年11月17日(月)

1. 4年次学生の共用試験受験資格について

2. 平成27年度科目担当責任者及び担当者について
3. 共用試験の受験について

報 告

1. 2年次科目別試験について

平成26年12月5日(金)

1. 基礎学力強化補講欠席者の取り扱いに関する件
2. 教育課程編成・実施内容の草案に関する件
3. 5年次基礎学力補講受講者に関する件
4. 追再試験 試験監督に関する件
5. 外部機関における卒業実習教育卒業研究申請に関する件
6. アドバンスト実務実習選択に関する件

報 告

1. 平成27年度行事予定表について
2. 平成27年度シラバス作成について
3. 平成27年度時間割・実習日程表案について

平成27年1月15日(木)

1. 平成27年度科目責任者及び担当者について
2. 平成27年度非常勤講師委嘱について
3. 平成27年度時間割表について
4. カリキュラム・ポリシー(案)について
5. 研究室内コース変更について
6. 衛生化学研究室配属及び配属予定学生について
7. 演習試験について

平成27年1月28日(水)(持ち回り委員会)

1. 平成27年度非常勤講師委嘱について
2. 平成27年度非常勤講師担当科目追加について

平成27年2月10日(火)(持ち回り委員会)

1. 平成27年度非常勤講師委嘱について

平成27年2月16日(月)

1. 非常勤講師委嘱について
2. 卒業実習教育研究室内コース変更について
3. 平成27年度「香粧品」について
4. 卒業判定について
5. 薬学演習試験の成績表の点数について
6. 卒業延期学生の今後の日程について
7. 平成27年度演習試験の足切に関して
8. 新コアカリキュラム教育課程表科目名変更について
9. 薬学演習試験疑義回答について

報 告

1. 3, 4年生研究室配属の結果
2. 教務委員会委員追加について

その他

平成26年3月2日(月)

1. 平成27年度非常勤講師の担当科目追加について
2. 外部機関における卒業実習教育卒業研究(申請)について
3. 基礎総合薬学演習案及び6年次補講について

4. 平成27年度シラバスチェックについて
5. 6年次留年生について
6. 平成27年度薬学演習試験について

平成27年3月6日(金)

1. 卒業実習教育研究室内コース変更について
2. 平成27年度講義担当について
3. 平成27年度非常勤委嘱について
4. 平成27年度履修ガイダンスについて
5. 平成27年度履修ガイダンス日程について
6. 平成27年度時間割表について
7. 平成27年度実習日程について
8. 1～4年生進級判定について
9. 5年生仮進級について
10. 平成27年度5年次「基礎総合薬学演習」について
11. 平成27年度6年次前期補講について
12. 卒業実習配属決定について

平成27年3月11日(水)

1. 3年次基礎学力アップ補講欠席者への対応について

平成27年3月20日(金)

1. 中間テストについて
2. 学生学内研修制度について
3. 平成27年度助教の講義担当について
4. 平成27年度履修ガイドについて

報 告

1. 入学前準備教育の参加申込み者数について

活動内容

本年度は、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づき、平成25年度から引き続き行っている平成27年度新入生からの新教育課程表の作成を終了した。加えて新教育課程に伴いカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの改訂も行い、平成27年度入学生からの新教育課程の準備が整った。一方、留年生の増加に対する対応として、学修支援分野との協力体制を強化し、橋渡し教育、補講等の充実を行った。

自己点検・評価

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムを遵守し、さらに本学独自のカリキュラムを加えた新教育課程表を作成できたことは評価できる。加えて、見直しが不十分であったカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの改訂も行うことができた。今後はこれらのポリシーについて毎年教務委員会にて社会ニーズに沿った見直しを行う。一方、学力不振学生の対応は、未だ不十分であることから、引き続き学力向上に関する取り組みを教務委員会にて討議する必要がある。

(3) 学生支援委員会

委員会の開催

(1) 平成26年5月7日(水)

- 議事 1. 特待生に関する件
2. 学籍異動に関する件

(2) 平成26年6月11日(水)

- 議事 1. 学籍異動に関する件
2. 卒業論文発表優秀賞廃止に関する件

(3) 平成26年7月23日(水)

※就職支援委員会の設立に伴い、合同開催とした

- 議事 1. 学生支援委員会/就職支援委員会内規に関する件
2. 合同企業説明会、就職ガイダンスに関する件
3. 就職支援体制の充実にに関する件

(4) 平成26年9月3日(水)

- 議事 1. 学生処分に関する件

(5) 平成26年10月8日(水)

- 議事 1. 学籍異動に関する件
報告事項 1. 昭葉祭に関する件
2. 学生指導に関する件

(6) 平成26年11月12日(水)

- 議事 1. 学籍異動に関する件
報告事項 1. 昭葉祭に関する件

(7) 平成26年12月2日(火)

- 議事 1. 学籍異動に関する件
報告事項 1. 昭葉祭に関する件

(8) 平成27年2月3日(火)

- 議事 1. アドバイザーおよびクラス担任に関する件
2. 優等生/演習試験優秀賞に関する件
報告事項 1. 昭葉祭に関する件
2. 教員向け就職支援アンケートに関する件
3. 薬学演習試験優秀賞副賞に関する件

(9) 平成27年4月4日(土)

- 議事 1. 学籍異動に関する件
2. 学生証の取り扱いに関する件
報告事項 1. なるせ寮に関する件
2. 通学マナーに関する件

平成 26 年度 優等生・特待生

優等生 (6 年次) 10 名

特待生 (1 ～ 5 年次)

1 年次	1 名
2 年次	2 名
3 年次	2 名
4 年次	2 名
5 年次	2 名

平成 26 年度 保健室行事日程

4 月	
1 日、2 日、3 日	学生定期健康診断 (2 年次以上) (森校医)
4 日	電離放射線・有機溶剤健康診断 (森校医)
9 日	学生相談 (梶山校医)
12 日	学生定期健康診断 (1 年次) (森校医)
	1 年次 抗体検査 (森校医)
	検尿再検査 (2 年次以上)
18 日	検尿再検査 (1 年次)
25 日	血圧再検査 (学生)
5 月	
8 日～28 日	健康診断結果ならびに抗体検査結果説明 (学生全員)
21 日	学生相談 (梶山校医)
6 月	
7 日	職員定期健康診断 (森校医)
11 日	学生相談 (梶山校医)
26 日	学生相談 (森校医)
7 月	
9 日	学生相談 (梶山校医)
24 日	学生相談 (森校医)
9 月	
10 日	学生相談 (梶山校医)
18 日	学生相談 (森校医)
10 月	
8 日	学生相談 (梶山校医)
20 日	有機溶剤健康診断 (2 回目) 森校医
11 月	
12 日	学生相談 (梶山校医)
20 日	学生相談 (森校医)
25 日、28 日	インフルエンザワクチン接種
12 月	
10 日	学生相談 (梶山校医)
1 月	
14 日	学生相談 (梶山校医)
17 日	大学入試センター試験 (梶山校医)
18 日	大学入試センター試験 (森校医)
29 日	学生相談 (森校医)
2 月	
4 日	B 方式入学試験 (森校医)
9 日	C 方式入学試験 (梶山校医)
10 日	次年度健康診断打ち合わせ (東京都予防医学協会)

3月

9日

学生相談（森校医）

11日

学生相談（梶山校医）

平成 26 年度 学生定期健康診断のまとめ

受診者数と受診率

学 年	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	大学院	計
在 籍 者 数 (人)	272	251	268	200	234	268	9	1,502
受 診 者 数 (人)	267	245	266	198	233	263	9	1,481
未受診者数 (人)	5	6	2	2	1	5	0	21
受 診 率 (%)	98.2	97.6	99.3	99.0	99.6	98.1	100.0	98.6

定期健康診断受診率の推移

学年 \ 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
1 年 次	98.6	99.6	99.0	97.4	99.6	98.1	96.9	97.0	98.6	98.2
2 年 次	99.3	98.9	97.6	97.7	98.2	98.9	98.0	97.9	98.5	97.6
3 年 次	95.0	98.4	98.6	96.1	94.0	97.4	95.8	98.0	97.4	99.3
4 年 次	97.6	96.0	98.1	96.0	98.1	99.2	100.0	100.0	100.0	99.0
5 年 次						98.6	99.6	99.6	99.6	99.6
6 年 次							99.1	97.6	97.7	98.1
大 学 院	96.4	100.0	97.7	97.8	95.0	88.9	80.0	100.0	90.0	100.0
平均 (%)	97.5	98.1	98.3	96.8	97.4	98.3	98.1	98.3	98.5	98.6

ここほっとルーム 2014 年度の活動の流れ

4月	ここほっとルームパンフレット作成・配布
	1年生に対する心身健康調査 (UPI)
5～7月	ここほっとNEWS第1号発行 (5月8日発行)
	「スタッフの自己紹介、急性アルコール中毒について」
	UPI結果返却、及び対象者面談
8月	夏休み
	カンファレンス
12月	ここほっとNEWS第2号発行 (12月15日発行)
	「アロマでリラックス」
1～2月	年度振り返り、及びまとめ作業
3月	カンファレンス

ここほっとルーム 月別相談数(新規・年度新来・継続・のべ相談数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	4	20	23	1	2	4	1	0	1	0	4	2	62
年度初来	7	2	4	3	0	1	0	2	0	0	0	0	19
継続	19	25	27	27	0	18	21	15	14	9	11	5	191
のべ	30	47	54	31	2	23	22	17	15	9	15	7	272

(3月30日現在)

日本学生支援機構奨学金(平成26年度採用者)

(単位:人)

		出願数	募集人員	採用数	備 考
第一種	大学院博士課程				
	全学年(1年次予約含む)	1	2	1	
	大学院修士課程				
	全学年(1年次予約含む)	1	1	1	
	学 部				
	1年次(予約含む)	45	40	36	
	2年次以上	13	3	6	採用が募集より多いのは1年次分を流用
	緊 急	0	随時	0	
第二種	大学院博士課程				
	全学年(1年次予約含む)	0	1	0	
	大学院修士課程				
	全学年(1年次予約含む)	1	1	0	
	学 部				
	1年次(予約含む)	69	91	53	出願より採用が少ないのは、第一種を併願・採用の場合あり
	2年次以上	18	2	9	採用が募集より多いのは1年次分を流用
	応 急	0	随時	0	
	計	148	141	106	

※ 「緊急」は第一種、「応急」は第二種の臨時採用

日本学生支援機構 平成26年度採用者貸与月額

区 分	第一種(無利子) 単位:円		第二種(有利子)	
			基本月額	薬学系増額
学 部	自 宅	54,000	3万、5万、8万、10万、12万円 から選択	12万円を選択した場合2万円の 増額ができる。
		30,000		
	自宅外	64,000		
大学院 修士課程		50,000または88,000	5万、8万、10万、13万、15万円 から選択	なし
博士課程		80,000または122,000		

柴田奨学基金(平成26年度採用者)

(単位:人)		出願数	採用数	支給月額	支給方法
第一種	大学院博士課程	0	0	57,000円	3月・8月を除く10ヶ月分支給する。
	大学院修士課程	0	0	57,000円	〃
	学部 1年次	10	4	35,000円	〃
	2年次以上	3	0	35,000円	〃
第二種(5年次後期以上)		0	0	年額50万円以内	授業料ほか納付金に充当
第三種(4年次以上)		1	1	年間1回の納付金以内	〃

平成 26 年度 体育会系クラブ活動 主な成績

サッカー部	関東医歯薬獣春季リーグ	出場
	薬連サッカー大会	出場
	関東医歯薬獣秋季リーグ	出場
準硬式野球部	新関東大学準硬式野球連盟 春季リーグ戦	2部リーグ 5位
	新関東大学準硬式野球連盟 秋季リーグ戦	2部リーグ 4位
	関東地区大学準硬式野球選手権大会	出場
ハンドボール部	春期関東医歯薬ハンドボールリーグ	男子：出場／女子：出場
	関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ	男子：4位
	秋期関東医歯薬ハンドボールリーグ	男子：下位リーグ 準優勝／女子：1回戦敗退
バレーボール部	春季東日本薬連バレーボール大会	出場 (男子・女子)
	関東医歯薬大学バレーボールリーグ戦春季リーグ	男子：第5部リーグ 3位
	春季医歯薬バレーボール大会	女子：出場
	関東医歯薬大学バレーボールリーグ戦秋季リーグ	男子：第5部リーグ 4位
	秋季医歯薬バレーボール大会	女子：出場
	秋季東日本薬連バレーボール大会	出場 (男子・女子)
バドミントン部	第83回関東薬学連盟バドミントン春季リーグ戦	女子団体 準優勝
	第84回関東薬学連盟バドミントン秋季リーグ戦	女子団体 3位
硬式テニス部	日本薬科大学硬式庭球連盟個人戦	
	男子シングルス	ベスト4、ベスト8
	男子ダブルス	ベスト8
	女子シングルス	準優勝
	女子ダブルス	優勝
	理工連団体戦	出場
軟式テニス部	日本薬科大学硬式庭球連盟団体戦	出場
	東日本薬学生ソフトテニス春季大会	出場
	東日本薬学生ソフトテニス秋季大会	出場
空手道部	女子団体	3位
	春季新宿区空手道選手権大会	
	一般男子 有段 形の部	3位／組手の部 3位
	一般女子 有段 形の部	3位
	秋季新宿区空手道選手権大会	
	一般男子 有級 形の部	優勝／有段 形の部 3位
	東日本薬科大学空手道選手権大会	
剣道部	男子 個人 形の部	3位／個人 組手の部 準優勝
	男子 団体 組手の部	3位
	第57回春季関東医歯薬獣医科大学剣道大会	2位、3位、ベスト8
	第46回関東薬学生剣道大会 女子団体	3位
少林寺拳法部	第57回秋季関東医歯薬獣医科大学剣道大会	出場
	第10回関東医療系大学剣道大会	優勝

弓道部	平成26年度町田市民体育祭弓道大会	
	個人 5位、7位、14位入賞	
	第87回関東医歯薬系連盟学生弓道大会	出場
	第88回関東医歯薬系連盟学生弓道大会	出場
卓球部	第37回東日本薬学生卓球大会	出場
	第14回大和オープン（高橋杯）卓球大会	出場
	平成26年度横浜ニッタク杯 ダブルスの部	出場
	横浜リーグ戦卓球大会 後期個人戦（女子・男子）	出場
	町田市卓球個人選手権大会	出場
	第34回西湘オープン卓球大会	出場
	東日本薬学生卓球大会	出場
陸上競技部	第30回横田駅伝 5km 個人女子39歳以下の部	9位
	第4回横浜FUNランハーフリレーマラソン 総合	3位、部門別 2位
	第25回東日本国際駅伝	出場
	2014あつぎマラソン ハーフ女子39歳以下の部 種目別	14位
	第59回愛甲郡ロードレース大会 一般5km	25位
	2015年度月例チャレンジつるみ川40km	出場
	第4回日産ふれあいロードレース大会 一般女子10km 種目別	6位
柔道部	平成26年度東日本薬科大学柔道連盟春季柔道大会	
	団体戦	出場
	個人戦 無段の部	3位
	平成26年度東日本薬科大学柔道連盟秋季柔道大会	
	団体戦	出場
	個人戦 無段の部、有段の部	出場

自己点検・評価

【学生生活】

保健・衛生対策

- ・定期健康診断において胸部X線撮影で結核懸念の学生が例年通り若干名発生したが健診委託先との連携で速やかに更なる検査対応を実施し懸念は払拭された。
- ・インフルエンザなどの感染症の拡大も軽微に推移し大きな問題はなかった。

ルール・マナー違反

- ・平成26年度の定期試験において1件の不正行為が発生した。規程に則し、速やかに対処出来た。
- ・SNSに飲酒後にオートバイにこれから2人乗りをするといった投稿を行った学生がおり、事情聴取したが飲酒のみでバイクには乗車していないと主張。SNSへの不用意な投稿のリスク等を十分指導並びに厳重注意処分した。
- ・近隣住民などからの苦情等も今年度は発生しなかった。

学生相談

- ・学生相談室（ここほっとルーム）を窓口として、インターカー・臨床心理士・校医との連携により適切な対応を継続実施中。

評価

- ・昨年度発生しなかった定期試験における不正行為が1件発生。
今後とも教務委員会とも連携し抑止して行きたい。
- ・本学では初めてSNSへの不適切な投稿が発生。今後ガイダンス等を通じ不適切なSNS投稿に潜むリスクなどの周知徹底を図りたい。

(4) 実務実習委員会

活動状況

委員会関係

【実務実習委員会】開催

第1回	平成26年 4月22日(木)	第11回	平成26年10月16日(木)
第2回	平成26年 5月 7日(水)	第12回	平成26年10月27日(月)
第3回	平成26年 5月 9日(金)	第13回	平成26年11月10日(月)
第4回	平成26年 5月14日(水)	第14回	平成26年12月15日(月)
第5回	平成26年 5月17日(土)	第15回	平成26年12月24日(火)
第6回	平成26年 6月 6日(金)	第16回	平成27年 1月16日(金)
第7回	平成26年 7月 7日(月)	第17回	平成27年 1月28日(水)
第8回	平成26年 7月28日(月)	第18回	平成27年 月16日(水)
第9回	平成26年 7月29日(火)	第19回	平成27年 1月16日(金)
第10回	平成26年 8月 8日(金)		

※実務実習委員会開催後、決定・連絡事項は医療薬学教育研究センター教員全員に報告

【事前実習ワーキンググループ】開催

第1回	平成25年 4月11日(木)	第5回	平成25年12月24日(火)
第2回	平成25年 5月27日(月)	第6回	平成26年 1月 7日(火)
第3回	平成25年 9月26日(木)	第7回	平成26年 3月 5日(水)
第4回	平成25年10月21日(月)	第8回	平成26年 3月10日(月)

【学外実務実習ワーキンググループ】開催

第1回	平成26年 4月 7日(月)	第6回	平成26年 9月17日(水)
第2回	平成26年 4月28日(火)	第7回	平成26年10月 7日(火)
第3回	平成26年 5月14日(水)	第8回	平成26年11月10日(月)
第4回	平成26年 5月21日(水)	第9回	平成27年 2月 3日(火)
第5回	平成26年 5月29日(木)	第10回	平成27年 2月24日(火)

外部団体の会議への出席など

- 1) 病院・薬局実務実習関東地区調整機構総会
平成26年 6月24日(火) 於 慶応義塾大学薬学部
平成27年 2月25日(月) 於 星薬科大学薬学部
- 2) 近隣の薬剤師会との連絡会議
平成26年 3月12日(水) 於 本学内
平成26年 5月 2日(金) 於 町田市健康福祉会館

病院・薬局実務実習関係

1. 平成26年度病院・薬局実務実習履修者内訳

資料1

	Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期		合 計	
病院実習	施設数	学生数	施設数	学生数	施設数	学生数	施設実数	学生数
契約病院	31	72	35	79	32	73	41	224
調整機構	5	4	2	1	3	4	9	9
病院合計	36	76	37	80	35	77	50	233
薬 局	82	85	78	80	65	68	199	233
合 計	118	161	115	160	100	145	249	233

※グループ実習等で1名の学生が2施設に実習に行く場合、施設数：2、学生数1とカウントしている。

※各期に別の学生が同じ施設に実習に行く場合、同じ施設でも各期の施設数に各1カウントしている。但し、合計においては、複数期実習を受け入れていても施設が同じであれば1施設とカウントする。

2. 平成26年度病院・薬局実務実習予定者（5年次生）への説明会
 - （1）平成26年 4月 3日（木） 病院・薬局実務実習のための全体説明会
 平成26年 4月12日（土） 第Ⅰ期病院・薬局実務実習のための三者面談
 平成26年 5月 7日（水） 第Ⅰ期病院・薬局実務実習のための直前説明会
 - （2）平成26年 8月 2日（土） 第Ⅱ期病院・薬局実務実習のための三者面談
 平成26年 8月29日（金） 第Ⅱ期病院・薬局実務実習のための直前説明会
 - （3）平成26年11月29日（土） 第Ⅲ期病院・薬局実務実習のための三者面談
 平成26年12月17日（水） 第Ⅲ期病院・薬局実務実習のための直前説明会
3. 平成26年度病院・薬局実務実習成果報告会 資料2～4
 - （1）平成26年 8月 2日（土） 第Ⅰ期病院・薬局実務実習成果報告会
 演題数161／病院：36施設 76名 薬局：82施設 85名
 - （2）平成26年11月29日（土） 第Ⅱ期病院・薬局実務実習成果報告会
 演題数160／病院：37施設 80名 薬局：78施設 80名
 - （3）平成27年 4月11日（土） 第Ⅲ期病院・薬局実務実習成果報告会
 演題数145／病院：35施設 77名 薬局：65施設 68名
4. 平成27年度病院・薬局実務実習予定者（4年次生）への説明会
 - （1）平成26年 6月11日（水）
 平成26年度 病院・薬局実務実習に関する説明会および第1回希望調査
 - （2）平成26年10月22日（水）
 平成26年度 病院・薬局実務実習に関する提出書類説明会
 - （3）平成27年 2月16日（月）
 平成26年度 病院・薬局実務実習に関する概要説明会
5. 平成28年度病院・薬局実務実習予定者（3年次生）への説明会・第1回希望調査
 - （1）平成26年10月 8日（水）
6. 平成26年度 前・後期実務実習事前学習
 6年制の実務実習事前学習は、3年次2～3月（導入実習）、4年次5～6月（事前実習1）、9月～11月（事前実習2、総合実習）の3回に分けて実施した。
【実習期間】 4年前期：平成25年 4月30日（火）～平成25年 7月 5日（金）
 4年後期：平成25年 9月 4日（水）～平成25年11月26日（火）
 3年後期：平成26年 2月24日（月）～平成26年 3月 4日（火）

行 事

1. 平成26年度 病院・薬局実務実習に関する連絡会議等
 - 第Ⅰ期 実習施設対象 平成26年 4月12日（土）
 1. 実習全般について、実務実習確認・評価記録の配布
 2. 担当教員の訪問指導について
 3. 実習終了後の報告会について
 - 第Ⅱ期 実習施設対象 平成26年 8月 2日（土）
 1. 実習全般について、実務実習確認・評価記録の配布
 2. 担当教員の訪問指導について
 3. 実習終了後の報告会について
 - 第Ⅲ期 実習施設対象 平成26年11月29日（土）
 1. 実習全般について、実務実習確認・評価記録の配布
 2. 担当教員の訪問指導について
 3. 学生の就職活動について

表1. 第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ期連絡会議出欠一覧表

	病院		薬局		病院・薬局 合計		学内教員	学生 (三者面談)
	出席施設	出席人数	出席施設	出席人数	出席施設	出席人数	出席人数	人数
第Ⅰ期 4月12日(土)	25	34	35	35	60	69	40	161
第Ⅱ期 8月2日(土)	28	38	39	40	68	79	41	160
第Ⅲ期 11月29日(土)	23	28	29	31	52	59	41	145

※グループ施設では、複数施設面談をする参加者あり

2. 平成26年度実務実習指導者と教員の情報交換会 平成26年11月29日(土)

表2. 情報交換会出欠一覧表

開催日	病院		薬局		病院・薬局 合計		学内教員
	出席施設	出席人数	出席施設	出席人数	出席施設	出席人数	
11月29日(土)	20	25	27	29	47	54	44

自己点検・評価

平成26年度より、戸田先生より実務実習委員長を引き継いだ。実務実習委員会は、実務実習の実施に関わる諸事についての企画、立案、運営、および実務実習に関して発生する諸問題についての対応策の検討およびその実施を行っている。本年度の実務実習事前実習は、3年次導入実習、4年次前期・後期実習を合わせ全部で150コマを医療薬学教育研究センターの教員全員で行った。5年次233名は、5月連休明けから翌平成27年3月まで3期に分かれて、病院・薬局実務実習を行い、各期で成果報告会を行った。実務実習の成果のまとめとしてCD-ROM版「平成26年度病院・薬局実務実習報告書」を作成し、各実習施設ならびに全国薬系大学に配布した。

実務実習事前学習

実務実習に先立ち、調剤、製剤、服薬指導などの薬剤師業務に必要な基本的知識、技能、態度の修得を目標に事前実習を行ってきた。また、調剤、製剤実習の中で、製剤の特徴を理解できるような実験を一部取り入れ、思考させる試みを行った。患者応対や服薬指導では、学生はSPさんとの会話を通して、コミュニケーション能力の向上を図った。

事前実習(4年次)に関しては、平成30年度から改訂モデル・コアカリキュラムが適応されるので、そのための準備や対策を検討した。特に薬物治療における薬剤師の役割を理解し、薬の専門職として医療現場で臨機応変に対応できる実践的な能力を養成する実習を行うことが求められており、それを事前実習に取り入れる必要がある。薬剤師の社会における役割が責任を増しており、事前実習も大きな転換点に来ている。薬物治療の演習に関してはすでに一部はPBL形式で実施しているが、来年度は事前実習にも取り入れ、さらに充実させていく予定である。

病院・薬局実務実習施設の連携体制

各期の実習終了時に、実習施設との連絡会を開催、また訪問指導担当教員を通じ、また病院・薬局実務実習施設の連携体制も整ってきている。また、地域薬剤師会との連携を強化するために、町田市薬剤師会および相模原市薬剤師会の実務実習担当者とは本委員会との間で会合を持ち、問題点や改善すべき点について、意見の交換を行った。その内容については、次年度の学生指導にフィードバックをしている。

今後も継続して、学内外で情報を共有し、連携強化を図っていきたい。

実習受入協力病院・薬局の受け入れについて

受入施設に関する評価を学生からのアンケート調査を基に行っている。病院の連携施設として、聖マリアンナ医科大学と本学は協定を結んでいるが、希望学生数が低迷しているのが現状である。そのため、本年度は、次年度に向けて病院側、大学側で協議を行い、設備の整った当病院で多くの学生が学べるような体制作りを進めており、その成果が来年度は見られるものと期待している。

実務実習

実務実習の成果報告会で、学生のプレゼンテーションをみると、多くの学生が実務実習を通して大きく成長し、実習が充実していたことが伺える。また、個々の学生の病院・薬局実習の成果を感想としてまとめた「平成26年度病院・薬局実務実習報告書」では、医療人としての自覚がでてきており、薬剤師の使命についても多くを学んだことがわかる。

今年度の実務実習では、施設変更に至った例はなかったが、学生側のコミュニケーション不足や指導薬剤師の厳しい指導によると思われる相談事例が年間4件（Ⅰ期：1件、Ⅱ期：2件、Ⅲ期：1件）発生した。しかし、対応に尽力し、相談・話し合い等によりなんとか実習を継続することができた。また、1名は、体調不良により一部SBOが習得できず、6年夏休みに補習を行う予定である。

実務実習が実社会に触れる初めての機会であることから、適応に時間がかかる学生が増えてきている。薬剤師会等からもまず人としてきちんとした指導をしてほしい旨強く要望されている。コミュニケーションが十分にとれない学生や、社会への適応能力が不十分な学生を実務実習までに、いかに導いていくかが今後の大きな課題である。そのためには、1年次から全人教育を実践し、4年次の実務実習につなげていくような方策を大学として検討する必要性を強く感じている。

第 I 期 病院・薬局実務実習報告会 演題

No.	実 習 施 設	演 題 名
1	聖マリアンナ医科大学病院	既往歴からみた降圧薬の選択について
2	聖マリアンナ医科大学病院	膵がんにおける癌性疼痛ケア
3	聖マリアンナ医科大学病院	放射線・化学療法における副作用モニタリング
4	聖マリアンナ医科大学病院	FP + RT 療法における悪心嘔吐対策
5	聖マリアンナ医科大学病院	ワルファリン ～手術前休薬とヘパリンへの切り替え～
6	聖マリアンナ医科大学病院	带状疱疹による疼痛のケア
7	聖マリアンナ医科大学病院	がん化学療法における副作用対策の評価
8	かくの木薬局	ジェネリック医薬品選定
9	あけぼの薬局（さいたま市）	調剤過誤防止システムについて
10	望星北浦和薬局	2型糖尿病治療薬の選択と今後の展望
11	さんあい薬局	地域医療に貢献できる薬局・薬剤師を目指して
12	薬局トモズトルナーレ浜町店	呼吸器系に作用する薬について
13	ミキ調剤薬局	片頭痛の治療と服薬サポートについて
14	つばさ薬局喜多見店	薬局・薬剤師の地域との関わり
15	聖マリアンナ医科大学病院	アレンドロン酸の副作用に対する服薬指導
16	聖マリアンナ医科大学病院	統合失調症における薬物治療
17	聖マリアンナ医科大学病院	深部静脈血栓症における薬物治療
18	聖マリアンナ医科大学病院	強化インスリン療法について
19	聖マリアンナ医科大学病院	オピオイドローテーション
20	聖マリアンナ医科大学病院	心筋梗塞における薬物治療
21	聖マリアンナ医科大学病院	周術期における血糖コントロール管理
22	ニイナ調剤薬局	在宅医療における薬剤師の役割
23	シンワ薬局病院前店	新ガイドラインに基づいた血圧手帳の作成
24	マツモトキョシ池袋パート2	薬局薬剤師の現状と将来ビジョン
25	アイセイ薬局 東大泉店	グループホームと在宅医療における薬剤師
26	みとよ堂薬局	高齢社会における一包化とその算定要件
27	さくらだい薬局 四丁目店	喘息治療の実態
28	クオール薬局竹の塚店	総合クリニックにおける漢方処方
29	聖マリアンナ医科大学病院	緑内障と抗コリン薬
30	聖マリアンナ医科大学病院	β 遮断薬の副作用モニタリング
31	聖マリアンナ医科大学病院	慢性 C 型肝炎の 3 剤併用療法
32	聖マリアンナ医科大学病院	病棟実習で学んだこと
33	聖マリアンナ医科大学病院	CKD における血圧管理
34	聖マリアンナ医科大学病院	リツキシマブ投与時の infusion reaction の予防
35	聖マリアンナ医科大学病院	抗癌剤の悪心嘔吐対策
36	ふじ薬局めじろ台店	服薬指導に活かすための患者情報の収集
37	別所薬局	今、求められる調剤薬局とは？
38	コサカ薬局北口店	地域で活躍する薬剤師
39	多摩センター調剤薬局	実習で感じた「医薬分業」について
40	あさひ薬局 唐木田店	服薬コンプライアンスの向上のためにできること

No.	実 習 施 設	演 題 名
41	アイセイ薬局 国領店	薬局調剤における調剤過誤防止策
42	アサイ調剤薬局	尋常性ざ瘡について
43	川崎市立多摩病院	心筋梗塞二次予防に対する薬物治療
44	川崎市立多摩病院	膵臓癌に対する化学療法
45	川崎市立多摩病院	2型糖尿病における血糖コントロール
46	川崎市立多摩病院	脳梗塞患者における服薬指導
47	川崎市立多摩病院	股関節骨折手術における深部静脈血栓症予防療法
48	群馬大学医学部附属病院	病院実習報告
49	ファミル薬局	学校薬剤師のイメージと実際の業務
50	あさひ調剤薬局町田店	在宅医療における薬剤師の役割
51	タツオカ薬局	在宅医療における臨床検査値確認の意義
52	つばさ薬局 町田店	在宅医療における薬剤師の役割
53	つばさ薬局 町田店	在宅医療の多職種連携における薬剤師の役割
54	クオール薬局成瀬台店	小児の散剤服用について
55	みつば薬局 町田	準夜急患こどもクリニックにおける休日・夜間診療
56	信州大学医学部附属病院	慢性骨髄性白血病患者の薬剤管理指導
57	聖マリアンナ医科大学横浜市 西部病院	再発卵巣癌におけるドキソルビシンの選択
58	聖マリアンナ医科大学横浜市 西部病院	C型慢性肝炎における3剤併用療法
59	聖マリアンナ医科大学横浜市 西部病院	心房細動を有する脳梗塞患者における抗凝固薬の選択
60	聖マリアンナ医科大学横浜市 西部病院	心房細動を有する慢性心不全に対する β 遮断の選択
61	大月市立中央病院・都留市立病院	C型慢性肝炎に対する3剤併用療法における副作用の早期発見・対策
62	都留市立病院・大月市立中央病院	入院患者との関わりから学んだ薬剤師の役割
63	みつば薬局 町田	配合剤のメリット、デメリット
64	薬局忠生	医療費削減に対する後発医薬品の貢献
65	薬局忠生	小児に対する鼻洗水とハチミツの有用性
66	いずみ薬局	在宅医療における糖尿病治療
67	たまさかいエール薬局	調剤報酬改定の影響とその後の動向に関する考察
68	新町調剤薬局	学校薬剤師の業務について
69	阿部薬局	保険調剤薬局における処方箋監査の重要性
70	さくら薬局古河店	後発医薬品の推奨に関した患者の意識調査
71	東京慈恵会医科大学附属第三病院	直腸癌化学療法における病棟薬剤師による服薬指導
72	東京慈恵会医科大学附属第三病院	非ホジキンリンパ腫における服薬指導
73	東京慈恵会医科大学附属第三病院	退形成星細胞腫の服薬指導
74	東京慈恵会医科大学附属第三病院	潰瘍性大腸炎の服薬指導
75	埼玉医科大学総合医療センター	病棟業務における薬剤師の役割について
76	埼玉医科大学病院	小児に対するマイコプラズマ肺炎の治療
77	田辺薬局	学校薬剤師の職務について
78	薬樹薬局 大倉山	お薬手帳
79	光和薬局	在宅医療における薬剤師の役割
80	五番街ファーマシー浦舟店	薬局製剤
81	港南台大江薬局	慢性腎臓病患者の食事管理
82	内田薬局和田町駅前店	在宅医療における薬剤師

No.	実 習 施 設	演 題 名
83	今川薬局つくば上横場店	リウマチ治療における生物薬学的製剤の使用と治療の実施
84	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	腎機能の低下した患者における帯状疱疹の治療
85	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬の使用
86	独立行政法人国立国際医療研究センター病院	薬物治療を要する褥瘡の治療における薬剤師の役割
87	独立行政法人国立国際医療研究センター病院	治験におけるCRCの役割
88	医療法人明倫会 今市病院	鼠径ヘルニア患者の経過観察
89	山梨病院・医療法人慶友会 城東病院	肝細胞癌におけるNew-FP療法
90	明日花薬局	在宅医療について
91	株式会社横浜調剤薬局	骨粗鬆症治療薬によるQOLの維持・改善
92	平安堂薬局 並木店	糖尿病治療と その円滑な服薬指導
93	いこい薬局	調剤薬局におけるジェネリック医薬品の推進
94	スマイル薬局 藤が丘店	心原性脳塞栓症予防における適切な抗凝固薬の選択
95	ゆかり調剤薬局	緑内障と点眼薬の服薬指導
96	今川薬局 佐貫店	糖尿病患者における自身の疾患に対する意識
97	公立大学法人 横浜市立大学附属 市民総合医療センター	NSTにおける薬剤師の役割
98	社会医療法人財団互惠会 大船 中央病院	胃癌切除後再発症例におけるTS-1 + シスプラチン併用療法施行中の 薬剤適正 管理
99	社会医療法人財団互惠会 大船中央病院	2型糖尿病患者における血糖値コントロールに関する薬剤適正管理
100	医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院	癌骨転移に伴う貧血にゾレドロン酸が有効であった一例
101	医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院	褥瘡治療における薬剤師の役割
102	小田原市立病院	S状結腸癌患者における周術期の輸液管理と経過について
103	昭和薬品幸薬局	調剤過誤防止に対する取り組み
104	マルゼン薬局	harmoについて
105	有限会社プライマリーファーマシー	薬局が行っているかかりつけ薬局になるための工夫
106	クオール薬局西生田店	類似医薬品と過誤対策
107	ミネ薬局登戸店	高血圧の新基準が今後及ぼす影響
108	(株)平塚中郡薬剤師会支援センター薬局	在宅医療での薬剤師の役割と簡易懸濁法について
109	三和堂薬局大みか店	眼科用剤の使い方と服薬指導について
110	社会医療法人ジャパンメディカル アライアンス 海老名総合病院	狭心症患者における新規追加処方薬の服薬指導
111	社会医療法人ジャパンメディカル アライアンス 海老名総合病院	膀胱癌患者におけるGC療法による副作用のコントロール
112	社会医療法人社団三思会 東名厚木病院	癌患者の疼痛及び消化器症状への関わり
113	大和市立病院	ネフローゼ症候群におけるステロイド療法
114	地方独立行政法人神奈川県立病院 機構 神奈川県立足柄上病院	褥瘡における薬物治療
115	公益社団法人 地域医療振興協会 横須賀市立市民病院	練習キットによる反復練習でのインスリン手技の改善
116	望星平塚薬局	お薬手帳についての一考察
117	クローバー薬局	服薬指導におけるコミュニケーションについて
118	おひさま薬局	調剤で心掛けること
119	はるかぜ薬局辻堂東海岸店	リウマチの治療と高額医療について
120	東海岸めぐみ薬局	在宅医療における薬剤師の役割

No.	実 習 施 設	演 題 名
121	田中薬局羽鳥店	これからのお薬手帳
122	荒井橋土屋薬局	服薬コンプライアンス聞き取り調査
123	特定医療法人 沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院	実習先の病院において学んだこと
124	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	吸入器指導
125	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	抗悪性腫瘍剤の患者の金銭的負担について
126	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	中心静脈栄養法
127	医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院	NSTにおける簡易懸濁法の有用性
128	公立大学法人 横浜国立大学附属病院	感染制御と医療安全
129	トキワ薬局宮上店	薬剤師業務の実践のために
130	ひかり薬局本店	小児への薬物投与～良好なコンプライアンスを得るために～
131	平安薬局	学校薬剤師業務
132	なでしこ薬局	地域における学校薬剤師の役割について
133	茅ヶ崎薬剤師会調剤薬局	服薬指導のポイントについて
134	きく薬局湘南みずき	薬局における糖尿病治療
135	ひまわり薬局	在宅での経腸栄養について
136	東京大学医学部附属病院	実習で学んだ病院薬剤師のリスクマネジメント
137	東京大学医学部附属病院	入院患者における医薬品適正使用の確保と薬剤師業務
138	東京大学医学部附属病院	入院患者の栄養管理と高カロリー輸液の情報
139	NTT 東日本関東病院	胃癌切除術後の再発癌における薬剤師としての薬物治療への関わり
140	社会福祉法人東京有隣会 有隣病院	療養型病院における薬剤師の役割
141	医療法人社団三友会 あけぼの病院	DPP-4 阻害薬の使用について
142	薬師いろは堂薬局	湯薬調剤における薬剤師の関わり方
143	共和薬局	お薬手帳の意識調査
144	こだま薬局	保険調剤
145	星が丘西薬局	かかりつけ薬局として選ばれるための工夫
146	あい薬局 南橋本店	抗生剤の使い分けについて（耳鼻科領域を主に）
147	サンドラッグ相模原淵野辺薬局	セルフメディケーションにおける薬剤師の役割
148	花の木薬局	地域におけるかかりつけ薬局のあり方
149	医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院	横浜新緑総合病院における栄養サポートチームの活動
150	医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院	摂食障害患者における栄養サポートチームの関わり
151	神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院	大腸がん治療 アバスチン + mFOLFOX 6 療法
152	社会福祉法人相模更生会 総合相模更生病院	切迫流産・切迫早産の治療における塩酸リトドリンの副作用対策の検討
153	社会福祉法人相模更生会 総合相模更生病院	外来化学療法における指導方法の確立
154	藤沢市民病院	退院後を見据えたセルフメディケーションの推進
155	佐野十全堂薬局 南が丘店	残薬の現状
156	ふたば薬局厚木	薬局での一包化調剤について
157	なかよし薬局愛甲店	小児科領域における薬剤師の役割
158	アイン薬局海老名店	点眼剤の服薬指導
159	(有)粕江市薬剤師会ふれあい薬局	大学病院前のかかりつけ薬局
160	チノップス薬局センター北駅前店	施設での薬剤師の役割
161	あすなろ甲府薬局	後発医薬品の使用促進について

第Ⅱ期 病院・薬局実務実習報告会 演題

No.	実 習 施 設	演 題 名
1	聖マリアンナ医科大学病院	周術期抗凝固療法
2	聖マリアンナ医科大学病院	慢性心不全の薬物治療
3	聖マリアンナ医科大学病院	ステント留置後の心筋梗塞二次予防
4	聖マリアンナ医科大学病院	肺腺癌 術後化学療法の薬物治療モニタリング
5	聖マリアンナ医科大学病院	ループス腎炎に対するミコフェノール酸+ステロイド
6	聖マリアンナ医科大学病院	胃がんに対する薬物療法について
7	聖マリアンナ医科大学病院	統合失調症初発における薬物治療モニタリング
8	聖マリアンナ医科大学病院	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する抗腫瘍薬投与量の検討
9	しもさと薬局	緑内障患者の適正な薬剤使用のための疑義照会
10	いろは堂薬局東口店	ジェネリック医薬品の現在と今後
11	薬樹薬局 長津田	簡易懸濁法における薬剤師の関わり
12	今井薬局	薬局でのジェネリック医薬品への変更について
13	東金沢薬局	麻薬の調剤について
14	さつき薬局本店	小児の急性期医療における薬局薬剤師としての関わり方について
15	聖マリアンナ医科大学病院	オピオイドによる疼痛コントロール
16	聖マリアンナ医科大学病院	肺扁平上皮癌におけるドセタキセル単独療法
17	聖マリアンナ医科大学病院	心筋梗塞の二次予防
18	聖マリアンナ医科大学病院	CKDにおける血圧管理
19	聖マリアンナ医科大学病院	悪性黒色腫における DAV feron 療法の副作用モニタリング
20	聖マリアンナ医科大学病院	带状疱疹
21	聖マリアンナ医科大学病院	インスリンによる血糖コントロール
22	さくら薬局 所沢東口店	抗凝固薬と服薬指導
23	富士薬局	医薬品のサプライチェーンと流通
24	薬局オリーブファーマシー	セルフメディケーションの推進とOTCの服薬指導
25	薬局アポック若葉店	薬局における調剤過誤対策
26	あおい調剤薬局 富士見店	災害時における薬剤師の役割
27	今川薬局つくば学園店	吸入薬における服薬指導について
28	調剤薬局くすりのほぎわら	薬局実習を通して学んだ服薬指導での薬剤師の役割
29	聖マリアンナ医科大学病院	双極性障害に対する薬物治療
30	聖マリアンナ医科大学病院	卵巣癌における術後化学療法モニタリング
31	聖マリアンナ医科大学病院	心筋梗塞の二次予防
32	聖マリアンナ医科大学病院	インスリン強化療法から内服に移行した症例
33	聖マリアンナ医科大学病院	静脈血栓塞栓症の予防および治療におけるモニタリング
34	聖マリアンナ医科大学病院	C型慢性肝炎におけるシメプレビル・Peg-INF α ・リバビリンの3剤併用療法
35	聖マリアンナ医科大学病院	心原性脳梗塞発症後の抗凝固療法
36	薬樹薬局 船橋北本町	お薬手帳の活用方法
37	ツカモト薬局本店	医療用医薬品と一般用医薬品の違い
38	こすもす薬局	在宅医療における薬局薬剤師の役割
39	かちどき薬局落合新店	外国人患者への服薬説明
40	本田薬局 中落合店	薬局におけるジェネリック医薬品の取り組み

No.	実 習 施 設	演 題 名
41	大月市薬剤師会会館大月調剤薬局	サイボウズ Live を利用した多職種連携による在宅医療
42	かなえひまわり薬局	地域医療を支える薬剤師～在宅訪問指導・介護施設の調剤を通して～
43	川崎市立多摩病院	心筋梗塞の薬物治療と二次予防について
44	川崎市立多摩病院	自己免疫性膵炎におけるステロイド療法～ステロイドの副作用とその対策～
45	川崎市立多摩病院	糖尿病患者の教育入院における服薬指導
46	川崎市立多摩病院	アテローム血栓性脳梗塞における薬物治療
47	川崎市立多摩病院	大腿骨頸部骨折患者における周術期管理について
48	埼玉医科大学総合医療センター	食道がんにおける術前化学療法 ～ FP (シスプラチン + 5-FU) 療法の実施経過について～
49	埼玉医科大学総合医療センター	小児気管支喘息吸入薬の服薬指導～吸入補助具 エアロチャンパーの使用方法～
50	アイン薬局 浅草店	TS - 1 の服薬指導
51	碑文谷薬局	嚥下困難患者における薬剤の粉碎可否の検討
52	経堂みどり薬局	在宅医療における服薬指導
53	クオール薬局奥沢店	医薬品の包装・容器における様々な工夫について
54	みすず薬局	学校薬剤師の職務と役割
55	リヴィン光が丘調剤薬局	オーファンドラッグによる薬物治療の実例
56	セイワ薬局	医薬品適正使用の確保と薬局業務
57	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	妊娠高血圧における薬物療法
58	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	狭心症の経皮的冠動脈インターベーション後の抗血栓療法について
59	独立行政法人国立国際医療研究センター病院	HIV
60	独立行政法人国立国際医療研究センター病院	ICT における薬剤師
61	聖路加国際病院	糖尿病合併急性感音難聴患者におけるステロイドパルス療法
62	町田市民病院	糖尿病患者さんの教育入院について
63	町田市民病院	産婦人科病棟での服薬指導
64	アイセイ薬局 国領店	皮膚科処方における調剤と服薬指導
65	綾部薬局成瀬店	気管支喘息における吸入
66	カノウ薬局	耳鼻咽喉科における漢方
67	しらゆり薬局	学校薬剤師～小学校での活動と役割～
68	ケーエム薬局山崎店	選択的 SGLT2 阻害薬服用患者の服薬指導
69	ケーエム薬局山崎店	高齢者における吸入指導
70	東京慈恵会医科大学附属第三病院	腭体部癌に対するゲムシタビン単独療法
71	東京慈恵会医科大学附属第三病院	白内障手術後の点眼支援
72	東京慈恵会医科大学附属第三病院	多発性骨髄腫における MPB 療法
73	東京慈恵会医科大学附属第三病院	肺腺癌におけるジオトリフを用いた化学療法の服薬指導
74	東京医療生活協同組合 中野総合病院	外科・整形外科領域の三大主訴における薬剤選択
75	N T T 東日本関東病院	妊娠性皮膚掻痒感に対する薬の使用について
76	八王子薬剤センター駅前薬局	薬局における D I 業務
77	サンドラッグ相模原淵野辺薬局	服薬指導と薬歴への記入
78	佐野十全堂薬局 南が丘店	OTC の選択
79	なかよし薬局船子店	透析患者の薬物治療
80	薬樹薬局 厚木旭町	緑内障治療、点眼の指導について
81	あい薬局海老名店	吸入器の使い分け

No.	実 習 施 設	演 題 名
82	横山町薬局	薬局実習で患者さんと接して
83	東京大学医学部附属病院	薬剤師業務におけるインシデントの共有と重要性
84	東京大学医学部附属病院	病院における医薬品の流れと薬剤師業務
85	東京大学医学部附属病院	入院患者におけるバイタルサインの活用
86	東京大学医学部附属病院	病棟薬剤業務における医薬品適正使用の確保
87	東京大学医学部附属病院	医療現場で必要な医薬品情報の提供方法
88	公立福生病院	小児呼吸感染症の診断と治療
89	社会福祉法人東京有隣会 有隣病院	1日医師体験から学んだ医師に求められている薬剤師の能力
90	つばさ薬局 町田店	町田市学校薬剤師について
91	クオール薬局成瀬台店	不眠症と認知行動療法において薬剤師に出来ること
92	能ヶ谷調剤薬局	病院と薬局の違いからみる投薬
93	ひので薬局金井店	学校薬剤師の役割
94	町田高ヶ坂薬局	在宅医療について
95	マロン薬局サルビア	調剤薬局における検体測定室の設置
96	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	医療安全と薬剤師
97	公立大学法人 横浜市立大学附属 市民総合医療センター	妊婦・授乳婦に対する服薬指導
98	藤沢市民病院	飲水過多により再入院した心不全患者への介入
99	一般財団法人自警会 東京警察病院	聴神経鞘腫術後患者へのプレドニンを中心とした服薬指導
100	一般財団法人自警会 東京警察病院	1型糖尿病とインスリンポンプ
101	横須賀市立市民病院	早期胃癌の治療における病棟専従薬剤師の役割
102	信州大学医学部附属病院	病院実習で学んだこと
103	薬樹薬局 町田旭町	在宅医療における薬剤師の必要性について
104	薬樹薬局 町田旭町	薬局におけるリスクマネジメント
105	薬樹薬局 オガワ	在宅チーム医療における薬剤師の役割
106	薬樹薬局 忠生	調剤薬局におけるジェネリック医薬品の推進
107	健ナビ薬樹薬局 成瀬	調剤薬局における地域医療のあり方
108	いずみ薬局	在宅患者のアドヒアランス向上のために
109	医療法人社団三友会 あけぼの病院	糖尿病と透析の関係
110	社会医療法人社団三思会 東名厚木病院	NST 介入患者における薬剤師の関わり
111	東芝林間病院	胃癌患者における術前化学療法と術後の経過観察
112	東芝林間病院	再発胃癌患者における化学療法時の副作用への対応
113	医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院	簡易懸濁法における薬物投与 ～処方内容の検討～
114	医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院	重症便秘患者に対する看護師と共働した薬剤的アプローチ
115	サンアイ薬局東寺尾店	ジェネリック医薬品の有用性
116	薬樹薬局 大倉山	減感作療法薬シダトレンの使用における薬剤師の役割
117	加藤回陽堂薬局	アナフィラキシーショックに対するエピペンの使用法
118	株式会社横浜調剤薬局	高血圧における服薬指導とセルフメディケーションについて
119	さなえ薬局 中山店	在宅医療における薬剤師の関わり
120	望星横浜みどり薬局	食物と薬の相互作用
121	荏子田ファーマシー	待ち時間軽減について薬局薬剤師ができること
122	医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院	横浜新緑総合病院におけるチーム医療

No.	実 習 施 設	演 題 名
123	医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院	病院における持参薬管理
124	社会福祉法人相模更生会 総合相模更生病院	切迫流産・切迫早産における塩酸リトドリンの副作用対策の検討
125	社会福祉法人相模更生会 総合相模更生病院	プロブレムシートを用いた効率的指導の取り組み
126	大和市立病院	壊死性筋膜炎による慢性疼痛のペインコントロール
127	神奈川県立足柄上病院	入院患者における栄養管理
128	薬局トモズ青葉台店	OTC医薬品について
129	薬局トモズたまプラーザテラス店	調剤過誤防止対策から考える薬剤師のあり方
130	平安薬局（横浜）	ハイリスク薬である糖尿病治療薬の服薬指導
131	薬樹薬局 戸塚西	小児に対する服薬指導の注意点
132	さぎぬま薬局	薬局で行える血液検査
133	ひかり薬局	小児の病気と薬
134	アイン薬局 登戸店	地域医療におけるかかりつけ薬局の求められる機能と24時間開局
135	社会医療法人財団互恵会 大船中央病院	入退院を繰り返す尿路感染症例における薬剤適正管理
136	社会医療法人財団互恵会 大船中央病院	前立腺針生検における薬剤適正管理
137	神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院	ソラフェニブを使用患者の一例
138	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	胃がんにおけるXP+HER療法
139	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	心原性脳塞栓症の薬物療法の1例
140	山梨病院・甲府共立病院	糖尿病教育入院症例
141	新百合ヶ丘薬局	スギ花粉症減感作療法薬シダトレンと服薬指導
142	新百合ヶ丘薬局	コンプライアンス向上のために薬剤師としてできること
143	新百合ヶ丘薬局駅前店	前立腺肥大における $\alpha 1$ 遮断薬の使い分け
144	株式会社シフト 池上調剤薬局	在宅医療と薬剤管理
145	みずほ薬局	褥瘡の経過における薬剤の適正使用
146	平安薬局（小田原）	在宅医療に携わる薬剤師
147	旭が丘薬局	皮膚科処方薬
148	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	C型慢性肝炎におけるIFNフリーの経口2剤併用療法について
149	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	外来化学療法について
150	特定医療法人 沖縄徳洲会 湘南 鎌倉総合病院	病院薬剤師に求められるコミュニケーション
151	医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院	中心静脈栄養法における病院薬剤師の役割
152	東海大学医学部付属病院	病棟における薬剤師の必要性
153	社会医療法人ジャパンメディカル アライアンス 海老名総合病院	潰瘍性大腸炎における治療
154	まつの実薬局	地域薬局の役割
155	開成堂 石渡薬局本店	薬剤師としての学校保健への関わり
156	あけぼの薬局（相模原）	在宅医療における薬剤師の関わり方
157	かもめ薬局北里健康館	在宅医療における薬局薬剤師の介入
158	こだま薬局	薬局薬剤師の業務 - 服薬指導 -
159	相薬よこやま薬局	小児疾患指導箋の活用方法の検討
160	たんぼぼ薬局	薬局薬剤師による薬局内・外での仕事～ジェネリック医薬品への対応・学校薬剤師～

第Ⅲ期 病院・薬局実務実習報告会 演題

No.	実 習 施 設	演 題 名
1	聖マリアンナ医科大学病院	直腸S状部癌周術期における抗菌薬管理
2	聖マリアンナ医科大学病院	心原性脳塞栓症における抗凝固療法
3	聖マリアンナ医科大学病院	ジオトリフの下痢評価
4	聖マリアンナ医科大学病院	急性心筋梗塞患者に対するステント留置後の薬物療法
5	聖マリアンナ医科大学病院	肺腺癌術後のカルボプラチン・アブラキサン併用症例における制吐剤検討
6	聖マリアンナ医科大学病院	非弁膜症性心房細動による脳梗塞の予防的治療～適切な患者さんに適切な治療を～
7	薬樹薬局 上倉田	地域に根ざした「かかりつけ薬局」を目指して
8	クオール薬局港北店	外来における抗がん剤治療について
9	平安薬局	在宅医療業務について
10	望星西新井薬局	子供の医薬品誤飲事故とCRSF包装
11	アイセイ薬局 武蔵中原店	おくすり手帳の有用性
12	わかば薬局桶川店	精神科の特徴と薬剤師の役割
13	(有)ふれあい薬局	吸入指導について
14	聖マリアンナ医科大学病院	卵巣がんにおけるTC療法薬物治療モニタリング
15	聖マリアンナ医科大学病院	悪性黒色腫に対するダカルバジン単剤療法の副作用モニタリング
16	聖マリアンナ医科大学病院	心筋梗塞二次予防におけるACE阻害薬の役割
17	聖マリアンナ医科大学病院	インスリン強化療法からリラグルチドへの移行
18	聖マリアンナ医科大学病院	慢性心不全に対する薬物治療
19	聖マリアンナ医科大学病院	TKA術後におけるエドキサバン使用によるDVT予防
20	ニイナ調剤薬局	ジェネリック医薬品を普及させるには？
21	株式会社 秋本薬局 横浜西口店	糖尿病治療について
22	たんぼぼ薬局	独居患者の在宅医療における服薬支援
23	さくら薬局 座間相模ヶ丘店	お薬手帳の活用率を上げるには
24	クオール薬局石神井店	クレナフィン外用液に関する服薬指導
25	美咲調剤薬局	在宅医療と薬局との関わり
26	聖マリアンナ医科大学病院	アテローム性脳梗塞慢性期の薬物治療
27	聖マリアンナ医科大学病院	関節リウマチの生物学的製剤導入に対する予防
28	聖マリアンナ医科大学病院	うつ病の副作用対策
29	聖マリアンナ医科大学病院	下咽頭癌のセツキシマブ併用化学放射線療法における副作用モニタリング
30	聖マリアンナ医科大学病院	子宮頸癌1b1期における術後副作用モニタリング
31	聖マリアンナ医科大学病院	錐体外路症状の対策
32	(有)白十字薬局八景店	漢方製剤について
33	薬樹薬局 町田旭町	コンプライアンスを向上させるための取り組み
34	薬樹薬局 町田旭町	調剤薬局でのOTC及び健康管理品等の販売について
35	桜木薬局	ワイドシリン細粒200の小児への飲ませ方
36	いこい薬局	透析患者に対する薬局薬剤師としての関わり方
37	アポロ薬局	小児処方から学んだこと
38	川崎市立多摩病院	急性心筋梗塞の薬物治療
39	川崎市立多摩病院	C型肝炎に対する薬物療法～Direct Acting Antiviralsの導入～
40	川崎市立多摩病院	胃癌患者におけるTS-1 シスプラチン併用療法の副作用指導

No.	実 習 施 設	演 題 名
41	川崎市立多摩病院	ラクナ梗塞における抗血小板薬の選択 ～シロスタゾール内服後に頻脈が発生し、バイアスピリンに変更した症例～
42	川崎市立多摩病院	左大腿骨頸部骨折患者における深部静脈血栓症予防
43	町田市民病院	妊娠糖尿病における薬剤師の介入
44	町田市民病院	妊娠高血圧の病態とその対処法
45	あやめ薬局	薬局での地域交流
46	石田薬局	塗り薬の服薬指導
47	望星薬局	自己免疫疾患患者における症状と治療薬
48	薬樹薬局 忠生	学校薬剤師業務について
49	あんず薬局	嚥下困難の患者への薬剤師の関わり方
50	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	小細胞肺がんの二次療法におけるレジメン選択 ～アムルピシン単剤療法～
51	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	心房細動を合併した心不全患者の薬物治療
52	独立行政法人国立国際医療研究センター病院	緩和ケアにおけるチーム医療
53	独立行政法人国立国際医療研究センター病院	NSTにおける薬剤師の役割
54	全国土木建築国民健康保険組合総合病院 厚生中央病院	術後抗凝固療法について
55	群馬大学医学部附属病院	病院薬剤師特有の業務
56	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	医療安全と医薬品管理業務
57	経堂みどり薬局	調剤の自動化とヒューマンエラーについて
58	カマヤ薬局	かかりつけ薬局の役割
59	あい薬局針ヶ谷店	一包化調剤により考えられる利点と問題点
60	シーガル調剤薬局	薬歴の有用性
61	美里薬局	在宅医療における薬剤師に対する患者のニーズ
62	医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院	チーム医療における多職種連携
63	医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院	抗がん剤調剤における閉鎖式デバイスの使用について
64	社会福祉法人相模更生会 総合相模 更生病院	医薬品インシデントの分類ごとの関係性について
65	社会福祉法人相模更生会 総合相模 更生病院	外来化学療法における処方実態と処方監査体制の見直し
66	大和市立病院	膀胱癌について
67	富岡地域医療事務組合 公立富岡総合病院	深部静脈血栓症 (DVT) における薬物治療とワーファリンの管理について
68	社会医療法人財団互恵会 大船中央病院	非小細胞肺癌における薬剤適正管理
69	クオール薬局たちばな台店	在宅医療における薬剤師の役割
70	青葉薬局	精神疾患をかかえた施設入居者への関わり
71	きく薬局	薬剤情報提供書の利用に関するアンケート
72	つばさ薬局 町田店	在宅医療における問題点とその対策-認知症患者との接し方-
73	相薬よこやま薬局	インフルエンザ治療薬の意識調査
74	公立大学法人 横浜市立大学附属 市民総合医療センター	GCU(新生児治療回復室)退院時の服薬指導
75	N T T 東日本関東病院	統合失調症慢性期患者における処方調整
76	医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院	デスカンファレンスから考えた緩和ケア病棟における薬剤師の役割
77	小田原市立病院	白内障術後患者の退院時指導
78	株式会社日立製作所 日立総合病院	日立総合病院での実習を終えて

No.	実 習 施 設	演 題 名
79	株式会社日立製作所 日立総合病院	日立総合病院での実習を通して学んだこと
80	クオール薬局志木店	喘息吸入薬の服薬指導
81	クオール薬局青葉台店	花粉症における薬物治療と経済性
82	クオール薬局調布店	薬局における在宅医療について
83	クオール薬局成瀬台店	ジェネリック医薬品の選択
84	あす香薬局	解熱鎮痛剤について
85	スギ薬局 阿佐ヶ谷店	薬歴という観点から考える調剤薬局における医療
86	社会医療法人社団三思会 東名厚木病院	心原性脳塞栓症患者への薬剤管理指導
87	恩賜財団済生会横浜市南部病院	食道がんに対するCDDP+ 5 - FU併用療法
88	東京医療生活協同組合 中野総合病院	ネフローゼ症候群に対するステロイド療法
89	地方独立行政法人神奈川県立病院 機構 神奈川県立足柄上病院	TS-1 + シスプラチン療法および癌性疼痛治療による副作用対策
90	埼玉医科大学総合医療センター	非小細胞肺がんの分子標的治療薬
91	埼玉医科大学総合医療センター	川崎病におけるアスピリン療法と免疫グロブリン療法
92	健ナビ薬樹薬局 古市場	経腸栄養剤について
93	しんゆり薬局	ピロリ菌の除菌
94	有限会社 小磯薬局	小児のドライシロップの飲ませ方に対する検証
95	柴胡会ちゅうおう薬局	インフルエンザ治療薬の比較
96	グリーン薬局	2025年問題にむけたかかりつけ薬局の課題
97	大山鈴薬局	お薬手帳に対する理解度と持参率
98	神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院	相模原協同病院 脳神経外科
99	神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院	大腸癌に対する化学療法
100	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	糖尿病教育入院プログラムにおける2型糖尿病患者の薬物療法の見直し
101	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	がんの疼痛と緩和ケア
102	社会医療法人ジャパンメディカル アライアンス 海老名総合病院	病院薬剤師業務を体験して
103	社会医療法人ジャパンメディカル アライアンス 海老名総合病院	病棟薬剤師の業務
104	佐野十全堂薬局 秦野駅前店	今後の薬剤師として
105	佐野十全堂薬局 秦野駅前店	ビスホスホネート製剤の長期投与における問題点と対応
106	南藤沢薬局	喘息の長期コントロール～薬剤師による吸入指導の有用性～
107	藤ファーマシー	在宅医療における薬剤師の立場
108	かもめ薬局北里健康館	在宅専任薬剤師の必要性と課題
109	ホーゲン薬局	漢方製剤
110	社会福祉法人東京有隣会 有隣病院	有隣病院で学んだこと
111	東京大学医学部附属病院	病院におけるリスクマネジメント - インシデントの実例とその対策 -
112	東京大学医学部附属病院	急性期医療における実習を通じて学んだ病棟業務
113	東京大学医学部附属病院	がん化学療法における医療従事者の曝露対策とその実際
114	東京大学医学部附属病院	入院患者における薬物治療管理を経験して～薬剤管理指導業務と病棟薬剤業務～
115	東京大学医学部附属病院	入院患者の薬物治療につなげる情報管理
116	有限会社 クリタ調剤薬局	処方箋から得られる情報

No.	実 習 施 設	演 題 名
117	アイン薬局 本厚木店	監査システムを用いた調剤過誤防止対策
118	薬樹薬局 厚木水引	認知症の患者さんとの関わり方
119	スギ薬局鴨田店	麻薬と緩和ケアについて
120	健ナビ薬樹薬局 成瀬	地域薬局と在宅医療
121	コクミン薬局東京医療センター前店	患者それぞれに合わせた対応について
122	東京慈恵会医科大学附属第三病院	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるR－CHOP療法
123	東京慈恵会医科大学附属第三病院	胃癌ステージⅣに対するCDDP+S-1療法
124	東京慈恵会医科大学附属第三病院	食道癌におけるFP療法
125	東京慈恵会医科大学附属第三病院	大腸癌stageⅣにおけるmFOLFOX6＋ペバシヅマブ療法について
126	筑波大学附属病院	Compromised host における感染症の発症抑制について
127	筑波大学附属病院	化学療法における制吐薬の使用
128	筑波大学附属病院	医薬品リスク管理計画
129	竹内調剤薬局	調剤薬局における服薬指導の個別化
130	薬局トモズ駒沢駅前店	吸入薬の種類と使用方法
131	高井戸薬局	薬局における薬剤師の役割
132	みどり薬局草花	在宅診療における薬局薬剤師の役割
133	こばやし薬局	学校薬剤師の活動
134	医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院	横浜旭中央総合病院での無菌調剤に対する取り組みについて
135	特定医療法人 沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院	薬剤師の介入が及ぼす影響
136	特定医療法人 沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院	病院でのリスクマネジメント
137	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	糖尿病教育入院について
138	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	病棟での薬剤師の活動を通して学んだこと
139	医療法人五星会 菊名記念病院	脳梗塞治療における抗血栓薬の適切な選択と薬剤師の関りを検討した一例
140	東海大学医学部付属病院	病院における栄養療法とNSTとしての薬剤師の役割
141	いずみ薬局	投薬とコミュニケーション
142	いずみ薬局	在宅医療における薬剤師
143	薬樹薬局 いずみ中央2号店	高カリウム血症の患者における服薬指導
144	アポ木下薬局	ジェネリック医薬品と薬剤師の関わりについて
145	スギ薬局和光店	糖尿病とその周辺に対する治療

平成26年度 3年生導入実習・4年生事前実習 外部講師一覧

	講 師 氏 名	所 属
1	川上和宜	財団法人癌研究会病院薬剤部
2	中本恵理	財団法人癌研究会病院薬剤部
3	樋島 学	鶴巻温泉病院薬剤科
4	舟越亮寛	医療法人財団互恵会大船中央病院薬剤部
5	西川能治	横浜市立大学附属病院薬剤部
6	宮地正和	相模更生病院薬剤部
7	増田宏章	平塚共済病院薬剤部
8	関澤奈美子	横浜市新都市脳神経外科病院
9	坂下雄一	東名厚木病院
10	仲鉢英夫	医療法人愛心会湘南鎌倉総合病院薬剤部
11	池島秀明	湘南泉病院 内科部長
12	木下綾子	群馬大学医学部附属病院薬剤部
13	江藤不二子	綾部薬局
14	稲田 学	なかよし薬局
15	松岡邦益	なかよし薬局
16	荒井なおみ	株式会社ファーコス
17	世古涼子	株式会社ファーコス
18	遠藤 隆	株式会社ファーコス
19	富澤 崇	株式会社ファーコス
20	竹内尚子	トライアドジャパン株式会社
21	佐藤幸栄	トライアドジャパン株式会社
22	大口 顕	トライアドジャパン株式会社
23	鎌田勝久	トライアドジャパン株式会社
24	小松正典	株式会社CFS コーポレーション
25	宮野康央	株式会社CFS コーポレーション
26	片野宏紀	株式会社CFS コーポレーション
27	大土居明彦	株式会社CFS コーポレーション
28	牧野達夫	株式会社ツルハ
29	矢野景子	株式会社ツルハ
30	武藤一敬	株式会社ツルハ
31	柳瀬裕延	株式会社ツルハ
32	笹川雅弘	株式会社ツルハ
33	十市隆弘	株式会社ツルハ

平成26年度 実務実習 病院

No.	病 院 名	I 期	II 期	III 期	合計
K01	聖マリアンナ医科大学病院	21	22	18	61
K02	川崎市立多摩病院	5	5	5	15
K03	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	4	2	2	8
K04	社会福祉法人東京有隣会 有隣病院	1	1	1	3
K06	町田市民病院	0	2	2	4
K07	医療法人社団三友会 あけぼの病院	1	1	0	2
K08	医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院	1	1	1	3
K09	医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院	2	2	2	6
K10	神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院	1	1	2	4
K11	社会福祉法人相模更生会 総合相模更生病院	2	2	2	6
K13	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院	2	1	2	5
K14	医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院	2	2	1	5
K15	社会医療法人社団三思会 東名厚木病院	1	1	1	3
K16	大和市立病院	1	1	1	3
K17	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	1	1	1	3
K18	公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター	1	1	1	3
K19	医療法人五星会 菊名記念病院	0	0	1	1
K20	社会医療法人財団互恵会 大船中央病院	2	2	1	5
K21	特定医療法人 沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院	1	1	2	4
K22	公益社団法人 地域医療振興協会 横須賀市立市民病院	1	1	0	2
K23	藤沢市民病院	1	1	0	2
K24	小田原市立病院	1	0	1	2
K25	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	3	2	2	7
K27	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	2	2	2	6
K28	東海大学医学部付属病院	0	1	1	2
K29	東京医療生活協同組合 中野総合病院	0	1	1	2
K31	独立行政法人国立国際医療研究センター病院	2	2	2	6
K32	東京大学医学部附属病院	3	5	5	13
K33	N T T 東日本関東病院	1	1	1	3
K35	一般財団法人自警会 東京警察病院	0	2	0	2
K36	群馬大学医学部附属病院	1	0	1	2
K37	信州大学医学部附属病院	1	1	0	2
K39	筑波大学附属病院	0	0	3	3
K40	東京慈恵会医科大学附属第三病院	4	4	4	12
K42	恩賜財団済生会横浜市南部病院	0	0	1	1
K44	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院	1	1	1	3
K45	東芝林間病院	0	2	0	2
K46	公立福生病院	0	1	0	1
K47	埼玉医科大学総合医療センター	1	2	2	5
K48	聖路加国際病院	0	1	0	1
K49	埼玉医科大学病院	1	0	0	1
T01	株式会社日立製作所 日立総合病院	0	0	2	2
T02	医療法人明倫会 今市病院	1	0	0	1
T03	富岡地域医療事務組合 公立富岡総合病院	0	0	1	1
T04	全国土木建築国民健康保険組合総合病院 厚生中央病院	0	0	1	1
T05	大月市立中央病院	1(1)	0	0	1(1)
T06	公益法人 甲府共立病院	0	(1)	0	(1)
T07	都留市立病院	1(1)	0	0	1(1)
T08	独立行政法人地域医療機能推進機構山梨病院	1	1	0	1
T09	医療法人慶友会 城東病院	(1)	0	0	(1)
	合計	76	80	77	233

平成26年度 実務実習 薬局

No.	県	エリア	薬 局 名	I 期	II 期	III 期	合計
1	茨城	日立	三和堂薬局大みか店	1	0	0	1
2		日立	東金沢薬局	0	1	0	1
3		潮来	さつき薬局本店	0	1	0	1
4		龍ヶ崎	今川薬局 佐貫店	1	0	0	1
5		つくば	今川薬局つくば上横場店	1	0	0	1
6		つくば	今川薬局つくば学園店	0	1	0	1
7		古河	さくら薬局古河店	1	0	0	1
8	栃木	鹿沼	(有)ふれあい薬局	0	0	1	1
9	群馬	安中	調剤薬局くすりのはざわら	0	1	0	1
10		館林東部	ファミル薬局	1	0	0	1
11	埼玉	朝霞	かくの木薬局	1	0	0	1
12		朝霞	クオール薬局志木店	0	0	1	1
13		朝霞	スギ薬局和光店	0	0	1	1
14		さいたま市	あい薬局針ヶ谷店	0	0	1	1
15		さいたま市	青葉薬局	0	0	1	1
16		さいたま市	あけぼの薬局(さいたま市)	1	0	0	1
17		さいたま市	望星北浦和薬局	1	0	0	1
18		桶川	わかば薬局桶川店	0	0	1	1
19		川越	スギ薬局鴨田店	0	0	1	1
20		所沢	さくら薬局 所沢東口店	0	1	0	1
21		戸田	富士薬局	0	1	0	1
22		蓮田	薬局オリーブファーマシー	0	1	0	1
23		坂越	薬局アボック若葉店	0	1	0	1
24		深谷	さんあい薬局	1	0	0	1
25		富士見・三芳	あおい調剤薬局 富士見店	0	1	0	1
26	千葉	船橋	薬樹薬局 船橋北本町	0	1	0	1
27		千葉	桜木薬局	0	0	1	1
28		香取	ツカモト薬局本店	0	1	0	1
29		市原	こすもす薬局	0	1	0	1
30	東京	中央区	薬局トモズトルナーレ浜町店	1	0	0	1
31		新宿区	かちどき薬局落合新店	0	1	0	1
32		新宿区	本田薬局 中落合店	0	1	0	1
33		新宿区	ミキ調剤薬局	1	0	0	1
34		文京区	竹内調剤薬局	0	0	1	1
35		台東区	アイン薬局 浅草店	0	1	0	1
36		目黒区	コクミン薬局東京医療センター前店	0	0	1	1
37		目黒区	碑文谷薬局	0	1	0	1
38		世田谷区	経堂みどり薬局	0	1	1	2
39		世田谷区	つばさ薬局喜多見店	1	0	0	1
40		世田谷区	ニイナ調剤薬局	1	0	1	2
41		世田谷区	クオール薬局奥沢店	0	1	0	1
42		世田谷区	薬局トモズ駒沢駅前店	0	0	1	1
43		渋谷区	みすず薬局	0	1	0	1
44		中野区	シンワ薬局病院前店	1	0	0	1
45		杉並区	高井戸薬局	0	0	1	1
46		杉並区	スギ薬局 阿佐ヶ谷店	0	0	1	1
47		豊島区	マツモトキヨシ池袋パート2	1	0	0	1
48		板橋区	大山鈴薬局	0	0	1	1

No.	県	エリア	薬 局 名	I 期	II 期	III 期	合計
49	東京	練馬区	アイセイ薬局 東大泉店	1	0	0	1
50		練馬区	みとよ堂薬局	1	0	0	1
51		練馬区	リヴィン光が丘調剤薬局	0	1	0	1
52		練馬区	クオール薬局石神井店	0	0	1	1
53		練馬区	さくらだい薬局 四丁目店	1	0	0	1
54		足立区	クオール薬局竹の塚店	1	0	0	1
55		足立区	望星西新井薬局	0	0	1	1
56		江戸川区	セイワ薬局	0	1	0	1
57		西多摩	みどり薬局草花	0	0	1	1
58		八王子	ふじ薬局めじろ台店	1	0	0	1
59		八王子	横山町薬局	0	1	0	1
60		八王子	八王子薬剤センター駅前薬局	0	1	0	1
61		八王子	別所薬局	1	0	0	1
62		南多摩	コサカ薬局北口店	1	0	0	1
63		南多摩	多摩センター調剤薬局	1	0	0	1
64		南多摩	あさひ薬局 唐木田店	1	0	0	1
65		京王	(有)狛江市薬剤師会ふれあい薬局	1	0	0	1
66		京王	クオール薬局調布店	0	0	1	1
67		京王	アイセイ薬局 国領店	1	1	0	2
93		西武	しもさと薬局	0	1	0	1
94		西武	新町調剤薬局	1	0	0	1
68		町田	アサイ調剤薬局	1	0	0	1
69		町田	あさひ調剤薬局町田店	1	0	0	1
70		町田	綾部薬局成瀬店	0	1	0	1
71		町田	カノウ薬局	0	1	0	1
72		町田	しらゆり薬局	0	1	0	1
73		町田	タツオカ薬局	1	0	0	1
74		町田	ケーエム薬局山崎店	0	2	0	2
75		町田	つばさ薬局 町田店	2	1	1	4
76		町田	クオール薬局成瀬台店	1	1	1	3
77		町田	能ヶ谷調剤薬局	0	1	0	1
78		町田	ひので薬局金井店	0	1	0	1
79		町田	町田高ヶ坂薬局	0	1	0	1
80		町田	マロン薬局サルビア	0	1	0	1
81		町田	薬樹薬局 町田旭町	2	2	2	6
83		町田	薬樹薬局 オガワ	0	1	0	1
84		町田	薬樹薬局 忠生	2	1	1	4
87		町田	健ナビ薬樹薬局 成瀬	0	1	1	2
89		町田	いずみ薬局	1	1	2	4
92		町田	たまさかいエール薬局	1	0	0	1
95	神奈川	鶴見	阿部薬局	1	0	0	1
96		鶴見	田辺薬局	1	0	0	1
97		鶴見	サンアイ薬局東寺尾店	0	1	0	1
98		港北	薬樹薬局 大倉山	1	1	0	2
100		神奈川	光和薬局	1	0	0	1
110		金沢	(有)白十字薬局八景店	0	0	1	1
111		金沢	平安堂薬局 並木店	1	0	0	1
112		港北	ホーゲン薬局	0	0	1	1
113		緑	さなえ薬局 中山店	0	1	0	1
114		緑	望星横浜みどり薬局	0	1	0	1
115		緑	いこい薬局	1	0	1	2
101		西	株式会社 秋本薬局 横浜西口店	0	0	1	1

No.	県	エリア	薬 局 名	I 期	II 期	III 期	合計
102	神奈川県	中	加藤回陽堂薬局	0	1	0	1
103		南	五番街ファーマシー浦舟店	1	0	0	1
104		港南	港南台大江薬局	1	0	0	1
105		保土ヶ谷	内田薬局和田町駅前店	1	0	0	1
106		旭	明日花薬局	1	0	0	1
107		旭	株式会社横浜調剤薬局	1	1	0	2
109		旭	グリーン薬局	0	0	1	1
116		緑	薬樹薬局 長津田	0	1	0	1
117		青葉	藤ファーマシー	0	0	1	1
118		青葉	あす香薬局	0	0	1	1
119		青葉	クオール薬局青葉台店	0	0	1	1
120		青葉	クオール薬局たちばな台店	0	0	1	1
121		青葉	荏子田ファーマシー	0	1	0	1
122		青葉	スマイル薬局 藤が丘店	1	0	0	1
123		青葉	薬局トモズ青葉台店	0	1	0	1
124		青葉	薬局トモズたまブラザーテラス店	0	1	0	1
125		都筑	チノップス薬局センター北駅前店	1	0	0	1
126		都筑	クオール薬局港北店	0	0	1	1
127		都筑	あやめ薬局	0	0	1	1
128		戸塚	平安薬局	0	1	1	2
129		戸塚	ゆかり調剤薬局	1	0	0	1
130		戸塚	薬樹薬局 戸塚西	0	1	0	1
131		戸塚	薬樹薬局 上倉田	0	0	1	1
132		泉	薬樹薬局 いずみ中央2号店	0	0	1	1
133		幸	昭和薬品幸薬局	1	0	0	1
134		幸	こばやし薬局	0	0	1	1
135		幸	健ナビ薬樹薬局 古市場	0	0	1	1
136		中原	マルゼン薬局	1	0	0	1
137		中原	アイセイ薬局 武蔵中原店	0	0	1	1
138		宮前	さぎぬま薬局	0	1	0	1
139		宮前	ひかり薬局	0	1	0	1
140		宮前	有限会社プライマリーファーマシー	1	0	0	1
141		多摩	アイン薬局 登戸店	0	1	0	1
142		多摩	クオール薬局西生田店	1	0	0	1
143		多摩	ミネ薬局登戸店	1	0	0	1
144		麻生	新百合ヶ丘薬局	0	2	0	2
145		麻生	新百合ヶ丘薬局駅前店	0	1	0	1
146		麻生	しんゆり薬局	0	0	1	1
147		横須賀	株式会社シフト 池上調剤薬局	0	1	0	1
148		横須賀	有限会社 小磯薬局	0	0	1	1
149		横須賀	有限会社 クリタ調剤薬局	0	0	1	1
150		平塚	(株)平塚中郡薬剤師会支援センター薬局	1	0	0	1
151		平塚	望星平塚薬局	1	0	0	1
152		平塚	みずは薬局	0	1	0	1
153		平塚	クローバー薬局	1	0	0	1
154		鎌倉	シーガル調剤薬局	0	0	1	1
155		藤沢	おひさま薬局	1	0	0	1
156		藤沢	カマヤ薬局	0	0	1	1
157		藤沢	はるかぜ薬局辻堂東海岸店	1	0	0	1
158		藤沢	東海岸めぐみ薬局	1	0	0	1
159		藤沢	南藤沢薬局	0	0	1	1
160		藤沢	田中薬局羽鳥店	1	0	0	1

No.	県	エリア	薬 局 名	I 期	II 期	Ⅲ期	合計
161	神奈川県	小田原	トキワ薬局宮上店	1	0	0	1
162		小田原	ひかり薬局本店	1	0	0	1
163		小田原	平安薬局	1	1	0	2
165		小田原	なでしこ薬局	1	0	0	1
166		茅ヶ崎	旭が丘薬局	0	1	0	1
167		茅ヶ崎	アボ木下薬局	0	0	1	1
168		茅ヶ崎	今井薬局	0	1	0	1
169		茅ヶ崎	茅ヶ崎薬剤師会調剤薬局	1	0	0	1
170		茅ヶ崎	まつの実薬局	0	1	0	1
171		茅ヶ崎	きく薬局湘南みずき	1	0	0	1
172		逗葉	開成堂 石渡薬局本店	0	1	0	1
173		相模原	薬師いろは堂薬局	1	0	0	1
174		相模原	あけぼの薬局（相模原）	0	1	0	1
175		相模原	いろは堂薬局東口店	0	1	0	1
176		相模原	かもめ薬局北里健康館	0	1	1	2
177		相模原	共和薬局	1	0	0	1
178		相模原	こだま薬局	1	1	0	2
180		相模原	柴胡会ちゅうおう薬局	0	0	1	1
181		相模原	相薬よこやま薬局	0	1	1	2
183		相模原	たんばぼ薬局	0	1	1	2
185		相模原	星が丘西薬局	1	0	0	1
186		相模原	あい薬局 南橋本店	1	0	0	1
187		相模原	サンドラッグ相模原淵野辺薬局	1	1	0	2
189		秦野	佐野十全堂薬局 秦野駅前店	0	0	2	2
190		秦野	佐野十全堂薬局 南が丘店	1	1	0	2
192		伊勢原	石田薬局	0	0	1	1
193		伊勢原	望星薬局	0	0	1	1
194		厚木	アイン薬局 本厚木店	0	0	1	1
195		厚木	きく薬局	0	0	1	1
196		厚木	なかよし薬局船子店	0	1	0	1
197		厚木	薬樹薬局 厚木水引	1	0	1	2
199		厚木	薬樹薬局 厚木旭町	0	1	0	1
200		厚木	なかよし薬局愛甲店	1	0	0	1
201		海老名	あい薬局海老名店	0	1	0	1
202		海老名	アイン薬局海老名店	1	0	0	1
203		座間	さくら薬局 座間相模ヶ丘店	0	0	1	1
204	山梨県	甲府	あすなろ甲府薬局	1	0	0	1
205		甲府	美咲調剤薬局	0	0	1	1
206		中巨摩東	アポロ薬局	0	0	1	1
207		東部	あんず薬局	0	0	1	1
208		東部	大月市薬剤師会会営大月調剤薬局	0	1	0	1
209	長野県	上田	花の木薬局	1	0	0	1
210		軽井沢・小諸	美里薬局	0	0	1	1
211		岡谷	ひまわり薬局	1	0	0	1
212		上伊那	荒井橋土屋薬局	1	0	0	1
213		飯田下伊那	かなえひまわり薬局	0	1	0	1
			合計	85	80	68	233

(5) 入学試験委員会

1. 入学試験

(1) 平成27年度指定校制推薦入学試験

募集人員	80名			
選考期日	平成26年11月8日(土)			
推薦依頼校	260 + 附属高校			
試験結果	志願者(女子)	受験者(女子)	合格者(女子)	入学者(女子)
	89 (67)	89 (67)	89 (67)	89 (67)

(2) 平成27年度公募制推薦入学試験

募集人員	20名			
選考期日	平成26年11月8日(土)			
試験結果	志願者(女子)	受験者(女子)	合格者(女子)	入学者(女子)
	65 (44)	65 (44)	13 (9)	13 (9)

(3) 平成27年度一般入学試験

募集人員	A方式10名・B方式100名・C方式30名			
選考期日	B方式 平成27年2月4日(水)			
	C方式 平成27年2月9日(月)			
試験結果	志願者(女子)	受験者(女子)	合格者(女子)	入学者(女子)
A方式	700 (420)	700 (420)	156 (104)	12 (9)
B方式	1,537 (824)	1,448 (778)	282 (165)	116 (74)
C方式	499 (266)	321 (169)	49 (27)	25 (15)
計	2,736 (1,510)	2,469 (1,367)	487 (296)	153 (98)

試験方式別(資料1)

都道府県別(資料2)

(4) 平成27年度1年次入学者

クラスA	クラスB	合 計
127 (86)	128 (88)	255 (174)

平成27年度 入学試験結果

		現役	一浪	二浪	三浪	四浪以上	検定・他	計	
A方式試験	出願者	男	165	72	22	8	11	2	280
		女	302	80	19	10	7	2	420
		計	467	152	41	18	18	4	700
	受験者	男	165	72	22	8	11	2	280
		女	302	80	19	10	7	2	420
		計	467	152	41	18	18	4	700
	合格者	男	20	19	7	1	5	0	52
		女	63	28	7	4	2	0	104
		計	83	47	14	5	7	0	156
	入学者	男	1	1	0	1	0	0	3
		女	6	2	0	0	1	0	9
		計	7	3	0	1	1	0	12

B方式試験	出願者	男	410	180	55	19	43	6	713
		女	602	153	35	14	16	4	824
		計	1012	333	90	33	59	10	1537
	受験者	男	394	170	52	14	34	6	670
		女	577	139	31	12	15	4	778
		計	971	309	83	26	49	10	1448
	合格者	男	49	40	9	4	4	1	107
		女	128	33	7	4	2	1	175
		計	177	73	16	8	6	2	282
	入学者	男	23	12	2	3	2	0	42
		女	59	11	2	2	0	0	74
		計	82	23	4	5	2	0	116

C方式試験	出願者	男	133	65	18	6	9	2	233
		女	183	52	19	7	4	1	266
		計	316	117	37	13	13	3	499
	受験者	男	94	35	10	3	8	2	152
		女	116	36	12	3	2	0	169
		計	210	71	22	6	10	2	321
	合格者	男	12	4	3	0	2	1	22
		女	14	6	5	1	1	0	27
		計	26	10	8	1	3	1	49
	入学者	男	5	4	0	0	0	1	10
		女	10	4	1	0	0	0	15
		計	15	8	1	0	0	1	25

		現役	一浪	二浪	三浪	四浪以上	検定・他	計	
全体合計	出願者	男	708	317	95	33	63	10	1226
		女	1087	285	73	31	27	7	1510
		計	1795	602	168	64	90	17	2736
	受験者	男	653	277	84	25	53	10	1102
		女	995	255	62	25	24	6	1367
		計	1648	532	146	50	77	16	2469
	合格者	男	81	63	19	5	11	2	181
		女	205	67	19	9	5	1	306
		計	286	130	38	14	16	3	487
	入学者	男	29	17	2	4	2	1	55
		女	75	17	3	2	1	0	98
		計	104	34	5	6	3	1	153

		男性	女性	計		()は女性	現役	一浪
指定校推薦	出願者	22	67	89	公募推薦	出願者	58 (39)	7 (5)
	受験者	22	67	89		受験者	58 (39)	7 (5)
	合格者	22	67	89		合格者	11 (8)	2 (1)
	入学者	22	67	89		入学者	11 (8)	2 (1)

平成27年度 入学試験結果 都道府県別人数

	志願者						合格者						入学者					
	指定校	公募	A方式	B方式	C方式	計	指定校	公募	A方式	B方式	C方式	計	指定校	公募	A方式	B方式	C方式	計
北海道	0	1	16	32	4	53	0	0	3	6	0	9	0	0	0	3	0	3
青 森	0	0	6	9	4	19	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
岩 手	0	1	2	5	0	8	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	1
宮 城	0	0	6	12	3	21	0	0	2	2	0	4	0	0	0	2	0	2
秋 田	1	0	2	4	1	8	1	0	0	1	1	3	1	0	0	1	1	3
山 形	0	0	4	4	1	9	0	0	2	1	0	3	0	0	0	1	0	1
福 島	0	0	8	7	1	16	0	0	2	1	0	3	0	0	0	1	0	1
茨 城	4	0	17	39	13	73	4	0	3	8	1	16	4	0	0	2	1	7
栃 木	4	1	14	26	7	52	4	0	5	7	3	19	4	0	0	3	1	8
群 馬	1	0	17	20	11	49	1	0	8	4	5	18	1	0	0	2	0	3
埼 玉	3	4	51	136	36	230	3	0	17	19	1	40	3	0	2	7	1	13
千 葉	2	2	20	56	13	93	2	0	2	4	2	10	2	0	0	0	1	3
東 京	29	14	200	500	173	916	29	5	34	76	10	154	29	5	1	29	5	69
神奈川	34	36	229	476	170	945	34	6	42	107	16	205	34	6	3	45	10	98
新 潟	0	0	6	11	3	20	0	0	5	1	2	8	0	0	1	0	0	1
富 山	0	0	0	3	1	4	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
石 川	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福 井	0	0	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山 梨	0	1	13	31	10	55	0	0	1	3	1	5	0	0	1	2	1	4
長 野	4	2	19	41	8	74	4	1	6	13	1	25	4	1	0	5	1	11
岐 阜	0	0	3	6	1	10	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0
静 岡	3	2	31	48	20	104	3	1	12	12	0	28	3	1	1	6	0	11
愛 知	0	0	7	11	3	21	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
三 重	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
滋 賀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京 都	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大 阪	0	0	2	2	2	6	0	0	1	1	2	4	0	0	0	0	0	0
兵 庫	0	0	0	4	0	4	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	1
奈 良	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和歌山	0	0	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鳥 取	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島 根	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
岡 山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広 島	0	0	1	3	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山 口	1	0	0	1	1	3	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
徳 島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
香 川	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛 媛	0	0	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高 知	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福 岡	0	0	3	4	1	8	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	1
佐 賀	0	0	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長 崎	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
熊 本	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大 分	0	0	2	1	2	5	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
宮 崎	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鹿児島	0	1	3	10	0	14	0	0	1	2	0	3	0	0	0	1	0	1
沖 縄	3	0	7	7	3	20	3	0	6	2	1	12	3	0	3	2	0	8
その他	0	0	4	11	3	18	0	0	0	3	1	4	0	0	0	1	1	2
計	89	65	700	1537	499	2890	89	13	156	282	49	589	89	13	12	116	25	255

2. 大学説明会開催

日 時：平成26年6月19日（木） 14：00～15：10

出席校数：推薦指定高校50校

内 容：①挨拶

②指定校推薦について

③入学試験について

④学生生活・就職について

⑤教務・カリキュラムについて

⑥質疑応答

⑦懇談会、学内見学

3. 受験生向けイベント

（1）一日体験入学

日 時：平成26年7月26日（土） 10：00～16：00

内 容：・大学説明会

・各実験プログラム

・キャンパスツアー

・個別相談

・在学生との懇談会

・ランチ体験

・植物園&なるせ寮ツアー

参加者数：569組891名（保護者等含む）

（2）昭葉未来塾

日 時：平成26年8月1日（金） 10：30～15：00

内 容：①開講挨拶

②プログラム開始

A：漢方と生薬（北島教授）

B：飲んだ薬はどうなるの？（小泉講師）

参加者数：22名

（3）進学相談会

日 時：平成26年8月27日（水） 13：30～16：00

内 容：①全体説明会

②個別相談会

参加者数：175組 254名

日 時：平成26年11月3日（月） 11：00～14：00

内 容：①全体説明会

②個別相談会

参加者数：132組 226名

（4）入試説明会

日 時：平成26年7月25日（金） 13：30～16：00

内 容：①全体説明会

②予備校講師による入試問題解説

参加者数：158組 259名

日 時：平成26年10月11日（土） 13：30～16：00

内 容：①全体説明会

②予備校講師による入試問題解説

参加者数：138組 235名

(5) ミニオープンキャンパス

日 時：平成26年3月25日(火) 11:00～16:00

内 容：①学部紹介及び入試説明
②学食体験
③薬学基礎講座
④在学生・卒業生講演
⑤キャンパスツアー又は個別相談

参加者数：73組 125名

日 時：平成26年6月21日(土) 13:30～16:00

内 容：①全体説明会
②薬学基礎講座
③学内案内

参加者数：176組 274名

(6) ひらめき☆ときめきサイエンス(日本学術振興会選定事業)

日 時：平成26年8月1日(金) 10:30～15:00

内 容：①開講挨拶
②プログラム開始

「食べても大丈夫?～食品の安全を最先端分析で確かめよう～」(小椋教授)

参加者数：11名

4. 大学入試センター試験関係活動

No.	期 日	内 容	場 所
1	6月6日	平成26年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	メルパルク東京
2	6月25日	第46回東京地区大学入試センター試験に関する入試担当課長会議	東 京 大 学
3	8月18日	平成27年度大学入学者選抜大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会(第1回)	昭和女子大学
4	10月28日	平成27年度大学入学者選抜大学入試センター試験 試験場設定大学連絡協議会	電気通信大学
5	12月9日	平成27年度大学入学者選抜大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会(第2回)	昭和女子大学
6	1月13日	大学入試センター試験監督者会議 リスニングテストリハーサル	本 学
7	1月16日	大学入試センター試験リハーサル	本 学

5. 進学相談会関係活動

①高校説明会

No	日 付	高 校 名		内 容
1	4/10 (木)	神奈川	戸塚高校	説明会
2	4/11 (金)	東 京	星美学園高校	説明会
3	4/17 (木)	神奈川	旭高校	説明会
4	4/18 (金)	神奈川	湘南工科大学附属高校	説明会
5	4/21 (月)	神奈川	湘南工科大学附属高校	説明会
6	4/21 (月)	神奈川	百合丘高校	説明会
7	4/22 (火)	東 京	杉並学院高校	説明会
8	4/24 (火)	神奈川	横浜サイエンスフロンティア高校	模擬授業
9	4/24 (火)	東 京	昭和第一学園高校	説明会
10	5/12 (月)	神奈川	新城高校	説明会
11	5/12 (月)	東 京	和洋九段女子高校	説明会
12	5/15 (木)	神奈川	港北高校	模擬授業
13	5/15 (木)	神奈川	神奈川総合産業高校	説明会
14	5/16 (金)	神奈川	横浜翠陵高校	説明会
15	5/17 (土)	静 岡	静岡学園高校	説明会
16	5/19 (月)	神奈川	武相高校	説明会
17	5/19 (月)	神奈川	大和西高校	模擬授業
18	5/21 (水)	神奈川	橋本高校	説明会
19	5/22 (木)	神奈川	大船高校	説明会
20	5/23 (金)	神奈川	生田東高校	説明会
21	5/23 (金)	神奈川	茅ヶ崎高校	説明会
22	5/24 (土)	千 葉	和洋国府台女子高校	説明会
23	5/26 (月)	神奈川	麻溝台高校	説明会
24	5/27 (火)	神奈川	横須賀大津高校	説明会
25	5/28 (水)	東 京	広尾高校	説明会
26	5/29 (木)	神奈川	横浜女学院高校	説明会
27	5/31 (土)	神奈川	向上高校	説明会
28	6/9 (月)	神奈川	みなと総合高校	説明会
29	6/9 (月)	神奈川	瀬谷高校	模擬授業
30	6/9 (月)	東 京	八雲学園高校	説明会
31	6/12 (木)	神奈川	旭高校	説明会
32	6/12 (木)	東 京	上水高校	説明会
33	6/12 (木)	神奈川	横浜立野高校	説明会
34	6/13 (金)	山 梨	山梨英和高校	模擬授業
35	6/16 (月)	千 葉	昭和学院高校	説明会
36	6/17 (火)	東 京	多摩大聖ヶ丘・工学院大附属高校	説明会
37	6/17 (火)	神奈川	追浜高校	説明会
38	6/17 (火)	東 京	大成高校	説明会
39	6/20 (金)	神奈川	湘南台高校	説明会
40	6/23 (月)	神奈川	元石川高校	説明会
41	6/24 (火)	神奈川	上溝高校	説明会
42	6/25 (水)	神奈川	川崎総合科学高校	説明会
43	6/25 (水)	神奈川	大船高校	説明会

No	日 付	高 校 名		内 容
44	6/26 (木)	神奈川	深沢高校	説明会
45	7/3 (木)	神奈川	逗子高校	説明会
46	7/4 (金)	神奈川	生田東高校	説明会
47	7/9 (水)	神奈川	湘南台高校	説明会
48	7/10 (木)	神奈川	上鶴間高校	説明会
49	7/10 (木)	群 馬	渋川女子高校	説明会
50	7/10 (木)	埼 玉	川越南高校	説明会
51	7/10 (木)	東 京	杉並学院高校	説明会
52	7/11 (木)	神奈川	荏田高校	説明会
53	7/15 (火)	東 京	豊島高校	模擬授業
54	7/15 (火)	神奈川	厚木東高校	説明会
55	7/15 (火)	神奈川	大磯高校	説明会
56	7/15 (火)	神奈川	横須賀大津高校	説明会
57	7/16 (水)	東 京	目黒高校	説明会
58	7/17 (木)	神奈川	函嶺白百合学園高校	説明会
59	7/17 (木)	神奈川	藤沢西高校	説明会
60	9/3 (水)	山 梨	韮崎高校	説明会
61	10/20 (月)	神奈川	横浜栄高校	模擬授業
62	10/30 (木)	埼 玉	川越南高校	説明会
63	10/30 (木)	神奈川	戸塚高校	模擬授業
64	11/11 (火)	神奈川	座間高校	模擬授業
65	11/14 (金)	神奈川	新城高校	模擬授業
66	11/15 (土)	東 京	東京成徳大学高校	説明会
67	11/17 (月)	神奈川	大和西高校	説明会
68	11/21 (金)	神奈川	追浜高校	模擬授業
69	11/21 (金)	神奈川	霧が丘高校	説明会
70	11/26 (水)	埼 玉	越谷北高校	模擬授業
71	12/5 (金)	神奈川	逗子高校	模擬授業
72	12/11 (木)	神奈川	横浜平沼高校	説明会
73	12/11 (木)	神奈川	東高校	模擬授業
74	12/18 (木)	東 京	目黒高校	模擬授業
75	1/23 (金)	東 京	日本大学第三中学校	模擬授業
76	2/16 (月)	神奈川	カリタス女子中学校	模擬授業
77	3/4 (水)	東 京	日野高校	説明会
78	3/13 (金)	神奈川	向上高校	模擬授業
79	3/13 (金)	神奈川	向上高校	説明会
80	3/16 (月)	東 京	小川高校	説明会
81	3/17 (火)	東 京	豊島高校	説明会
82	3/17 (火)	埼 玉	所沢高校・東久留米総合高校	説明会
83	3/18 (水)	神奈川	岸根高校	説明会
84	3/18 (水)	東 京	狛江高校	説明会
85	3/19 (木)	東 京	小平南高校	説明会
86	3/20 (金)	東 京	日野高校	説明会
87	3/23 (月)	神奈川	厚木西高校	説明会

②大学見学(団体)

No	日 付	高 校 名	
1	7/16 (水)	東 京	府中西高校
2	10/10 (金)	埼 玉	所沢西高校

③会場相談会

No	日 付	会 場 名	
1	4/20 (日)	武蔵小杉	武蔵小杉ユニオンビル
2	4/21 (月)	横浜	横浜市新都市ホール
3	4/26 (土)	池袋	サンシャインシティワールドインポートマート
4	4/27 (日)	新宿	新宿エルタワー
5	4/30 (水)	吉祥寺	吉祥寺東急イン
6	5/10 (土)	横浜	横浜市新都市ホール
7	5/11 (日)	町田	町田市文化交流センター
8	5/13 (火)	水戸	水戸駿優予備学校
9	5/18 (日)	新宿	新宿NSビル
10	5/19 (月)	仙台	仙台市情報・産業プラザ
11	5/25 (日)	新潟	朱鷺メッセ
12	5/25 (日)	静岡	ツインメッセ静岡
13	5/27 (火)	宇都宮	マロニエプラザ
14	5/31 (土)	新宿	新宿NSビル
15	6/1 (日)	秋葉原	秋葉原ダイビル
16	6/3 (火)	神保町	日本教育会館
17	6/3 (火)	松本	ホテルブエナビスタ
18	6/4 (水)	長野	ビッグハット
19	6/5 (木)	甲府	甲府富士屋ホテル
20	6/7 (日)	秋葉原	ベルサール秋葉原
21	6/8 (日)	大宮	大宮ソニックシティ
22	6/8 (日)	秋田	秋田県総合保健センター
23	6/10 (火)	春日部	アクシス春日部
24	7/12 (土)	有明	東京ビッグサイト
25	7/13 (日)	池袋	池袋サンシャインシティ
26	7/19 (土)	名古屋	名古屋国際会議場
27	7/19 (土)	仙台	仙台サンプラザホール
28	7/19 (土)	水道橋	東京ドームシティプリズムホール
29	7/27 (日)	横浜	パシフィコ横浜
30	9/4 (木)	横浜	新都市ホール
31	9/6 (土)	新宿	新宿エルタワー
32	9/27 (土)	横浜	パシフィコ横浜
33	10/10 (金)	日暮里	日暮里サニーホール
34	10/25 (土)	新宿	新宿エルタワー

自己点検・評価

例年どおり、指定校制及び公募制の両推薦入学試験を11月第2土曜日に実施した後、年明け1月中旬の大学入試センター試験を経て、2月には、個別試験であるB方式入学試験、センター試験併用型で化学のみ本学で試験を実施する組み合わせ型のC方式入学試験を実施した。

指定校制推薦入学試験：推薦指定校は、過去の一般入学試験における入学実績、前年度までの指定校推薦による入学者の学習状況などの実績に基づいて選定しており、平成27年度は本学附属高校を含む261校に推薦依頼を行った。志願者数は、26年度の107名に対して27年度は89名と前年に比して減少した。ここ2年間、募集人員80名を大きく上回る志願者推移となっていたが、高い資質を有する学生の入学、及び適正な志願者数の維持に資するべく、推薦基準を本年度から上げたことが奏功した形となった。

公募制推薦入学試験：26年度は95名の志願者を集めたが、27年度は65名に留まり、志願者数は前年比30%を超える減となった。本年度から基礎学力試験に数学を追加したほか、主要薬科大学と本学の試験日程が重複していることも影響したと考えられることから、試験日程とあわせ、他大学で導入が進みつつある併願制についても検討を行っていく。

A方式入学試験：26年度の志願者1,042名に対して、27年度は700名と大幅に減少した。要因の一つとして、大学入試センター試験で理科の科目設定が変更され、受験者の負担が増加したことも挙げられる。

B方式入学試験：26年度に1,603名まで志願者数を伸ばしたが、27年度は前年より少ない1,537名となった。

C方式入学試験：26年度は597名であったが27年度は499名、志願者は100名弱減少した。

一般入学試験全体でみると26年度の志願者合計3,242名に対して、27年度は前年比約16%減となる2,736名であった。好調な就職状況や薬剤師国家試験の結果などを背景として、志願者数はここ数年堅調に推移してきたが、本年度はその反動が生じたものと思料される。また、将来的な薬剤師の需給環境は不透明な一面もあり、引続き全学一体となって、さらなる大学力向上を目指す努力が求められる。

学内イベントとしては、平成26年度も例年どおりオープンキャンパスを開催した。6月には、本学の充実した施設を紹介するミニオープンキャンパスを実施するとともに、推薦指定校の教員を対象とした大学説明会も実施、学内案内や入試委員との懇談を行って相互理解を促進した。7月の一日体験入学は入退場自由制として午前中から開催、参加者の利便性を図りつつ、大学紹介、入試説明の他、実験・講演プログラム、キャンパスツアー等を実施した。一日体験入学では、参加した高校生と本学学生との直接的な接触にも重点を置き、在学生との懇談を終日実施した。8月、及び11月には個別面談形式による進学相談会を開催、高校生・保護者の疑問点解消に入試委員が対応した。さらに、予備校講師が本学入試問題のポイント解説を行う入試説明会を7月と10月に実施し、多くの高校生・受験生が来場した。また、直接的な受験生獲得とは目線を異にし、薬学・化学への興味関心を喚起していく昭葉未来塾は9回目を迎え、2つの体験プログラムを提供した。当日は、本学教員の科研費研究成果をわかりやすく紹介する「ひらめき☆ときめきサイエンス」も同時開催し、充実した講義・実習を参加者に提供することができた。

学外では、高校における説明会や学外の進学相談会に多数参加し、本学に対する理解を深めていく活動に取り組んだほか、進学情報誌や受験情報サイトなどの媒体を利用した広報も積極的に展開したところである。今後も、入学試験管理委員会をはじめとする関係委員会と緊密に連携を図りながら、高い資質を有する学生の入学に寄与するべく、多様な施策を実施していきたいと考えている。

(6) 公開講座委員会

活動状況

1. 委員会の開催

第1回 平成26年5月1日(木)

- ・幹事の選出
- ・第1回公開教育講座の進捗状況と役割分担について
- ・第2回公開教育講座について

第2回 平成26年7月10日(木)

- ・第1回公開教育講座結果について
- ・第1回公開教育講座の進捗状況と役割分担について
- ・市民講座について
- ・平成27年度第1回公開教育講座のテーマについて

第3回 平成26年10月9日(木)

・平成27年度予算案について

第4回 平成26年11月19日(水)

・第2回公開教育講座結果について

・市民講座について

・次年度公開講座について

第5回 平成27年1月30日(金)

・平成27年度第1回公開教育講座について

2. 開催した公開講座

①第1回 公開教育講座

【日時】平成26年6月8日(日)13時00分～16時30分

【場所】昭和薬科大学

【テーマ】『妊娠・授乳と薬』

【オーガナイザー】昭和薬科大学 教授 山本美智子

【演題・演者】

講演1) 妊娠中・授乳中の薬物療法の考え方

国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター
副センター長 渡邊 央美

講演2) 妊産婦の薬物療法のリスクと薬剤師の関わり

国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター
妊婦・授乳婦専門薬剤師 中島 研

【参加人数】薬剤師:457、学生:12、その他:2、計471人

②第2回 公開教育講座

【日時】平成26年9月7日(日)13時00分～16時30分

【場所】昭和薬科大学

【テーマ】『リウマチ』

【オーガナイザー】昭和薬科大学 教授 渡邊 泰男

【演題・演者】

講演1) 関節リウマチ治療の最前線

東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター
准教授 中島 亜矢子

講演2) リウマチ膠原病性疾患治療薬と薬剤師のかかわり

東京女子医科大学病院 薬剤部
主任 小西 寿子

【参加人数】薬剤師:237、学生:1、その他:2、計240人

③第10回 昭和薬科大学・町田市生涯学習センター共催市民講座

【日時】平成26年12月6日(土) 14時～16時

【場所】町田市生涯学習センター7階ホール

町田市原町田6-8-1(109MACHIDAと同じビル)

【テーマ】『感染症の最前線』

【オーガナイザー】昭和薬科大学 教授 浜本知之

【演題・演者】

講演1) 話題の耐性菌、話題の病原体 – デング熱、エボラ感染症を含めて –

東邦大学 医学部 微生物・感染症学講座 感染病態・治療学分野
教授 館田一博

講演2) 病原体とヒトとの戦い

昭和薬科大学 統合感染免疫学
教授 石戸聡

【参加人数】計71人

3. 自己点検・評価

聴講を希望するテーマに出来るだけ沿えるよう、公開教育講座開催の度に聴講者からアンケートに回答頂いている。それをもとに講座のテーマを選択、適任講演者をオーガナイザーに選定してもらっている。こうした努力が実り、2014年度第1回公開教育講座には、457名の参加者に集まって頂いた。唯一残念だったのは、これまで、この数の参加者の経験が無く、配布資料や研修シールが足らなくなり、委員会のメンバーも少々混乱し、参加者に迷惑をかけてしまったことである。第2回は240名の参加で、従来通りの数であった。現実的には、アンケートでリクエストの多いテーマばかりを選択することは出来ないが、この公開教育講座は、現場で働いている薬剤師さんが日頃直面している問題解決の緒に少しでもなれば、ということが本来の目的であるはずだし、それこそが、薬剤師の目の前にいる患者が安心して治療を受けられるために、大切なことである。今後も地道な努力を怠らず、地域の患者さんとそれを守る薬剤師さんの力になれる公開教育講座を開催していかなければならない。

町田市生涯学習センターとの共催市民講座は、10回目という節目の講座であった。テーマは、世間をにぎわしている(いた?)、エボラ、デング等の感染症についての講座であり、71名の町田市民の方に参加して頂いた。講演後は、沢山の聴衆から多岐にわたる質問があがり、本テーマの選択と講演内容が、市民の方々に何らかの形で届いたものと思われる。今後も町田市生涯学習センターと協調しながら、大学の社会貢献の一環として地元町田市民の皆様に役立つ市民講座としていきたい。

(7) 自己点検・評価委員会

活動状況

平成26年度、本委員会では、一般社団法人薬学教育評価機構(以下、評価機構)による分野別評価に対する準備を行った。また、例年通り昭和薬科大学教育研究年報の編集と出版業務を行った。授業評価については、前期、後期別に開講した科目に関して学生による授業評価「授業評価アンケート」と担当教員による自己評価を行い、結果を集計・解析後、各教員に評価結果をフィードバックして各自の授業の改善に役立てている。なお、授業評価アンケート等の集計データは、本教育研究年報に記載公表するとともに本学WEBホームページに公開している。各教員はフィードバックされたデータをもとに、学長宛に授業改善計画を提出し、e-ラーニングシステムを通して改善計画を学生に公開している。

1. 薬学教育評価機構の認証評価受審の準備

本学規程関係の改訂により、「昭和薬科大学自己点検・評価委員会規程」が平成25年度より施行された。この規程に基づき、標記の委員が決定し、評価機構による認証評価受審の準備を行った。

先に、平成27年度に評価機構による認証評価審査を受審することを教授会決定した。平成26年度は主に評価機構に提出する「自己点検・評価書」の編纂を行った。最終版の「自己点検・評価書」は平成27年4月に評価機構に提出し、受理された。これにより平成27年度の受審が確定した。

「自己点検・評価書」を纏めるために、全学的体制をとった。各項目について、分担責任者を選任し、平成26年12月末を目途に草案を完成させた。さらに、表2に示す自己点検評価・小委員会にて文章の推敲及び修正を行い、完成に至った。評価機構が定めた基礎資料については、関係事務(教務課、学生課、施設課、等)担当者がまとめた。

2. 授業評価

各教員に対して、例年通り前期と後期別に開講した科目に関して学生による授業評価「授業評価アンケート」と担当教員による自己評価を行った。結果を集計・解析後、各教員に評価結果をフィードバックした。

3. 教育・研究年報編集

例年通り、関係部署に執筆を依頼し、編集後出版した。またこれを本学WEBサイト(ホームページ)に公開した。

自己点検・評価

上記のとおり今年度の本委員会活動は活発であった。特に、評価機構による評価審査の受審のための準備にあたり委員は良く活動した。また、従来からの授業評価や教育・研究年報の刊行などの業務についても担当委員が十分に成果をあげた。

外部機関による大学評価に対し全学的組織としての自己点検・評価を恒常的に行う部門について、薬学部・大学院に関する各種規程が定められ本委員会の責務が明確になった。次(平成27)年度に予定する評価機構による審査の受審に対する準備として、全学的協力のもとに「自己点検・評価書」を完成させることができた。今後、評価機構の实地視察等にあたり、対応を進めたい。評価機構による分野別評価に続き、機関別評価として大学基準協会による審査の受審が平成28年度に予定されている。本委員会をさらに充実する必要がある。

授業評価に関しては、各教員は授業評価結果を受けて、改善計画を次回受講する学生に公表している。しかし、改善の程度の検証は十分ではないため、学生に対する授業の改善に役立つように検討が必要である。

(8) 将来計画委員会

活動状況

医療薬学教育研究センターの組織再編について検討し、本センターを今後の薬剤師教育にとって核となる臨床薬学教育(6名)、応用薬物治療(3名)、医薬品情報(3名)、地域医療(3名)の4つの部門から構成することとした。ただし、これらの部門は相互に協力できるような緩やかな部門体制とすることとした。また、薬事・医療経済・医療統計など医療薬学にとって重要な社会薬学部門の設置、及び薬用植物園の専任教員配置について検討した。これらの検討案については、常任理事会・将来計画委員会合同懇談会で話し合いを行った。

自己点検・評価

上記の組織再編については検討段階に留まり、実施については次年度以降の課題となった。

(9) 国家試験対策委員会

活動状況

1 委員会開催

5月1日、7月14日、平成26年2月26日に委員会を開催した。

2 5年生対策

- ① 確認試験：4月11日に全員を対象に国試確認試験を行った。また、7月24日、11月7日、平成26年3月13日に実務実習空き学生を対象に国試確認試験を行なった。
- ② 模擬試験：12月15日に第1回模擬試験、12月24日、25日に第2回模擬試験を行なった。

3 6年生対策

- ① 確認試験：4月11日、5月30日、7月4日、9月8日に国試確認試験を行なった。
- ② 模擬試験：11月20日、21日に第1回、12月24日、25日に第2回、平成26年1月30日、31日に第3回模擬試験を行なった。
- ③ 基礎学力強化講義：4月19日より6月28日までの毎土曜日に外部講師による基礎薬学を中心にした基礎学力強化講義を行なった。
- ④ 9月補講：8月29日から12月までの10日間、学力不振学生を対象に学内教員による補講を行なった。
- ⑤ 総合薬学演習：10月2日から土日を除く30日間、外部講師による総合薬学演習を行なった。
- ⑥ 直前補講：平成26年2月9日より10日間、外部講師による国家試験直前補講を行なった。
- ⑦ 昭薬国試対策道場：11月24日より27日までの4日間、本委員会若手教員により、ウィークポイント克服のための補講を行なった。
- ⑧ 薬学演習試験：12月11日、12日に第1回、平成26年1月8日、9日に第2回、2月5日、6日に第3回薬学演習試験を行なった。

自己点検・評価

本学の第100回薬剤師国家試験の総合合格率(新卒と既卒)は74.9%で、全国平均63.2%を大きく上回った。全国私立大学56校中の順位は10位であった。新国家試験になり4回目の国家試験であったが、本学は4年連続全国平均を上回った。このような好成績を上げることができたのは全学一丸となり国家試験合格率向上に努めた結果と考えられる。

97回国家試験

	受験者数	合格者数	合格率	私大順位
本 学	208	204	98.1%	2位/全49校
全国私大	9,785	7,933	88.8%	

98回国家試験

	受験者数	合格者数	合格率	私大順位
本 学	236	222	94.1%	3位 / 全54校
全国私大	1,0449	8,243	78.9%	

99回国家試験

	受験者数	合格者数	合格率	私大順位
本 学	234	193	82.5%	2位 / 全56校
全国私大	11,125	6,684	60.1%	

(10) 英語教育委員会

委員会日程と審議事項

- 平成26年5月8日（メール会議）
 - ・幹事選出について
 - ・医薬開発特論Ⅱ（実用英語）について
- 平成27年2月5日（メール会議）
 - ・本委員会規程改正案について

活動概要

平成25年度に決定した英語教育方針に基づき、2年生を対象に、TOEFL-ITP 2レベルの試験を12月に初めて実施した。この試験のスコアを、次年度の3年次の授業のクラス分けの資料とする。

また今年度は、3年生がTOEIC公開テスト（12月実施の回）を受験した。これは学内で行う試験ではなく、学生それぞれが異なる会場で受験する「公開テスト」であり、初めての試みであったが、問題なく行われた。

自己点検・評価

3年次の「英語Ⅲ」では、就職を考慮して、授業時間の約半分をTOEIC対策に当てている。TOEIC対策のまとめとして、学生に（これまでのTOEFLではなく）TOEIC公開テストを受験させたことにより、「就職に必要な英語力」を養成する動機づけを行うことができた。

今年度より2年次英語において、レベルの異なるすべてのクラスにおいて共通の定期試験問題を使用することにした。これは、レベル別のクラス編成において成績評価をより公正に行うためである。しかし、前期試験問題を上記のやり方で作成した結果、各クラス担当の教員で授業の進度等が異なるなどの問題が生じたため、後期定期試験では、各クラスに共通する問題は従来通り試験の一部（20%）とした。英語教育の実効を上げるためのクラス別編成と公平な成績評価とのバランスの取り方は、依然として検討課題である。

(11) 人文社会教育委員会

活動概要

新コアカリキュラムにおける人と文化科目群の内容について検討した。

- 2学年480人あまりが分かれて受講するので5科目の設定が望ましい
- 単位の取り方はⅠからⅣまでは各1科目は必ず取得し、全部で9単位（6科目）がミニマム。二年で最高12単位取れる。
- 具体的な内容としては、語学は設置できないので、各国の文化や社会を学ぶ科目群、世界地理や世界史、国際政治や国際保健、音楽や演劇、天文学、憲法、ジェンダーといった提案があった。

自己点検・評価

単科の薬科大学という限られた設定の中で、できるだけ学生広くリベラル・アーツについて学んでもらうためにはどのようなカリキュラムが必要かについて、多様な面から議論ができた。また、枠が増えた中には新しい科目、ジェンダーなどを実際に設定することができた。来年度以降開講科目についても詳細をつめていく必要がある。

(12) 不正行為防止委員会

活動の概要

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、平成26年度中に各種の規程の整備が求められ、各種の規程、学内の運営マニュアル等の見直しを検討し、平成26年度中に整備を完了した。

自己点検・評価

平成26年度中に不正防止に関する環境整備は整えた。職員に対する研修会を開催し、研究経費の不正使用に関しては再度不正が発生しない環境整備を継続していかなければならない。

また、研究活動の不正防止に関しては、ガイドラインに沿って研究者自らが研究倫理に則って自律していく努力をしていく必要がある。

(13) FD 委員会

活動状況

1. 委員会の開催

第1回 平成26年6月4日（水）

- ・幹事の選出
- ・平成26年度FDワークショップについて
- ・平成26年度の委員会委員の研修について

第2回 平成26年10月2日（木）メール委員会

- ・平成26年度FD研修会について

2. FD研修会

日 時：平成26年10月24日（金）17：00～19：00

会 場：講義棟2F 第9教室

形 式：グループ討議中心のワークショップ

講 師：三木 洋一郎 先生（九州大学大学院歯学研究院教授）

テーマ：チーム基盤型学習（TBL）を行うために

参加者：全教員

＊本研修会では、Problem-based Learning（PBL）を発展させた問題解決型授業形式である、Team-Based Learning（TBL）の実践について、そのエキスパートである三木先生に「TBL実習」を交えてご講義頂いた。

自己点検・評価

本年のFD研修会は、平成26年度昭和薬科大学事業計画「教育効果の高い授業の構築」の一環として開催された。FD研修会は、言うまでもなく本委員会の主たる活動であり、TBLという極めて新しく、かつ効果的な授業を全教員に紹介・導入できたことは、昭和薬科大学のより質の高い教育システム構築に、少なからず貢献できたものと確信している。実際、受講教員から聞かれた感想は、全て肯定的なものであったし、現に、TBLを自分の講義へ導入することを始めた教員もいると聞いている。薬学部の教育は、極めて公況かつ深い理解を学生に求めているため、自ずと講義スケジュールは大変タイトなものになっている。そんな中でも、より質の高い教育・授業を提供し続けられるよう、FD委員会は、積極的な活動を行って行く。

(14) 共用試験委員会

委員会の構成

OSCE小委員会／廣原（小委員会委員長）、萩原、吉永、繁田、瀧澤、土肥

CBT小委員会／宇都宮（小委員会委員長）、福森、井上、繁田、瀧澤

昭和薬科大学SP会運営ワーキンググループ（共用試験委員会からの委員）／濱本、廣原

委員会の開催

共用試験委員会

第1回 平成26年5月8日（木）

第2回 平成26年5月9日（金） メール会議

- 第3回 平成26年5月23日(木)
第4回 平成26年6月4日(水)
第5回 平成27年1月27日(火) メール会議

小委員会

① OSCE小委員会

- 第1回 平成26年5月15日(木)
第2回 平成26年7月29日(火)
※実務実習委員会との拡大会議
平成26年4月22日(火)、平成26年5月9日(金)
※医療薬学教育研究センターとの拡大会議
平成26年7月23日(水)、平成26年9月3日(水)、平成26年11月10日(水)、平成27年1月16日(金)

② CBT小委員会

- 第1回 平成26年8月22日(金)
第2回 平成27年1月20日(火)
第3回 平成27年3月3日(火)

活動状況

(A) 共用試験委員会

共用試験委員会はOSCE小委員会、CBT小委員会を下部組織として運営した。共用試験委員会としては、OSCE関連、CBT関連の日程確認、それぞれの試験の全体運営および試験対策を行った。また、SP会の運営に関しては、実務実習委員会との合同で新たに立ち上げた昭和薬科大学SP会運営ワーキンググループ(WG)が中心となって行った。

(B) OSCE小委員会

OSCEの運営と対策を行った。

1. OSCE評価者養成伝達講習会

平成26年8月2日(土) 9:30～12:30
学内教員7名・学外19名／合計26名参加
参加者には修了証を発行した。

2. OSCE直前講習会

平成26年11月15日(土) 9:30～12:30
学内教員19名、学外教員2名、病院薬剤部20名、調剤薬局19名／60名参加
平成26年11月29日(土) 9:30～12:30
学内教員16名、学外教員6名、病院薬剤部19名、調剤薬局19名／60名参加
参加評価者合計120名(予備評価者を含む)

3. 平成26年度OSCE本試験および追再試験

受験学生:192名

【本試験】

①実施日 平成26年12月13日(土) 8:45～16:30

②課題 5領域6課題
各課題6レーンで実施

③ OSCE担当スタッフ数

- 1) 評価者:108名(学内教員23名、学外教員8名、病院薬剤師39名、薬局薬剤師38名)
外部評価者:病院・薬局薬剤師、日本薬科大学・横浜薬科大学・東京薬科大学教員
- 2) SP:30名(すべて外部、一般人の模擬患者)
- 3) その他スタッフ:運営、評価入力、誘導、ロールプレイ担当スタッフ、時間管理など教職員74名、学生(5年生及び大学院生)36名

④モニター

東京薬科大学より1名のモニターが派遣された。

また本学からも東京薬科大学のOSCEモニターとして廣原准教授が参加した。

⑤会場

試験会場：領域1・3・5／第2講義棟4階・5階

領域2・4／第2実習室

領域2／第1実習室、

学生集合室／第2講義棟2階

終了学生の待機場所／第2講義棟3階

評価表入力／PC演習室、第2講義棟4階、5階

⑥試験実施方法及びタイムスケジュール

OSCE開始前に、外部評価者を交えてテストランを実施。

各課題の所要時間を9分とした。

(課題閲覧：1～2分、課題実施：5分、課題終了・休憩：1分、移動：1分)

学生を4グループ(各グループ48名)に分けた。集合はグループごと。

試験終了学生と他の学生との接触を避けるため、集合時間と解散時間及び使用教室を考慮した。

また、集合場所で携帯電話を回収した。

⑦評価表入力

評価表は共用試験センターフォーマットで評価者が記入後、入力担当者がPC入力した。入力データは、試験当日にセンターへ送信した。

【再試験】

①実施日 平成27年2月21日(土)10:00～11:10

②課題 3領域3課題

③OSCE担当スタッフ数

1) 評価者：8名 (外部評価者 3名)

2) SP：2名

3) その他スタッフ：運営、入力など 17名

④モニター

東京薬科大学より1名のモニターが派遣された。

⑤会場

試験会場：第2実習室

その他、本試験に準じて行った。

【本試験・再試験結果】

合格基準：細目評価70%以上 概略評価5以上

受験者数 192名、合格者数 192名

4. 他大学への評価者派遣

教員8名を評価者としてOSCE本試験に派遣した。

東京薬科大学1名(2日間OSCE実施の内1日のみ)

日本薬科大学3名

横浜薬科大学4名

(C) CBT小委員会

CBTの運営と対策を行った。

1. CBT対策

4年生の基礎学力向上のため以下の対策を行った

前期：確認試験6回、CBT模擬試験1回

後期：総合確認試験3回、CBT模擬試験1回

2. CBT体験受験

①実施日：平成26年8月28日(木)、29日(金)

②実施場所：本学PC演習室

③モニター：北里大学薬学部からモニター1名が派遣された。

また、本学からも北里大学薬学部へモニター1名を派遣した。

④タイムスケジュール等：共用試験センターから提供されたタイムスケジュールに則って行った。各ゾーン2時間の試験時間を確保した。

3. CBT 本試験と再試験

【本試験】

①実施日：平成27年1月22日(木)、23日(金)

②実施場所：本学PC演習室

③モニター：北里大学薬学部からモニター1名が派遣された。

また、本学からも北里大学薬学部へモニター1名を派遣した。

④タイムスケジュール等：共用試験センターから提供されたタイムスケジュールに則って行った。各ゾーン2時間の試験時間を確保した。

【再試験】

①実施日：平成27年3月10日(火)

②実施場所：本学PC演習室

③モニター：北里大学薬学部からモニター1名が派遣された。

また、本学からも北里大学薬学部へモニター1名を派遣した。

④タイムスケジュール等：共用試験センターから提供されたタイムスケジュールに則って行った。各ゾーン2時間の試験時間を確保した。

【本試験・再試験結果】

合格基準：正答率60%以上

受験者数 192名、合格者数 190名

(D) 昭和薬科大学SP会運営ワーキンググループ(WG)

今年度の共用試験委員会のSPの運営は、実務実習委員会との合同で新たに立ち上げた昭和薬科大学SP会運営WGが中心となって行った。今年度は新たな体制の検討・移行に時間がかかったため、例年2回開催しているSP養成講習会を開催することが出来なかった。SPは、OSCEだけでなく、後期事前実習や総合実習へも参加していただいております。学生には市民として、患者としての視点からのフィードバックを行っていただいております。患者対応や服薬指導に関する充実した学びの場面を提供した。現在SP登録者のうち実働人数は35名となっている。

1. OSCE 本試験、再試験のための練習会

OSCE 本試験前に経験者は少なくとも1日、初心者は複数回の練習会に参加した。

2. SP 反省会：平成27年1月8日(木) 11:30～13:00

教員とSPで、来年度の事前実習やOSCEに向けた意見交換を行った。

自己点検・評価

1. 共用試験委員会全体

今年度から委員長が交代したが、これまでと同様に、共用試験委員会にOSCE、CBTの小委員会を設け機動性を持たせた。また、SPについては実務実習委員会との合同でSP会運営WGにより運営を行った。これら3つ体制により円滑に機能したと考える。

共用試験委員会としては共用試験合格資格や学生の受験登録、受験環境の整備を行い、OSCEおよびCBT個々に対してはそれぞれの小委員会が運営に当たった。またSPは事前実習にも参加していただくため、SP会運営WG小委員会が主導して参加SPのアレンジや練習会を行った。

2. OSCE 関連

OSCE実施運営のための小委員会は円滑に機能したといえる。また、必要に応じて医療薬学教育研究セン

ター教員にも協力を要請し OSCE 運営・実施等の打ち合わせを適宜行い連携を密にした。さらに、医療薬学教育センター事務職員の適切な応援もあり、円滑な OSCE 運営が実施できた。

学生の教育も実務実習委員会と連携して事前実習の中に組み込んで行ったことで、十分な成果が得られたものと評価する。

3. CBT 関連

CBT 小委員会が円滑に機能したと考えられる。

学生の基礎学力の向上については確認試験や、模擬試験、総合確認試験などで学生に自覚を促した。なお、4 年生の学力向上については学修支援室が主体となって行った。

4. SP 関連

今年度は、SP 会の運営体制を新たにすることとなり、実務実習委員会との合同で昭和薬科大学 SP 会運営 WG を設けたことで SP 会の運営は円滑に行えるようになった。

しかし、今年度は新たな体制の検討・移行に時間がかかったため、例年 2 回開催している SP 養成講習会を開催することが出来なかった。SP からもスキルアップのための講習会の要望があるため、この点に関しては来年度は改善できるようにしたい。

また OSCE では SP と評価者との顔合わせも行い、応対の詳細や試験手順について、綿密な打ち合わせが行われた。その結果、概ね円滑な OSCE 運営ができたが、当日の SP のフォロー体制に改善の余地があったため、これは来年度は改善できるようにしたい。

(15) 利益相反委員会

活動状況

本委員会は、外部の競争的資金申請に際して利益相反の有無に関する審議を中心に活動した。

平成 26 年度は厚生労働科学研究費補助金への申請（研究代表者及び研究分担者）に関する 4 件の審査を行い、いずれも利益相反には該当しないと判断した。

4. 常設運営委員会

(1) 図書館運営委員会

活動状況

以下の通り委員会を開催した。

第1回 平成26年6月13日(金)

1. 新委員長挨拶
2. 平成25年度決算報告
3. 平成26年度予算報告
4. 平成25年度蔵書点検結果報告
5. 選書について
6. 雑誌の見直しについて
7. 機関リポジトリについて

第2回 平成26年9月26日(金)

1. 来年度契約予定 電子ジャーナルおよびデータベースについて
2. 選書について
3. 「Scopus」について
4. 「VISUALEARN」について
5. 「本学教授が学生に薦める本」について

第3回 平成26年10月23日(木)

1. 平成27年度予算案について

第4回 平成27年2月19日(木)

1. 町田市シルバー人材センターからの図書館非常勤職員について
2. 「本学教授が学生に薦める本」について(報告)
3. 選書について
4. 今年度の寄贈図書について

他、7月と12月にメール会議にて選書を行った

自己点検・評価

平成26年度において、特筆すべき点は以下の通り。

1. 図書館ホームページリニューアル

より使いやすく、より早く目的の情報に辿り着けるホームページを目指し、平成26年4月1日より、図書館ホームページを全面リニューアルした。これにより、内容の充実を図るとともに、情報をよりタイムリーに発信することができるようになった。

2. 選書

これまでより2回増やし、2ヶ月に1度の頻度で選書を行う事を目標とした。結果、5回の選書で、図書129冊、電子ブック2冊、DVD2セットを購入した。頻度を増す事で、リストに漏れる新刊図書が少なくなり、より効果的に選書を行うことが出来た。

購入した図書について、利用率を上げることが今後の課題である。ホームページへのレビュー掲載や展示などを試み、より多くの利用者に手に取ってもらえるよう取り組んでいる。

(2) 薬用植物園運営委員会

運営委員会の開催と審議事項

第1回 薬用植物園運営委員会

日 時：平成26年5月9日（金）16時30分～17時

場 所：薬用植物園 温室棟2階集会室

審議事項

1. 運営委員会幹事について
2. 平成26年度薬草教室について

第2回 薬用植物園運営委員会

日 時：平成26年10月14日（火）10時30分～10時50分

場 所：薬用植物園 温室棟2階集会室

審議事項

1. 平成27年度予算について
2. その他

薬用植物園の活動状況

○平成26年度「薬草教室」

開催日	タイトル	参加人数
4月19日（土）	地黄と八味地黄丸	92名
5月17日（土）	キャンパス内の自然観察路を歩く	102名
6月21日（土）	身近にある毒草	110名
7月19日（土）	ムラサキと染色	86名
9月20日（土）	広東省の生薬について	88名
10月18日（土）	五倍子	70名
		計548名

○団体見学の利用

4月11日（金）	どりーむ23	12名
5月 6日（祝）	立野の丘校舎同窓会	15名
5月18日（日）	昭葉同窓会神奈川北相支部	20名
5月27日（火）	緑区ガイドボランティアの会	60名
5月28日（水）	町田市老人クラブ連合会	100名
6月 5日（木）	東海大学医学部学生	25名
6月16日（月）	南成瀬シニアクラブ	23名
7月 3日（木）	仙台第一高校校外研修	5名
7月 9日（水）	横浜市恩田地域ケアプラザ	13名
7月12日（土）	町田ウォーキング協会	153名
9月26日（金）	浜線'09	15名
10月 2日（木）	里山ウォーキング	32名
10月25日（土）	ふれあいサタデー（町田第5小学校）	14名
11月28日（金）	ふるさと町田ガイドボランティアの会	45名
11月29日（土）	山歩会	20名
		計552名

○土曜日の自由見学者数

4月（21名）、5月（4名）、6月（22名）、7月（12名）、8月（13名）、9月（23名）、
10月（16名）、11月（7名）、12月（5名）、1月（4名）、2月（10名）、3月（1名）

計138名

○職場体験の受け入れ

1月26～28日	東京都南大沢学園	4名
1月28～30日	相模原市立相陽中学校	3名

○漢方薬・生薬認定薬剤師 薬用植物園実習研修の実施

6月22日(日)

20名

10月11日(土)

22名

自己点検・評価：

植栽植物の充実については、本年も日本植物園協会の種苗交換を中心に積極的に新規植物の導入に取り組み、19種の植物を新たに導入した。薬用植物園の有効的な活用については、一般公開として本年度も年6回の薬草教室を実施し、そのほかに15団体の見学を受け入れ、合せてのべ約1,200名の見学者を受け入れた。また、薬剤師の卒後教育の一環として、漢方薬生薬認定薬剤師研修の植物園実習を2回実施した。前年同様、植物園でのインターンシップの受け入れを実施した。

引き続き、植栽植物の充実をはかり、積極的に団体見学等の受け入れや地域団体との交流活動を実施し、植物園の有効活用を図っていく予定である。

(3) 実験動物研究施設運営委員会

平成26年度 研究室別動物施設利用回数

	生化学	統合感染 免疫学	薬物 治療学	薬剤学	衛生化学	薬品作用学 (田口)	薬品 分析化学	分子生体 制御学	薬理学	薬剤師実務 教育(漢本)	薬品 物理化学	26年度 合計	昨年度比 (%)	25年度 合計
4月	125	32	60	10	129	56	5	0	2	33	0	452	99	458
5月	98	55	48	22	110	60	8	0	2	0	0	403	98	411
6月	100	44	52	32	20	56	9	0	0	0	3	316	133	238
7月	80	40	54	38	11	75	6	0	1	0	24	329	131	252
8月	71	39	55	29	0	34	12	0	0	0	2	242	109	222
9月	56	49	47	30	22	48	0	0	0	0	0	252	150	168
10月	76	61	33	10	32	0	0	0	0	31	19	262	161	163
11月	81	52	35	17	20	0	0	0	0	11	45	261	91	287
12月	86	54	14	6	138	1	0	0	0	0	0	299	119	252
1月	55	61	11	21	66	1	0	0	0	0	11	226	96	235
2月	87	61	39	48	31	1	8	0	1	0	2	278	72	385
3月	95	68	34	22	44	5	0	0	0	0	14	282	82	343
合計	1,010	616	482	285	623	337	48	0	6	75	120	3,602	106	3,414

* 総合計 3,602 回

平成26年4月1日～平成27年3月31日

活動概要

本年度は、集合形式の委員会を1回開催し、以下の議案について討議を行った。

平成26年6月4日(水) 17時00分から18時00分

三会議室

議 事

- (1) 幹事の選出：
- (2) コンベにおける遺伝子改変マウスの飼育管理の変更について：
- (3) 本年度の受益者負担金について：
- (4) 感染実験室の運営について：
- (5) 動物実験施設の改築の青写真について：

自己点検評価

本年度は、運営管理に全く問題がなかった。さらに、空調などの設備の不調についてもすみやかに対処を行い、研究に支障は出なかった。このように、研究活動は安定して行われており、本委員会による運営は機能していると評価出来る。

(4) 機器分析研究施設運営委員会

委員会日程

第1回 機器分析研究施設運営委員会

日 時：平成26年6月4日（水）16時30分～17時10分

場 所：機器分析研究施設セミナールーム

審議事項：

1. ORD-CDのA予算申請について
2. MS測定ライセンスについて
3. その他

第2回 機器分析研究施設運営委員会

日 時：平成26年10月14日（月）18時30分～19時10分

場 所：機器分析研究施設セミナールーム

審議事項：

1. ORD-CD平成27年度A申請について
2. 平成27年度予算案について
3. ハイテクリサーチセンター管理の単結晶X線回折装置の移管について
4. その他

活動概要

ORD-CD関係：教員、研究室配属の4年生以上の学部生および大学院生の利用も可能であり、全面的な解放装置として24時間利用可能な体制をとっている。本装置は導入から20年余りが経過しており、数年前より更新の検討が行われていた。ORD-CD更新ワーキンググループ（代表 岡本委員）にて機種選定の検討が行われ、提出された機種をA申請で購入申請することが本運営委員会にて承認された。

庶務委員会、教授会でも認められ、平成27年に購入することとなった。

単結晶単結晶X線回折装置の移管も決まった。

自己点検評価

X線解説装置がハイテクリサーチセンターから機器分析研究施設へ移管された。また、ORD-CD装置の更新も運営委員会で決まった。これらは何れも数年かけて慎重に決定したものであり、適切に運営されているものと評価できる。

(5) 共同機器室運営委員会

活動概要

昨年度に引き続き、メーリングリスト使用によるメール会議5回を実施し、以下の議案について討議を行った。

議事：

- 1) 幹事の選出について
- 2) 委員会予算について
- 3) 共同機器修理について
- 4) 共同機器室の美化について
- 5) 内規の確認について

自己点検評価

昨年度に続き、年間保守契約が締結された。対象機器については引き続き議論を重ねて行く必要がある。共同機器利用者講習会開催による共同機器の適正利用を図った。今後も、より安全で適切な機器の使用を心がけていただくために学内啓蒙活動をさらに行いたい。

(6) 放射線安全委員会

活動概要

本学RI研究施設の放射線取扱管理区域内での実験に先立ち、平成26年度の放射線取扱に関する教育訓練を2014年4月12日(土)に、健康診断と血液検査は4月4日(金)に実施した。教育訓練においては、法令の解説、安全管理の実際については、DVDによる事前教育、RI研究施設内部の説明と入退室時の注意事項、RIの注文方法、譲受、払い出しの仕方、廃棄物の処理法、放射性同位元素の管理区域内での使用方法、サーベイメータの取扱等の説明を行った。RI使用者(業務従事者)は各所属長を通じて登録申請を行う仕組みである。今年度は要件を満たした登録者は42名であった。

9月から10月にかけて約4週間にわたり、学部学生実習(薬品物理化学担当)の一環として、2年次生対象に放射化学関係の実習が実施された。実習内容は、GM計数装置による β 線測定と放射能の統計現象であり、下限数量以下の密封線源を用いて管理区域外で行われた。

自己点検・評価

管理区域内の月ごとの清掃、スミア試験、空気中濃度測定などは、これまでと同じく大和アトミックエンジニアリングに委託した。8月と1月に管理区域内の整理をおこなった。本学周辺の環境放射線量率の変化は、特段認められていない。

(7) 組換え DNA 実験安全委員会

活動概要

委員会開催

・第1回

日時：平成25年5月16日(金)

場所：本館4階 第4会議室

議事：

1) 幹事の選出

2) 平成26年度組換えDNA実験の継続、及び新規申請分の審議

・第2回

日時：平成25年7月15日(火) メール委員会

議事：新規組換えDNA実験計画書の審議

・第3回

日時：平成26年10月29日(水)

場所：第4会議室

議事：

1) 新規組換えDNA実験計画書の審議

2) 組換えDNA実験計画書の書式に関する件

3) 組換えDNA実験講習に関する件

自己点検・評価

教育・研究の目的で行われる組換えDNA実験が安全かつ、出来る限り円滑に実施されることを目標に掲げ、任務を遂行した。今後、より安全かつ適切に組換えDNA実験が学内で遂行されるために、より効率的な実験計画書書式の作製と組換えDNA実験の講習による学内教員の啓蒙をはかって行く。

(8) 環境保全委員会

本年度の目標と課題

実験・実習廃液の100% 原点回収

活動状況

1. 委員会の開催

平成26年6月6日

第1号議案：26年度幹事に関する件

第2号議案：研修に関する件

第3号議案：その他 実験により生じる廃棄物(特に感染性廃棄物)の処分料・処分量の見直しについて

平成26年7月7日

第1号議案：感染性廃棄物に関する件

平成26年9月4日

第1号議案：感染性廃棄物に関する件

平成27年1月28日

第1号議案：委員会内規に関する件

平成27年3月4日

第1号議案：中和処理槽水の指定有害物質濃度測定結果への対応に関する件

平成27年3月31日

第1号議案：中和処理槽水の指定有害物質濃度測定結果への対応に関する件

2. 「排水および廃棄物管理指針」と「震災対策マニュアル」

25年度末より委員会内で改訂・作成し、26年4月、学内周知した。

3. 学外研修会、講習会等

該当なし

4. 実験・実習廃液回収

第1回：平成26年5月13日

第2回：平成26年7月28日

第3回：平成26年12月17日

処理業者：三友プラントサービス株式会社

運搬業者：早来工営株式会社

5. 報告書提出

(1) 適正管理化学物質の使用量等報告書

(2) 廃棄物の減量及び再利用に関する計画書

(3) 第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書 (PRTR 届出)

(4) 特定排出事業者の産業廃棄物適正処理報告書

(5) ポリ塩化ビフェニル (PCB) 廃棄物の保管及び処分状況等届出書

(6) 産業廃棄物管理票交付等状況報告書

(7) 化学物質管理方法書

6. 排水検査結果について

町田市上下水道部水質管理課による事業場排水検査結果は、下水道法並びに町田市下水道条例の水質基準に適合(年2回不定期に検査)。

一方、水質汚濁防止法の改正に伴い、指定有害物質使用状況の学内調査と中和処理槽水の指定有害物質の濃度測定を実施した。28種類の指定有害物質のうち、「アンモニア性窒素」のみ基準値を超過したため、対応策を検討した。

8. その他

(1) 町田キャンパス(放流水)中和処理施設の計量証明書

(平成26年6月19日・平成26年12月25日)

オーヤラックスクリンサービス株式会社

污水处理施設(動物実験排水)の計量証明書(平成26年6月16日・平成26年9月22日・平成26年12月17日・平成27年3月24日)

株式会社神奈川環境研究所

自己点検・評価

26年度において、特筆すべき事項は以下の通りである。

1. 「排水および廃棄物管理指針」と「震災対策マニュアル」

化学物質管理方法書に含めて、平成26年5月30日付、町田市へ提出した。

2. その他

これまで、実験廃液に関する本学の基本姿勢である「100% 原点回収」は、関係各位の努力により厳守されてきたが、新たに判明した「アンモニア性窒素」への基準値適合のために、具体的な取組みを開始した。一方、年々増加傾向にある廃棄物の処理方法については、新たな対策が必要な時期にきており、学内調査の取り纏めを基に、今後の対応策を検討したい。

(9) 情報教育運営委員会

活動状況

前年度に引き続き、e-ラーニングシステムの点検と検討を行った。2014年度の時点で、既にいくつかの教室に配備されている機器等が耐用年数を過ぎていた。これらの状況を改善しつつシステムの刷新を行う目的で、2015年夏の予定でのe-ラーニングシステム更新を検討した。本学におけるmanabaインターフェイスとの連携を重視し、また機能の向上と安定性を中心に業者選定を行った結果、次期システムとしてメディアサイト社のシステムを導入することに決定した。また新システムでは映像の解像度が向上することで板書内容の視認性が改善する予定であり、タブレット端末への対応も可能となった。

機器およびシステムの稼働状況について、情報センターと連携して検討した。また講義視聴に関する学生からの要望は情報センターに届くため、情報センターと連携しながらいくつかの要望・苦情への対応を行った。

前年度まで運用していた教員間での講義相互視聴を引き続き可能にするため、manabaの機能を利用して、相互視聴コースを設置した。これにより全教員の間で、収録されている講義を相互に視聴することが可能となっている。

自己点検・評価

最大の懸案であったe-ラーニング新システムの選定を行った。これにより次年度以降は安定した運用が見込めると考えられる。

現時点での学生による利用は、昨年同様に年間延べ6万3千回以上の視聴数に上り、また試験期間のみならず、年間を通して利用されている。非常に有効な利用をされているこのシステムを運用する上で、本委員会としても重要な責務を果たしている。

(10) 学務システム運営委員会

活動概要

本年度は、メール会議を数回開催し、以下の討議を行った。

5/13：幹事の選出、東計電算とのリリースフローについて

5/23：年報について

5/23：リリース手順承認後の委員会内周知

5/30,6/17：情報センター運営委員会の準備

10/8～11/25：来年度の予算会議

1/27,1/28：内規確認

自己点検評価

昨年度に引き続き、システムの改良を進めるため、本委員会から積極的に管理会社に提言を行ってきた。しかしながら、実際に使用しているメンバーとの連携がうまく噛み合っていない事が明らかとなった。今後、効率のよい提案、改良に向け協議を行う必要がある。

5. その他の委員会

(1) 大学紀要編集委員会

活動概要

1) 紀要第49号の作成

- 7月の教授総会にて原稿募集の件を周知し、募集要項に関する情報を含むお知らせを全教育職員に配布した。
- 原稿の締切を10月末として、投稿希望者からは8月末までに投稿予定を連絡してもらうこととしたが、8月末までに投稿希望者が出なかったため、原稿の締切を11月末とした。期日までに集まった原稿を委員会メンバーで回覧、査読を行った。
- 査読は1本の原稿につき2名以上の委員が行い、査読者の専門領域についても考慮できないか検討したのち、委員で分担して査読を行った。
- 査読結果を投稿者に返却し、修正等の依頼を行った。
- 修正稿確認後、印刷に回し、その後著者校正と編集委員会校正を行った。
- 完成した紀要は、あいさつ状と共に例年配布している配布先リストにもとづき、庶務課の協力のもと郵送し、学内にも配布した。

2) 機関リポジトリ

- 昨年度の紀要第48号に続き、今年度も機関リポジトリ化を進めた。
- 今年度の紀要第49号完成時に、印刷業者にPDFデータも納入してもらい、図書館の協力により本学ホームページでの公開を行った。

自己点検・評価

今年度より委員長が代わったが、前委員長からの引継ぎが円滑に行われ、無事に紀要第49号を発行することができた。問題点は、原稿が集まりにくいということである。大学紀要は、学術的な貢献を果たすことだけでなく、大学内の（非常勤講師も含めた）職員同士の知的交流を促すという意味も持つので、論文だけでなく、研究余滴や啓蒙的な内容の原稿なども積極的に募集したい。

(2) RI 使用者委員会

活動概要

RI使用者委員会はRI研究施設の安全で円滑な運営を行うために置かれているもので、放射線安全委員会と連携して活動している。

年度末には、RI施設内の整理を行った。

平成26年度のRI使用者登録数（業務従事者数）42名（学外のみของผู้用者を含む）

研究室別内訳は次の通り。

薬品物理化学	13	薬物動態学	1	天然物化学	1
薬理学	14	医薬分子化学	6	衛生化学	1
薬物治療学	3	機器分析研究施設	1	数理科学	1
統合感染免疫学	1				

自己点検・評価

管理区域内において、事故を起こすことなく、安全にRIを使用する実験を行うことができた。

(3) バイオセーフティ委員会

活動概要

本年度も、昨年と同様に、集合形式の委員会をDNA安全委員会と合同で1回開催し、以下の議案について討議を行った。

平成26年5月16日（金） 17:30～

本館4階 第4会議室

議 事：

(1) 幹事の選出について

- (2) 病原体の保管状況についての調査及び各研究室の病原体管理者選任について
- (3) 学内施設のレベル確認について

自己点検評価

病原微生物等の使用・保管状況を徹底し、大学規定に則り、安全に取扱が行われるよう指導を行った。その結果、全く支障なく遂行された。

(4) 動物実験倫理委員会

活動概要

昨年度と同様に、新規動物実験申請が提出された毎に、委員会を開催した。開催された委員会において面接を行い審議認定を行った。

自己点検評価

3件が審査を受け、修正の上、全て受理された。審査は迅速に行われており、研究に支障をきたさず速やかに研究が開始されている。審査機構も全く問題なく機能している。

(5) 倫理審査委員会

活動状況

1. 委員会の開催

- 倫理審査請求のあった研究内容について審査すべく、委員会を開催した。基本的には、その申請書一式を各委員にメールで配信し、各自で精読し、意見をメールにて交換する方式、所謂メール委員会の形式を執った。これは、各委員それぞれ多忙のため、一堂に会するのが困難であること、審査対象の研究の多くが比較的シンプルなものが多く、細かい議論を必要としないこと、がその理由である。
- 2014年度は、倫理審査請求件数は16件であり、これら審査請求に対して逐次委員会を開催し、その結果、すべての審査請求を承認した。
- これによって、本委員会では、発足以来、計72件の倫理審査請求を承認したことになる。

2. 付記

本委員会は、「研究倫理委員会」という名称であったが、2014年度1月から、「倫理審査委員会」に変更になった。

3. 今後の動向

文部科学省と厚生労働省とは、2014年12月22日に、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を制定した。以下、その内容について明示してあるURLである。

http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf

http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1500_02.pdf

今後ますます、より直接的に「ヒトに役立つ」研究が重視される方向へ進んで行くのは、この効率重視一辺倒の世界の風潮の中では避けがたいであろう。本学でも、ヒト由来のサンプルを扱うことが、今後増加していくと思われる。その際、適正な研究を主導していく上で倫理審査委員会の役割は、益々重要である。

自己点検・評価

学内での適正な研究を主導すべく、委員会にて厳正に研究内容を吟味し、学内での適正かつ安全な研究活動維持に尽力した。今後も効率の良い委員会体制と各研究者の意識を高める啓蒙活動を維持継続する必要がある。

(6) 任期制評価委員会

活動状況

平成26年度は評価対象者が6名であり、再任願と共に提出された調査票を精査し、職位別による教育、研究、組織運営活動等の領域別での点数を算出した。各評価対象者の評価書は、評価対象者以外の全教員からの調査票を基にデータを作成し、職位別順位が記載されている教員の任期制評価基準の見直しについて検討し、新たな基準を完成させた。評価の調査期間については、平成27年度から、年間（1月～12月）から年度（4月～翌年3月）と変更することとした。

自己点検・評価

新しい教員の任期制評価基準を完成させた。また、評価の調査期間については、平成27年度から、年間（1月～12月）から年度（4月～翌年3月）とすることとしたことに伴い、「昭和薬科大学における教育職員の任期に関する規程」と「昭和薬科大学教育職員の評価委施行細則」の改定を検討し、教授会、理事会での承認を受けた。

(7) 入学試験管理委員会

活動状況

本委員会は、入学試験結果に関する判定の透明性を担保するとともに、将来的な志願者の動向等を踏まえた入学試験制度の検討を主たる目的とした機関であり、入学試験を実施する入学試験委員会とは別個に組織された機関である。平成27年度入学試験については、入学試験委員会から提出された入学試験結果の資料に基づき、指定校制推薦、公募制推薦、A方式、B方式、及びC方式の各試験方式に関して最終判定を行い、255名の新入生を迎えることとなった。

自己点検・評価

平成27年度の入学者数は定員（240名）を6%程度上回る結果となったが、予め想定された誤差の範囲内と考えている。本年度は、指定校推薦入試に係る推薦基準を上げるとともに、公募制推薦入試においては、基礎学力試験の科目として新たに数学を導入した。高い資質を有する学生の入学に寄与するべく、入学試験の制度、あり方について来年度もさらなる検討をおこなっていく。

(8) 就職支援委員会

委員会の開催

(1) 平成26年7月23日（水）※就職支援委員会の新設に伴い学生支援委員会と合同開催

- 議事
1. 就職支援委員会内規に関する件
 2. 合同企業説明会・ガイダンスに関する件
 3. 就職支援体制の充実に関する件

平成26年度就職ガイダンス 実施実績

実施日時			タイトル
平成26年 4月16日	水	1630-1800	就活基礎講座
平成26年 4月22日	火	1630-1800	薬剤師の働き方と医薬品業界の変化
平成26年 5月 7日	水	1600-1730	業界研究《病院》
平成26年10月21日	火	1300-1430	薬学生の可能性を理解する
平成26年11月18日	火	1100-1630	キャリアを考える週間
平成26年11月19日	水	1100-1630	
平成26年11月25日	火	1100-1630	
平成26年11月27日	木	1100-1630	
平成26年12月 9日	火	1040-1210 1300-1430	面接対策講座
平成26年12月16日	火	1040-1210 1300-1430	
平成26年12月17日	水	1630-1800	薬剤師の「未来予想図」Day1
平成26年12月18日	木	1040-1210 1300-1430	面接対策講座
平成26年12月19日	金	1500-1630	薬剤師の「未来予想図」Day2
平成27年 2月14日	土	1300-1430	面接対策講座 「グループディスカッションを通じてコミュニケーション能力を身につける」
平成27年 3月25日	水	1300-1630	合同企業説明会
平成27年 3月26日	木	1300-1630	
平成27年 3月27日	金	1300-1630	
平成27年 3月28日	土	1300-1630	

平成27年3月 卒業生進路別人数表(学部)

平成27年5月1日現在

		薬 学 科		総 計		割 合 (%)	
		男	女	H27.3 卒	H26.3 卒	H27.3 卒	H26.3 卒
進 学	本学	3	1	4	1	2.2	0.5
	他大学				1		0.5
	進 学	3	1	4	2	2.2	1.0
就 職	製薬企業(MR)	6	8	14	9	7.6	4.3
	製薬企業(研究)	1	1	2	2	1.1	1.0
	製薬企業(開発)						
	製薬企業(開発以外)				1		0.5
	製 薬 企 業	7	9	16	12	8.6	5.8
	企業(CRO・SMO)	5	4	9	4	4.9	1.9
	企業(化粧品)		2	2	2	1.1	1.0
	企業(卸)	1		1	2	0.5	1.0
	企業(その他)	1		1	3	0.5	1.4
	そ の 他 企 業	7	6	13	11	7.0	5.3
	製薬企業・その他企業合計	14	15	29	23	15.7	11.1
	病院(国立)	1	3	4	6	2.2	2.9
	病院(公立)	7	4	11	7	5.9	3.4
	病院(私立)	5	14	19	42	10.3	20.2
	研修生		1	1	1	0.5	0.5
	病 院	13	22	35	56	18.9	26.9
	薬局(調剤薬局)	18	34	52	70	28.1	33.7
	薬局(調剤併設ドラッグストア)	10	29	39	43	21.1	20.7
	薬 局	28	63	91	113	49.2	54.3
	公 務 員	1	2	3	4	1.6	1.9
	教育(研究生)・その他等	1		1		0.5	
	進路決定者合計	60	103	163	198	88.1	95.2
	就 職 せ ず(留 学 等)						
	活 動 中	4	7	11		5.9	
	判断保留中・国試後(未定)				1		0.5
	進路未決定者(未提出)	4	7	11	9	5.9	4.3
	総 計	68	117	185	208	100	100

自己点検・評価

- 今年度は就職支援委員会で決定の就職支援プログラムを展開。
- CSSの日常的な就職相談、ES添削などは引き続き学生課職員が担当。
- 教員の進路支援システム登録を1年掛けて促進の結果登録率は61.6%まで増加。今後更に教員による就職支援に活用を促進して参りたい。
- 今年度卒業生も殆どの学生が内定を得た。昨年度との比較では薬局が54.3%から49.2%と減少した反面、製薬会社や治験受託機関など企業への就職が11.1%から15.7%と4.6ポイント増加。今後、就職活動の所謂後ろ倒しや国家試験の難易度上昇などの要因を背景に薬学生の企業離れが懸念される為、従来以上に適時適切な狙いを持った情報発信の強化が求められる。

6. 施 設

(1) 体育施設

活動概要

体育施設は下記にあげる施設を大学行事、体育実技、本学学生の課外活動、本学学生が所属する学生団体の各種大会、職員の福利厚生として利用している。近隣地域の団体の希望により、大学の行事に影響しない日曜日の早朝にテニスコートを開放している。また同様に、卒業生等にテニスコートを開放している。

- 1 体育館
- 2 武道場（空手、柔道、少林寺・剣道）
- 3 卓球場
- 4 テニスコート
- 5 グランド
- 6 弓道場

自己点検・評価

体育施設利用は学生のクラブ活動を中心に進められており、年間計画に沿って適正に運営されている。各種大会利用も盛んであり、本学学生が参加している加盟団体による各種大会が開催され、他大学の学生も含めた活発な活動が行われている。

テニスコートはコート表面のクラックが進み、そこから雑草が生えてくるような状態で事故の危険が高く、早急な修理が必要である。

(2) RI 研究施設

活動概要

RI研究施設は、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」による原子力規制委員会の許可施設である。平成26年度は、以下の活動を行った。

1. 放射線管理状況報告（原子力規制委員会へ提出）
2. 核燃料物質管理報告（原子力規制委員会へ提出）
3. 放射線安全委員会予算管理
4. アイソトープ管理
 - 1) 研究用アイソトープ発注、入庫、使用、保管、廃棄の管理
 - 2) RI使用カード、廃棄カードの作成と記録の整理
 - 3) RI保管庫の在庫確認
 - 4) 日本アイソトープ協会へRI廃棄物の委託廃棄
5. RI業務従事者管理
 - 1) 学内教育訓練の実施
 - 2) 管理区域への入退室カード（ICカード）登録
 - 3) 入退室記録管理
 - 4) 個人被ばく線量（クイクセルバッジ装着）管理
6. RI施設管理
 - 1) 排気排水管理
 - 2) 管理区域エリアモニタ管理
 - 3) 汚染検査
 - 3) 機器管理
 - 4) 設備管理
7. ハンドフットクロスモニタの更新

自己点検・評価

本学周辺の環境放射線量率には、特段の変化は認められなかった。

本研究施設管理区域内のRI管理は法令に従い、厳重に行われた。

(3) 機器分析研究施設 (Research Facility for Instrumental Analysis)

学会報告

- Masayoshi Kobayashi, Ichiro Tanaka, Tamiko Kiyotani, Nobuo Niimura: Towards direct observation of electron transfer due to enzymatic reaction in trypsin by μ SR
The 2nd International Symposium on Science at J-PARC (つくば) 平成26年7月
- Tamiko Kiyotani, Ichiro Tanaka, Masayoshi Kobayashi, Nobuo Niimura: Observation of electron transfer associated with enzymatic process by μ SR
23rd Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography (IUCr 2014) (Montreal, Canada) 平成26年8月
- 清谷多美子、田中伊知朗、小林政義、新村信雄: 酵素反応に伴うプロトンおよび電子移動の μ SRによる視覚化
超低速ミュオン顕微鏡が拓く物質・生命・素粒子科学のフロンティア
第3回領域会議公開シンポジウム (仙台) 平成26年9月
- Tamiko Kiyotani, Ichiro Tanaka, Masayoshi Kobayashi, Nobuo Niimura: Visualization of proton and electron transfers under enzymatic reaction by μ SR
超低速ミュオン顕微鏡が拓く物質・生命・素粒子科学のフロンティア
第3回領域会議公開シンポジウム (仙台) 平成26年9月
- 小林政義、田中伊知朗、清谷多美子、新村信雄: トリプシン酵素反応に伴う電子とプロトン移動の直接観察のための μ SR実験
第3回物構研サイエンスフェスタ (つくば) 平成27年3月

研究施設短報

清谷：茨城県東海村の大強度加速器施設 (J-PARC) の物質・生命科学実験施設 (MLF) で単結晶中性子回折装置「SENJU (千手)」で日本原子力研究開発機構 (JAEA) のプロジェクト課題の実験を実施し、解析を進めている。

粉末X線結晶構造解析に関する課題が、高エネルギー加速器研究機構 (KEK)・放射光科学研究施設 (PF) の一般実験課題として採択されている生体関連有機物の粉末回折実験および解析を進めている。

新学術領域「超低速ミュオン顕微鏡が拓く物質・生命・素粒子科学のフロンティア」の公募研究に応募した研究課題「酵素反応に伴う電子伝達・プロトン移動由来内部磁場のミュオン測定」が採択された。東海村の大強度陽子加速器施設 J-PARC のミュオン実験施設 (MUSE) の実験課題にも採択され、実験を実施、解析を進めている。

千葉 (一)：依頼分析を中心に測定を行った。当施設の質量分析装置は有機分析用であり、有機物の測定が中心であるが、無機ガス試料の測定依頼があり、条件等を検討し、最終的に依頼者の満足できる結果が得られた。職員、学生を対象に利用説明会および測定講習会を実施した。

施設の管理・運営に従事するとともに、可能な範囲において教育・研究活動を行うことにより、貢献しているものと評価する。

教育研究活動支援

核磁気共鳴装置 (NMR) に関しては、ブルカー・バイオスピン社製のクライオプローブ (極低温検出器) を装備した 600MHz および 300MHz の 2 機の NMR、日本電子社製の 300MHz の NMR 1 機の計 3 機が稼動した。全 NMR はオートサンプルチェンジャーを装備し、効率的な測定利用を可能にしており、年間を通して昼夜ともにほぼ利用されている。

ブルカー・バイオスピンおよび日本電子社製の 2 機の 300MHz の NMR の利用は、研究室配属の 4 年生からの利用を可能としている。今年度の利用登録者数は昨年度に引き続いて 100 名を越えた。日本電子社製の NMR の測定本数は前年度の約 80% 増、ブルカー・バイオスピン社製の NMR については約 20% 増で、全体的には約 50% 増加している。

ブルカー・バイオスピン社製の 600MHz の NMR に関しては、天然物をはじめとする微量しか得られない化合物やタンパク質の構造解析が行われた。利用については職員のみとしているが、利用研究室では、学生が 600MHz の NMR での実験に立ち会うことにより、実験方法やデータ処理、構造解析に関する教育を行っている。

3年次の天然物化学実習(9、10月)で、300MHzのNMRを用いて実習を行なった。

装置および測定法、解析ソフトなどに関する最新の情報を得るために、分析展/科学機器展2014(9月)、ブルカー・バイオスピン(10月)のユーザーズミーティングに参加し、メーカーおよび他の研究・教育機関のユーザーと情報交換、交流を行った。

質量分析装置(MS)に関しては、日本電子社製のMS700、T100の計2台が稼働した。また、これらのうちT100は依頼測定のみならず、教員および研究室配属の4年生以上の学部生、大学院生の利用も可能となっており、学生利用者は活発である。これまでの依頼測定中心の利用から、利用者自身による測定利用へと移行しつつある。

MS関連の最新情報を得るために、日本電子のMSユーザーズミーティング(12月)日本質量分析学会の下部組織であるTMS研究会(11月)に参加し、メーカーおよび他の研究・教育機関のユーザーと情報交換、交流を行った。

ORD-CDに関しては、教員、研究室配属の4年生以上の学部生および大学院生の利用が可能であり、全面的な解放装置として24時間利用可能な体制をとっている。今年度は昨年度と比較して利用実績は減少しているが、研究・教育には欠くことのできない装置である。

研究室管理装置である元素分析装置に関しては、薬品化学研究室が管理しており、運用およびメンテナンスを行っている。利用状況は年度および時期により多少の変動はあるものの一定量の利用が続いている。

ハイテクリサーチ管理装置である単結晶X線回折装置に関しては、利用状況は時期により多少の変動はあるものの一定量の利用が続いている。

これまで医薬分子化学研究室が管理していたが、利用希望および利用者数が増加傾向にあることから、10月の運営委員会で機器分析研究施設への移管が承認され、その後移管手続きを経て機器分析研究施設所属の装置となった。

個別評価

(1)NMR関係：近年、化学系分野の研究において欠くことのできない分析機器であり、さらに生物系分野の研究に関しても利用が増加しているNMRに関しては、トラブルによる長時間停止状態は致命的であり、教育・研究活動に多大な支障を来すので、日頃より、トラブル発生時は即報告するよう利用者に徹底するとともに、施設側も一刻も早く原状回復するべく迅速な対応を心がけている。

2機の汎用300MHzのNMRにより、膨大な数のサンプルの測定を行っているが、これまでの経験に基づいた管理体制の構築により順調に稼働している。多くのサンプルを効率的に測定することと、更に多くの利用者が使いやすいように、条件設定が簡単な自動測定システムで運用している。利用方法については、利用者と改善点などについて議論し、状況に応じて利用しやすい方法を取りいれて採用、実施するようにしている。

600MHzのNMRに関しては、超高感度検出器であるクライオプローブを装備しており、タンパク質試料の実験も可能である。

依頼測定に関しては、随時受付けており、マシンタイムが空いていれば可能な限り利用者の要望に応えるよう努力している。

本学の全NMRにオートサンプルチェンジャーを装備しており、これにより複数のサンプルそれぞれに対して複数の測定を自動で行うことができ、24時間利用可能な体制を構築している。また、ヘビーユーザーの研究室には、ブルカー・バイオスピンおよび日本電子、さらにACD/LabsのNMR Workbookの3種類のデータ処理システムが設置されており、研究室で実験しながら、合間にデータ処理や解析を行える体制を構築している。研究室設置のデータ処理システムに関しては、各研究室所属の学生の利用が可能であり、実践的な教育・研究を可能にしている。ACD/Labs社のソフトに関しては、毎年バージョンアップし、最新版を提供するとともに、利用者の希望に応じて随時利用講習会を開催し、利用者へ配慮している。

NMRは薬剤師国家試験の出題範囲であり、3年次の天然物化学実習では、機器分析研究施設のNMRを用いて実習を行うことにより実地教育に配慮している。

今後も引き続き、利用者の希望に応じて、利用講習会および実機を用いた測定法の講習会の開催を行う予定である。

日本電子の300MHzのNMRに関しては、導入後18年が経過し、断続的に不具合が発生しており、トラブルの発生回数も増加傾向にある。更新の検討については、機器分析研究施設運営委員会で承認されているが、教育・

研究において絶対に欠くことのできない装置であり、早期の更新への対応が望まれる。

(2)MS関係：HX110は今年度よりメーカーの保守契約対応が廃止となり、測定についてはMS700で代用可能なこと、さらに継続的な電気代の高騰による高額な待機電力も考慮し、運営委員会で検討した結果、6月に停止した。MS700およびT100は大きなトラブルもなく、高稼働率を維持した。T100に関しては利用者自身による測定が多く、この傾向はさらに伸びていくものと思われ、今後は利用講習の内容を充実させていく。ダイレクト測定用ガラスキャピラリチューブを購入品から自作に変更することにより、経費削減に配慮した。

(3)ORD-CD関係：教員、研究室配属の4年生以上の学部生および大学院生の利用も可能であり、全面的な解放装置として24時間利用可能な体制をとっている。本装置は導入から20年余りが経過しており、数年前より更新の検討が行われてきたが、来年度、A申請で購入申請することが運営委員会に提案され、承認された。

(4)元素分析装置関係：導入から10年余りが経過し、利用状況は年度により多少の変動はあるものの一定量の利用が続いており、教育・研究に必要な装置である。

(5)単結晶X線回折装置関係：化合物の構造決定法としては強力な手段であり、教育・研究に必要な装置である。本装置は一辺が0.1mm以下の微小結晶による、軽元素から構成される有機化合物の構造決定に威力を発揮する仕様となっている。すなわちX線強度が強く、室温測定では試料が溶解することから、測定は試料環境を100K (-170℃) に保持して行う必要があるが、試料吹付低温装置の温度が100Kまで下がらず、早急なメンテナンス対応が望まれる。利用者および利用数については増加傾向にあり、10月に機器分析研究施設に移管されたが、現在、経年劣化により部品交換が必要と思われる不具合も発生しており、安定した利用のためにも、来年度、保守契約が締結されることが強く望まれる。

自己点検評価

日頃より利用者とのコミュニケーションを心掛けており、研究室の事情により、装置の利用方法および規則に関して不都合が生じた際は、早急に改善策を検討・提案するとともに、利用しやすい利用規則に変更するなどの対応を行っている。

施設利用に関しては、セキュリティのため、出入口に電子錠を設置しているが、利用者は夜間・休日も各自のICカードで入退室可能であり、定期点検や故障発生時以外は、年間を通して24時間利用可能な体制をとっている。夜間、休日などの施錠時の入退室については、原則的に、利用研究室より申請を受け、装置講習および施設利用の説明を受講した者に入退室許可を与えており、利用者が安心して利用できるよう配慮している。

全装置は、年間を通して24時間稼働しているため、また、装置数も決して多くないことから故障は避けられないが、メーカーと保守契約を結ぶことにより、故障時の迅速な対応を可能にし、一刻も早い原状回復をすべく万全の態勢を整えている。さらに毎年装置の定期点検を実施し、年間を通して高性能な状態を維持している。

当施設は、利用者が安全で安心して利用できるよう、更によりよい成果を挙げられるよう施設の体制作りについて、運営委員会が中心となり、研究室および施設スタッフの協力により、さらに利用者の協力を得て円滑に管理・運営・運用されているものと評価する。

<研究室別利用状況>

1. NMR

(1) ユーザー測定

AL300 (日本電子)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
薬 化 学	511	346	485	435	478	434	241	261	300	120	247	158	4,016
薬品作用学教育 (堀口)	30	32	13	25	18	13	17	19	6	0	0	0	173
化学系薬学教育 (毛利)	36	21	13	8	9	2	0	0	0	0	0	0	89
薬品化学	86	112	103	153	224	79	123	89	17	67	152	132	1,337
機器分析研究施設	1	3	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	7
合 計	664	514	614	622	729	529	381	369	323	188	399	290	5,622

AV600 (ブルカー・バイオスピン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
天然物化学	52	8	15	68	9	10	1	1	0	36	35	20	255
医薬分子化学	10	21	3	13	38	63	0	1	0	0	0	0	149
薬品化学	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10
合 計	62	29	18	81	47	73	11	2	0	36	35	20	414

AV300M (ブルカー・バイオスピン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
天然物化学	29	33	81	94	60	23	4	15	19	14	12	16	400
薬 化 学	4	21	32	9	12	10	21	20	48	9	26	56	268
医薬分子化学	363	435	331	410	310	288	160	296	231	159	205	109	3,297
薬品化学	1	29	43	59	18	4	10	7	8	17	17	15	228
薬品物理化学	13	2	9	6	18	5	0	0	1	0	0	4	58
衛生化学	0	0	0	0	0	7	2	0	0	0	0	0	9
薬品分析化学	4	0	0	0	2	1	3	0	0	0	2	3	15
機器分析研究施設	0	1	0	0	0	12	17	0	0	2	0	0	32
合 計	414	521	496	578	420	350	217	338	307	201	262	203	4,307

(2) 依頼測定

AV600 (ブルカー・バイオスピン) ※ AV300M で測定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
漢方治療学教育	0	24	0	56※	0	0	16	0	0	4	0	8	108
薬品分析化学	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
合 計	0	24	0	56	0	5	16	0	0	4	0	8	113

2. MS

(1) ユーザー測定

T100 (日本電子)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
薬 化 学	8	9	0	0	0	6	4	9	0	0	1	0	37
医薬分子化学	20	85	27	87	74	190	15	22	29	19	56	67	691
合 計	28	94	27	87	74	196	19	31	29	19	57	67	728

(2) 依頼測定

MS700、T100 (日本電子)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
天然物化学	0	6	6	2	3	12	0	0	1	0	0	0	30
漢方治療学教育 (北島)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
薬品作用学教育 (堀口)	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8
化学系薬学教育 (毛利)	15	0	7	10	5	14	0	0	0	0	0	0	51
実習・教育支援室 (佐藤(良))	0	0	0	11	8	0	0	0	4	4	0	0	27
薬 化 学	25	22	27	63	78	112	58	4	40	0	20	16	465
医薬分子化学	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0	6
薬品物理化学	0	3	4	6	26	3	0	0	0	0	2	0	44
薬品化学	8	4	9	23	24	20	15	25	4	4	4	5	145
薬品分析化学	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
合 計	48	35	53	125	144	163	75	29	49	8	30	21	780

3. ORD-CD J-600 (日本分光) (ユーザー測定)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
医薬分子化学	0	9	0	0	0	36	0	0	6	0	0	0	51
統合感染免疫学	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	5	8
合 計	0	9	0	0	0	39	0	0	6	0	0	5	59

※研究室管理

1. 元素分析装置 FLASH EA1112 (Thermo Finnigan) (薬品化学)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
薬品化学	3	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20

※ハイテクリサーチ管理 (移管手続きを経て、10月以降、機器分析研究施設管理)

1. 単結晶X線回折装置 RAPID II with VariMax (リガク) (医薬分子化学)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
薬 化 学	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
薬品化学	0	0	6	0	0	0	0	0	2	0	0	0	8
機器分析研究施設	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
合 計	0	1	7	0	0	0	0	3	4	0	0	0	15

7. その他

(1) 外部資金取得状況

平成 26 年度外部資金取得状況

項目	件数	合計金額 (千円)	備 考
科学研究費助成事業 (文部科学省・日本学術振興会)	22	41,800	
奨励研究寄付金	7	6,250	
受託研究費	1	8,000	
その他	1	19,850	創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業

(2) 文部科学省 創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業

1. はじめに

文部科学省は平成 24 年度から 5 年間の予定で「創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業」を実施している。本事業は、創薬プロセス等に活用可能な技術基盤の整備、積極的な外部開放 (共用) 等を行うことで、創薬・医療技術シーズ等を着実かつ迅速に医薬品等に結び付ける革新的プロセスを実現することを目的とし、公募により採択された機関が、外部研究者等を支援すると共に技術の高度化を推進する。本学は、本事業の制御拠点・合成領域の公募に「メカニズムを基盤としたデザインと先端的合成法による画期的な次世代医薬品候補化合物の創出」の課題名で応募し、採択された。有機化学系 4 研究室の上記メンバーが中心となり、24 年度より 5 年計画で実施している。

2. 成果報告

26 年度は以下の支援と高度化を行った。

【支援】

- ① SPU 化合物ライブラリーの充実：315 個の化合物を SPU 化合物ライブラリーに移管した。その内、テルペノイド、ステロイドを含む 179 個の化合物を制御拠点 (東京大学) 化合物ライブラリーに提供した。26 年度計画の 100 個を大きく上回る数の化合物を提供できた。5 年間で 600 化合物の提供が目標であるが、現在 524 化合物を提供しており順調な進行状況である。
- ② 化合物合成依頼：依頼のあったキナーゼ阻害剤の合成をおこなった。共同研究として行っている「シアリダーゼ阻害剤創製」のヒット化合物とその類縁体の合成を行い、それら化合物を提供した。

【高度化】

- ① 金触媒によるペリリジン骨格構築法の開発および複素環化合物の合成：分子内の適切な位置にスルホンアミドを有するプロパルギルアルコールを 1 当量のメタノール存在下 Au(I) 触媒で処理すると Meyer-Schuster 転位が進行し、反応系内で α, β -不飽和ケトンを生じ、続いて分子内 aza-Michael 反応が進行してペリリジン環を与える反応を見いだした。また、改良 Pictet-Spengler 反応を利用して 1 位に種々の炭素鎖をもつ三環性複素環化合物 (ベンゾチエノ [2,3-c] テトラヒドロピリジン) 20 種類の合成に成功した。
- ② 天然資源植物から新規トリテルペノイドの探索：生薬やシダ類に含まれるトリテルペノイドを中心に分離精製し、中国産シダ *Adiantum davidii* Franch. から既知化合物を 5 種類及び新規化合物を 6 種類単離し、構造を同定または決定した。また、東京薬科大学尹永淑氏との共同研究で、ブラジル産生薬 *Hyptis crenata* Pohl ex Benth. から新規 bis-seco-abietane 骨格のジテルペノイド hysptisolde A を単離・構造決定し報告した。得られた化合物は本事業のライブラリーに供出することが可能である。
- ③ リガンドの高機能化：2 位に水酸基を有するビタミン D 誘導体と末端にアジドをもつリンカーを結合させた。この化合物とビタミン D 受容体 (VDR) の共結晶化に成功し、X-線結晶構造解析からアジドがタンパク質表面に暴露していることを確認した。この共結晶に蛍光標識されたアルキンを作用させるとヒュスゲン環化反応が進行し、VDR を蛍光標識することができた。

3. 自己点検・評価

平成 26 年度から、本プロジェクトに伴慎太郎博士が特任博士研究員として加わり、活発な活動ができた。SPU 化合物ライブラリーに 315 個の化合物を移管し、そのうち 179 個の化合物を制御拠点 (東京大学) 化合物ライブラリーに提供した。重要な支援任務である合成依頼にも対応した。高度化においては、メンバーがそれぞれの専門性を活かして目標達成に向けて研究を進展させた。以上のことから本事業は概ね順調に進行していると評価できる。

(3) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 「生体分子コバレント修飾の革新的解析拠点形成」プロジェクト

1. 平成26年度活動報告

本学ハイテクリサーチセンターに属する研究プロジェクト「生体分子コバレント修飾の革新的解析拠点形成」は、平成25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、平成25年度から29年度まで、プロジェクトの遂行に必要な研究経費等に助成を受け、研究レベルの国際化および若手研究者支援を含めて活動することとなった。

昨今解析機器の著しい進歩に伴い、生体内分子のコバレント修飾部位同定、コバレント修飾の定性及び定量分析研究が盛隆となっている。一方化学工業・医薬品化学の進歩により、本来自然界に存在しない様々な化合物が合成され、これらの新規化合物が生体内分子とコバレント修飾することにより、新たな生体内分子とのコバレント化合物が見出されている。加えて生体内では、タンパク質が一過性に様々なコバレント修飾を受けることで細胞内シグナル伝達を行っている。本プロジェクトは、本学ですでに稼働している低分子量から中分子量をターゲットとした質量分析装置に加え、本プロジェクトで購入した質量分析装置 (LC-Q-TOF-MS) を用いて低分子量から高分子量まで広範囲にわたって定性・定量解析を行い、迅速に様々な生体内分子のコバレント修飾を定性・定量分析できる拠点形成を行っている。加えて、平成26年度にはセルソーターを購入し、細胞内のコバレントシグナルを定量化し、さらにはコバレント修飾の違いを一細胞ごとに分離することができるようになり、細胞内シグナル伝達を詳細に検討することをできるようになっている。これにより、創薬、薬理、生理、毒性、物性、薬物動態等の全薬学領域で連携できる本学独自の研究基盤を未来永劫にわたり展開できる体制となり、薬学研究の発展に寄与することを目的として、プロジェクトは始動した。

本プロジェクトは、教授を中心とした着実な研究推進を行う計画班および本学所属の若手研究者による公募班より構成される。計画班は、有機化学、分子細胞生物学、環境毒性学、臨床薬理学等、多岐にわたるが、生体内微量分子のコバレント修飾部位の同定・定量は、薬学全領域共通基盤研究であるため、計画班を3つのサブテーマに分け、有機的に連携する共同基盤研究を展開することにより、新たな創薬研究の基盤形成が可能となるような組織構成をとっている。また、若手助成採択者である中根准教授は、薬用植物より単離・精製した新規化合物を本プロジェクト研究班に提供し、コバレント修飾シグナル制御を視野に入れた新規治療薬のリード化合物探索の一端を担っている。

サブテーマ1：コバレント修飾型の医薬品創製およびコバレント結合した医薬品代謝物合成

サブテーマ2：細胞内微量タンパク質のコバレント修飾変化と疾患

サブテーマ3：医薬品を含む外来異物の生体内代謝産物の有効性・毒性

若手助成採択研究：新しい天然資源植物の探索及び成分研究

本プロジェクトでは、プロジェクト開始時より、関連分野の著名な研究者を外部評価委員として招へいし、助言を求める機会を設定することにより、効果的かつ効率性の高いプロジェクト推進を図っている。さらに平成26年度は、サブテーマ2に属する構成員が中心となり、中国ならびに韓国より先端研究者と博士課程に属する若手研究者を招き「シグナル伝達の翻訳後修飾と疾患」に関する第一回コバレント修飾リサーチ国際シンポジウムを開催し、本学若手研究者の国際交流及び研究の活性化を図った。

本学ハイテクリサーチセンターでは、所属する研究プロジェクトの共催により月例報告会と年次成果報告会を開催している。月例報告会は、研究室毎に毎月担当することとして実施している。平成26年度の実施状況は以下の通りである。

1) 月例報告会

- 平成26年5月13日 薬品化学研究室 “キラリティ”
- 平成26年6月3日 薬品物理化学研究室 “放射性プローブ”
- 平成26年7月1日 薬剤師実務教育(湊本)研究室 “実務の研究例”
- 平成26年9月2日 薬物治療学研究室 “細胞内pH制御”
- 平成26年10月7日 生化学研究室 “TGF- β シグナルと疾患”
- 平成26年11月5日 衛生化学研究室 “Metallomics –メタロミクス–”
- 平成26年12月2日 医薬分子化学研究室 “Biacore & Q-TOF MS”
- 平成27年3月3日 薬化学研究室 “合成”

2) 平成26年度報告会

主催：昭和薬科大学ハイテクリサーチセンター

共催：私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「コバレント修飾リサーチ」
創薬プラットフォーム事業

日時：平成27年4月3日（金）

当日は46件のポスター発表があり、250名を超す参加者があった。学生によるポスター発表の受賞者として、以下の3名が選ばれた。

優秀発表賞 森 彩里穂（生化学研究室 5年生）

優秀発表賞 伊藤 諒（薬物治療学研究室 6年生）

優秀発表賞 菅野 大輝（医薬分子化学研究室 6年生）

3) 第一回コバレント修飾リサーチ国際シンポジウム (1st Symposium of SPU Innovative Project for Pharmaceutical Analyses of Covalent Modification in Biomolecules)

“Dysregulation of post-translational modification for signal transducing molecules and diseases”

日時：平成26年8月28日（木）～29日（金）

<国内招聘研究者>

井上 純一郎（東京大学医科学研究所 教授）

“NF- κ B, a key player in breast cancer development”

新井 洋由（東京大学大学院薬学系研究科衛生化学教室 教授）

“Emerging role of the fatty acyl chain in membrane phospholipids”

川原 裕之（首都大学東京大学院 理工学研究科 生命科学専攻 教授）

“Essential roles of BAG6 complex in selective elimination of defective transmembrane protein”

宮澤 恵二（山梨大学医学部生化学講座第二教室 教授）

“Regulation of TGF- β signaling by a peptidyl-prolyl cis/trans-isomerase, Pin1”

山内 敏正（東京大学医学系研究科 糖尿病・代謝内科 准教授）

“Development of a small-molecule AdipoR agonist for type 2 diabetes and short life in obesity”

<国外招聘研究者>

Dr. Chin Ha Chung (School of Biological Sciences, Seoul National University)

“UFMI as a key regulator of ER α -positive breast cancer development”

Dr. Hee Min Yoo (School of Biological Sciences, Seoul National University)

“Contribution of c-Cbl mutations in human glioma and its malignant behavior”

Dr. Jong Ho Park (School of Biological Sciences, Seoul National University)

“DBC1 sumoylation is crucial for p53 mediated apoptosis”

Dr. Xin-Hua Feng (Life Sciences Institute, Zhejiang University)

“Turning off BMP Signaling: Mechanisms and Functions”

Dr. Shuchen Gu (Life Sciences Institute, Zhejiang University)

“Role of Acetylated α -Tubulin in Epithelial-Mesenchymal Transition”

Dr. Yi Yu (Life Sciences Institute, Zhejiang University)

“Regulation of Embryonic Stemness by Smad7”

Dr. Sheng-Cai Lin (School of Life Sciences, Xiang'an Campus, Xiamen University)

“AMPK activation and switch between catabolism and anabolism”

Dr. Chen-Song Zhang (School of Life Sciences, Xiang'an Campus, Xiamen University)

“The lysosomal v-ATPase-Ragulator complex is a common activator for AMPK and mTORC1, acting as a switch between catabolism and anabolism”

Dr. Yang Li (School of Life Sciences, Xiang'an Campus, Xiamen University)

“No growth factors? Let's go (GSK3) to (TIP60) autophagy (ATG1/ULK1)”

<本シンポジウム参加教員>

石戸 聡 (統合感染免疫学研究室 教授)

“Loss of MHC class II ubiquitination negatively regulates dendritic cells”

伊東 進 (生化学研究室 教授)

“Fine-tuning of TGF- β signaling”

水谷 顕洋 (薬物治療学研究室 教授)

“Multisite phosphorylation of IRBIT is central to the regulation of multiple cellular signaling pathways.”

梶川 瑞穂 (統合感染免疫学研究室 助教)

“Recognition modes by membrane-associated E3 ubiquitin ligases”

中野 なおこ (生化学研究室 特任助教)

“TMEPAI family, a novel negative regulator of TGF- β signaling”

濱田 浩一 (薬物治療学研究室 助教)

“IRBIT plays a critical role in adipocyte differentiation”

出席者：国内外招聘研究者14名、本学シンポジウム参加教員6名、本学外部評価委員1名、昭和薬科大学教員および学生144名(2日間延べ人数)、学外参加者3名

2. 自己点検・評価

本プロジェクトは、月例報告会の開催状況、年次報告会の参加者数および発表件数、国際シンポジウム開催及び参加人数、設置機器の稼働状況等の観点から判断し、順調に始動したものと評価している。加えて、若手研究者助成者として平成26年度から2年間の予定で本学天然物化学研究室 中根 孝久准教授を採用し、本プロジェクトが益々充実された。一方、平成27年2月末でサブテーマ3の構成員である小椋 康光 教授が退職されたため、次年度からは8名の計画班員で活動を行う予定である。本プロジェクトによる研究成果や研究成果報告会の開催状況は、逐次本プロジェクトのweb site(以下にURLを示した)で公開している。さらに研究成果の一部は、本学で行う生徒向けの行事である昭薬未来塾、オープンキャンパス、ひらめき☆ときめきサイエンス(日本学術振興会事業)等を通じて、社会還元も図っている。中間評価を控える来年度に向けて、さらなるプロジェクトの発展を目指すべく、日夜研究活動に各班員は励んでいる。

本プロジェクトのweb siteのURL：<http://www.covalent.hrc.shoyaku.ac.jp/index.ht>

Ⅱ．研究室年間業績と研究室活動短報

医療薬学系 (Devision of Pharmacy and Health Sciences)

医療薬剤学分野

(1) 薬剤学研究室 (Pharmaceutics and Biopharmaceutics)

教 授 渡辺 善照
准教授 藤井まき子
講 師 小泉 直也
大学院学生 D2 飯野 隼人
D2 平井 孝昌

学 会 報 告

- Yoshiteru Watanabe, Makiko Washiyama, Naoya Koizumi, Makiko Fujii: Sec61 β regulates barrier function of tight junction via the expression of claudin-4 in epithelial cells
5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (Melbourne, Australia) 平成26年4月
[鷺山真紀子(平成25年度大学院博士課程修了生)]

- Makiko Fujii, Rieko Ohara, Azusa Matsumi, Kayoko Ohura, Naoya Koizumi, Teruko Imai, Yoshiteru Watanabe : Effect of alcohol on skin permeation and metabolism of p-hydroxyl benzoic acid methyl ester
5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (Melbourne, Australia) 平成26年4月
[大原理恵子(平成24年度卒業生), 松見あずさ(平成23年度卒業生)]

- 藤野真奈美、藤井まき子、飯野隼人、小泉直也、渡辺善照：角層除去皮膚におけるウフェナマートと基剤の皮膚移行量の関係
日本薬剤学会第29年会(大宮) 平成26年5月
[藤野真奈美(平成26年度卒業研究6年生)]

- 飯野隼人、藤井まき子、藤野真奈美、小泉直也、渡辺善照：異なる皮膚状態におけるウフェナマートの皮膚移行に与える基剤の影響
日本薬剤学会第29年会(大宮) 平成26年5月
[藤野真奈美(平成26年度卒業研究6年生)]

- 和田美由子、藤井まき子、本多なつみ、小泉直也、渡辺善照：疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロースを用いたO/W型乳剤の処方検討
日本薬剤学会第29年会(大宮) 平成26年5月
[和田美由子(平成26年度卒業研究6年生)、本多なつみ(平成26年度卒業研究5年生)]

- 坂田修、藤井まき子、小泉直也、中出正人、亀山浩一、渡辺善照：グリチルレチン酸ステアリルの皮膚移行性にO/W型乳液の内油相が与える影響の人工膜を用いた検討
第39回日本化粧品学会(東京) 平成26年6月

- 三上真智子、小泉直也、平井孝昌、藤井まき子、水口裕之、渡辺善照：イメージング用アデノウイルスベクターの開発
第30回 日本DDS学会(東京) 平成26年7月
[三上真智子(平成26年度卒業研究6年生)]

- 北村健太、小泉直也、野中美和、志田健太、平間奈苗、藤井まき子、水口裕之、渡辺善照：細胞膜透過促進能を持つアデノウイルス shaft タンパク質の結合要因の解析
第30回 日本DDS学会(東京) 平成26年7月

[北村健太 (平成26年度卒業研究6年生)、志田健太、平間奈苗 (平成25年度卒業生)
野中美和 (平成24年度卒業生)]

- 水田彩絵、小泉直也、平井孝昌、藤井まき子、水口裕之、渡辺善照：上皮細胞へのアデノウイルス感染における Snail 転写因子の影響

第30回 日本DDS学会 (東京) 平成26年7月
[水田彩絵 (平成26年度卒業研究6年生)]

- Yoshiteru Watanabe, Yumi Matsumoto, Naoya Koizumi, Makiko Fujii: Effect of claudin-4 expression on the barrier function of tight junction in epithelial cells treated with TNF- α

74th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2014
(Bangkok, Thailand) 平成26年8月
[松本有未 (平成25年度卒業生6年生)]

- 齊藤明日美、藤井まき子、土屋春菜、小泉直也、渡辺善照：メタクリル酸コポリマー L を用いた油状薬物の固形製剤化

第58回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成26年10月
[齊藤明日美 (平成26年度卒業研究6年生)、土屋春菜 (平成26年度卒業研究5年生)]

- 伊達友哉、藤井まき子、増田年紀、佐藤あんな、小泉直也、渡辺善照：微粒子酸化チタンが水溶性高分子の皮膚移行に及ぼす影響

第58回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成26年10月
[伊達友哉 (平成26年度卒業研究6年生)、増田年紀 (平成25年度卒業生)
佐藤あんな (平成26年度卒業研究5年生)]

- 小野真梨子、藤井まき子、上之ゆき乃、若林茜、長澤寿輝、小泉直也、渡辺善照：クロスポビドンを用いた乾式法によるニフェジピンの固体分散体調製に及ぼす水の影響

第58回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成26年10月
[小野真梨子 (平成26年度卒業研究6年生)、上之ゆき乃 (平成25年度卒業生)
若林茜 (平成26年度卒業研究5年生)、長澤寿輝 (平成26年度卒業研究4年生)]

- 有路千奈美、藤井まき子、坂田修、小泉直也、渡辺善照：メトキシケイ皮酸 2-エチルヘキシルの皮膚移行性に与える乳化剤の影響

第58回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成26年10月
[有路千奈美 (平成26年度卒業研究6年生)、坂田修 (平成26年度研究生)]

- 寺田藍里、小泉直也、平井孝昌、藤井まき子、櫻井文教、水口裕之、渡辺善照：細胞遊走能に及ぼすアデノウイルス knob 領域の影響

第58回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成26年10月
[寺田藍里 (平成26年度卒業研究6年生)]

- 田仲新人、小泉直也、平井孝昌、藤井まき子、水口裕之、角田慎一、渡辺善照：アデノウイルス knob タンパク質を利用したCAR 標的がん治療システムの基礎検討

第58回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成26年10月
[田仲新人 (平成26年度卒業研究6年生)]

- 島田友幸、小林令奈、今村有沙、小泉直也、藤井まき子、渡辺善照：外部環境の影響を受けにくい遅延放出型有核錠の設計

第31回製剤と粒子設計シンポジウム (福岡) 平成26年10月
[島田友幸、小林令奈 (平成26年度卒業研究6年生)、
今村有沙 (平成26年度卒業研究5年生)]

- Makiko Fujii, Chinami Arijii, Osamu Sakata, Naoya Koizumi, Yoshiteru Watanabe : Encapsulation of UV-filter, methoxycinnamate 2-ethylhexyl, with polymer -Effect on distribution in Yucatan micropig skin-

The 3rd International Conference on Nutraceutical and Cosmetic Science
(東京)平成26年11月
[Osamu Sakata(平成26年度研究生)]

- 小泉直也、藤井まき子、渡辺善照：疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロースの球形ナノマテリアル分散剤としての有用性

日本薬学会第135年会(神戸)平成27年3月

- 平井孝昌、小泉直也、北村健太、平間奈苗、藤井まき子、水口裕之、渡辺善照：外部環境が及ぼすアデノウイルス由来細胞膜透過ペプチドの細胞膜結合能への影響

日本薬学会第135年会(神戸)平成27年3月
[北村健太(平成26年度卒業研究6年生)、平間奈苗(平成25年度卒業生)]

講演

渡辺善照：生体膜における“薬物透過の壁”へのチャレンジ、適切な薬物療法を目指して

第19回東北薬科大学同窓会東京支部卒後研修講座(東京)平成26年5月

渡辺善照：ジェネリック医薬品の普及促進と活用に向けてーお薬とは？ジェネリック医薬品とは？ー

いわき市お薬に関する市民講座(いわき)平成26年10月

藤井まき子：化粧品開発における皮膚移行・経皮吸収の重要性

日本化粧品学会第39回教育セミナー(東京)平成26年10月

原著論文

Yusuke Shibata, Makiko Fuji, Ayako Suzuki, Naoya Koizumi, Ken Kanada, Masaki Yamada, Yoshiteru Watanabe : Effect of storage conditions on the recrystallization of drugs in solid dispersions with crospovidone

Pharm. Dev. Technol., **19**, 468-474 (2014)
[Ayako Suzuki(平成22年度修士修了生)]

Makiko Washiyama, Naoya Koizumi, Makiko Fujii, Masuo Kondoh, Kiyohito Yagi, Yoshiteru Watanabe : Percolation analysis in electrical conductivity of Madin-Darby Canine Kidney and Caco-2 cells by permeation-enhancing agents,

Biol. Pharm. Bull., **36**, 384-389 (2013)

Makiko Washiyama, Naoya Koizumi, Makiko Fujii, Yoshiteru Watanabe : Sec61 β regulates barrier functions of tight junction through expression of claudin-4 in Madin-Darby canine kidney cells

Biol. Pharm. Bull., **37**, 979-986 (2014)

Osamu Sakata, Makiko Fujii, Naoya Koizumi, Masato Nakada, Koichi Kameyama, Yoshiteru Watanabe : Effects of oils and emulsifiers on the skin penetration of stearyl glycyrrhetinate in oil-in-water emulsions.

Biol. Pharm. Bull., **37**, 486-489(2014)

著書

渡辺善照：3 薬物吸収実験、3.2 直腸投与

薬剤学実験法必携マニュアルⅡ生物薬剤学、日本薬剤学会出版委員会編集、南江堂、東京、2014、pp.71-81

その他の論文等

藤井まき子：化粧品の皮膚移行と安全性評価

皮膚科の臨床10月臨時増刊号「皮膚科医のための化粧品入門」56,1742-1750(2014)

研究室活動短報

平成26年(2014年)度、研究室には、大学院博士課程学生2名および6～4年次学生37名が所属し、これまで同様に活発な研究活動が行なわれた。

広範な薬剤学領域に対応して研究を進めてきており、特に製剤技術、薬物体内動態制御、細胞レベルでの薬物送達システム、遺伝子導入法の基礎評価などを検討し、成果として国際学会を含む各種学会での発表20題、および原著論文3編を報告した。

薬学部6年教育課程における学生の研究活動は、問題提起・解決能力を育成するために重要であり、研究及び指導の充実を図ってきている。成果の一部であるが、6年生藤野真奈美が日本薬剤学会第29年会において研究発表し、優秀な学生発表に授与される日本薬剤学会学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞した。当研究室としては2012年度に続き2人目の同賞受賞である。大学院教育においては、社会人大学院生を含む2名の博士課程学生が活発に研究活動を行い、学会発表の他、2年次中間報告会で発表した。

本研究室では、昨年度に引き続き他機関との共同研究を進めている。研究助成金については平成26年度文部科学省科学研究費補助金(基盤C:渡辺教授、基盤C:藤井准教授、挑戦的萌芽:小泉講師)、平成26年度厚生労働省科学研究費補助金(研究代表者:小泉講師)を受けた。

本年度は学会での発表のため以下の国外出張があった。

渡辺教授:5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress(Melbourne, Australia)及び74th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2014(Bangkok, Thailand)

藤井准教授:5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress(Melbourne, Australia)

社会活動の一環として、渡辺教授は日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、日中医学協会共同研究等助成事業委員会委員、ジェネリック医薬品協議会執行理事などの役職を担当した。また、公益社団法人日本薬剤師研修センターから研修認定薬剤師としての業績が認められ表彰された。

本研究室は、医療に貢献できる「薬剤学」研究を目標としている。6年制薬学教育の進行にともない学部学生が中心の卒業研究が増し、研究成果を教育活動に還元できるように進めたい。

なお、長年薬剤学研究室で教育・研究を行って来た藤井まき子准教授が、平成27年4月より、日本大学薬学部薬品物理化学担当の教授として移籍することになった。

(2) 薬物動態学研究室 (Drug Metabolism and Pharmacokinetics)

教授 山崎 浩史
講師 村山 典恵
講師 清水万紀子
特任助教 上原正太郎

大学院学生 D3 大久保真穂

学 会 報 告

○丹羽俊朗、今川友里恵、山崎浩史:各種cytochrome P450に対する抗真菌薬の相互作用

日本薬剤学会第29年会(さいたま)平成26年5月

○小篠榮、前田弘美、井戸田昭子、久保和雄、鈴木敦、鈴木利昭、小泉綾乃、若林あかり、清水万紀子、山崎浩史:透析患者のレボカルニチン(LC)投与時における内服薬と注射薬の血中トリメチルアミン(TMA)及びN-酸化体(TMAO)値への影響

第59回日本透析医学会学術集会・総会(神戸)平成26年6月
[小泉綾乃、若林あかり(平成26年度卒業研究6年生)]

○中西康晴、中村稚加、岩崎一秀、鵜藤雅裕、山崎浩史、宇野泰広:カニクイザルの小腸におけるUDP-グルクロン酸転移酵素活性の性差、産地差および部位差

第41回日本毒性学会学術集会(神戸)平成26年7月

○森田翔子、大久保真穂、森亜沙美、村山典恵、三浦淳、千葉泰二、山崎浩史:代謝酵素遺伝子多型および併用薬が抗うつ薬ミルタザピンの代謝消失に及ぼす影響

第67回聖マリアンナ医科大学医学会学術集会(川崎)平成26年7月
[大久保真穂(平成26年度博士課程3年生)、森田翔子、森亜沙美(平成26年度卒業研究5年生)]

○宇野泰広、村山典恵、山崎浩史：カニクイザル硫酸転移酵素の同定・解析
第157回日本獣医学会学術集会(札幌)平成26年9月

○曾根秀子、村山典恵、王文龍、曾洋、南齋ひろ子、曾勤、山崎浩史：ヒト肝細胞HepaRGにおける環境化学物質の細胞毒性と薬物代謝酵素誘導能について
フォーラム2014 衛生薬学・環境トキシコロジー(つくば)平成26年9月

○Toshiro Niwa, Yurie Imagawa, Motohiro Yasumura, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki : Drug interaction of antifungal agents against cytochrome P450s
12th International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity & Biotechnology(京都)平成26年9月
[安村元宏(平成24年度卒業研究6年生)]

○大山勝宏、高橋真二、福岡勝志、清水万紀子、山崎浩史：薬局の大規模データを用いたジクロフェナク局所皮膚適用製剤の副作用発現とリスク因子に関する検討
第24回日本医療薬学会年会(名古屋)平成26年9月

○安達昂一郎、宮口貴守、村山典恵、末水洋志、山崎浩史：ヒト肝移植マウスを活用した生理学的薬物動態モデルによるフタル酸ビス2エチルヘキシルのヒト体内動態予測
第58回日本薬学会関東支部大会(東京)平成26年10月
[安達昂一郎、宮口貴守(平成26年度卒業研究6年生)]

○西山咲弥子、清水万紀子、上原正太郎、宇野泰広、山崎浩史：サリドマイド代謝的活性化における霊長類チトクロム P450 の役割
第58回日本薬学会関東支部大会(東京)平成26年10月
[西山咲弥子(平成26年度卒業研究5年生)]

○森亜沙美、大久保真穂、成田桃子、森田翔子、村山典恵、三浦淳、千葉泰二、山崎浩史：抗うつ薬ミルタザピンの代謝消失に関わる薬物代謝酵素
第58回日本薬学会関東支部大会(東京)平成26年10月
[大久保真穂(平成26年度博士課程3年生)、森亜沙美、成田桃子、森田翔子(平成26年度卒業研究5年生)]

○小泉綾乃、若林あかり、清水万紀子、小篠榮、山崎浩史：レボカルニチン投与時の透析患者におけるトリメチルアミンおよびN-酸化体の体内運命の検討
第58回日本薬学会関東支部大会(東京)平成26年10月
[小泉綾乃、若林あかり(平成26年度卒業研究6年生)]

○Maho Okubo, Norie Murayama, Jun Miura, Yasuji Chiba, Hiroshi Yamazaki : Effects of *CYP2D6* and *CYP3A5* genotypes and co-administrated drugs on the metabolic clearance of antidepressant mirtazapine
19th North American ISSX/ 29th JSSX Annual Meeting, (San Francisco, USA) 平成26年10月
[大久保真穂(平成26年度博士課程3年生)]

○Shotaro Uehara, Norie Murayama, Makiko Shimizu, Takashi Inoue, Erika Sasaki, Hiroshi Yamazaki : Oxidative metabolism of 1-methyl-4-phenyl-1,2,3,6-tetrahydropyridine(MPTP) by liver and brain microsomes from common marmosets
19th North American ISSX/ 29th JSSX Annual Meeting, (San Francisco, USA) 平成26年10月

○Norie Murayama, Christophe Chesné, F. Peter Guengerich, Hiroshi Yamazaki : Roles of auto-induction of human P450 3A enzymes involved in the teratogenicity of thalidomide
19th North American ISSX/ 29th JSSX Annual Meeting, (San Francisco, USA) 平成26年10月

- Makiko Shimizu, Hiroshi Yamazaki : Genetic polymorphisms in flavin-containing monooxygenase 3 (FMO3) gene responsible for trimethylaminuria in a Japanese population
19th North American ISSX/ 29th JSSX Annual Meeting, (San Francisco, USA) 平成26年10月
- Hiroshi Yamazaki, Yasuhiro Uno, Mitsunori Shukuya, Takahiro Yoshikawa, Yasuka Matsumoto, Akinori Matsushita, Norie Murayama, Koichiro Fukuzaki, Masahiro Utoh : Warfarin metabolism mediated by polymorphic P450 2C19 in cynomolgus monkeys
19th North American ISSX/ 29th JSSX Annual Meeting, (San Francisco, USA) 平成26年10月
[宿谷光則、松本和華 (平成25年度卒業研究6年生)]
- Chizuka Sakai, Shunsuke Iwano, Yuri Yamazaki, Akihiro Ando, Hiroshi Yamazaki, Yohei Miyamoto : Comparison of pharmacokinetics parameters of cytochrome P450 probe substrates in humans, mice, rats, dogs, monkeys, and microminipigs
19th North American ISSX/ 29th JSSX Annual Meeting, (San Francisco, USA) 平成26年10月
- 清水万紀子、折口裕美、伊熊鞠佳、三觜菜々子、友田沙也加、山崎浩史 : 日本人集団から見出されたトリメチルアミン尿症の原因となるフラビン含有酸素添加酵素3遺伝子多型
第35回日本臨床薬理学会年会 (松山) 平成26年12月
[折口裕美、伊熊鞠佳、三觜菜々子、友田沙也加 (平成26年度卒業研究5年生)]
- 伊熊鞠佳、清水万紀子、三觜菜々子、友田沙也加、山崎浩史 : 日本人のトリメチルアミン尿症の一因となるフラビン含有モノオキシゲナーゼ3遺伝子変異の解析
第68回聖マリアンナ医科大学医学会学術集会 (川崎) 平成26年12月
[伊熊鞠佳、三觜菜々子、友田沙也加 (平成26年度卒業研究5年生)]
- 山崎浩史、清水万紀子、小篠榮 : レボカルニチン製剤を使用した透析患者の血中トリメチルアミン濃度
第35回日本臨床薬理学会年会 (松山) 平成26年12月
- 大久保真穂、村山典恵、森田翔子、森亜沙美、倉林優貴、秋元洋一、後藤晶子、山崎浩史 : 抗精神病薬リスペリドン投与日本人患者における血漿中薬物濃度の個人差
日本薬学会第135年会 (神戸) 平成27年3月
[大久保真穂 (平成26年度博士課程3年生)、森田翔子、森亜沙美 (平成26年度卒業研究5年生)、倉林優貴 (平成26年度卒業研究4年生)]
- 大久保真穂、成田桃子、村山典恵、森田翔子、中村浩也、清水万紀子、秋元洋一、後藤晶子、○山崎浩史 : 抗精神病薬オランザピン投与日本人患者における血漿中薬物濃度の個人差
日本薬学会第135年会 (神戸) 平成27年3月
[大久保真穂 (平成26年度博士課程3年生)、成田桃子、森田翔子 (平成26年度卒業研究5年生)、中村浩也 (平成26年度卒業研究4年生)]
- 清水万紀子、岸本いずみ、小山智生、澤谷怜、山崎浩史 : チトクロム P450 2A6 野生型と全欠損型遺伝子の迅速判定法
日本薬学会第135年会 (神戸) 平成27年3月
[澤谷怜 (平成26年度卒業研究6年生)、小山智生 (平成26年度卒業研究5年生)、岸本いずみ (平成26年度卒業研究4年生)]
- 保坂信哉、村山典恵、薩川正広、上原正太郎、清水万紀子、岩崎一秀、岩野俊介、宇野泰広、山崎浩史 : カニクイザルシトクロム P450 2C9 の 基質特異性に関する検討
日本薬学会第135年会 (神戸) 平成27年3月
- 村山典恵、矢島加奈子、柴田哲男、鵜藤雅裕、山崎浩史 : サリドマイドによるヒトP450酵素自己誘導機構に及ぼす要因
日本薬学会第135年会 (神戸) 平成27年3月

○千葉布季子、清水万紀子、徳山瑛美、牧野美紀、山崎浩史：日本人トリメチルアミン尿症の大規模詳細調査
日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月
[千葉布季子、徳山瑛美、牧野美紀（平成26年度卒業研究4年生）]

○西山咲弥子、清水万紀子、上原正太郎、宇野泰広、山崎浩史：サリドマイド 1 次および 2 次酸化的代謝に
関与するチトクロム P450 の種差
日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月
[西山咲弥子（平成26年度卒業研究5年生）]

○志田聡美、村山典恵、清水万紀子、鵜藤雅裕、宇野泰広、山崎浩史：カニクイザル生理学的薬物動態モデル
を活用したチトクロム P450 カクテル基質のヒト血中濃度推移予測
日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月
[志田聡美（平成26年度卒業研究5年生）]

○丹羽俊朗、村山典恵、今川友里恵、山崎浩史：Cytochrome P450(CYP、P450)3A4 及び CYP3A5 を含む各
種ヒト P450 によるステロイド代謝
日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月

○今川友里恵、村山典恵、山崎浩史、丹羽俊朗：Cytochrome P450(CYP、P450)A4 及び CYP3A5 を含むヒト
代謝型 P450 に対する各種抗真菌薬の相互作用
日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月

依頼・招待講演等

○山崎浩史：レボカルニチンを使う透析患者さんの体臭を科学する－個の医療－
医療薬学フォーラム2014／第22回クリニカルファーマシーシンポジウム（東京）平成26年6月

○山崎浩史：安全性評価を支える薬物動態試験のあり方
第41回日本毒性学会学術集会（神戸）平成26年7月

○Hiroshi Yamazaki：Reactive metabolite formation of drugs by human P450s in chimeric mice with
humanized liver
19th North American ISSX/ 29th JSSX Annual Meeting, (San Francisco, USA) 平成26年10月

○Hiroshi Yamazaki：Metabolic activation and fate of xenobiotics determined by polymorphic drug-
metabolizing enzymes
19th North American ISSX/ 29th JSSX Annual Meeting, (San Francisco, USA) 平成26年10月

○山崎浩史、上原正太郎、宇野泰広：マーモセット、カニクイザルおよびヒトの薬物酸化酵素活性の比較
第4回日本マーモセット研究会大会（犬山）平成27年1月

原 著 論 文

Dimitrios Zonios, Hiroshi Yamazaki, Norie Murayama, Ven Natarajan, Tara Palmore, Richard Childs, Jeff
Skinner, John E. Bennett：Voriconazole metabolism, toxicity and the effect of cytochrome P450 2C19
genotype.

J.Infect.Dis., **209**, 1941-1948(2014)

Shotaro Uehara, Norie Murayama, Yasuharu Nakanishi, Chika Nakamura, Takanori Hashizume, Darryl
C. Zeldin, Hiroshi Yamazaki, Yasuhiro Uno：Immunochemical detection of cytochrome P450 enzymes in
small intestine microsomes of male and female untreated juvenile cynomolgus monkeys.

Xenobiotica, **44**, 769-774(2014)

Kanako Yajima, Yasuhiro Uno, Norie Murayama, Shotaro Uehara, Makiko Shimizu, Chika Nakamura, Kazuhide Iwasaki, Masahiro Utoh, Hiroshi Yamazaki : Evaluation of 23 lots of commercially available cryopreserved hepatocytes for induction assays of human cytochromes P450.

Drug Metab. Dispos., **42**, 867-871 (2014)

Takashi Koyanagi, Yoshiyuki Yamaura, Koji Yano, Soonih Kim, Hiroshi Yamazaki : Age-related pharmacokinetic changes of acetaminophen, antipyrine, diazepam, diphenhydramine, and ofloxacin in male cynomolgus monkeys and beagle dogs.

Xenobiotica, **44**, 893-901 (2014)

Eriko Higashi, Akihiro Ando, Shunsuke Iwano, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki, Yohei Miyamoto : Hepatic microsomal UDP-glucuronosyltransferase (UGT) activities in the microminipig.

Biopharm. Drug Dispos., **35**, 313-320 (2014)

Yoshinobu Nakamaru, Yoshiharu Hayashi, Mana Sekine, Shuji Kinoshita, Jeff Thompson, Atsuhiko Kawaguchi, Martin Davies, Horst Jürgen Heuer, Hiroshi Yamazaki, Kei Akimoto: Effect of ketoconazole on the pharmacokinetics of the dipeptidyl peptidase-4 Inhibitor teneligliptin: an open-label study in healthy white subjects in Germany.

Clin. Ther., **36**, 760-769 (2014)

Katsuhiro Ohyama, Makiko Shimizu, Hiroshi Yamazaki : A survey of adverse effects and risk factors for topical application of diclofenac (in Japanese),

Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., **40**, 310-316 (2014)

Hisashi Ozasa, Makiko Shimizu, Ayano Koizumi, Akari Wakabayashi, Hiroshi Yamazaki : Trimethylamine generation in patients receiving hemodialysis treated with L-carnitine.

Clin. Kidney J., **7**, 329 (2014)

[小泉綾乃、若林あかり (平成26年度卒業研究6年生)]

Miho Yamazaki, Makiko Shimizu, Yasuhiro Uno, Hiroshi Yamazaki: Drug oxygenation activities mediated by liver microsomal flavin-containing monooxygenases 1 and 3 in humans, monkeys, rats, and minipigs.

Biochem. Pharmacol., **90**, 159-165 (2014)

[山崎美穂 (平成25年度卒業研究6年生)]

Makiko Shimizu, Shunsuke Iwano, Yasuhiro Uno, Shotaro Uehara, Takashi Inoue, Norie Murayama, Jun Onodera, Erika Sasaki, Hiroshi Yamazaki: Qualitative de novo analysis of full length cDNA and quantitative analysis of gene expression for common marmoset (*Callithrix jacchus*) transcriptomes using parallel long-read technology and short-read sequencing.

PLoS One, **9**, e100936 (2014)

Masanao Yamashita, Hiroshi Suemizu, Norie Murayama, Sayako Nishiyama, Makiko Shimizu, Hiroshi Yamazaki: Human plasma concentrations of herbicidal carbamate molinate extrapolated from the pharmacokinetics established in in vivo experiments with chimeric mice with humanized liver and physiologically based pharmacokinetic modeling.

Regul. Toxicol. Pharmacol., **70**, 214-221 (2014)

[山下真直 (平成25年度卒業研究6年生)、西山咲弥子 (平成26年度卒業研究5年生)]

Yasuhiro Uno, Shotaro Uehara, Sakae Kohara, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki: Polymorphisms of *CYP2D17* in cynomolgus and rhesus macaques: an evidence of the genetic basis for the variability of CYP2D-dependent drug metabolism.

Drug Metab. Dispos., **42**, 1407-1410 (2014)

Yasuhiro Uno, Akinori Matsushita, Mitsunori Shukuya, Yasuka Matsumoto, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki: *CYP2C19* polymorphisms account for inter-individual variability of drug metabolism in cynomolgus macaques.

Biochem. Pharmacol., **91**, 242-248 (2014)
[宿谷光則、松本和華 (平成25年度卒業研究6年生)]

Hiroshi Suemizu, Shigeto Sota, Miyuki Kuronuma, Makiko Shimizu, Hiroshi Yamazaki : Pharmacokinetics and effects on serum cholinesterase activities of organophosphorus pesticides acephate and chlorpyrifos in chimeric mice transplanted with human hepatocytes.

Regul. Toxicol. Pharmacol., **70**, 468-473 (2014)
[曾田重人 (平成25年度卒業研究6年生)]

Toshiro Niwa, Motohiro Yasumura, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki: Comparison of catalytic properties of cytochromes P450 3A4 and 3A5 by molecular docking simulation.

Drug Metab. Lett., **8**, 43-50 (2014)
[安村元宏 (平成24年度卒業研究6年生)]

Yasuhiro Uno, Shinya Hosaka, Hiroshi Yamazaki : Identification and analysis of CYP7A1, CYP17A1, CYP20A1, CYP27A1, and CYP51A1 in cynomolgus macaques.

J. Vet. Med. Sci., **76**, 1647-1650 (2014)

Chizuka Sakai, Shunsuke Iwano, Yuri Yamazaki, Akihiro Ando, Fumiyuki Nakane, Makoto Kouno, Hiroshi Yamazaki, Yohei Miyamoto : Species differences in the pharmacokinetic parameters of cytochrome P450 probe substrates between experimental animals, such as mice, rats, dogs, monkeys, and microminipigs, and humans.

J. Drug Metab. Toxicol., **5**, 173 (2014)

総 説

Hiroshi Yamazaki : Drug-induced liver toxicity studies: research into human metabolites clarifies their role in drug development.

Drug Metab. Pharmacokinet., **29**, 111 (2014)

山崎浩史 : 私立薬大での薬物動態学研究室の立ち上げ (1)

Drug Metab. Pharmacokinet., **29** (5), 21-24 (2014)

山崎浩史 : 私立薬大での薬物動態学研究室の立ち上げ (2)

Drug Metab. Pharmacokinet., **29** (6), 39-42 (2014)

山崎浩史 : 平成26年度日本薬物動態学会学会賞を受賞して

Drug Metab. Pharmacokinet., **29** (6), 15-17 (2014)

Toshiro Niwa, Yurie Imagawa, Hiroshi Yamazaki : Drug interactions between nine antifungal agents and drugs metabolized by human cytochromes P450.

Curr. Drug Metab., **15**, 651-678 (2014)

著 書

Hiroshi Yamazaki : Chapter 17 Species, Ethnic, and Individual Differences in Human Drug-Metabolizing Cytochrome P450 Enzymes

Fifty Years of Cytochrome P450 Research, Springer, Tokyo pp293-305 (2014)

加藤美紀、九川文彦、齊藤浩司、栄田俊之、高良恒史、灘井雅行、林弥生、藤田卓也、山崎浩史 : 第4章「代謝」
「薬物動態学第二版」栄田敏之、山崎浩史、灘井雅行 編著、廣川書店、東京、pp81-105 (2014)

研究室活動短報

本年度は、職員4名、大学院博士課程1名とともに薬物動態学研究室の研究活動を行った。研究テーマは、ヒト薬物酸化酵素の遺伝的多型と薬物相互作用に関する基礎研究、患者個別化治療を志向したヒト臨床薬理研究、医薬候補品より生成するヒト反応性代謝物の評価に関する創薬研究、一般化学物質のヒト生理学的薬物動態予測によるリスク評価研究、創薬を支援する実験動物モデルの開発基盤研究であった。学会発表は招待講演5題と一般発表31題、論文発表は原著17報、総説・著書7報であった。競争的外部資金は、文科省(脳科学研究戦略推進プログラム)、科学技術振興機構(A-STEP)、日本学術振興会(科研費基盤C)、および日本化学工業会等から援助を得た。学内で開催されたハイテクリサーチ報告会では卒業研究6年生および大学院生が優秀発表賞を受賞し、学会発表では聖マリアンナ医科大学医学会で卒業研究5年生がベストプレゼンター賞を、日本薬学会第135年会で大学院生が優秀発表賞を受賞した。学会活動の他、本研究室で一貫して行っている魚臭症候群の研究との関連から、国内の病院より連絡を受け透析患者様を対象に投薬時のトリメチルアミン動態について検証していくことで新たな局面を迎え研究が拡大しつつある。このほかにも、抗精神薬の安全な投薬治療のために多剤併用における薬物動態について、研究・解析を行いながら情報を提供している。研究室では「患者さんに役立つ薬物動態学研究」を掲げ、日夜努力しており、精密機器類等のハード面や、実験報告や文献紹介などのセミナーの体制などソフト面をそれぞれ再構築し、専門研究室の一翼を担うよう、さらに整備を進めているところである。

臨床薬理学分野

(3) 薬理学研究室 (Pharmacology)

教 授 渡邊 泰男
講 師 神戸 敏江
助 教 土屋 幸弘
特任助教 高田 剛

学 会 報 告

○高田剛、土屋幸弘、井田智章、澤智裕、赤池孝章、渡邊泰男：カルモデュリンキナーゼIVのシステイン過硫化修飾による活性制御

第14回日本NO学会学術集会(佐賀)平成26年5月

○井田智章、澤智裕、居原秀、土屋幸弘、松永哲郎、藤井重元、熊谷嘉人、渡邊泰男、Fukuto M Jon、赤池孝章：活性システインパーサルファイドとS-ポリチオレイションが酸化ストレスとレドックスシグナルを制御する

第14回日本NO学会学術集会(佐賀)平成26年5月

○土屋幸弘、丹生谷真弓、梶原綾、居原秀、渡邊泰男：NOによる細胞内Ca²⁺流入増強メカニズムの解明

第14回日本NO学会学術集会(佐賀)平成26年5月

[丹生谷真弓(平成25年度卒業生)]

[梶原綾(平成23年度卒業生)]

○笠松真吾、渡邊泰男、澤智裕、赤池孝章、居原秀：nNOSのSer847リン酸化を介したNO/ROSレドックスシグナル制御

第14回日本NO学会学術集会(佐賀)平成26年5月

○Kazuhiro Shimamoto, Kenjiro Hanaoka, Kiyoshi Sasakura, Yukihiro Tsuchiya, Yasuo Watanabe, Hideo Kimura, Takayoshi Okabe, Tetsuo Nagano and Yasuteru Urano: INHIBITOR SCREENING FOR 3-MERCAPTOPYRUVATE SULFURTRANSFERASE (3MST) AND CYSTATHIONINE GAMMA LYASE (CSE).

Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine(京都)平成26年6月

- 島本一史、花岡健二郎、土屋幸弘、渡邊泰男、渋谷典広、木村英雄、岡部隆義、長野哲雄、浦野泰照：硫化水素産生酵素 cystathionine γ -lyase (CSE) の阻害剤探索
日本ケミカルバイオロジー学会 第9回年会(大阪)平成26年6月
- Tomoaki Ida, Tomohiro Sawa, Hideshi Ihara, Yukihiro Tsuchiya, Yasuo Watanabe, Yoshito Kumagai, Hozumi Motohashi, Shigemoto Fujii, Tetsuro Matsunaga, Masayuki Yamamoto, Katsuhiko Ono, Jon Fukuto, Takaaki Akaike : Metabolism of 8-nitro-cGMP and regulation of electrophilic signaling by reactive sulfur species.
The 8th International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Application of Nitric Oxide 2014(クリーブランド、アメリカ)平成26年6月
- Tsuyoshi Takata, Yukihiro Tsuchiya, Tomoaki Ida, Tomohiro Sawa, Takaaki Akaike, Yasuo Watanabe : Reversible inactivation of Ca^{2+} /calmodulin-dependent protein kinase IV by reactive cysteine peresulfides generated from cystathionine γ -lyase and cysteine.
The 8th International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Application of Nitric Oxide 2014(クリーブランド、アメリカ)平成26年6月
- Yukihiro Tsuchiya, Mayumi Nyunoya, Aya Kajiwar, Hideshi Ihara, Yasuo Watanabe : Role of nNOS expression in nicotine-induced cytosolic Ca^{2+} influx in PC12 cells.
The 8th International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Application of Nitric Oxide 2014(クリーブランド、アメリカ)平成26年6月
- Hideshi Ihara, Shingo Kasamatsu, Yasuo Watanabe, Tomohiro Sawa, Takaaki Akaike : Redox Signal Regulation via nNOS Phosphorylation at Ser847 in PC12 cells and Rat Cerebellar Granule Neurons
The 8th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide 2014(クリーブランド、アメリカ)平成26年6月
- 橋本陽介、土屋幸弘、高田剛、松原守、渡邊泰男：ニトロソ化修飾を介したシスタチオニン γ -リアーゼの活性制御
第130回日本薬理学会関東部会(東京)平成26年7月
[橋本陽介(平成26年度卒業研究6年生)]
- 佐藤美香、土屋幸弘、石上紋名、高田剛、花岡健二郎、長野哲雄、浦野泰照、渡邊泰男：シスタチオニン γ -リアーゼの自己活性調節における修飾部位の探索
第130回日本薬理学会関東部会(東京)平成26年7月
[佐藤美香(平成26年度卒業研究6年生)]
[石上紋名(平成25年度卒業生)]
- 荒木笙馬、土屋幸弘、高田剛、渡邊泰男：シスタチオニン β -シンターゼの基質選択性
第130回日本薬理学会関東部会(東京)平成26年7月
[荒木笙馬(平成26年度卒業研究6年生)]
- 渡邊泰男：活性イオウ含有分子による生体分子のシグナル応答
フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー 平成26年9月(筑波)(シンポ)
- 高田剛、土屋幸弘、井田智章、澤智裕、赤池孝章、渡邊泰男：活性イオウによるカルモデュリンキナーゼ IV の活性制御
第131回日本薬理学会関東部会(横浜)平成26年10月
- 土屋幸弘、丹生谷真弓、梶原綾、佐藤春香、居原秀、渡邊泰男：NO による細胞内 Ca^{2+} 流入調節機構の解析
[丹生谷真弓(平成25年度卒業生)]
[梶原綾(平成23年度卒業生)]

[佐藤美香 (平成26年度卒業研究6年生)]
第131回日本薬理学会関東部会 (横浜) 平成26年10月

- 井田智章、澤智裕、居原秀、土屋幸弘、渡邊泰男、熊谷嘉人、末松誠、本橋ほづみ、藤井重元、松永哲郎、山本雅之、Xian Ming、Fukuto Jon、赤池孝章：活性システインパーサルファイドとS-ポリチオレーションが酸化ストレスを制御する

第87回日本生化学会大会 (京都) 平成26年10月

- 土屋幸弘：生体内活性イオウ合成系とレドックス制御

基盤研究 (S) 親電子物質のレドックス制御 公開シンポジウム (つくば) 平成26年10月

- 坪井真友子、中里友美、神戸敏江、宇都宮郁、阿部賢志、田口恭治：オキサリプラチン誘発末梢神経障害における Ca^{2+} チャネルサブユニット $\text{Ca}_v2.2$ の関与

第58回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成26年10月

[坪井真友子、中里友美 (平成26年度卒業研究6年生：薬品作用学教育・田口研究室)]

- 日比彩円香、蒲田侑加子、神戸敏江、宇都宮郁、阿部賢志、田口恭治：パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄での P2X_4 受容体の関与

第58回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成26年10月

[日比彩円香、蒲田侑加子 (平成26年度卒業研究6年生：薬品作用学教育・田口研究室)]

- 島本一史、花岡健二郎、篠倉潔、土屋幸弘、渡邊泰男、渋谷典広、木村英雄、岡部隆義、長野哲雄、浦野泰照：硫化水素産生酵素 cystathionine γ -lyase (CSE) の阻害剤探索

第32回メディシナルケミストリーシンポジウム (神戸) 平成26年11月

- Manling Zhang, Hideyuki Sasaki, Toshiaki Saitoh, Norimichi Koitabashi, Guangshuo Zhu, Tsuyoshi Tsujimura, Dong-ik Lee, Carlos Tristan, Neelam Shahani, Taro Kariya, Yukihiro Tsuchiya, Hanna Jaaro-Peled, Barbara Slusher, David Kass, Kyoji Taguchi, Yoshie Horiguchi, Akira Sawa, Eiki Takimoto : Nuclear Glyceraldehyde-3-phosphate Dehydrogenase Signaling Mediates Pathological Cardiac Hypertrophy Via P300 And Myocyte Enhancer Factor 2

ACC. 15, 64th Annual Scientific Session and Expo (サンディエゴ、アメリカ) 平成27年3月

- 土屋幸弘、丹生谷真弓、梶原綾、高田剛、居原秀、渡邊泰男：ニコチンにより誘導される Ca^{2+} 流入における NO の関与

第88回日本薬理学会年会 (名古屋) 平成27年3月

[丹生谷真弓 (平成25年度卒業生)]

[梶原綾 (平成23年度卒業生)]

- 高田剛、土屋幸弘、井田智章、澤智裕、赤池孝章、渡邊泰男：カルモデュリンキナーゼIVの活性イオウ応答性の解明

第88回日本薬理学会年会 (名古屋) 平成27年3月

- 渡邊泰男：活性イオウ含有分子の分子標的

第88回日本薬理学会年会 (名古屋) 平成27年3月

原 著 論 文

Shingo Kasamatsu, Yasuo Watanabe, Tomohiro Sawa, Takaaki Akaike, Hideshi Ihara: Redox signal regulation via nNOS phosphorylation at Ser847 in PC12 cells and rat cerebellar granule neurons.

Biochem J. **459**, 251-63 (2014)

Tomoaki Ida, Tomohiro Sawa, Hideshi Ihara, Yukihiro Tsuchiya, Yasuo Watanabe, Yoshito Kumagai, Makoto Suematsu, Hozumi Motohashi, Shigemoto Fujii, Tetsuro Matsunaga, Masayuki Yamamoto,

Katsuhiko Ono, Nelmi O. Devarie-Baez, Ming Xian, Jon M. Fukuto, Takaaki Akaike: Reactive cysteine persulfides and S-polythiolation regulate oxidative stress and redox signaling.

Proc. Natl. Acad. Sci. USA **111**, 7606-7611 (2014)

Koji Osuka, Yasuo Watanabe, Nobuteru Usuda, Masahiro Aoyama, Mikinobu Takeuchi, Masakazu Takayasu: Eotaxin-3 activates Smad through the TGF- β 1 pathway in chronic subdural hematoma outer membranes.

J. Neurotrauma **31**, 1451-6 (2014)

Koji Osuka, Yasuo Watanabe, Masahiro Aoyama, Takahiro Nakura, Naoki Matsuo, Masakazu Takayasu: Expression of suppressor of cytokine signaling 3 in cerebrospinal fluid after subarachnoid hemorrhage

J. Neuroinflamm. **11**, 142 (2014)

Yuichi Sakashita, Kenji Abe, Nobuyuki Katagiri, Toshie Kambe, Toshiaki Saitoh, Iku Utsunomiya, Yoshie Horiguchi, Kyoji Taguchi: Effect of psilocin on extracellular dopamine and serotonin levels in the mesoaccumbens and mesocortical pathway in awake rats.

Biol. Pharm. Bull. **38**, 134-138 (2015)

[Nobuyuki Katagiri (平成22年度博士修了生): 薬物治療学研究室]

著 書

渡邊泰男、石井功、巖栄治: RSSの生合成系とタンパク質機能制御

細胞工学34 No.4、赤池孝章 (監修) 学研メディカル秀潤社、東京、2015、pp. 372-376

研究室活動短報

本年度は職員4名と、学部学生43名: 6年次生(総合薬学コース10名、臨床薬学コース3名)、5年次生(総合薬学コース11名、臨床薬学コース3名)、4年次生(総合薬学コース9名、臨床薬学コース6名、情報薬学コース1名)で活動した。

研究内容は、教授・助教・特任助教は、1) 活性酸素による細胞内カルシウム信号系調節、2) ニコチンによる細胞内カルシウム信号系調節 をテーマとした。講師は、薬品作用学教育・田口研究室 田口恭治教授と共同研究を展開し、テーマは 抗がん剤による末梢神経障害の発症機序とした。

外部資金は3件の研究助成を受けた。内訳は、科学研究費補助金を、共同研究者で2件(渡邊: 基盤C「慢性硬膜下血腫被膜の自然退縮におけるapoptosisの役割」(代表: 愛知医科大学 大須賀浩二)(平成26~28)、新学術領域研究「ポリサルファ代謝系を介する新しい抗酸化ストレス制御機構の解明」(代表: 東北大学 赤池孝章)(平成26~30)、私立大学戦略的研究基盤支援事業を共同研究者で1件(渡邊: 「生体分子コバレント修飾の革新的解析拠点形成」(代表: 昭和薬科大学 山本恵子)(H25~29))であった。

学会活動では、渡邊が第88回日本薬理学会年会のシンポジウムの企画/進行を担当した。配属学生の発表参加を促し、国内学会では総合薬学コース学生3名が筆頭で第130回日本薬理学会関東支部会において発表参加した。

今後は、研究活動ではこれまでの研究成果の知見を踏まえ、病態を細胞情報薬理学に細胞内シグナルでとらえ、いわゆるシグナル創薬の基盤を築きたい。教育活動では、学外との交流をさらに発展させ、学生の積極的な学会参加を促し多角的な視点がもてる薬剤師になれるように指導してゆきたい。

(4) 薬物治療学研究室 (Pharmacotherapeutics)

教 授 水谷 顕洋

助 教 濱田 浩一

学 会 報 告

○菅井 かれん、加藤 大、是永 理那、大島 由規、濱田 浩一、河合 克宏、御子柴 克彦、水谷 顕洋: IRBITによる autophagyの抑制的な調節機構について

第58回日本薬学会関東支部会(東京都町田市) 平成26年10月

○長谷川 尚美、柏木 舞、木暮 孝治、遠山 卓、土居 孝平、森 滉貴、佐藤 沙弥香、濱田 浩一、藤本 一朗、関 常司、御子 柴克彦、水谷 顕洋：脳型NBCe1 特異的なグリア細胞内pH調節機構について

第58回日本薬学会関東支部会（東京都町田市）平成26年10月

○白石 葵、濱田 浩一、伊藤 諒、御子柴 克彦、水谷 顕洋：マウス悪性黒色腫細胞におけるLong-IRBITの機能解析

第58回日本薬学会関東支部会（東京都町田市）平成26年10月

○杉山 友梨、濱田 浩一、佐藤 聖子、高橋 透泰、御子柴 克彦、水谷 顕洋：脂肪細胞分化におけるIRBITの役割

第58回日本薬学会関東支部会（東京都町田市）平成26年10月

○伊藤 諒、濱田 浩一、白石 葵、御子柴 克彦、水谷 顕洋：細胞移動におけるLong-IRBITの機能解析

第135回日本薬学会年会（神戸）平成27年3月

研究室活動短報

2014年度は、残念ながら論文こそ発表できなかったが、ようやく萌芽が出つつある。2015年度には、何とかこれらの実を摘み取って、収穫としたい。

1) IRBITの脂肪細胞分化への関与：3T3-L1を用いたin vitro 脂肪細胞分化系において、siRNAにてIRBITをKDすると、脂肪細胞分化が抑制される。また、IRBIT-KOマウスでは、体重低下と脂肪組織の減少、骨密度の増加、OVX後の骨密度低下の欠如、等が、preliminaryではあるが観察されている。こうしたことから、IRBITが、脂肪細胞の分化、特に、間葉系幹細胞から脂肪細胞あるいは骨芽細胞に分化する分岐点や、脂肪細胞への分化が決定した後の段階で、何らかの機能を果たしている可能性がある。実際、3T3-L1細胞内でIRBIT結合分子をスクリーニングしたところ、IRBITの“古典的標的分子”（IP3受容体や $\text{Na}^+/\text{HCO}_3^-$ 共輸送体）以外の幾つかの興味ある分子を捕まえている。今後は、これら結合分子に着目し、IRBITの脂肪細胞分化における分子ネットワークとその機能を明らかにしていく。

2) IRBITのミトコンドリア機能調節への関与：IRBITは、その“古典的標的分子”、および、3T3-L1細胞内の結合分子以外にも、ミトコンドリアの機能調節に関わる幾つかの分子と結合することを見いだしている。これらは、ミトコンドリアマトリックス内の Ca^{2+} 動態、mitophagy、そして、ミトコンドリア内のタンパク質代謝に関わる分子たちである。実際、IRBITを種々の培養細胞でKDすると、細胞の形態や移動の変化、そして、autophagyの亢進、等が生じることを見いだしており、上記1)の脂肪細胞の分化も含めて、これらIRBITのKDあるいはKOによって生じる事象は、IRBITによる何らかのミトコンドリア機能調節機構が破綻したことによってもたらされている可能性がある。今後は、ミトコンドリア内膜の膜電位、マトリックス内の Ca^{2+} 動態、ミトコンドリア内のROS産生、に着目し、IRBITのミトコンドリアにおける機能に迫りたい。

3) IRBIT/NBCe1機能的複合体の中枢神経系における機能：IRBITと $\text{Na}^+/\text{HCO}_3^-$ 共輸送体(NBCe1)とは、アストロサイトの突起の、シナプスの被覆に関わる領域に高密度に存在している。NBCe1のKOマウスでは、IRBITが、NBCe1という標的分子をそこで失うために、その本来の細胞内分布が消失し、かつ、hyper-phosphorylation状態にあることを見いだしている。また、このhyper-phosphorylated IRBITはIP3受容体に高親和性に結合することから、IRBIT/NBCe1複合体は、局所のpHを調節するとともに、pH依存的にIRBITのリン酸化状態を変化させることで、 Ca^{2+} 動態、さらには、ミトコンドリアの機能を調節している可能性がある。

4) SYNCRIPの心臓発達への関与：SYNCRIP KOマウスは、生後30分以内に中枢性の呼吸不全によって絶命するが、種々の奇形を伴っていることも明らかになった。最も興味深いのは、IRBIT KOマウスでは、心室中隔欠損症が極めて高率に発症することで、SYNCRIPが心臓の発達、特に、心室中隔の形成に関与することを示唆している。今後は、PAR-CLIP法によるSYNCRIPの標的mRNA分子の同定や、SYNCRIPの心臓発達過程における発現パターンを詳細に調べ、SYNCRIPの心臓形成における機能を明らかにしていきたい。

生命薬学系 (Devision of Pharmaceutical Biology)

衛生薬学分野

(5) 衛生化学研究室 (Chemical Toxicology and Environmental Health)

教 授 小 椋 康 光
講 師 阿南弥寿美
特任助教 八幡 紋子

学 会 報 告

徳本真紀、手島彩、畠山直大、呉 思遠、石川勉、鈴木紀行、阿南弥寿美、○小椋康光：PC12 細胞分化後の細胞内銅濃度と銅制御遺伝子群の変動。

第24回金属の関与する生体関連反応シンポジウム（京都市）平成26年6月
[手島彩（平成25年度卒業研究6年生）、畠山直大（平成25年度卒業研究6年生）]

○小椋康光、手島 彩、畠山直大、呉 思遠、石川勉、鈴木紀行、徳本真紀、阿南弥寿美：PC12細胞の神経分化に伴う細胞内銅濃度と銅制御因子群の変動。

第25回日本微量元素学会（岡山）平成26年7月
[手島彩（平成25年度卒業研究6年生）、畠山直大（平成25年度卒業研究6年生）]

○徳本真紀、沓掛夏子、山西絵利加、阿南弥寿美、小椋康光：類金属のメチル化および細胞毒性に及ぼす3価ヒ素メチル転移酵素の影響。

第41回日本毒性学会学術集会（神戸市）平成26年7月
[沓掛夏子（平成25年度卒業研究6年生）、山西絵利加（平成25年度卒業研究6年生）]

○Yasumitsu Ogra, Maki Tokumoto, Aya Tejima, Naohiro Hatakeyama, Siyuan Wu, Tsutomu Ishikawa, Noriyuki Suzuki, Yasumi Anan: Changes in intracellular copper concentration and expression of copper-regulating genes after differentiation of rat pheochromocytoma(PC12)cells into neural cells.

14th Workshop on Progress in Trace Metal Speciation for Environmental Analytical Chemistry
（アバディーン、英国）、平成26年9月。
[手島彩（平成25年度卒業研究6年生）、畠山直大（平成25年度卒業研究6年生）]

○Yasumi Anan, Yuta Tani, Tomohito Kaito, Yasumitsu Ogra: Speciation of selenium and mercury in the liver of Japanese quails ingesting sodium selenite and mercury chloride.

14th Workshop on Progress in Trace Metal Speciation for Environmental Analytical Chemistry
（アバディーン、英国）、平成26年9月。
[谷祐太（平成25年度卒業研究6年生）、海藤智仁（平成26年度卒業研究6年生）]

○内田茉莉、北里歩夢、阿南弥寿美、小椋康光：水銀とセレンシアン酸または亜セレン酸を投与したラットにおける水銀とセレンの体内分布。

フォーラム2014 衛生薬学・環境トキシコロジー（茨城県つくば市）、平成26年9月
[内田茉莉（平成26年度卒業研究5年生）、北里歩夢（平成26年度卒業研究5年生）]

○碓井聡美、阿南弥寿美、小椋康光：培養細胞におけるセレン化合物による無機水銀の毒性軽減作用の解析。

フォーラム2014 衛生薬学・環境トキシコロジー（茨城県つくば市）、平成26年9月
[碓井聡美（平成26年度卒業研究5年生）]

○塚本泰代、阿南弥寿美、新泰介、江幡柚衣、小椋康光：ラットにおける無機及び結晶性テルル化合物の体内分布の比較。

フォーラム2014 衛生薬学・環境トキシコロジー（茨城県つくば市）、平成26年9月
[塚本泰代（平成26年度卒業研究6年生）、新泰介（平成26年度卒業研究5年生）、江幡柚衣（平成26年度卒業研究5年生）]

○勝田大貴、徳本真紀、阿南弥寿美、小椋康光：類金属のメチル化代謝における AS3MT の特異性。
フォーラム 2014 衛生薬学・環境トキシコロジー（茨城県つくば市）、平成 26 年 9 月
[勝田大貴（平成 26 年度卒業研究 5 年生）]

○塚本泰代、阿南弥寿美、新泰介、江幡柚衣、小椋康光：有機及び無機テルル化合物を投与したラットにおけるテルルの生体内挙動の解析。
第 58 回日本薬学会関東支部大会（東京都町田市）平成 26 年 10 月
[塚本泰代（平成 26 年度卒業研究 6 年生）、新泰介（平成 26 年度卒業研究 5 年生）、
江幡柚衣（平成 26 年度卒業研究 5 年生）]

○鈴木英梨奈、八幡紋子、小椋康光：チオプリンメチル基転移酵素過発現細胞の作製及びテルルに対する毒性評価。
第 58 回日本薬学会関東支部大会（東京都町田市）平成 26 年 10 月
[鈴木英梨奈（平成 26 年度卒業研究 6 年生）]

○山下佳那子、八幡紋子、阿南弥寿美、小椋康光：selenophosphate の構造解析のための変異型 selenophosphate synthetase 2 の作製と活性の評価。
第 58 回日本薬学会関東支部大会（東京都町田市）平成 26 年 10 月
[山下佳那子（平成 26 年度卒業研究 6 年生）]

○白岩萌子、八幡紋子、阿南弥寿美、小椋康光：神経分化誘導における銅トランスポーターの発現変動。
第 58 回日本薬学会関東支部大会（東京都町田市）平成 26 年 10 月
[白岩萌子（平成 26 年度卒業研究 5 年生）]

○勝田大貴、徳本真紀、阿南弥寿美、小椋康光：AS3MT による類金属メチル化代謝の特異性。
第 58 回日本薬学会関東支部大会（東京都町田市）平成 26 年 10 月
[勝田大貴（平成 26 年度卒業研究 5 年生）]

○八幡紋子、鈴木英梨奈、小椋康光：テルルの細胞毒性に対するチオプリンメチル基転移酵素の関与。
第 4 回メタロミクス研究フォーラム（東京都西東京市）平成 26 年 11 月
[鈴木英梨奈（平成 26 年度卒業研究 6 年生）]

○北里歩夢、内田茉莉、阿南弥寿美、小椋康光：ラットにおけるセレノシアン酸による水銀毒性軽減作用。
日本薬学会第 135 回年会（神戸市）、平成 27 年 3 月
[北里歩夢（平成 26 年度卒業研究 5 年生）、内田茉莉（平成 26 年度卒業研究 5 年生）]

○平野文子、八幡紋子、鈴木薫、小泉信滋、小椋康光：メタロチオネイン欠損細胞における MTF-1 制御遺伝子の発現検討。
日本薬学会第 135 回年会（神戸市）、平成 27 年 3 月
[平野文子（平成 26 年度卒業研究 5 年生）]

依頼講演・招待講演

○阿南弥寿美：新規セレン代謝物による水銀毒性軽減作用。
第 58 回日本薬学会関東支部大会（東京都町田市）平成 26 年 10 月

○Yasumitsu Ogra: Identification of a novel selenium metabolite in cultured cells and evaluation of its biological function.
The International Selenium Seminar 2014（釜山、韓国）平成 26 年 10 月

原 著 論 文

Maki Tokumoto, Natsuko Kutsukake, Erika Yamanishi, Daiki Katsuta, Yasumi Anan, Yasumitsu Ogra: Arsenic(+3 oxidation state)methyltransferase is a specific but replaceable factor against arsenic toxicity.

Toxicol Rep, **1**, 589-595 (2014)

[沓掛夏子 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)、山西絵利加 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)、
勝田大貴 (平成 26 年度卒業研究 5 年生)]

Michimi Nakamura, Tomoko Ochiai, Masaaki Noji, Yasumitsu Ogra, Kazuo T. Suzuki, Naoko Yoshimoto, Mami Yamazaki, Kazuki Saito: An improved tolerance to cadmium by overexpression of two genes for cysteine synthesis in tobacco.

Plant Biotech, **31**, 141-147 (2014)

Yasumi Anan, Ai Ohbo, Yuta Tani, Yasumitsu Ogra: Metabolic pathway of inorganic and organic selenocompounds labeled with stable isotope in Japanese quail.

Anal Bioanal Chem, **406**, 7959-7966 (2014)

[大保愛 (平成 24 年度卒業研究 6 年生)、谷祐太 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)]

Yasumitsu Ogra, Yumi Awaya, Yasumi Anan: Comparison of accumulation of four metalloids in *Allium sativum*.

Bull Environ Contam Toxicol, **94**, 604-608 (2015)

[粟屋佑美 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)]

総 説

小椋康光：哺乳類細胞における銅の恒常性維持の分子機構.

日本衛生学雑誌, **69**, 136-145 (2014)

小椋康光：環境毒性学におけるメタロミクス研究の展開.

YAKUGAKU ZASSHI, **135**, 307-314 (2015)

研究室活動短報

本年度 7 月より八幡紋子特任助教が着任し、教員 3 名体制となった。文科省の科学研究費補助金については、昨年度に引き続き小椋の基盤研究 B (23390032) および阿南が若手研究 B (25870739) を受けた。小椋は国内外の学術誌数誌の editorial board を務め、PMDA の専門委員として日本薬局方理化学試験法委員、他大学の任期制教員の外部評価委員、国内学会の学術賞選考委員等の社会活動を行った。阿南は *J. Toxicol. Sci* および *Fundam. Toxicol. Sci.* 誌の editorial board を務めた。小椋は本年度 2 月末をもって退職し、千葉大学大学院薬学研究院予防薬学研究室に特任教授として転出した。

本年度も、形となった研究成果は決して多いとはいえない。人員の出入りが続いた一年であったが、教員および学生の各人が落ち着いて自らのやるべき事を考え、研究室としての成果につながるよう努力する必要があると考えている。

生物化学分野

(6) 生化学研究室 (Biochemistry)

教 授 伊 東 進
講 師 坂 田 宣 夫
特任助教 中 野 な お こ

学 会 報 告

○ Nakano, N, Maeyama, K, Sakata, N, Itoh, F, Akatsu, R, Nakata, M, Katsu, Y, Ikeno, S, Togawa, Y, Vo Nguyen, TT, Watanabe, Y, Kato, M, Itoh, S. (ポスター) The functional relationship between C18ORF1 and TMEPAI in TGF- β /Smad signaling. Ludwig TGF- β Meeting in Leiden (Leiden, The Netherlands)
平成 26 年 5 月 8 日～ 5 月 10 日

[赤津凌介(平成26年度卒業研究6年生)、中田美紀(平成26年度卒業研究5年生)、
葛 祐妃(平成26年度卒業研究6年生)、戸川陽子(平成23年度卒業研究6年生)]

- Sakata, N, Kaneko, S, Ikeno, S, Miura, Y, Nakabayashi, H, Dong, XY, Dong, JT, Tamaoki, T, Nakano, N, Itoh, S. (ポスター) Negative regulation of α -fetoprotein gene transcription by TGF- β /Smad signaling with AT motif binding factor 1(ATBF1). Ludwig TGF- β Meeting in Leiden(Leiden, The Netherlands) 平成26年5月8日～5月10日

[金子哲士(平成24年度卒業研究6年生)]

- Ikeno, S, Takeda, T, Ichikawa, D, Nakano, N, Minowa, T, Hanagata, N, Itoh, F, Itoh, S. (ポスター) Elucidation of the inhibitory mechanism of PDZK1IP1 against TGF- β /Smad signaling. Ludwig TGF- β Meeting in Leiden(Leiden, The Netherlands) 平成26年5月8日～5月10日

[竹田哲也(平成25年度卒業研究6年生)、市川大輝(平成25年度卒業研究6年生)]

- Itoh, S (口頭発表) Negative regulation of TGF- β signaling by TMED10. Ludwig TGF- β Meeting in Leiden(Leiden, The Netherlands) 平成26年5月8日～5月10日

- Itoh, S (口頭発表) Fine-tuning of TGF- β signaling. 1st symposium of SPU Innovative project for Pharmaceutical Analyses of Covalent Modification in Biomolecules(Machida, Japan) 平成26年8月28日～8月29日

- Sakata, N, Kaneko, S, Ikeno, S, Miura, Y, Nakabayashi, H, Dong, XY, Dong, JT, Tamaoki, T, Nakano, N, Itoh, S. (ポスター) Transcriptional repression mechanisms of TGF- β signaling and ATBF1 on the AFP promoter. Joint International Symposium on TGF- β Family and Cancer: Signal Network in Tumor Microenvironment(Tsukuba, Japan) 平成27年1月12日～1月13日

[金子哲士(平成24年度卒業研究6年生)]

- 伊東進、池野聡一、中野なおこ、大村佳織、亀田洋子、毛利幸恵(口頭発表) タバコ含有がん原物質の代謝活性化を司るチトクロームP450遺伝子のTGF- β 依存的発現抑制機構と喫煙による肺がんリスク研究、第29回平成25年度公益財団法人喫煙科学研究財団助成研究発表会、新宿、平成26年7月15日

[大村佳織、亀田洋子、毛利幸恵(平成25年度卒業研究6年生)]

- 中野なおこ、伊東史子、渡邊幸秀、加藤光保、伊東進(口頭発表及びポスター) TMETPAIファミリーによるTGF- β シグナル抑制機構、第73回日本癌学会学術総会、横浜、平成26年9月25日～27日

- 中野なおこ、赤津凌介、中田美紀、伊東史子、坂田宜夫、葛祐妃、池野聡一、戸川陽子、伊東進(口頭発表及びポスター) TMETPAIファミリーによるTGF- β シグナル制御機構、第58回日本薬学会関東支部大会、町田、平成26年10月4日

[赤津凌介(平成26年度卒業研究6年生)、中田美紀(平成26年度卒業研究5年生)、
葛 祐妃(平成26年度卒業研究6年生)、戸川陽子(平成23年度卒業研究6年生)]

- 赤津凌介、池野聡一、竹田哲也、中野なおこ、箕輪貴司、花方信孝、伊東史子、伊東進(ポスター) PDZK1IP1によるTGF- β ファミリーシグナル伝達経路抑制機構、第58回日本薬学会関東支部大会、町田、平成26年10月4日

[赤津凌介(平成26年度卒業研究6年生)、竹田哲也(平成25年度卒業研究6年生)]

- 坂田宜夫、金子哲士、池野聡一、三浦裕、中林秀和、Xue-Yuan Dong, Jin-Tang Dong、玉置大器、中野なおこ、伊東進(ポスター) 転写因子ATBF1とTGF- β シグナル伝達系による α -fetoprotein遺伝子プロモーターの協調的抑制、第58回日本薬学会関東支部大会、町田、平成26年10月4日

[金子哲士(平成24年度卒業研究6年生)]

- 葛祐妃、菊間美咲、大村佳織、高橋悠太、沼生智晴、福田真弓、中野なおこ、池野聡一、伊東進(ポスター) TGF- β によるCYP1A1遺伝子発現抑制機構、第58回日本薬学会関東支部大会、町田、平成26年10月4日

[葛祐妃、菊間美咲(平成26年度卒業研究6年生)、大村佳織(平成25年度卒業研究6年生)、高橋悠太(平成24年度卒業研究6年生)、沼生智晴(平成23年度卒業研究6年生)、福田真弓(平成26年度卒業研究6年生)]

○木村栄希、加古拳朗、大塚愛理、梅壽乾隆、土屋裕樹、中野なおこ、伊東進(ポスター) TGF- β シグナル抑制機構の解析、第58回日本薬学会関東支部大会、町田、平成26年10月4日

[木村栄希(平成26年度卒業研究6年生)、加古拳朗、大塚愛理(平成26年度卒業研究5年生)、梅壽乾隆(平成24年度卒業研究6年生)、土屋裕樹(平成25年度卒業研究6年生)]

○荻なつみ、竹本友里夏、中野なおこ、伊東進(ポスター) TGF- β は A549 細胞において C/EBP β 及び SREBP-1 の発現を誘導する、第58回日本薬学会関東支部大会、町田、平成26年10月4日

[荻なつみ(平成26年度卒業研究6年生)、竹本友里夏(平成26年度卒業研究5年生)]

○木村真央、柴宏子、中野なおこ、伊東進(ポスター) TGF- β シグナル分子欠損マウス胎仔由来線維芽細胞 MEF の機能解析、第58回日本薬学会関東支部大会、町田、平成26年10月4日

[木村真央(平成26年度卒業研究6年生)、柴宏子(平成24年度卒業研究6年生)]

原 著 論 文

Yakov Chudnovsky, Dohoon Kim, Siyuan Zheng, Warren A. Whyte, Mukesh Bansal, Mark-Anthony Bray, Shuba Gopal, Matthew A. Theisen, Steve Bilodeau, Prathapan Thiru, Julien Muffat, Omer H. Yilmaz, Maya Mitalipova, Kevin Woolard, Jeongwu Lee, Riko Nishimura, Nobuo Sakata, Howard A. Fine, Anne E. Carpenter, Serena J. Silver, Roel G.W. Verhaak, Andrea Califano, Richard A. Young, Keith L. Ligon, Ingo K. Mellinghoff, David E. Root, David M. Sabatini, William C. Hahn, Milan G. Chheda. ZFH4 Interacts with the NuRD Core Member CHD4 and Regulates the Glioblastoma Tumor-Initiating Cell State.

Cell Rep., 6: 313-324(2014).

Thao Thanh Vo Nguyen, Yukihide Watanabe, Aya Shiba, Masayuki Noguchi, Susumu Itoh, Mitsuyasu Kato. TMEPAI/PMEPA1 enhances tumorigenic activities in lung cancer cells.

Cancer Sci., 105: 334-341(2014).

Naoko Nakano, Kota Maeyama, Nobuo Sakata, Fumiko Itoh, Ryosuke Akatsu, Miki Nakata, Yuki Katsu, Souichi Ikeno, Yoko Togawa, Thao Thanh Vo Nguyen, Yukihide Watanabe, Mitsuyasu Kato, Susumu Itoh. C18 ORF1: A Novel Negative Regulator of TGF- β Signaling.

J. Biol. Chem., 289: 12680-12692(2014).

[赤津凌介(平成26年度卒業研究6年生)、中田美紀(平成26年度卒業研究5年生)、

葛 祐妃(平成26年度卒業研究6年生)]

Nobuo Sakata, Satoshi Kaneko, Souichi Ikeno, Yutaka Miura, Hidekazu Nakabayashi, Xue-Yuan Dong, Jin-Tang Dong, Taiki Tamaoki, Naoko Nakano, Susumu Itoh. TGF- β signaling cooperates with AT motif-binding factor-1 for repression of the α -fetoprotein promoter.

J. Signal Transduct., 2014: 970346(2014).

[金子哲士(平成24年度卒業研究6年生)]

研究室活動短報

伊東 進教授の下で、生化学研究室は分子細胞生物学の技術を用いて、「TGF- β シグナル」分野研究を2名の教員とともに学生を指導しております。研究テーマとして TGF- β シグナル伝達機構の解明、TGF- β シグナル系の破綻と発がん、TGF- β シグナルによる血管形成の分子メカニズムの解明を中心に学部4年生、5年生、6年生と共に研究を行い、TGF- β 受容体や Smad 分子に結合する新規結合タンパク質の解析等を精力的に行っています。

研究室では、毎週2回行われる実験報告会、文献紹介並びに輪読を通じて研究室のメンバーも TGF- β に関する知識が増え、様々な分子細胞生物学の手法に関するテクニックとその原理も覚えることができるようになりました。研究室のモットーである思いやりを持って、独立及び融和の精神に基づいた研究体制に近づきつつあります。研究室に赴任してから初めて昭和薬科大学発の原著論文も発表することができました。今後さらに続けての発表を目指しております。少しでも創薬につながる研究成果を出すために日夜研究室のメンバーと努力しています。また、2014年7月から5年間 J. Biol.Chem. の Editorial Board Member として伊東教

授は、J. Biol.Chem. の TGF- β シグナルを中心に査読を行うことにもなりました。なお、平成 27 年 4 月 1 日付で中野なおこ博士が助教として採用、また、佐野圭吾博士が特任助教として赴任されることが決まりました。教育・研究への新風を期待しております。

(7) 統合感染免疫学研究室 (Laboratory of integrative infection immunology)

教 授 石戸 聡
助 教 梶川 瑞穂
助 教 嶋 秀明
共同研究者 井上 能博 (学修支援室：准教授)

学 会 報 告

- Satoshi Ishido: Loss of MHC II ubiquitination induces negative consequence to dendritic cells
8th International Workshop on Antigen Processing & Presentation 10-13 June 2014 Philadelphia, USA
- 梶川瑞穂、Pai-Chi Li、木村美奈子、青木-川住雅美、水戸麻理、宮下尚之、杉田有治、石戸聡：膜貫通型 E3 ユビキチンリガーゼ MIR ファミリーによる基質認識
第 37 回日本分子生物学会年会、2014 年、11 月 25 日～ 11 月 27 日、横浜
- 小見治加、井上能博、梶川瑞穂、嶋秀明、石戸聡：鎖状アルコールの炭素鎖の違いによる抗菌作用の変化
第 58 回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成 26 年 10 月 [小見治加 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

原 著 論 文

Loss of MHC II ubiquitination inhibits the activation and differentiation of CD4 T cells. Ishikawa, R., Kajikawa, M. and Ishido, S. Int. Immunol. (2014) 26 (5): 283-289. doi: 10.1093/intimm/dxt066

研究室活動短報

- (1) ユビキチン化による膜タンパク質輸送機構：
共焦点レーザー顕微鏡を用いたユビキチン化依存性エンドサイトーシスの機構を検討する解析システムの構築が完了した。そのシステムを用いて、同定されているユビキチン化依存性に結合する分子のエンドサイトーシスへの関与を検討している。
- (2) MHC class II のユビキチン化による制御の意義：
樹状細胞の活性化によって MHC II のユビキチン化が消失する。この意義を検討する目的にて、MHC II が恒常的にユビキチン化されているマウス、あるいは MHC II のユビキチン化が抑制されているマウスの解析を行なっている。MHC II のユビキチン化が抑制されないマウス (MHC II が恒常的にユビキチン化されているマウス) は、免疫応答に異常をきたし約 1 年にて消瘦し死亡することが明らかとなった。さらに、MHC II のユビキチン化が抑制されているマウスでは、腸管におけるリンパ球動態に変化が認められ、腸管を介した免疫応答に異常をきたすことが明らかとなりつつある。これらのマウスの解析からユビキチン化の意義の追求を行なっている。
- (3) MARCH ファミリーによる基質認識機構の解析：
ウイルス MIR および、哺乳類 MIR について、標記の詳細を検討している。それぞれの MIR の認識を点変異体、キメラ変異体を用いて検討した結果、MIR に共通する認識機構と、それぞれの MIR 独自の認識機構を持っていることが示唆された。これらの原子レベルにおける検討を行うため、現在、MIR 分子の NMR 解析のための準備を行なっている。現在まで、ミセルを用いた NMR 解析は困難であることが明らかとなり、ナノディスクを用いた検討を行なっている。
- (4) 抗菌活性を持つトリテルペンの探索 (学修支援室 井上 能博 准教授との共同研究)：
約 150 種類のスクリーニングを終了し、約 5 種類の抗菌活性を持つトリテルペンを得た。報告に向けて data のまとめを行っている。これらの抑制機構として、主には静菌作用であることが明らかになりつつある。

創薬科学系 (Devison Pharmaceutical Chemistry)

医薬資源学分野

(8) 天然物化学研究室 (Phytochemistry)

教 授 増田 和夫
准教授 中根 孝久
助 教 篠崎 淳一

学 会 報 告

○中根孝久, 篠崎淳一, 高澤彩香, 傍士忠彦, 蔡少青, 高野昭人, 増田和夫: 中国産 *Adiantum davidii* のトリテルペノイド

[高澤彩香 (平成 26 年度卒業研究 6 年生), 傍士忠彦 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)]

日本生薬学会第 61 年会 (福岡) 2013 年 9 月

○李書淵, 甄恵娣, 篠崎淳一, 瀧野裕之, 関田節子, 中根孝久, 高野昭人, 増田和夫: 中国広東省汎用生薬広東槿皮の生薬学的研究

日本生薬学会第 61 年会 (福岡) 2013 年 9 月

○中根孝久, 高野昭人: 生薬・天然物化学分野における昭和薬科大学の国際共同研究の歩み, ~ネパールを中心に~

第 58 回日本薬学会関東支部大会 (東京) 2014 年 10 月

○尹永淑, 深谷晴彦, 中根孝久, 高野昭人, 高橋滋, 高橋勇二, 井上英史: *Hyptis crenata* Pohl ex Benth. から単離された bis-seco-abietane diterpenoid

日本薬学会第 35 回年会 (神戸) 2014 年 3 月

原 著 論 文

Yun Y.S, Fukaya H, Nakane T, Takano A, Takahashi S, Takahashi Y, Inoue H: A New Bis-seco-abietane Diterpenoid from *Hyptis crenata* Pohl ex Benth,

Org. Lett., 16(23), 6188-6191 (2014).

研究室活動短報

増田和夫教授の急逝にともない、職員 2 名と、総合薬学コース 6 年生 5 名、5 年生 6 名、4 年生 5 名、情報薬学コース 6 年生 1 名、5 年生 1 名、4 年生 1 名と臨床薬学コース 6 年生 6 名、5 年生 4 名、4 年生 3 名で研究活動を行った。4 年生は昨年同様、講義や試験などで時間が取れず、次年度に向けた基礎技術の習得に努めた。5 年生は、病院・薬局実務実習期間外を有効に活用し、各自、研究テーマに基づき研究活動を行った。6 年生は、9 月の卒業論文発表会で、口頭またはポスターによる研究成果の発表を行い、卒業論文を作成した。中根准教授は、厚生労働科学研究費補助金による「能登半島における国産麻黄生産拠点の構築」において、協力研究者として参画し、情報収集、成分分析などを行った。創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業においては、化合物ライブラリーの充実、創薬における新規リード化合物の探索研究を行った。何れの研究課題においてもほぼ目標通りの成果を挙げる事ができた。科研費基盤 B (海外)「ヒマラヤ地域に潜在する新しい創薬シーズの探索ネパール国における薬用植物の資源調査」において、分担研究者として植物調査及び薬用植物の採集を行った。ネパール森林資源局 (DPR) と生物多様性条約および ABS の観点から協定を締結した。採集はネパール東部、イラム地域行い、採取した植物は、順次、同定作業を行い、生理活性試験及び成分検索に供していく予定である。

有機化学分野

(9) 薬化学研究室 (Organic Chemistry)

教 授 田村 修
講 師 森田延嘉
助 教 橋本善光

学 会 報 告

○Osamu Tamura, Nobuyoshi Morita, Rina Kono, Kenji Fukui, Asuka Miyazawa: $\text{BF}_3 \cdot \text{OEt}_2$ -Mediated Cycloaddition of (*tert*-Butyldimethylsilyloxyimino)acetic Acid *N,N*-Dimethyl Amide with Olefines.

IMEBORON XV (Prague, Czech Republic) 平成 26 年 8 月

[河野莉奈 (平成 23 年度卒業研究 6 年生)、福井健仁 (平成 20 年度修士修了生)、
宮澤明日香 (平成 24 年度卒業研究 6 年生)]

○Nobuyoshi Morita, Arisa Yasuda, Motohiro Shibata, Osamu Tamura: Gold-catalyzed Efficient Synthesis of Cyclic Ethers bearing carbonyl group via Meyer-Schuster Rearrangement and Oxa-Michael Addition.

5th EuCheMS Chemistry Congress (Istanbul, Turkey) 平成 26 年 8 月

[安田有沙 (平成 24 年度卒業研究 6 年生)、柴田基拓 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)]

Nina Shibata, Takahisa Tsuchiya, Nobuyoshi Morita, ○Osamu Tamura: Radical Cyclization of-Alkynyl *O-tert*-Butyldiphenylsilyloximes Using 4-*tert*-Butylbenzenethiol.

15th Tetrahedron Symposium Asia Edition (Singapore) 平成 26 年 10 月

[柴田仁奈 (平成 24 年度修士修了生)、土屋貴久 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

Asuka Miyazawa, Yuka Inaba, Saori Hama, ○Shintaro Ban, Nobuyoshi Morita, Osamu Tamura: A Concise Synthesis of cis-HPA-12 Using Branonitrone species.

15th Tetrahedron Symposium Asia Edition (Singapore) 平成 26 年 10 月

[稲葉友香 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)、濱 沙織 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)、
伴 慎太郎 (特別博士研究員)]

森田延嘉、○斉藤祐太、田村 修：金触媒による Meyer-Schuster 転位反応と Aza-Michael 付加反応を利用した含窒素七員環化合物の合成

第 58 回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬科大学) 平成 26 年 10 月

[斉藤祐太 (平成 26 年度卒業研究 5 年生)]

○小林健一、小林夕貴子、田村 修、古源 寛：*ent*-Phaeosphaeride A の全合成

第 58 回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬科大学) 平成 26 年 10 月

森田延嘉、○宮本昌純、橋本善光、田村 修：金触媒によるインデン骨格の簡便合成法の開発

第 58 回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬科大学) 平成 26 年 10 月

[宮本昌純 (平成 26 年度卒業研究 5 年生)]

○小林健一、小林夕貴子、中村美里、田村 修、古源 寛：Phaeosphaeride A の相対および絶対立体配置の決定

日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月

濱 沙織、宮澤明日香、稲葉友香、○庭野陽平、伴 慎太郎、橋本善光、森田延嘉、田村 修：C-カルボキシニトロンの付加環化反応を用いる syn-HPA-12 の合成研究

日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月

[庭野陽平 (平成 26 年度卒業研究 5 年生)]

森田延嘉、○斉藤祐太、伴慎太郎、橋本善光、田村 修：金触媒による Meyer-Schuster 転位反応と Aza-Michael 付加反応を利用した azepane 骨格の構築

日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月

土屋貴久、柴田仁奈、○相良浩人、伴慎太郎、橋本善光、森田延嘉、田村 修： ω -アルキニル O-シリルオキシムを基質とした チイルラジカルの付加・閉環反応の開発研究

日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月
[相良浩人 (平成 26 年度卒業研究 4 年生)]

原 著 論 文

Hiroshi Takikawa, Yoshimitsu Hashimoto, Keisuke Suzuki: Isoxazole Platform for Polyketide Assembly: Cycloaddition of Stable Benzonitrile Oxides to Stable ortho-Quinone Monoacetals and Dehydrogenation
Chem. Lett., **43**, 1607-1609 (2014)

Tohru Ueda, Mitsuhide Inada, Nobuyoshi Morita, and Osamu Tamura: Total Synthesis of Maremycins A and D₁ Using Chiral and Cyclic Nitron with (*E*)-3-Ethylidene-1-Methylindolin-2-one
Heterocycles, **90**, 1179-1195 (2015)
植田 徹 (平成 18 年修士修了生), 稲田光秀 (平成 17 年度修士在学学生)

Kenichi Kobayashi, Yukiko Kobayashi, Misato Nakamura, Osamu Tamura, Hiroshi Kogen: Establishment of Relative and Absolute Configurations of Phaeosphaeride A: Total Synthesis of ent-Phaeosphaeride A
J. Org. Chem., **80**, 1243-1248 (2015)

Nobuyoshi Morita, Rina Kono, Kenji Fukui, Asuka Miyazawa, Hyuma Masu, Isao Azumaya, Shintaro Ban, Yoshimitsu Hashimoto, Iwao Okamoto, Osamu Tamura: BF₃-Mediated *cis*-Selective Cycloaddition of O-Silyloxime with Alkenes
J. Org. Chem., **80**, 4797-4802 (2015).

著 書

田村 修: SBO 5 ~ 7

スタンダード薬学シリーズ II 3 化学系薬学 I 化学物質の性質と反応、公益社団法人日本薬学会 (編)、東京化学同人、東京、2015、pp. 73-86.

研究室活動短報

2014 年度は、助教の橋本善光と特任博士研究員の伴 慎太郎が研究室に加わった。教員 3 名、博士研究員 1 名および卒業研究生で研究活動を行った。田村は、新規な付加環化反応の開発とその反応機構の解明を続けており、森田は金触媒を用いる環構築反応の開発を行っている。新たに加わった橋本は付加環化反応の位置選択性を逆転させる手法の開発を行い、伴は創薬プラットフォーム事業の共同研究を主に担当した。

自己点検・評価

研究成果を継続的に学会にて発表し、特に 4 年生も発表できたことは評価できる。しばらく、滞っていた学術誌上における論文発表が改善された。今後、蓄積したデータをまとめ、高いレベルの研究論文として発表してゆく。

(10) 医薬分子化学研究室 (Drug Design and Medicinal Chemistry)

教 授 山本 恵子

講 師 佐藤 美鶴

講 師 伊藤 俊将

大学院学生 D3 穴見 康昭

大学院学生 D3 江川 大地

大学院学生 D2 加藤 晃
大学院学生 D2 山本 善範
大学院学生 D1 小島 拓之
大学院学生 M1 大浦 有紗

学 会 報 告

- 山本恵子、吉澤麻美、吉本暢子、穴見康昭、江川大地、伊藤俊将：ビタミンD受容体と共有結合するリガンドの創製研究

日本ビタミン学会第66回大会(兵庫)平成26年6月14日
[穴見康昭、江川大地(平成26年度大学院博士課程3年生)、吉澤麻美(平成25年度卒業研究6年生)]

- Keiko Yamamoto, Nobuko Yoshimoto, Toshimasa Itoh, Hidemi Ishii: Design, synthesis and characterization of selenium-containing inhibitors of activated thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor (TAFIa)

The 15th Tetrahedron Symposium (UK) 平成26年6月24, 25日

- Toshimasa Itoh, Tomoko Saito, Keiko Yamamoto: Reducing agent promotes hydroxylation of fatty acid by lipoxygenase

The 15th Tetrahedron Symposium (UK) 平成26年6月24, 25日
[斉藤智子(平成25年度卒業研究6年生)]

- Akira Kato, Nobuko Yoshimoto, Toshimasa Itoh, Keiko Yamamoto: Design and synthesis of antagonist to prevent the active conformation of Vitamin D receptor

The 15th Tetrahedron Symposium (UK) 平成26年6月24, 25日
[加藤晃(平成26年度大学院博士課程2年生)]

- 山本善範、伊藤俊将、山本恵子：ヘキサコサン酸とC26セラミドの合成法の確立

第58回日本薬学会関東支部大会(東京)平成26年10月4日
[山本善範(平成26年度大学院博士課程2年生)]

- 小島拓之、伊藤俊将、江川大地、山本恵子：生体直交型反応を用いたPPAR γ の修飾及び修飾体のX線結晶構造解析

第58回日本薬学会関東支部大会(東京)平成26年10月4日
[江川大地(平成26年度大学院博士課程3年生)、小島拓之(平成26年度大学院博士課程1年生)]

- 西方貴美奈、伊藤俊将、江川大地、山本恵子、Roberta Montanari, Giorgio Pochetti: リガンドによるPPAR γ リン酸化阻害機構におけるヘリックス3と β シート間の相互作用に関する研究

第58回日本薬学会関東支部大会(東京)平成26年10月4日
[江川大地(平成26年度大学院博士課程3年生)、西方貴美奈(平成26年度卒業研究6年生)]

- 小島拓之、伊藤俊将、江川大地、山本恵子：生体直交型反応を用いたPPAR γ の蛍光標識及び標識体のX線結晶構造解析

日本レチノイド研究会第25回学術集会(秋田)平成26年10月11日
[江川大地(平成26年度大学院博士課程3年生)、小島拓之(平成26年度大学院博士課程1年生)]

- 穴見康昭、江川大地、伊藤俊将、清水伸隆、山本恵子：Bio-SAXSを用いた核内受容体の溶液構造の研究

第3回物構研サイエンスフェスタ(茨城)平成27年3月17日
[穴見康昭、江川大地(平成26年度大学院博士課程3年生)]

- 小島拓之、伊藤俊将、江川大地、山本恵子：生体直交型反応を用いたPPAR γ の蛍光標識及び標識体のX線結晶構造解析

第3回物構研サイエンスフェスタ(茨城)平成27年3月17日
[江川大地(平成26年度大学院博士課程3年生)、小島拓之(平成26年度大学院博士課程1年生)]

○江川大地、伊藤俊将、片岡沙織、星野咲季、穴見康昭、加藤晃、山本恵子：ビタミンD受容体とコアクチベーターペプチドの親和性に関する新規測定法構築

日本薬学会第135年会（兵庫）平成27年3月26日

[穴見康昭、江川大地（平成26年度大学院博士課程3年生）、加藤晃（平成26年度大学院博士課程2年生）]

[片岡沙織、星野咲季（平成26年度卒業研究6年生）]

○穴見康昭、酒巻雄太、伊藤俊将、中林誠、伊倉貞吉、伊藤暢聡、山本恵子：22S-ヘキシル活性型ビタミンD誘導体の受容体結合構造と作用機構

日本薬学会第135年会（兵庫）平成27年3月28日

[穴見康昭（平成26年度大学院博士課程3年生）]

○見世慎太郎、加藤晃、伊藤俊将、山本恵子、乾秀之：哺乳類シトクロムP450モノオキシゲナーゼによるポリ塩化ビフェニルの毒性低下メカニズム

日本農芸化学会2015年度大会（岡山）平成27年3月28日

[加藤晃（平成26年度大学院博士課程2年生）]

依 頼 講 演

○山本恵子：新規概念による核内受容体リガンドの創製

神戸薬科大学特別研究セミナー（兵庫）平成26年7月18日

○山本恵子：新しい概念に基づいた核内受容体リガンドの創製

金沢大学 脳・肝インターフェースメディシン研究センター
セミナー（金沢）平成27年3月16日

原 著 論 文

Egawa D, Itoh T, Yamamoto K. Characterization of covalent bond formation between PPAR γ and oxo-fatty acids.

Bioconjugate Chem. **26**, 690-698 (2015).

[江川大地（平成26年度大学院博士課程3年生）]

Anami Y, Itoh T, Egawa D, Yoshimoto N, Yamamoto K. A mixed population of antagonist and agonist binding conformers in a single crystal explains partial agonism against vitamin D receptor: Active vitamin D analogues with 22*R*-alkyl group.

J. Med. Chem. **57**, 4351-4367 (2014).

[穴見康昭、江川大地（平成26年度大学院博士課程3年生）]

Rhieu SY, Annalora AJ, Laporta E, Welsh J, Itoh T, Yamamoto K, Sakaki T, Chen TC, Uskokovic MR, Reddy GS. Potent antiproliferative effects of 25-hydroxy-16-ene-23-yne-vitamin D₃ that resists the catalytic activity of both CYP27B1 and CYP24A1.

J. Cell. Biochem. **115**, 1392-1402 (2014).

総 説

Yamamoto K, Anami Y, Itoh T. Development of vitamin D analogs modulating the pocket structure of vitamin D receptor.

Curr. Top. Med. Chem. **14**, 2378-2387 (2014).

[穴見康昭（平成26年度大学院博士課程3年生）]

Inui H, Itoh T, Yamamoto K, Ikushiro S, Sakaki T. Mammalian cytochrome P450-dependent metabolism of polychlorinated dibenzo-p-dioxins and coplanar polychlorinated biphenyls.

Int. J. Mol. Sci. **15**, 14044-14057 (2014).

研究室活動短報

6年制の三期生である小島拓之が本学大学院博士課程に進学し、博士課程大学院生が5名となった。また、東京農工大学から大浦有紗が本学大学院修士課程に進学し、大学院生が合計6名となった。6年生13名、5年生13名、4年生13名を含めて研究室は総勢48名となり、活気ある研究活動を行うことができた。本研究室は主に核内受容体を標的とする創薬をメディシナルケミストリーの手法で、また、核内受容体の機能解析をケミカルバイオロジーの手法を取り入れて行っているが、2014年度も博士課程の学生を中心に質の高い研究成果をあげることができた。具体的にはD3の穴見と江川の研究成果をそれぞれ原著論文として発表した。また、D1の小島が日本レチノイド研究会第25回学術集会で学生優秀発表賞(口頭発表)を受賞した。特筆すべきこととして、ここ数年来、6年生が卒業論文発表に向けて自主的かつ集中して研究に取り組み、科学者としての実力をつけている点があげられる。卒業論文に熱心に取り組むことが本研究室の伝統となるように指導していきたい。問題点は、所属する学生数が多すぎることである。十分な教育を行うために、1研究室の適正学生数を設定する必要があると考える。

(11) 薬品化学研究室 (Pharmaceutical Organic Chemistry)

教 授 岡本 巖
准教授 山崎 龍
助 教 伊藤 愛

学 会 報 告

○佐藤 正規、伊藤 愛、藤野 大人、山崎 龍、岡本 巖：*N*-ピリジル型および *N*-トロポニル型芳香族アミドの立体構造特性と構造変換

第44回複素環化学討論会(札幌) 平成26年9月

[佐藤正規(平成26年度卒業研究6年生)、藤野 大人(平成25年度卒業研究6年生)]

○伊藤 愛、渋谷 恵祐、山崎 龍、岡本 巖：酸化還元応答型 *N*-メチル芳香族アミドの立体構造特性と配座変換
日本薬学会関東支部会(町田) 平成26年10月
[渋谷 恵祐(平成25年度卒業研究6年生)]

○佐藤 正規、伊藤 愛、山崎 龍、岡本 巖：*N*-アリール-*N*-トロポニル型芳香族アミドの立体構造特性と酸塩基応答型の構造変換
日本薬学会第135年会(神戸) 平成27年3月
[佐藤正規(平成26年度卒業研究6年生)]

○伊藤 愛、山崎 龍、岡本 巖：5-トロポロンジアゾニウム塩の脱プロトン化平衡を利用した新規カルベン前駆体の合成と特性
日本薬学会第135年会(神戸) 平成27年3月

○Ai Ito, Masanori Sato, Hiroto Fujino, Iwao Okamoto: Conformational preferences and alteration of *N,N*-diaryl amides bearing tropolone and pyridine

248th American Chemical Society National Meeting (San Francisco, CA, USA) 平成26年8月

[佐藤正規(平成26年度卒業研究6年生)、藤野 大人(平成25年度卒業研究6年生)]

Saori Fujikake, Ai Ito, Masayuki Terashima, ○Iwao Okamoto: Acid-induced folding of aromatic *N*-methyl amides bearing pyridine-2-carboxylic amides

248th American Chemical Society National Meeting (San Francisco, CA, USA) 平成26年8月

[藤掛紗織(平成24年度卒業研究6年生)、寺島正幸(平成23年度卒業研究6年生)]

原 著 論 文

Tomoaki Shimizu, Shunsuke Koya, Ryu Yamasaki, Yuichiro Mutoh, Isao Azumaya, Kosuke Katagiri, Shinichi Saito: Acid-mediated Ring-Expansion Reaction of *N*-Aryl-2-vinylazetidines: Synthesis and Unanticipated Reactivity of Tetrahydrobenzazocines.

J. Org. Chem., **79**, 4367-4377 (2014)

Hiroshi Fukasawa, Hideaki Muratake, Ai Ito, Hideyuki Suzuki, Yohei Amano, Marina Nagae, Kiyoshi Sugiyama, Koichi Shudo : Silicon-containing GABA derivatives, silagaba compounds, as orally effective agents for treating neuropathic pain without central-nervous-system-related side effects.

ACS Chem. Neurosci., **5**, 525-532 (2014)

Yoshiaki Yamashita, Yuichiro Mutoh, Ryu Yamasaki, Takeshi Kasama, Shinichi Saito : Synthesis of [3] Rotaxanes that Utilize the Catalytic Activity of a Macrocyclic Phenanthroline-Cu Complex: Remarkable Effect of the Length of the Axe Precursor.

Chem. Eur. J., **21**, 2139-2145 (2015)

研究室活動短報

4月1日より山崎龍准教授が研究室スタッフとして加わった。山崎准教授はこれまで構造化学のみならず、有機金属を用いた反応研究および高分子の合成と物性に関する研究を行ってきており、当研究室の研究領域において柔軟な研究課題設定を行うことが可能となった。

芳香族アミドの立体化学に関する研究の中で、新たにトロポロンを組み込んだ新規化合物に関する知見が得られ、成果としてまとまりつつある。また含窒素型の大環状化合物についても構造解析と立体構造特性の解明とを進めることができた。

自己点検・評価

新研究室として卒業研究の学生が初めて配属され、卒業研究を開始することができた。実験室の整備も進み、今後も教育・研究体制の充実を目指していく。

分析化学分野

(12) 薬品物理化学研究室 (Physical Chemistry Laboratory)

教授 秋澤 宏行
助教 宿里 充穂

学会報告

○宿里充穂、加藤 孝一、山村隆、張明榮、花川隆、 ^{11}C -DAC PET による多発性硬化症モデルラットの脳内炎症イメージング

第9回日本分子イメージング学会学術集会 (大阪) 平成26年5月

○宿里充穂、これからの臨床PET薬剤：多発性硬化症のPET診断

PETサマーセミナー2014 (小樽) 平成26年8月

○Ken-ichi Nishijima, Songji Zhao, Fei Feng, Yoichi Shimizu, Hiromichi Akizawa, Kazue Ohkura, Nobuya Kobashi, Tsutomu Abe, Hiroki Matsumoto, Nagara Tamaki, Yuji Kuge: Preclinical evaluation of a thymidine phosphorylase imaging probe, [^{123}I] IIMU, for the first-in-human clinical trials.

The 12th International Symposium for Future Drug Discovery and Medical Care (Sapporo), 平成26年9月

○Miho Shukuri: PET imaging of glial activation in neurological diseases using animal models.

Asian Regional Cooperative Council for Nuclear Medicine 2014 (Osaka) 平成26年11月

○宿里充穂、加藤孝一、熊本卓哉、伊原尚樹、花川隆、プリン受容体を標的とした神経炎症イメージング用PETプローブの開発

脳病態統合イメージングセンター IBIC 第四回シンポジウム (東京) 平成27年2月

○大島伸宏、秋澤宏行、河嶋秀和、趙松吉、趙莞、西嶋剣一、北村陽二、荒野泰、久下裕司、大倉一枝、 ^{111}In -DTPA-D-Phe¹-Asp⁰-D-Phe¹]-オクトレオチドの体内動態評価：放射能の腎集積性低減と腫瘍集積性の向上

日本薬学会第135年会 (神戸) 平成27年3月

原著論文

Akihito Ohnishi, Michio Senda, Tomohiko Yamane, Masahiro Sasaki, Tomoko Mikami, Tomoyuki Nishio, Yasuhiko Ikari, Hiroyuki Nishida, Miho Shukuri, Tadayuki Takashima, Aya Mawatari, Hisashi Doi, Yasuyoshi Watanabe, Hirotaka Onoe: Human whole-body biodistribution and dosimetry of a new PET tracer, [^{11}C] ketoprofen methyl ester, for imaging of neuroinflammation.

Nucl. Med. Biol., 41 (7), 594-599 (2014)

著書および総説

加藤孝一、宿里充穂、太田深秀、今林悦子、森下信一、横山淳、花川隆、本田学、松田博史、国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンターにおけるPETイメージング研究の取り組み

PET journal, 25, 4-6 (2014)

研究室活動短報

平成26年度に当研究室に所属していた学生は、学部6年生5名 (内訳：総合薬学コース2名、臨床薬学コース3名)、学部5年生10名 (内訳：総合薬学コース4名、情報薬学コース1名、臨床薬学コース5名)、学部4年生5名の合計20名であった。6年生3名は2014年3月に卒業した。

研究活動としては、上記の学会発表などのほかに、秋澤は第54回薬学会関東支部大会においてシンポジウム「In vivo 分子イメージングの威力と魅力」を企画、開催した。また、学外活動として、秋澤は、アイソトープ・放射線研究発表会運営委員をつとめた。

実験に必要な機器はまだ十分には揃っていないものの、研究のできる環境が徐々に整ってきている。来年度は、学生による学会発表などができるよう、研究を推し進めていきたい。

(13) 薬品分析化学研究室 (Analytical Chemistry of Medicines)

教 授 知久馬敏幸
准教授 小林 茂樹
講 師 鈴木 憲子

学 会 報 告

○Noriko Suzuki, Kotaro Ochi, Toshiyuki Chikuma: Cesium Adsorption Behavior of Vermiculite and Its Application to the Column Method.

6th International Conference of Ion Exchange(宜野湾) 平成 26 年 11 月
[越智耕太郎(平成 25 年度卒業研究 6 年生)]

○鈴木憲子、草柳友貴、知久馬敏幸：スポンジ状に成形したナトリウム型合成雲母によるセシウムの回収
日本化学会第95春季年会(船橋) 平成 27 年 3 月
[草柳友貴(平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○小林 茂樹、品川真理子、高瀬洋一、知久馬敏幸、土屋太佑、平井重光：活性酸素種のスカベンジングに対する新規 Mg マテリアルの水素分子生成機構
日本コンピューター化学会 2014 春季年会(東京) 平成 26 年 5 月
[品川真理子(平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○小林 茂樹、品川真理子、土屋太佑、平井重光、知久馬敏幸: Antioxidant Activities and Mechanism of Production of Hydrogen and Deuterium Molecules Produced from Magnesium-Organic Acid-Coating Systems.
第 24 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム (SRM2014) (京都薬大) 平成 26 年 6 月
[品川真理子(平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

小林茂樹、○品川真理子、安形大樹、鈴木裕子、知久馬敏幸: Antioxidant Effects of Hydrogen and Deuterium Produced from Metal Systems.
第 24 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム (SRM2014) (京都薬大) 平成 26 年 6 月
[品川真理子(平成 26 年度卒業研究 6 年生)、安形大樹(平成 26 年度卒業研究 5 年生)、鈴木裕子(平成 26 年度卒業研究 4 年生)]

小林 茂樹、○茅野雅広、知久馬敏幸: Alzheimer 病関連 β アミロイドタンパク線維の凝集体の電子顕微鏡による画像化
第 58 回日本薬学会関東支部大会(昭和薬大) 平成 26 年 10 月
[茅野雅広(平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

小林 茂樹、○品川真理子、知久馬敏幸: 抗酸化剤としての水素分子の活性と速度論的同位体効果
第 58 回日本薬学会関東支部大会(昭和薬大) 平成 26 年 10 月
[品川真理子(平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

小林 茂樹、○立石香織、知久馬敏幸: シトシン C-5 メチル化 DNA に対する制がん剤シスプラチンの作用
第 58 回日本薬学会関東支部大会(昭和薬大) 平成 26 年 10 月
[立石香織(平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○小林 茂樹、品川真理子、安形大樹、鈴木裕子、知久馬敏幸、土屋太佑、平井重光: 水素分子の活性種と抗酸化作用に関する研究
第 5 回分子状水素医学シンポジウム(名古屋) 平成 27 年 3 月
[品川真理子(平成 26 年度卒業研究 6 年生)、安形大樹(平成 26 年度卒業研究 5 年生)、鈴木裕子(平成 26 年度卒業研究 4 年生)]

○小林 茂樹、茅野雅広、関根稜弥、浜島 肇、知久馬敏幸：アルツハイマー病関連 β アミロイド線維の凝集にみられる異方性と等方性

日本薬学会 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月
[茅野雅広 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)、関根稜弥 (平成 26 年度卒業研究 5 年生)]

○金子瑞紀、大沼範顕、鈴木憲子、小林茂樹、知久馬敏幸：MK-801 投与統合失調症モデルラットにおける cholecystokinin-8 代謝酵素の変動について

第 58 回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成 26 年 10 月
[金子瑞紀、大沼範顕 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○元木香里、中村文香、鈴木憲子、小林茂樹、知久馬敏幸：アストロサイトにおける 4-hydroxy-2-nonenal による glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase の分解機構について

第 58 回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成 26 年 10 月
[中村文香 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)、元木香里 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○中山菜津子、鈴木憲子、小林茂樹、知久馬敏幸：U373 細胞での H_2O_2 処理による glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase の分解機構について

第 58 回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成 26 年 10 月
[中山菜津子 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○高橋 郷、大沼範顕、鈴木憲子、小林茂樹、知久馬敏幸：MK-801 投与による統合失調症モデルラットを用いた脳内 cholecystokinin-8 生合成酵素の変動について (2)

日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月
[大沼範顕 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

原 著 論 文

Noriko Suzuki, Kotaro Ochi, and Toshiyuki Chikuma: Cesium Adsorption Behavior of Vermiculite and It's Application to the Column Method.

J. Ion Exchange, **25**, 122-125 (2014)
[越智耕太郎 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)]

Shigeki Kobayashi, Yhuki Tanaka, Mituhiro Kiyono, Masahiro Chino, Toshiyuki Chikuma, Keiko Hoshi, Hideaki Ikeshima: Dependence pH and Proposed Mechanism for Aggregation of Alzheimer's Disease-related Amyloid- β (1-42) Protein

J. Mol. Struct., **1094**, 109-117 (2015)
(Online 27 March 2015)
[田中祐樹 (平成 23 年度卒業研究 6 年生)、清野晃弘 (平成 25 年度卒業研究 6 年生)、茅野雅広 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

Genki Ohkushi, Noriko Suzuki, Shigeki Kobayashi and Toshiyuki Chikuma: Axonal transport of neprilysin in rat sciatic nerves.

J. Mol. Neurosci., **53**, 96-102 (2014)
[大串元気 (平成 21 年度修士修了生)]

Satoshi Ohta, Noriko Suzuki, Shigeki Kobayashi and Toshiyuki Chikuma: Role of cathepsin G in the degradation of glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase triggered by 4-hydroxy-2-nonenal in U937 cells.

CellBio, **3**, 35-42 (2014)
[太田智史 (平成 23 年度卒業研究 6 年生)]

著 書

知久馬敏幸 (共著)：薬学分析化学 (初版) 廣川書店 (2015)

研究室活動短報

昨年度に引き続きセシウム回収に関する研究が主題となった。震災から3年が経過し世間的な関心が薄れつつあるテーマではあるが、現場ではまだまだ問題が山積しておりこれからも有効なデータが提供できるように研究を進めたいと考えている。

抗酸化剤としての水素分子の研究を進め、効率的に水素分子を生成する水素貯蔵分子の開発や分子レベルでの生成機構モデルを提案した。この貯蔵分子は細胞の酸化ストレス軽減にも応用でき、抗酸化分野への進展が期待できる。また、この研究テーマで、1件の奨励研究費も受けた。アルツハイマー病関連のアミロイド β タンパク凝集機構に関する研究テーマでは、電子顕微鏡を駆使し、新しい凝集体を見出すに至った。これらの結果などから、リレー結合という、アミロイド β タンパクの凝集機構モデルを、分子レベルで提案するに至ったのは、今後のアルツハイマー病治療薬開発への足がかりとなると考えられ、今後につながる年度となった。

統合失調症発症時に低下する神経ペプチドの cholecystokinin-8 レベルの原因を解明するために、ここ数年間継続してきた cholecystokinin-8 分解酵素に関する研究に引き続き、今年度は生合成酵素に関する研究に組み、新たな知見を学会で発表した。一方、酸化ストレスに関する研究では、酸化ストレス（過酸化水素）により生じる修飾 glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase の分解除去機構に関してヒトグリオーマ U373 細胞での研究で新たな知見を見いだした。

医療薬学教育研究センター (Education Center Clinical Pharmacy Practice)

医療薬学部門

(14) 医薬情報評価教育 戸田研究室

教 授 戸 田 潤

その他の論文

○戸田潤：“覚える”学習から“考える”学習へ ～大学教育における教員の役割～

昭和薬科大学 紀要, 49, 43-50 (2015).

学 会 報 告

○戸田潤：一般シンポジウム S57「6年制薬学教育の現状から見た実務実習の課題と改善に向けて」 プレア
ンケートに基づく改訂実務実習に向けての大学・施設の準備状況

日本薬学会第135年会(神戸) 平成27年3月

研究室活動短報

[学部学生教育]

講義／3年次「社会保障制度と薬局」の中の“医療と経済”

小グループ討議(SGDと解説)／「ヒューマニズムについて学ぶ／A2医療の担い手としてのこころ構え」
(1年次) テーマ／「社会が求める薬剤師って？」

実習／医療薬学教育研究センターの一員として「実務実習事前実習」の指導にあたった。

「基礎実習」4年次(前期5、6月)：担当 疑義照会

「応用実習」4年次(後期9、10月)：担当 患者応対と服薬指導

「総合実習」4年次(10月)：担当 調剤薬の鑑査

「導入実習」3年次(3月)：担当 計数調剤

問題基盤型学習(PBL)／平成27年度からの改訂モデル・コアカリキュラムに対応すべく、昨年より2年次
「臨床薬剤師入門」の一部に「薬物治療の進め方」をテーマに、簡単な症例を材料にして、患者の問題点の見
つけ方(Problem Mapの作成)と治療計画の立案の仕方(SOAPの作成)を演習として導入した。今年度は昨
年の実績を踏まえて、教材の内容とスケジュールに多少の改善を加えて実施した。昨年度より時間を倍にし、
Problem MapおよびListの作成を繰り返し行えるようにした。また教材に関しては練習課題(一般用医薬品)
と本課題(処方医薬品)に分け、学生が少しずつステップアップできるように配慮した。

卒業研究生への指導／

6年生：5年次の時に定めたテーマをもとに、アンケートの実施や文献調査などにより論文に仕上げた。これ
までと異なり、学生自身がアンケート原案を作成するなど積極的に行動したので、質の高い論文を作成でき
たと考える。

教育効果の高い授業の構築／

近年の留年生の増加に歯止めをかけるために授業改善を目的とした事業計画に標記のテーマを掲げ、主担当
を務めた。本事業は1)公開授業による相互参観(11月)、2)チーム基盤型学習(TBL)をテーマにしたFD
研修会(10月)FD委員会との共催、3)他大学の視察(11月)で構成した。

[学外での活動]

6年制実務実習の内容充実への関わり／

一般(社)薬学教育協議会の薬学教育調査・研究・評価委員会の委員として、昨年に続き2年目の事業に参画
した。

また、分野別評価の実施母体である一般(社)薬学教育評価機構の評価実施員として、また評価委員会委員と
して、本評価に関与した。

さらに、日本薬剤師会に新たに設立された薬学教育委員会の委員として、改訂モデル・コアカリキュラム
に対応すべく、「指導の手引」の改訂作業に加わった。

[報告・自己点検・評価・展望]

定年前の最後の1年間だったが、学生への授業、卒業論文の作成など、教育に関して充実した年となった。また授業の改善をテーマにした事業計画では、設定した目標をほぼ達成できた。また、最終講義では“薬学教育よ、目覚めなさい！ ～薬剤師の役割と有機化学的知識の活用～”と題し、教員を主対象とした授業形式で、授業の在り方について講演を行った。しかし、教育改革はまだ途に就いたばかりであることから、今後さらに継続したFD活動を中心に改善を進めていくことが肝要である。

(15) 医薬情報評価教育 串田研究室

講 師 串田一樹

学 会 報 告

○堀井孝太、平澤伸一郎、都島千秋、森元将郎、白石丈也、串田一樹：在宅医療を支援する薬局の業務について ―薬局業務の効率化と薬剤師配置への一考察―

第25日本在宅医療学会学術集会（倉敷） 平成26年5月
[堀井孝太、平澤伸一郎、都島千秋、森元将郎（平成26年度卒業研究6年生）]

○荻原美代子、石川光子、渡辺陸子、松本亜由美、藤巻洋子 串田一樹：多職種連携を推進するためのリーダーシップ～ガン末期の事例を通して考える～

第25日本在宅医療学会学術集会（倉敷） 平成26年5月

○松本亜由美、橋本秀文、寺西真理子、藤巻洋子、荻原美代子、渡辺睦子、串田一樹：薬局の在宅緩和ケアにおける連携と退院調整

第25日本在宅医療学会学術集会（倉敷） 平成26年5月

○石川光子、荻原美代子、渡辺陸子、松本亜由美、藤巻洋子、串田一樹：最後まで支えきった在宅医療 ～ガン末期の事例を通して考える～

第25日本在宅医療学会学術集会（倉敷） 平成26年5月

○倉本珠江、串田一樹：在宅医療の推進と薬局の関わり ―処方せんを断らない薬局を目指して―

第25日本在宅医療学会学術集会（倉敷） 平成26年5月

○串田一樹：在宅医療にかかわる薬局の業務分析

第16回日本医療マネジメント学会学術総会（岡山） 平成26年6月

○石川 星 戸田宏子 唐澤淳子、廣原正宜 串田一樹：保険薬局の構造設備に対する一考察 ―抗がん剤注射薬の無菌調剤に向けて―

医療薬学フォーラム2014（横浜） 平成26年6月

○串田一樹：在宅医療における医療連携 ―医薬品情報から医療情報への転換―

第17回日本医薬品情報学会学術大会（鹿児島） 平成26年7月

○串田一樹、白石丈也、前田桂吾：在宅医療の機能分化・進化 ―急性期医療の医薬品提供体制について―

第24回日本医療医薬学会（名古屋） 平成26年9月

○渡辺朋子、佐藤有希、大谷勇作、John A. Bacynsky、串田一樹：インターネットがもたらす医薬品販売の将来―問題点の抽出とルールの効果について―

日本社会薬医学会第33年会（東京） 平成26年9月

○串田一樹、前田桂吾、白石丈也：緩和医療教育の実践を通して見えたこと、考えたこと

第8回日本緩和医療薬学会（松山） 平成26年10月

- 石川 星、廣原正宜、串田一樹：保険薬局の注射薬調剤に関する一考察
第12回HIP研究会フォーラム（沖縄） 平成26年11月
- 都島千秋、森元将郎、平澤伸一郎、堀井考太、幌原正宜、串田一樹：在宅医療を支援する薬局の機能評価
一薬局の責務について—
第12回HIP研究会フォーラム（沖縄） 平成26年11月
[都島千秋、森元将郎、平澤伸一郎、堀井考太（平成26年度卒業研究6年生）]
- 森元将郎、都島千秋、平澤伸一郎、堀井考太、廣原正宜、串田一樹：在宅医療における薬物治療の共同管理
について ～訪問看護師と薬剤師の業務分担と連携～
第12回HIP研究会フォーラム（沖縄） 平成26年11月
[森元将郎、都島千秋、平澤伸一郎、堀井考太（平成26年度卒業研究6年生）]
- 堀井考太、平澤伸一郎、森元将郎、都島千秋、廣原正宜、串田一樹：在宅医療を支援する薬局業務について
～薬局業務の効率化と薬剤師配置への一考察～
第12回HIP研究会（沖縄） 平成26年11月
[堀井考太、平澤伸一郎、森元将郎、都島千秋（平成26年度卒業研究6年生）]
- 串田一樹、石川 星、門谷靖裕、前田桂吾、山口秀樹、廣原正宜：学部教育における緩和医療教育の実践
日本臨床腫瘍薬学会学術大会2015（京都） 平成27年3月
- 串田一樹：薬学生の社会活動 ～カリキュラム導入に向けたジレンマ～
日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月
- 都島千秋、前田桂吾、白石丈也、廣原正宜、串田一樹：在宅医療における注射薬の供給体制 ～薬局の責務
について～
日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月
[都島千秋（平成26年度卒業研究6年生）]
- 森元将郎、平澤伸一郎、森元陽子、菅原由美、廣原正宜、串田一樹：在宅医療における薬物治療の共同管理
について ～訪問看護師と薬剤師の業務分担と連携～
日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月
[森元将郎、平澤伸一郎（平成26年度卒業研究6年生）]
- 堀井孝太、宮田香菜、樋口ゆき子、片山愛理、鈴木順子、畑田崇、仲鉢英夫、串田一樹：離島医療の研修か
ら学んだこと（第3報）
日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月
[堀井孝太（平成26年度卒業研究6年生）]

論文

- 萩原美代子、石川光子、渡辺陸子、松本亜由美、藤巻洋子 串田一樹：多職種連携を推進するためのリーダー
シップ ―がん末期の症例をととして考える―
癌と化学療法, Vol.41, suppl.I, 12-14, 2014.
- 石川光子、萩原美代子、渡辺陸子、松本亜由美、藤巻洋子、串田一樹：最後まで支えきった在宅医療 ―ガ
ン末期の事例を通して考える―
癌と化学療法, Vol.41, Suppl.I ,23-25,2014.
- 堀井孝太、平澤伸一郎、都島千秋、森元将郎、白石丈也、前田桂吾、廣原正宜、串田一樹：在宅医療を支援
する薬局の業務について ―薬局業務の効率化と薬剤師配置への一考察―
癌と化学療法, Vol.41, Suppl.I ,50-53,2014.
[堀井孝太、平澤伸一郎、都島千秋、森元将郎（平成26年度卒業研究6年生）]

招待講演

シンポジウム

○串田一樹：薬・薬連携から医療連携へ ～在宅医療推進に伴う地域医療連携の構築を目指して～

日本病院薬剤師会関東ブロック第44回学術大会（大宮） 平成26年8月

○串田一樹：在宅医療における今後の薬局・薬剤師の評価のあり方

第4回 Web セミナー 平成27年3月

講演

○串田一樹：在宅医療の推進と今後の薬薬連携について

第16回藤沢・茅ヶ崎・寒川病院薬局長セミナー 平成26年8月

出版

大澤光司、宇田和夫、高橋眞生、串田一樹、編：在宅薬剤管理入門 ―コミュニティ・ファーマシストの神髄を求めて―

2014.9、南山堂

研究室活動短報

教育面では、1年次はA:ヒューマニズムについて学ぶ「(3)信頼関係の確立を目指して」(1・2・3年次 前・後期計8テーマ)を担当した。1年次の「薬学への招待」の1コマ(在宅医療における薬剤師の役割)を担当した。3年次は社会薬学(3年次後期、10/15コマ担当)、実務実習事前学習(導入実習 3年次後期8回)を担当した。4年次は事前学習(4年次前・後期)を担当し、医薬開発(4年次前期)を担当した。5年次は医薬開発特論(5年次前期)を担当した。6年次は在宅医療と薬局(6年次前期)を担当した。5年次実務実習の施設担当の1人として訪問などを通して実務実習の支援を行った。卒業研究について4名の指導を行った。

近い将来本学の特色ある医療活動として離島・へき地医療の教育を推進するために、希望者を奄美大島、喜界島などへ地域医療(へき地医療)研修として引率している。都市部の医療とは違い、人材不足や設備不足の中、適正な医療提供に努力している現場から学ぶことは大変意義のある研修となっている。

研究面では、高齢・多死社会の到来に向けて在宅医療の環境整備に関する研究を推進している。急性期医療の在宅移行が進められようとしていることから、地域の医薬品提供を担う薬局の機能が大きく変わってきた。薬局薬剤師の業務時間分析などを通して、薬局の在宅医療における役割を明らかにしてきた。

社会活動として、研究室の学生を中心に、障がい児スポーツ教室の支援(町田市主催)、NPO法人町田市つながりの開(認知症の患者の会)の支援の他、地域住民を対象にお薬講座を開設している。これらの地域活動は、大学が町田にキャンパスを移して20年を超える現在、地域に開かれた大学として教育面でも意義のある活動と考えている。これらの活動に参加する学生の笑顔が本学の教育プロダクトそのものである。

(16) 臨床化学分析教育 福森研究室

教授 福森 隆次

研究室活動短報

臨床コースに7名が研究室に所属。おもに慢性疾患の薬物治療に関して調査研究を行っている。福森は、講義では生体機能調節、薬の効き方Ⅱ、薬の安全性、薬物治療Ⅰを担当した。また、実習では事前実習を担当した。実務実習では4病院を受け持った。委員会では国試対策委員会委員長を務めた。

(17) 臨床化学分析教育 千葉研究室

教 授 千葉 良子

学 会 報 告

1. ○千葉良子、鳥居伸一郎、吉原秀樹：スギ葉精油が高血圧患者の血圧変動に及ぼす影響
日本アロマセラピー学会（横浜）平成26年12月
2. ○鳥居伸一郎、吉原秀樹、千葉良子、神保太樹：精神療法的音楽療法を応用したアロマセラピーにおけるモノアミンバランスの変化
日本アロマセラピー学会（横浜）平成26年12月

原 著 論 文

1. 廣原正宣、濱本知之、寺田綾子、千葉良子、渋谷文則、中村美樹、渡部一宏、大澤友二、戸田潤、串田一樹、高野昭人、北島潤一、萩原幸彦、福森隆次、堀口よし江、濱島肇、田口恭治：昭和薬科大学におけるバイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習—4年次実務実習事前学習と6年次アドバンス実習における評価—
医療薬学、40(10), 567-585, (2014)

研究室活動短報

平成26年度は12名の特別実習生（6年次学生6名、5年次学生4名、4年次学生2名）を受入れ研究及び文献調査を行った。本年度の研究活動としては、引き続きアロマオイルを用いた臨床応用を外部施設と共同で行ない、その成果を日本アロマセラピー学会にて発表した。教育活動としては2年次「医療の担い手としての心構え」、3年次前期「薬局方概論」、3年次後期「臨床分析」、3年次後期「導入実習」、および4年次前期・後期の「実務実習事前学習」を担当した。研究室における教育としては、精油の安全性および脳波測定に関するゼミを行った。今後も教育を主軸にしながら、アロマオイルを中心とした研究活動を行っていく予定である。

(18) 薬品作用学教育 田口研究室

教 授 田口 恭治

学 会 報 告

- 坪井真友子、中里友美、神戸敏江、宇都宮郁、阿部賢志、田口恭治：オキサリプラチン誘発末梢神経障害におけるCa²⁺チャネルサブユニットCa $\alpha_2\delta$ 1の関与
第58回日本薬学関東支部大会（東京）平成26年10月
[坪井真友子、中里友美（平成26年度卒業研究6年生）]
- 日比彩円香、蒲田侑加子、神戸敏江、宇都宮郁、阿部賢志、田口恭治：パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄でのP2X₄受容体の関与
第58回日本薬学関東支部大会（東京）平成26年10月
[日比彩円香、蒲田侑加子（平成26年度卒業研究6年生）]
- 加藤のどか、宗像紘子、阿部賢志、堀口よし江、宇都宮郁、田口恭治、野島浩史：マウスの腓腹神経結紮モデルにおける痛覚過敏の評価
第58回日本薬学関東支部大会（東京）平成26年10月
- 宗像紘子、加藤のどか、阿部賢志、神戸敏江、齋藤俊昭、堀口よし江、野島浩史、田口恭治：MPTP誘発パーキンソン病様症状に対する1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline誘導体の作用—官能基に関する検討—
日本薬学会135年会（神戸）平成27年3月

○加藤のどか, 宗像紘子, 阿部賢志, 宇都宮郁, 田口恭治, 野島浩史: 腓腹神経結 紮により誘発される痛覚過敏モデルマウスに対するコリン作動薬の鎮痛作用

日本薬学会 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月

○石田耕太, 渡部一宏, 寺師優以, 植松和子, 遠藤巖, 鈴木憲史, 鈴木一郎, 田口恭治: 腎機能障害患者における Rivaroxaban の推奨減量基準の妥当性

日本薬学会 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月
[寺師優以 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

原 著 論 文

Kenji Abe, Kanayo Kobayashi, Saori Yoshino, Kyoji Taguchi, Hiroshi Nojima : Withdrawal of repeated morphine enhances histamine-induced scratching responses in mice.

Drug and Chemical Toxicology 4, 1-7 (2014)

Yuichi Sakashita, Kenji Abe, Nobuyuki Katagiri, Toshie Kambe, Toshiaki Saitoh, Iku Utsunomiya, Yoshie Horiguchi, Kyoji Taguchi : Effect of psilocin on extracellular dopamine and serotonin levels in the mesoaccumbens and mesocortical pathway in awake rats.

Biological and Pharmaceutical Bulletin 38, 134-138 (2015)

[Nobuyuki Katagiri (平成 21 年度博士修了生)]

Hikari Chiba, Haruka Sato, Kenji Abe, Toshiaki Saito, Yoshie Horiguchi, Hiroshi Nojima, Kyoji Taguchi: Effects of 1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline derivatives on dopaminergic spontaneous discharge in substantia nigra neurons in rats

Pharmacology 95, 87-94 (2015)

Sayako Hotta, Takumi Nagaoka, Yoshihiko Nakatani, Toshie Kambe, Iku Utsunomiya, Kenji Abe and Kyoji Taguchi : Neurophysiological and immunohistochemical studies of IgM anti-GalNAc-GD1a monoclonal antibody in the rat neuromuscular junction.

Journal of Neurological Neurophysiol 6, 1-6 (2015)

[Sayako Hotta (平成 19 年度修士修了生), Takumi Nagaoka (平成 16 年度修士修了生), Yoshihiko Nakatani (平成 18 年度修士修了生)]

Sayako Hotta, Yoshihiko Nakatani, Toshie Kambe, Kenji Abe, Iku Utsunomiya, Kyoji Taguchi : Effects of IgG anti-GM1 monoclonal antibody on neuromuscular transmission and calcium channel binding in the rat neuromuscular junction.

Experimental and Therapeutic Medicine 10, 535-540 (2015)

[Sayako Hotta (平成 19 年度修士修了生), Yoshihiko Nakatani (平成 18 年度修士修了生)]

廣原正宜, 濱本知之, 寺田綾子, 千葉良子, 澁谷文則, 中村美樹, 渡部一宏, 大澤 友二, 戸田潤, 串田一樹, 高野昭人, 北島潤一, 萩原幸彦, 福森隆次, 濱島肇, 堀口よし江, 田口恭治: 昭和薬科大学におけるバイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習 — 4 年次実務実習と 6 年次アドバンス実習における評価 —

医療薬学 40, 567-585 (2014)

著 書

厚味巖一, 小佐野博史, 田口恭治, 富岡佳久, 平野俊彦: 新わかりやすい薬学生のための病態生理と薬物治療 (医学評論社) (2014)

研究室活動短報

平成 26 年度は総合薬学コース 3 名, 臨床コース 2 名と情報コース 2 名で研究及び文献調査を行った。研究活動は前年度に引き続き抗がん剤のパクリタキセルあるいはオキサリプラチン投与による誘発末梢神経障害モデルラットを用いて脊髄での温度感受性イオンチャネルである transient receptor potential vanilloid 1 (TRPV1) と電位依存性 Ca^{2+} チャネルサブユニット $\alpha_2\delta-1$ に対する影響を検討した。その結果、オキサリブ

ラチン誘発の末梢神経障害には脊髄後角の Ca^{2+} チャネルサブユニット $\alpha_2\delta-1$ の増加とパクリタキセル誘発の末梢神経障害にはATP受容体サブタイプ P2X_4 受容体を介していることを明らかにした。今後、抗がん剤により誘発される末梢神経障害の研究・治療の発展が期待される。教育活動は2年次前期の「細胞と機能」、4年次前期の「薬物治療3」、3年次後期と4年次前期・後期の「実務実習事前学習」の教育を行い、12月の共用試験(OSCE)の実施に関わった。学外の活動では薬学会のCBT問題管理委員会の委員としてCBT問題の精選を行った。最後になりましたが、昭和薬科大学で38年間に亘り教育・研究に関わらせて頂き、ありがとうございました。

(19) 薬品作用学教育 萩原研究室

教 授 萩原 幸彦

研究室活動報告

今年度は、研究室所属6年次の学生には、卒業論文・演習試験・国家試験などの指導、4年次の学生には学部科目や確認試験・CBT・OSCE対策など、教育に力を注いだ。また、卒業後の人としてのあり方なども研究室すべての学生と話し合い指導した。

学部科目の講義では、1年次の「生体機能調節」においてはパワーポイントを使用し、“飽きさせない、興味を持たせる”などの信念から工夫をした。毎授業の最後にはその日行った内容の問題を掲げ、定期試験に生かしていけるよう、また、2年次からの生物系科目の基礎となるよう指導し工夫した。

3年次の「医薬品の安全性」では4年次で行う実務実習事前実習の基礎となるような内容や医薬品関係すべての科目の基礎的知識を網羅しながら講義し、一方「薬の効き方Ⅱ」では特に消化器系に関わる最新の医薬品を示し、抗炎症薬、抗リウマチ薬、痛風治療薬などの内容を、自らの体験・経験などを混じえて講義した。

4年次の「疾患と薬物治療Ⅰ」では消化器系の疾患名を種々掲げ、その最新の治療法・治療薬について体験も交えて講義した。

実務実習事前実習では3年次後期に導入実習、4年次の前期・後期にわたって実務実習事前実習を行った。OSCE実施に向け評価者伝達講習会に数回参加・指導し、さらに標準患者募集・養成に係わり、実際に本学でもSP講習会などを数回開催しOSCE本番に向け準備した。

大学常設委員会では、共用試験委員を務め、特にOSCE関連業務に従事した。

(20) 薬品作用学教育 濱島研究室

教 授 濱島 肇

学 会 報 告

○小林茂樹、茅野雅弘、関根稜弥、濱島肇、知久馬敏幸

アルツハイマー病関連 β アミロイド繊維の凝集に見られる異方性および等方性

日本薬学会第135年会(神戸)平成27年3月

論 文

昭和薬科大学におけるバイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習

－4年次実務実習事前学習と6年次アドバンスト実習における評価－

廣原正宣、濱本知之、寺田綾子、千葉良子、渋谷文則、中村美樹、渡部一宏、大澤知二、戸田潤、串田一樹、高野昭人、北島潤一、萩原幸彦、福森隆次、堀口よし江、濱島肇、田口恭治

医療薬学、40、567-585、2014

研究室活動短報

医療薬学教育研修センターとして実務研修の指導にあたっていく。研究活動としては個人研究室として出来る基礎研究を進めていきたい。

(21) 薬品作用学教育 堀口研究室 (Medicinal Chemistry, Horiguchi)

教 授 堀口 よし江

学 会 発 表

Acylium ion を経由した 5-置換-2,3,4,5-tetrahydrobenzo[f][1,4]oxazepine 類の高効率合成

○小野友樹, 伊奈悟, 北畠道和, 毛利邦彦, 堀口よし江

第 59 回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成 26 年 10 月
[小野友樹, 伊奈悟, (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

改良 Pictet-Spengler 反応を利用した 1,2,3,4-tetrahydrobenzoheteronopyridine 類の合成

○新津美貴, 元山莉那, 北畠道和, 堀口よし江, 毛利邦彦

第 59 回日本薬学会関東支部大会 (東京) 平成 26 年 10 月
[新津美貴, 元山莉那, (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

改良 Pictet-Spengler 反応を利用した 3 環性複素環化合物の合成

○新津美貴¹⁾, 春山豊¹⁾, 北畠道和^{1), 2)}, 毛利邦彦¹⁾, 堀口よし江¹⁾

日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月
【新津美貴 (平成 26 年度卒業研究 6 年生、春山豊 (平成 25 年度卒業研究 6 年生))】.

原 著 論 文

Effect of Psilocin on Extracellular Dopamine and Serotonin Levels in the Mesoaccumbens and Mesocortical Pathway in Awake Rats

Yuichi Sakashita, Kenji Abe, Nobuyuki Katagiri, Toshie Kambe, Toshiaki Saitoh, Iku Utsunomiya, Yoshie Horiguchi, and, Kyoji Taguchi:

Biol. Pharm. Bull., 38, 134-138 (2015)

Effect of 1,2,3,4-Tetrahydroisoquinoline Derivatives on Dopaminergic Spontaneous Discharge in Substantia Nigra Neurons in Rats

Hikari Chiba, Haruka Sato, Kenji Abe, Toshiaki Saitoh, Yoshie Horiguchi, Hiroshi Nojima and, Kyoji Taguchi:

Biol. Pharm. Bull., 38, 134-138 (2015)

昭和薬科大学におけるバイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習—4 年次実務実習事前学習と 6 年次アドバンスド実習における評価

廣原正宜, 濱本知之, 寺田綾子, 千葉良子, 澁谷文則, 中村美樹, 渡部一宏, 大澤友二, 戸田潤, 串田一樹, 高野昭人, 北畠潤一, 萩原幸彦, 福森隆次, 堀口よし江, 濱島肇, 田口恭治

医療薬学 40(10)567-585 (2014)

研究室活動短報

学部教育では講義は医薬品化学 I, II を担当し、また医療薬学教育研究センター教員として実務実習事前教育及び病院・薬局実務実習を担当した。また共用試験担当教員として OSCE 本試験、再試験の運営と評価者養成講習会、OSCE 直前講習会を行った。平成 26 年度から新設の学修支援室の化学担当サポート教員として主に 5 年生、6 年生、2 年生の学習到達度が低い学生に対して化学分野の講義、演習を行った。

研究室所属の学生は 6 年生が総合薬学コース 2 名、情報薬学コース 1 名、臨床薬学コース 7 名の計 10 名、5 年生は総合薬学コース 1 名、臨床薬学コース 3 名の計 4 名、4 年生は臨床薬学コース 4 名で、これらの学生の教育に当たった。

研究活動は卒業研究コース学生と研究生を中心に行った。これまでの Pictet-Spengler 反応を応用した複素環化合物合成の研究を種々の 3 環性の複素環化合物の合成に展開した。

自己点検・評価

医療薬学教員研究センター教員としての4年生の実務実習・事前学習の教育活動は十分にできたと評価する。また学修支援室における学生の教育も工夫を凝らして行い、それなりの成果はあったと感じている。研究活動では学生中心に行って、規模は小さいが成果はあがっている。

(22) 漢方治療学教育 北島研究室

教 授 北島 潤一

原 著 論 文

Yoshinori Murai, Junichi kitajima, Tsukasa Iwashina, “Flavonoids from two Alpine campanula Species in Japan”, *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B*, **40**(3), 113-118(2014).

Tao Fujiwara, Ayumi Uehara, Junichi kitajima, Tsukasa Iwashina, Sadamu Matsumoto, Yasuyuki Watano “Genkwanin 4'-O-glucosyl-(1-2)-rhamnoside from New Chemotype of *Asplenium normale* in Japan”, *Natural Product Communications*, **9**(9), 1289-1290(2014).

Tsukasa Iwashina, Ayumi Uehara, Junichi Kitajima, Tomohisa Yukawa, “Anthocyanins and Other Flavonoids from *Amorphophallus titanium* Having Largest Inflorescence in Plant Kingdom, and Other Two Species”, *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B*, **41**(1), 33-44(2015).

Yoshinori Murai, Hiroaki Setoguchi, Junichi kitajima, Tsukasa Iwashina, “Altitudinal Variation of Flavonoid Content in the Leaves of *Fallopia japonica* and Needles of *Larix kaempferi* on Mt. Fuji”, *Natural Product Communications*, **10**(3), 407-411(2015).

Tsukasa Iwashina, Junichi kitajima, Takayuki mizuno, Sergey V. Smirnov, Oyunchimeg Damdinsuren, “New Kaempherol 3,7-Diglycosides from *Asplenium ruta-muraria* and *Asplenium altajense*”, *Natural Product Communications*, **10**(3), 417-420(2015).

Nana Hashimoto, Ryo Ohsawa, Junichi kitajima, Tsukasa Iwashina, “New Flavonol Glycosides from the Leaves and Flowers of *Primula sieboldii*”, *Natural Product Communications*, **10**(3), 421-424(2015).

Yutaka Masuda, Keisuke Asada, Rei Satho (平成27年3月卒業), Kimihiko Takada, Junichi Kitajima, Capillin, a main constituent of *Artemisia capillaris* flower essential oil, induces apoptosis through the mitochondrial pathway in human leukemia HL-60 cells”, *Phytomedicine*, **22**, 545-552(2015).

Yutaka Masuda, Takayuki Kadokura, Maki Ishii, Kimihiko Takada, Junichi Kitajima, “Hinesol, a compound isolated from essential oils of *Atractylodes lancea rhizome*, inhibits the cell growth and induces apoptosis in human leukemia HL-60 cells”, *Natural Medicines*, **69**, 332-339(2015).

研究室活動短報

本年度は9名の特別実習学生(6年:臨床薬学コース各4名、5年:臨床薬学コース4名、情報薬学コース1名)と共に研究室活動を行った。本年度の研究活動としては、実験を伴うテーマとして①「生薬精油のアポトーシス誘導活性成分の検索・単離と構造相関」、「桃のつぼみ(白桃花)の成分検索」、「天然フラボノイド配糖体の研究[新フラボノイド配糖体の単離・構造解析およびフラボノイドの抗酸化活性と構造相関]」、②漢方薬学分野のテーマとして「食養生と薬膳に関する考察」、③社会薬学分野のテーマとして「チーム医療における薬剤師の役割と職能」を行った。

教育活動としては「生薬学 II」、「医薬開発特論I、II」と「生薬学実習」、「実務実習事前実習」および6年次アドバンスト科目の「漢方処方」に携わった。

研究室の教育としては、漢方に関するゼミ・演習・実習、野外における薬用植物の観察を実施した。本教育

研究室では漢方や自然療法に秀でた薬剤師の輩出を目標としているが、その目標に沿った活動ができたと考えている。

また北島は「チーム医療における薬剤師の役割と職能」の共同研究の一環として、平成27年3月より相模原協同病院の未病外来に参加し、医師と協力して、患者さんの漢方薬による治療・指導にあたっている。

(23) 漢方治療学教育 高野研究室

教 授 高野 昭人

学 会 報 告

○中根孝久, 篠崎淳一, 高澤彩香, 傍士忠彦, 蔡少青, 高野昭人, 増田和夫: 中国産 *Adiantum davidii* のトリテルペノイド

[高澤彩香 (平成26年度卒業研究6年生), 傍士忠彦 (平成25年度卒業研究6年生)]
日本生薬学会第61年会 (福岡) 2013年9月

○李書淵, 甄恵娣, 篠崎淳一, 測野裕之, 関田節子, 中根孝久, 高野昭人, 増田和夫: 中国広東省汎用生薬広東槿皮の生薬学的研究

日本生薬学会第61年会 (福岡) 2013年9月

○中根孝久, 高野昭人: 生薬・天然物化学分野における昭和薬科大学の国際共同研究の歩み, ～ネパールを中心に～

第58回日本薬学会関東支部大会 (東京) 2014年10月

○尹永淑, 深谷晴彦, 中根孝久, 高野昭人, 高橋滋, 高橋勇二, 井上英史: *Hyptis crenata* Pohl ex Benth. から単離された bis-seco-abietane diterpenoid

日本薬学会第35回年会 (神戸) 2014年3月

原 著 論 文

Young Sook Ynu, Haruhiko Fukaya, Takahisa Nakane, Akihito Takano, Shigeru Takahashi, Yuji Takahashi, Hideshi Inoue: A New Bis-seco-abietane Diterpenoid from *Hyptis crenata* Pohl ex Benth.,
Org. Lett., 16(23), 6188-6191 (2014)

廣原正宜, 濱本知之, 寺田綾子, 千葉良子, 澁谷文則, 中村美樹, 渡部一宏, 大澤友二, 戸田潤, 串田一樹, 高野昭人, 北島潤一, 萩原幸彦, 福森隆次, 堀口よし江, 濱島肇, 田口恭治: 昭和薬科大学におけるバイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習—4年次実務実習事前学習と6年次アドバンスト実習における評価—
医療薬学, 40(10), 567-585 (2014)

紀 要

寺田綾子, 中村美樹, 渡部一宏, 廣原正宜, 高野昭人, 澁谷文則, 田口恭治, 濱本知之, 堀口よし江, 戸田潤: 薬局実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析
昭和薬科大学 紀要, 48, 13 - 27 (2014)

中村美樹, 寺田綾子, 渡部一宏, 廣原正宜, 高野昭人, 澁谷文則, 田口恭治, 濱本知之, 堀口よし江, 戸田潤: 病院実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析
昭和薬科大学 紀要, 48, 29 - 40 (2014)

研究室活動短報

6年次学生9名, 5年次学生4名, 4年次生3名を受入れ, 研究室活動を行った。研究については, (1) DNA解析による分類学的研究 (北海道産タンポポ属植物, 国内産オウレン属植物), (2) ドライアイに有効な天然資源の開発に関する研究, (3) 鳥取県産オウレン属植物に関する研究, (4) 薬用植物, 生薬, 漢方処方に関する調査研究などをテーマに卒業研究を行った。所属している学生には, 例年通り、薬用植物園の植栽管理の

補助、薬用植物データベースの更新、現在開花中ブロッコリーの更新や薬用植物園イベントへの協力などに積極的に参加してもらい、各自の卒業研究テーマ以外にも多くの知識を身につけ、多様な経験を積んでもらえるよう研究室運営を行った。次年度は、ゼミの開催数を増やし、研究室としてのイベントなどをさらに多く企画し、研究室活動の充実をはかりたい。また、研究成果の公表を順次積極的に進めていく予定である。

高野は、平成24年度より山梨県森林総合研究所客員研究員として、「山梨県内の薬用植物資源に関する現地調査」と「新しいバイオマーカーを利用した山梨県の有用植物等資源の探索と活用」の二つの研究テーマに参画している。また、厚生労働科学研究費補助金による「能登半島における国産麻黄生産拠点の構築」において、当初協力研究者として、年度途中から分担研究者として参画し、栽培試験などを行った。さらに、科研費基盤B(海外)「ヒマラヤ地域に潜在する新しい創薬シーズの探索ネパール国における薬用植物の資源調査」において、分担研究者として植物調査及び薬用植物の採集を行った。本研究は、生物多様性条約およびABSの観点から、ネパール政府発効のガイドラインにしたがい、ネパール森林土壌保全省植物資源局(DPR)と共同研究の覚書を締結して実施した。調査採集はネパール東部イラム地域で行い、*Swertia chirayita*の栽培状況の調査と薬用資源の調査を行った。

(24) 薬剤師実務教育 山本研究室

教 授 山本 美智子

学 会 報 告

○Hiroki Sugimori, Tomoro Endo, Takeshi Odajima, Tomoaki Tadano, Reiko Takayasu, Taiko Tanba, Masaya Kasai, Tomoya Kawame, Michiko Yamamoto, and Takao Orii: Electronic monitoring-based pharmacist-delivered counseling enhance adherence among Japanese COPD patients

The 20th IEA World Congress of Epidemiology
(Anchorage, USA) 平成26年8月

山本 美智子、菊池 亮太、○小久保 綾乃、佐藤 茜、杉森 裕樹：患者向医薬品ガイドのユーザーテストによる有用性の検討

日本薬学会 第135年会(岡山) 平成27年3月
[菊池 亮太、小久保 綾乃、佐藤 茜(平成26年度卒業研究4年生)]

○須賀万智、小田嶋剛、岡本雅子、住谷昌彦、五十嵐中、石川ひろの、草間真紀子、山本美智子、中山健夫、杉森裕樹：ヘルスリテラシーと健康情報入手、健康関連行動、健康状態の関係

日本衛生学会 第135年会(和歌山) 平成27年3月

招待講演・学会シンポジウム

○Michiko Yamamoto: Discussion About the Provision of Information for Patients

“What Makes a Good Drug Information Leaflet for Patients”

DIA JAPAN 2014 (Tokyo) 平成26年11月

○山本 美智子：臨床研究論文の批判的吟味の取り組みを始めよう

「Academic detailingの流れ」

アプライドセラピューティックス学会(神戸) 平成26年8月

○山本 美智子：医薬品の情報提供の今後を考える

「患者向け医薬品情報のあり方について―患者向医薬品ガイドの場合―」

レギュラトリーサイエンス学会(東京) 平成26年9月

○山本 美智子：アカデミック・ディテリング、データベース開発

「アカデミック・ディテリングとは」

東京理科大学薬学部アカデミック・ディテリング部門シンポジウム(野田) 平成26年9月

○山本 美智子：医薬品の安全性確保に向けた科学的思考—開発から市販後まで—
「医薬品のリスクコミュニケーションの科学的検証」
日本薬学会関東支部大会（東京）平成26年10月

○山本 美智子：薬剤疫学関係者が意識すべきワクチンに関する諸問題
「ワクチンに関する リスク・ベネフィットコミュニケーション～子宮頸がん予防ワクチン
の場合～」
日本薬剤疫学会（松山）平成26年10月

○山本 美智子：地域健康情報拠点としての薬局支援を目指して
「薬局における 情報支援モデル構築に向けて ～糖尿病情報支援システム～」
日本薬学会第135年会（横浜）平成27年3月

原 著 論 文

Hisashi Urushihara, Gen Kobashi, Hideaki Masuda, Setsuko Taneichi, Michiko Yamamoto, Takeo Nakayama, Koji Kawakami, Tsutomu Matsuda, Kaori Ohta and Hiroki Sugimori.:
Pharmaceutical company perspectives on current safety risk communications in Japan.
SpringerPlus, 3:51. doi:10.1186/2193-1801-3-51 (2014)

Michiko Yamamoto : Risk Communication Regarding Drug Safety in Japan.
Occup Med Health Aff., 2:152. doi: 10.4172/2329-6879.1000152 (2014)

Michiko Yamamoto M, Kiyoshi Kubota, Mitsuhiro Okazaki, Akira Dobashi A, Masayuki Hashiguchi, Hirohisa Doi, Machi Suka, Mayumi Mochizuki. : Patients views and experiences in online reporting adverse drug reactions: findings of a national pilot study in Japan.
Patient Prefer Adherence. 23:9:173-84. doi: 10.2147/PPA.S75761 (2015)

Michiko Yamamoto : Patient Drug Information Leaflets for Risk/Benefit Communication,
J Pharmacovigilance, 3:e132. doi:10.4172/2329-6887.1000e132 (2015)

Machi Suka, Takeshi Odajima, Masako Okamoto, Masahiko Sumitani, Ataru Igarashi, Hirono Ishikawa, Makiko Kusama, Michiko Yamamoto, Takeo Nakayama, Hiroki Sugimori. : Relationship between health literacy, health information access, health behavior, and health status in Japanese people.
Patient Educ Couns. pii: S0738-3991 (15) 00083-X. doi:10.1016/j.pec (2015)

総 説

山本 美智子：Academic Detailing 医薬品適正使用のための根拠に基づくアプローチ 最適な薬物治療に向けた Academic Detailing と薬剤師の役割.
YAKUGAKU ZASSHI, 134, 355-362 (2014)

山本 美智子、折井 孝男：Academic Detailing—医薬品適正使用のための根拠に基づくアプローチ
YAKUGAKU ZASSHI, 134, 349-350 (2014)

山本 美智子、杉森 裕樹：リスク最小化に向けた患者への医薬品情報を考える -患者向医薬品ガイドの検討
YAKUGAKU ZASSHI, 135, 269-270 (2014)

山本 美智子、土肥 弘久、古川 綾：リスク最小化に向けた患者向け医薬品情報を考える -患者向医薬品ガイドの検討
YAKUGAKU ZASSHI, 135, 269-270 (2014)

山本 美智子：適正使用に向けた Academic Detailing 情報活動の重要性.
ジェネリック研究, 8(1), 38-43 (2014)

その他の論文

渡部 一宏、山本 美智子：大学における臨床で実践可能なEBM教育の試み，

薬事新報, 2852,9-12(2014)

報 告 書

平成26年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)「国民及び医療関係者との副作用情報にかかるリスクコミュニケーション方策に関する調査研究：副作用の効果的な情報伝達手法の検討」分担研究報告書

山本 美智子：患者向医薬品ガイドのユーザーテスト開発に向けたパイロットスタディ, 19-34

山本 美智子, 佐藤 嗣道, 松田 勉, 後藤 恵子, 杉森 裕樹：患者向医薬品ガイドのユーザーテスト開発に向けたパイロットスタディ, 35-61

山本 美智子, 佐藤 嗣道, 松田 勉, 後藤 恵子, 杉森 裕樹：患者向医薬品ガイドにおける副作用等の記載方法の検討, 62-125

著 書

山本 美智子(分担執筆)

医薬品情報学ワークブック

情報の検索と収集 64-83,

朝倉書店 2015

研究室活動短報

本年度、卒業研究生として4名を迎えた。教育活動として、4年次の「医薬品情報学(薬物治療に役立つ情報)」を主担当し、その他、1年次「ヒューマニズムを学ぶ」、2年次「ヒューマニズムを学ぶ 医療の担い手としてのこころ構え」、3年次「医療薬学概論」、4年次「医療の担い手としてのこころ構え 社会が求める薬剤師って?」、5年次「薬物治療特論Ⅱ」の講義やSGDチューター等を行った。また、実習関係では、3年～4年次の「実務実習事前学習」、5年次「病院・薬局実務実習」を行った。

研究としては、文部科学省科学研究費助成研究「地域医療におけるリスク・ベネフィットコミュニケーション：薬局情報支援モデルの構築」(研究代表者)、厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)「国民及び医療関係者との副作用情報にかかるリスクコミュニケーション方策に関する調査研究：副作用の効果的な情報伝達手法の検討」(分担研究者)においてそれぞれ活動した。医療関係者や患者に向けた情報支援の在り方や方策についてフィールド調査を取り入れ、社会的情報基盤の検討を行った。

教育活動に多くの時間を割いており、研究時間は限られているのが現状であるが、薬剤師教育にとって、ますます重要となる医薬品情報や薬物治療において、教育・研究両面から尽力していきたいと考えている。

(25) 薬剤師実務教育 濱本研究室

教 授 濱本 知之

学 会 報 告

山口涼、○真板桜子、綾部秀範、小林茂樹、福嶋敬宜、濱本知之：キサントキシダーゼ阻害作用を持つ既存薬のラット急性膀胱炎に対する効果

第58回日本薬学会関東支部大会（東京：昭和薬大）平成26年10月4日
[山口涼（平成26年度卒業研究6年生）、真板桜子（平成26年度卒業研究5年生）、
綾部秀範（平成26年度卒業研究4年生）]

原 著 論 文

濱本知之、芹澤彩香、大槻佳織、川上準子、佐藤憲一：がん分子標的薬副作用の自己組織化マップ（SOM）を用いたビジュアル化と解析

YAKUGAKU ZASSHI, 134(10)、1069-1080 (2014)
[芹澤彩香（平成25年度卒業研究6年生）]

廣原正宜、濱本知之、寺田綾子、千葉良子、澁谷文則、中村美樹、渡部一宏、大澤友二、戸田潤、串田一樹、高野昭人、北島潤一、萩原幸彦、福森隆次、堀口よし江、濱島肇、田口恭治：昭和薬科大学におけるバイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習－4年次実務実習事前学習と6年次アドバンスト実習における評価－

医療薬学、40(10)、567-585(2014)

研究室活動短報

当研究室は本年度で5年目を迎え、昨年度末で初めての卒業生を輩出した。6年次2名、5年次3名、4年次4名（5年次2名が総合薬学コース、それ以外は臨床薬学コース）が在籍している。

・教育活動

講義等／1年次「薬学への招待」：薬剤師と法律（1回）、1年次「ヒューマニズムを学ぶA-1：生と死」SGDチューター（1回）、1年次ワークショップSGDチューター（1回）、3年次「ヒューマニズムを学ぶA-2：医療の担い手としてのこころ構え」SGDチューター（2回）、4年次「ヒューマニズムを学ぶA-1：生と死」SGDチューター（1回）、5年次「薬物治療特論Ⅱ」PBLチューター、6年次「患者情報から病態を読む」：重大な副作用の見方（1回）、6年次留年生補講（1回）、大学院「先端薬学」：高齢者に対するファーマシューティカルケア（1回）

実習／3年次「実務実習事前学習（導入実習）」：計量調剤（散剤調剤と薬剤鑑査）担当、4年次「前期実務実習事前学習」：実習講義「疑義照会と調剤薬鑑査について」、計量調剤（散剤調剤と薬剤鑑査）担当、「後期実務実習事前学習」：バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント担当、「総合実習Ⅰ」「総合実習Ⅱ」：散剤調剤担当、6年次「患者情報から病態を読む」：科目責任者および実習担当、「アドバンスト実務実習」：科目責任者

・委員会等活動

共用試験委員会委員長、公開講座委員会幹事、庶務委員会委員、実務実習員会 学外実務実習WG長、大学院小委員会委員、（法人）事業計画「実務家教員の資質維持の為の研修体制の構築」主担当、（法人）情報センター運営委員会委員

・学外活動

日本医薬品安全性学会評議員

・研究活動

医薬品の適応外使用に関する実験研究は成果が現れ、学会で発表出来た。昨年度学会発表したがん分子標的薬の副作用解析研究は論文としても発表出来た。さらに、医療薬学教育研究センターとして、バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習の評価に関する論文を発表出来た。また、コバレント修飾プロジェクトの一部としてQ-TOF LC/MSを使用した病原微生物の迅速診断に関する研究も継続中である。医薬品の適応外使用に関する実験研究、副作用解析研究も継続しており、今後さらに成果として発信できるよう努力したい。さらに、医療現場の問題点を解決するための研究、医薬品の適正使用に関する研究を行うため、医療施設との連携を深めたい。

(26) 薬剤師実務教育 廣原研究室

准教授 廣原 正宜

学 会 報 告

石川星, 戸田宏子, 唐澤淳子, 廣原正宜, 串田一樹: 保険薬局の構造設備に対する一考察－抗がん剤注射薬の無菌調剤に向けて－

医療薬学フォーラム 2014 (東京) 平成 26 年 6 月

○堀井孝太, 平澤伸一郎, 森元将郎, 都島千秋, 廣原正宜, 串田一樹: 在宅医療を支援する薬局業務について
～薬局業務の効率化と薬剤師配置への一考察～

第 12 回 HIP 研究会フォーラム (沖縄) 平成 26 年 11 月

○森元将郎, 都島千秋, 平澤伸一郎, 堀井孝太, 廣原正宜, 串田一樹: 在宅医療における薬物治療の共同管理
について ～訪問看護師と薬剤師の業務分担～

第 12 回 HIP 研究会フォーラム (沖縄) 平成 26 年 11 月

[森元将郎、都島千秋、平澤伸一郎、堀井孝太 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○石川星, 廣原正宜, 串田一樹: 保険薬局の注射薬調剤に関する一考察

第 12 回 HIP 研究会フォーラム (沖縄) 平成 26 年 11 月

○都島千秋, 森元将郎, 平澤伸一郎, 堀井孝太, 廣原正宜, 串田一樹: 在宅医療を支援する薬局の機能評価
～薬局の責務について～

第 12 回 HIP 研究会フォーラム (沖縄) 平成 26 年 11 月

[都島千秋, 森元将郎, 平澤伸一郎, 堀井孝太 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○都島千秋, 前田桂吾, 白石丈也, 廣原正宜, 串田一樹: 在宅医療における注射薬の供給体制 ～薬局の責務
について～

日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月

[都島千秋 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○森元将郎, 平澤伸一郎, 森元陽子, 菅原由美, 廣原正宜, 串田一樹: 在宅医療における薬物治療の共同管理
について –訪問看護師と薬剤師の業務分担–

日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月

[森元将郎, 平澤伸一郎 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

○串田一樹, 石川星, 門谷靖裕, 前田桂吾, 山口秀樹, 廣原正宜: 学部教育における緩和医療教育の実践

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2015 (京都) 平成 27 年 3 月

【和文原著論文】

廣原正宜, 濱本知之, 寺田綾子, 千葉良子, 澁谷文則, 中村美樹, 渡部一宏, 大澤友二, 戸田潤, 串田一樹, 高野昭人, 北島潤一, 萩原幸彦, 福森隆次, 堀口よし江, 濱島肇, 田口恭治: 昭和薬科大学におけるバイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習 –4 年次実務実習事前学習と 6 年次アドバンスト実習における評価–,
医療薬学, 40, 567-585 (2014).

堀井孝太, 平澤伸一郎, 都島千秋, 森元将郎, 白石丈也, 前田桂吾, 廣原正宜, 串田一樹: 在宅訪問 1 回に対する薬剤師業務の時間分析,

癌と化学療法, 41, 50-53 (2014).

研究室活動短報

教育は, 6 年次「在宅医療と薬局」の講義・演習, 5 年次「薬物治療特論Ⅱ」の講義・演習 (PBL), 「医薬開発特論Ⅲ」の講義, 「病院・薬局実務実習」, 3 年次「医療薬学概論」の講義・演習 (PBL), 2 年次「臨床薬剤師入門」の講義・演習 (PBL), 3 年～4 年次の「実務実習事前学習 (事前実習)」を企画し, 講義・実習を担当した。

問題基盤型教育 (PBL) を充実させ、学生が自ら問題点を見つけ、解決して行く能力を身に付けて臨床現場で生かすことのできる教育を進めていきたい。

研究は、高齢・多死社会の到来に向けて在宅医療の環境整備に関する研究を推進しており、学会発表を行った。今後も薬局薬剤師の在宅医療における役割を明らかにすることや抗がん剤治療中患者の居宅での環境汚染 (被曝) など明らかにしていきたい。

薬学共用試験 (OSCE) としては、薬学共用試験センターでの OSCE 実施説明会、モニター説明会等に参加し、本学での OSCE の企画・運営、提出資料作成に携わった。また、OSCE 直前講習会、OSCE 評価者養成講習会の企画・運営、他大学のモニター業務や評価者を行った。
本学での OSCE 運営は、医療薬学教育センター教員や医療薬学教育センター事務員の協力があり、平成 21 年度第 1 回から大きな問題点は無く、引き続き協力し、企画・運営を行っていきたい。

学外活動は、注射薬調製の指導者として、薬局共創未来研究会 (1 回)、沼津薬剤師会 (2 回)、HIP 研究会 (1 回) などで行った。また、テルモの施設見学会の引率、障がい児スポーツ教室の支援 (町田市主催)、NPO 法人町田市つながりの会 (認知症の患者の会) の支援などを行った。

全般的には、事前学習などに費やす時間が多いことを理由に研究活動や学生教育への時間が少なかった。しかし、可能な限り学生とふれ合い、大学だけでは学べない事を学生に経験させることで、医療人としての築きを与える機会を今後も続けていきたいと考えている。

(27) 薬剤師実務教育 渡部研究室

准教授 渡部 一宏

学 会 報 告

- 加藤麻理乃、渡辺享平、後藤伸之、久保田康生、佐々木忠徳、濱宏仁、政田幹夫、松浦克彦、山川雅之、渡部一宏：注射用抗がん剤調製時に生じる余剰への対応に関する調査
第 17 回日本医薬品情報学会 (鹿児島) 平成 26 年 7 月
- 濱岡剛、渡部一宏：乳腺専門診療所における non-Luminal 乳癌に対する術前化学療法の効果
第 22 回日本乳癌学会学術総会 (大阪) 平成 26 年 7 月
- 渡部一宏、千島己幸、縣和宏、平子庸志、芳川圭治、大石美也、濃沼政美：内服抗がん剤を含む処方せんに対する保険薬局薬剤師の意識調査
第 24 回日本医療薬学会 (名古屋) 平成 26 年 9 月
- 柏手一臣、安永さえ子、渡部一宏：薬局薬剤師を対象とした高齢者ケア教育の導入とその評価
第 47 回日本薬剤師会学術大会 (山形) 平成 26 年 10 月
- 堀江美香子、大津史子、佐々木忠徳、濱宏仁、原田幸子、松浦克彦、山川雅之、渡部一宏、渡辺享平、政田幹夫、後藤伸之：病院薬剤師を対象にした社会が必要とする薬剤の探索
日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月
- 石田耕太、渡部一宏、寺師優以、植松和子、遠藤巖、鈴木憲史、鈴木一郎、田口恭治：腎機能障害患者における Rivaroxaban の推奨減量基準の妥当性
日本薬学会第 135 年会 (神戸) 平成 27 年 3 月
[寺師優以 (平成 26 年度卒業研究 6 年生)]

招待講演 シンポジウム

○山本美智子、土肥弘久、渡部一宏：「アドヒアランス向上のむけた病院と保険薬局との連携」

日本薬学会第135年会シンポジウム S44-1「地域薬局を取り巻く最近の状況：地域の情報拠点としての期待、薬機法施行と関係者の役割」(神戸) 平成27年3月

○渡部一宏、福原俊一：研究デザイン7つのステップ

日本骨粗鬆症学会 若手サマーセミナー 2014 (千葉幕張) 平成26年8月

原 著 論 文

廣原正宜、濱本知之、寺田綾子、千葉良子、澁谷文則、中村美樹、渡部一宏、大澤友二、戸田潤、串田一樹、高野昭人、北島潤一、萩原幸彦、福森隆次、堀口よし江、濱島肇、田口恭治：昭和薬科大学におけるバイタルサインチェック フィジカルアセスメント実習－4年次実務実習事前学習と6年次アドバンスト実習における評価
医療薬学、40、567-585、(2014)

総 説

渡辺享平、後藤 伸之、佐々木忠徳、濱宏仁、原田幸子、政田幹夫、松浦克彦、山川雅之、渡部一宏：医療現場に必要な薬剤の市販化に向けた調査・研究 (平成25年度)

日本病院薬剤師会雑誌、50、947-949、(2014)

渡部一宏、戸田潤：6年制薬学教育課程の卒業生を送って－患者・社会が求める臨床教育の実践とは－

薬剤学・生命とくすり、74、172-175、(2014)

渡部一宏、伊與田友和、福間真悟、福原俊一：時めき臨床研究 【番外編第3回】 病院薬剤師からみた臨床研究の魅力

月刊薬事、56、480-484、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第13回 おさらい編①臨床現場の疑問をリサーチクエスチョンにする

月刊薬事、56、641-646、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第14回 おさらい編②測定の実験デザイン

月刊薬事、56、797-802、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第15回 おさらい編③研究デザインの型と第3の因子

月刊薬事、56、959-965、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第16回 薬剤師が現場で行う臨床研究 研究計画を作成しよう①

月刊薬事、56、1109-1117、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第17回 薬剤師が現場で行う臨床研究 研究計画を作成しよう②

月刊薬事、56、1409-1417、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第18回 薬剤師が現場で行う臨床研究 研究計画の批判的吟味

月刊薬事、56、1571-1578、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第19回 薬剤師が現場で行う臨床研究 研究の実施可能性を見積もる

月刊薬事、56、1891-1897、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第20回 薬剤師が現場で行う臨床研究 比較の質を高める

月刊薬事、56、2067-2075、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第21回 薬剤師が現場で行う臨床研究 バイアスの予防

月刊薬事、56、2207-2213、(2014)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第22回 薬剤師が現場で行う臨床研究 解析方法の選択

月刊薬事、57、137-144、(2015)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第23回 薬剤師が現場で行う臨床研究 臨床研究に関する倫理的配慮

月刊薬事、57、291-297、(2015)

福間真悟、福原俊一、渡部一宏、関根祐子：時めき臨床研究第24回 薬剤師が現場で行う臨床研究 まとめ

月刊薬事、57、453-456、(2015)

渡部一宏、山本美智子：大学における臨床で実践可能なEBM教育の試み

薬事新報、2852、910-914、(2014)

渡部一宏：市販薬の上手な使い方 スイッチOTC 急な病気でも医療用並みの薬が購入できる

旬刊 健康管理情報 健康のひろば、1847、4、(2014)

渡部一宏：市販薬の上手な使い方 医薬品以外でも薬剤師に相談して安全な使用を

旬刊 健康管理情報 健康のひろば、1850、4、(2014)

渡部一宏：市販薬の上手な使い方 市かかりつけ薬局で処方薬＋市販薬のチェックを受けよう

旬刊 健康管理情報 健康のひろば、1853、4、(2014)

その他の論文 (大学紀要論文)

Kazuhiro Watanabe, Yui Terashi, Kota Ishida, Kazuko Uematsu, Iwao Endo, Kenshi Suzuki, Ichiro Suzuki and Kyoji Taguchi: Validity of recommended dosage reduction criteria for rivaroxaban in patients with renal impairment.

Bulletin of Showa Pharmaceutical University, 49, 1-8(2014)

(昭和薬科大学紀要、49、1－8、(2014))

著 書

渡部一宏：第16章 喘息治療薬

違いのわかる 同種・同効薬、黒山政一・大谷道輝(編)、南江堂、東京、212-230、2015

渡部一宏：薬剤情報全般

レジデントのための感染症診療マニュアル、青木真(編)、医学書院、東京、1-1448、2015

研究室活動短報

本年度の教育活動は、6年次「臨床試験の評価」、5年次「医薬開発特論Ⅰ及びⅢ」、「薬物治療特論」、4年次「薬物治療に役立つ情報」、「ヒューマニズムについて学ぶ」、3年次「医療薬学概論」、「医療統計学」の講義及び6年次「アドバンスト実務実習」、5年次「病院・薬局実務実習」、3年～4年次の「実務実習事前学習(事前実習)」の実習指導を担当した。また、共用試験(OSCE)の実施のみならずOSCE伝達講習会や5年次病院・薬局実習における各薬剤師会への説明会等大学組織関連業務を遂行した。

研究活動は、配属学生に対する卒業論文研究指導に関して、研究テーマや内容が充実してきており、研究結果を学会発表および大学紀要に投稿することができた。

社会活動として、がん性皮膚潰瘍臭改善薬メトロニダゾールゲル（ロゼックスゲル0.75%）の国内第Ⅲ相臨床試験の臨床試験アドバイザーとして関わり、製品の承認を得ることができた。その他、日本乳癌学会評議員、日本医療安全学会評議員、関東地区調整機構実務実習関東地区調整機構委員、日本病院薬剤師会学術委員、認定特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構客員研究員、日本プライマリ・ケア連合学会研究支援委員会委員等の役職を務めた。

(28) 薬剤師実務教育 土肥研究室

講 師 土肥 弘久

招待講演・シンポジウム

○山本美智子, 土肥弘久, 渡部一宏：薬局における情報支援モデル構築に向けて

日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月

原 著 論 文

Yamamoto, M.; Kubota, K.; Okazaki, M.; Dobashi, A.; Hashiguchi, M.; Doi, H.; Suka, M.; Mochizuki, M.: Patients Views and Experiences in Online Reporting Adverse Drug Reactions: Findings of a National Pilot Study in Japan.

Patient Preference and Adherence, 9, 173-184(2015)

山本美智子, 土肥弘久, 古川綾：欧州（EU）における公的な患者向け医薬品情報とユーザーテスト

薬学雑誌, 135, 277-284(2015)

研究室活動短報

本年度の教育活動は、以下の項目を担当し学生の指導を行った。

講義：2年次「臨床薬剤師入門」、3年次「医療薬学概論」

演習：5年次「薬物治療特論Ⅱ」

実習：3年～4年次の「実務実習事前学習（事前実習）」、5年次「病院・薬局実務実習」

1年次のワークショップ教育プログラムでは企画・運営を行い、同ワークショップでの講演（演題：薬学教育と学部卒業後の進路の可能性）も行った。また、共用試験（OSCE）の実施やOSCE直前講習会・評価者伝達講習会など大学組織関連業務を遂行した。

学外での教育活動として、東京都薬剤師会実務実習委員会の委員を務め、実務実習指導薬剤師養成ワークショップやアドバンストワークショップのタスクフォースなど、東京都薬剤師会の活動に参加した。

研究活動は、本年度4年次学生が3名配属になり、「バイオイノフォーマティクスを活用した医薬品の副作用予測」と「事前実習や実務実習の態度評価方法論の探索」という二つのテーマをスタートさせた。一方、文部科学省科学研究費助成研究「地域医療におけるリスク・ベネフィットコミュニケーション：薬局情報支援モデルの構築」の研究協力者として参加した。今後は、独自の研究テーマを配属学生とともに進めていきたい。

(29) 薬剤師実務教育研究室

助 教 太田 綾子

助 教 中村 美樹

研究室活動短報

太田 綾子

本年度は育児休暇後7月から仕事復帰し、6年次学生の卒業研究・論文等に携わった。事前学習等においても、病院・薬局での勤務の経験を生かすように学生と積極的に関わるように努めた。事前実習・OSCE・病院実習等スムーズに実施されるように教員として努めた。

中村 美樹

本年度の教育活動として、3・4年次「実務実習事前学習（事前実習）」、4年次「OSCE（薬学共用試験）」、5年次「病院・薬局実務実習」の実習指導を行った。また、「平成25年度 病院・薬局実務実習報告書 第4号」の作成に携わった。4年次に当研究室に所属していた学生4名の卒業論文指導にも当たった。

現在、育児短時間勤務とさせて頂いており、研究活動をする時間がほとんどとれなかったのが残念である。

(30) 臨床薬学教育研究室 (Laboratory of Clinical Pharmaceutical Education)

准教授 小野寺 敏

准教授 増田 豊

講 師 高田 公彦

学 会 報 告

Hong-Ju Wang, Wang-Qiu He, LiXia Chen, Wei-Wei Liu, Ming-Yu Xia, ○ Toshihiko Hayahi, Hitomi Fujisaki, Shunji Hattori, Shin-ichi Tashiro, Satoshi Onodera, Takashi Ikejima : Type I collagen gel and gelatin affect differently the cytotoxic effects of TNF α on murine fibrosarcoma L929.

第46回日本結合組織学会学術大会（名古屋）2014年6月

○八並一寿、小野寺 敏：沖縄県有人最南端島「波照間島」に自生するシマクワの食品機能調査。

第7回日本保健医療学会（柏市）2014年7月

○八並一寿、小野寺 敏：沖縄県ならびに鹿児島県離島に分布するシマクワの食品機能

第21回日本未病システム学会学術総会〈大阪〉2014年11月

原 著 論 文

Hao He, Yongsheng Feng, Linghe Zang, Weiwei Liu, Lq Ding, LiXia Chen, Ning Kang, Toshihiko Hayashi, Shin-ichi Tashiro, Satoshi Onodera, Feng Qiu, Takashi Ikejima : Nitric oxide induces apoptosis and autophagy; autophagy down-regulates NO synthesis in physalin A-treated A375-S2 human melanoma cells.

Food. Chem. Toxicol., 71, 128-135(2014)

Guodong Yao, Min Qi, Xiaoling Ji, Simiao Fan, Lei Xu, Toshihiko Hayashi, Shin-ichi Tashiro, Satoshi Onodera, Takashi Ikejima : ATM-p53 pathway causes G2/M arrest, but represses apoptosis in pseudolaric acid B-treated HeLa cells.

Arch. Biochem. Biophys., 15, 51-60(2014)

Sayako Hotta, Takumi Nagaoka, Kyoji Taguchi, Yoshihiko Nakatani, Iku Utsunomiya, Yutaka Masuda, Kenji Abe, Nobuhiro Yuki : Neurophysiological and immunohistochemical studies of IgG anti-GM1 monoclonal antibody on neuromuscular transmission: effects in rat neuromuscular junctions.

Neurol. Sci., 35, 205-213(2014)

著 書

小野寺 敏、シマ桑の機能性効能、天恵の島・沖永良部島が生んだ脅威の食材「シマ桑」、メディアパル、東京、2014、pp50-55

招 待 講 演

小野寺 敏：シマ桑でいきいき健康生活を

シマ桑シンポジウム2014 in 沖永良部島 平成26年9月

小野寺 敏：未病と健康寿命

第24回市民健康教育公開講座（相模原市）平成26年10月

小野寺 敏：薬学における未病イノベーション

第58回日本薬学会関東支部大会（東京）平成26年10月

小野寺 敏：漢方薬は本当に効くのか

益財団法人いきいき岩手支援財団（宮古市）平成26年11月

研究室活動短報

本研究室は昨年より新たに設置され、センター所属研究室としての新たな一歩をふみだした。これまでは研究室の準備と立ち上げに追われる1年となり、今後は、臨床薬学を踏まえた学生教育と研究活動を推進してゆきたいと考えている。メンバーにおけるこれまでの研究の流れとしては、小野寺は、引き続き、中国瀋陽薬科大学とアポトーシスについて国際共同研究を押し進めており、研究成果が蓄積しつつある。また、増田、高田は、血液凝固に関わる因子の発現調節と種々の病態や病気との関連を解析し、血栓性疾患の病態解明と予防・治療に役立つ開発研究を中心に行ってきた。これまでにトロンビン依存線溶阻害因子 (TAFI) の活性を阻害する有望な化合物を見出し、血栓溶解作用に対する影響を検討してきた。最近の主な成果として、PI3キナーゼ阻害薬として知られるLY294002がTAFI mRNAの発現を減少させる事を明らかにし、現在、成果の報告にむけて準備を行っている。

センター所属研究室のもと、学生実習に費やす時間が増えたことにより、基礎実験に関わる時間が激減した。どのように研究に関わる時間を確保するかが課題である。

基礎薬学教育研究センター
(Education Center for Fundamental Pharmaceutical Sciences)

学修支援部門

(31) 学修支援室 (Developmental Education)

教 授 宇都宮 郁
准教授 井上 能博
講 師 池野 聡一

学 会 報 告

○Souichi Ikeno, Tetsuya Takeda, Daiki Ichikawa, Naoko Nakano, Takashi Minowa, Nobutaka Hanagata, Fumiko Itoh and Susumu Itoh:

Elucidation of the inhibitory mechanism of PDZK1IP1 against TGF- β /Smad signaling.
TGF- β meeting (Leiden, the Netherlands) 平成26年5月
[竹田哲也、市川大輝 (平成25年度突行研究6年生)]

○坪井真友子、中里友美、神戸敏江、宇都宮郁、阿部賢志、田口恭治：オキサリプラチン誘発末梢神経障害における Ca^{2+} チャネルサブユニット $\text{Ca}_v2.1$ の関与

第58回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成26年10月
[坪井真友子、中里友美 (平成26年度卒業研究6年生)]

○日比彩円香、蒲田侑加子、神戸敏江、宇都宮郁、阿部賢志、田口恭治：パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄での P2X_4 受容体の関与

第58回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成26年10月
[日比彩円香、蒲田侑加子 (平成26年度卒業研究5年生)]

小見治加、○井上能博、梶川瑞穂、嶋秀明、石戸聡：鎖状アルコールの炭素鎖の違いによる抗菌作用の変化

第58回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成26年10月
[小見治加 (平成26年度卒業研究6年生)]

○赤津凌介、池野聡一、竹田哲也、中野なおこ、箕輪貴司、花方信孝、伊東史子、伊東 進：PDZK1IP1による TGF- β シグナル抑制機構

第58回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成26年10月
[赤津凌介 (平成26年度卒業研究6年生)、竹田哲也 (平成25年度卒業研究6年生)]

○葛 祐妃、菊間美咲、大村佳織、高橋悠太、沼生智晴、福田真弓、中野なおこ、池野聡一、伊東 進：TGF- β による CYP1A1 遺伝子発現抑制機構

第58回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成26年10月
[葛 祐妃、菊間美咲、福田真弓 (平成26年度卒業研究6年生)、大村佳織、高橋悠太 (平成25年度卒業研究6年生)、沼生智晴 (平成23年度卒業研究6年生)]

○坂田宣夫、金子哲士、池野聡一、三浦 裕、中林秀和、Xue-Yuan Dong、Jin-Tang Dong、玉置 大器、中野なおこ、伊東 進：転写因子 ATBF1 と TGF- β シグナル伝達系による α -fetoprotein 遺伝子プロモーターの協調的抑制

第58回日本薬学会関東支部大会 (昭和薬大) 平成26年10月
[金子哲士 (平成24年度卒業研究6年生)]

○加藤のどか、宗像絃子、阿部賢志、宇都宮郁、田口恭治、野島浩史：腓腹神経結紮により誘発される痛覚過敏モデルマウスに対するコリン作動薬の鎮痛作用

日本薬学会第135年会 (神戸) 平成27年3月

原 著 論 文

Yuichi Sakashita, Kenji Abe, Nobuyuki Katagiri, Toshie Kambe, Toshiaki Saitoh, Iku Utsunomiya, Yoshie Horiguchi, Kyoji Taguchi

Effect of psilocin on extracellular dopamine and serotonin levels in the mesoaccumbens and mesocortical pathway in awake rats.

Biol. Pharm. Bull. **38**, 134-138 (2015)

[片桐 伸幸 (平成 21 年度博士修了生)]

Sayako Hotta, Takumi Nagaoka, Yoshihiko Nakatani, Toshie Kambe, Kenji Abe, Yutaka Masuda, Iku Utsunomiya, Kyoji Taguchi

Effects of IgM anti-GalNac-GD1a monoclonal antibody on neuromuscular transmission and calcium channel binding in the rat neuromuscular junction.

J. Neurol. Neurophysiol. (doi.org/10.4172/2155-9562.1000275) (2015)

[堀田 紗綾子 (平成 19 年度修士修了生)、長岡 匠 (平成 16 年度修士修了生)、
中谷 善彦 (平成 18 年度博士修了生)]

Nobuo Sakata, Satoshi Kaneko, Souichi Ikeno, Yutaka Miura, Hidekazu Nakabayashi, Xue-Yuan Dong, Jin-Tang Dong, Taiki Tamaoki, Naoko Nakano, Susumu Itoh.

TGF- β Signaling Cooperates with AT Motif-Binding Factor-1 for Repression of the α -Fetoprotein Promoter.

J. Signal Transduct. **2014**, Article ID 970346. (2014)

[金子哲士 (平成 24 年度卒業研究 6 年生)]

研究室活動短報

今年度より池野聡一講師を迎え本格的に活動を開始した。成績不振者に対する補講については、支援室が直接行うものと、成績下位者の選出や日程の調整などを行い学内教員に講義していただくものがある。各学年に対する補講は以下の通りであった。

1 年次：前期にプレイスメントテストの成績下位者約 50 名に化学計算、物理、生物の補講。

2 年次：後期に 7 月の科目別試験の成績下位者約 30 名に物理、化学、生物の補講。

3 年次：後期に 2 月の科目別試験の成績下位者約 30 名に専門研究室による補講。

4 年次：後期に確認試験の成績下位者約 30 名に専門研究室による補講。

5 年次：4-5 月と 11-12 月の集中補講と実務実習の空き期間に、確認試験の成績下位者約 20 名に物理、化学、生物の補講。

6 年次：前期に確認試験の成績下位者約 20 名に物理、化学、生物の補講。

これらの他に随時個別に成績不振者の学習をサポートしている。

支援室配属の特別実習生についてはそれぞれの教員に細かく配属させ、卒業研究発表に向けて疾患や予防および治療法についての調査研究を指導し、定期的開催しているセミナーで発表させている。

宇都宮は秋季に事業計画の一環として、摂南大学のアクティブラーニングの授業を視察に行き、学修支援についての情報交換を行った。薬学会の教育系の教員が所属する研究会である「教育ピアレビュー」には支援室の 3 名の教員も参加しているので、今後の学会活動を通じて意見交換を行いたい。今後、さらに本学の学修支援体制を構築していきたい。

自己点検・評価

必要とされた補講をすべて行えたことは評価できる。

情報科学部門

(32) 応用数学 繁田研究室 (Laboratory of Applied Mathematics)

准教授 繁田 岳美

原 著 論 文

繁田岳美: 修正 Schwarz 交代法とその収束性、計算数理工学論文集、14、1-6、2014

学 会 報 告

○繁田岳美: Poisson 方程式における重複領域分割法の最適なパラメータに関する数学的理論
日本応用数学会 (東京) 平成 26 年 9 月

○Takemi Shigeta: A modification of the Schwarz alternating method and its convergence theory
The Fifth Workshop on Boundary Element and Related Methods in Taiwan (Taiwan)
October 2014

○繁田岳美: 修正 Schwarz 交代法とその収束性
日本計算数理工学会 (長野) 平成 26 年 12 月

教育関連出版物

繁田岳美: エジソンに陥れられた超人的発明家ニコラ・テスラ、日本教育ペンクラブ・リレー寄稿
月刊私塾界、平成 26 年 5 月

繁田岳美: ネットの“友達”は助けてくれますか?、辛口コラム 113
塾ジャーナル、平成 26 年 11 月

研究室活動短報

昨年度末から取り組み始めた研究の成果を本年度国内外の学会で発表し、論文が計算数理工学論文集に掲載された。「第 5 回台湾境界要素法と関連手法に関する研究集会」が 10 月に台湾高雄市の国立中山大学応用数学科で開催された。国立台湾大学在職時にお世話になった楊徳良教授 70 歳の祝賀会を兼ねており、外国人研究者のセッションで研究発表を行った。その当日夜の夕食会では楊教授に対する祝辞を述べる機会を頂いた。楊教授は研究打ち合わせのため、12 月に当研究室を訪問された。

本年度は 5 年生 3 名に加えて、新たに 4 年生 2 名が当研究室に配属となった。昨年度に引き続き、5 年生には各自のテーマをそれぞれ週一回のゼミで発表して頂いた。さらに、一部の学生には最適化問題の解法を本年度末から学び始めるよう指導した。学生の研究テーマの一つである薬剤経済学において、ある概念を数学的に厳密に再定義し、それに最適化問題を適用する試みが始まった。2 名の 4 年生は研究テーマとして擬似乱数の検定と微分方程式の数値シミュレーションをそれぞれゼミで定期的に発表した。

業務においては、例年同様の委員会に加えて、本年度は衛生委員会の委員も務めた。

その他学外活動として、本年度 6 月学校法人明法学院 明法中学・高等学校の評議員に就任した。また、本年度も教育関連の雑誌にコラムを 2 件掲載した。

自己点検・評価

研究成果が徐々に始まり、学会発表や論文掲載によりますますの研究活動を進めることができた。計算数理工学論文集に掲載された論文の査読結果は研究の方向性を正す有益な内容であり、今後の研究に大いに活かしたい。台湾の国立中山大学では、楊教授をはじめ、国立台湾大学在職時の元同僚や学生たちと再会できた。懐かしい面々と充実した時間を過ごすことができて嬉しい限りである。

卒業研究のゼミを原則毎週水曜日の午後に行っている。しかし、この時間帯は様々な会議が不定期に開催され、ゼミを中止にせざるを得ないことも少なくない。また、5 年生は実務実習のため年間の三分の程度しか卒研活動ができず、卒研生によって研究テーマの進捗状況に差が見受けられた。従って、今後はゼミの日程変更を考え、今まで以上に定期的に学生の進捗状況を把握する必要がある。

次年度から研究室配属学生は 4 ～ 6 年生の構成となる。この結果、本年度以上に一人あたりに費やせる指

導時間が短くなる。しかし、新4年生は上級生の取り組み姿勢から学び取ることも少なくなく、ある学生への指導内容がその他の学生への指導にも繋がると期待できる。いずれにせよ、教員に質問することで問題解決していた「受動的学習」から、自分の問題を自分で調べて解決する「能動的学習」へと変化して来たことが卒研から感じ取ることができる。指導内容が学生に反映されて来たことは喜ばしいことである。

(33) 数理科学 瀧澤研究室

講 師 瀧澤 誠

学 会 報 告

Makoto Takizawa: Summary of results on spectroscopy from Belle

Workshop on Unquenched Hadron Spectroscopy: Non-Perturbative Models and Methods of QCD vs. Experiment at the occasion of Eef van Beveren's 70th birthday, Coimbra, Portugal, Sept. 2014

○ Sachiko Takeuchi, Makoto Takizawa, Kiyotaka Shimizu:

On the origin of the narrow peak and the isospin symmetry breaking of the $X(3872)$

Workshop on Unquenched Hadron Spectroscopy: Non-Perturbative Models and Methods of QCD vs. Experiment at the occasion of Eef van Beveren's 70th birthday, Coimbra, Portugal, Sept. 2014

○ Makoto Takizawa, Kiyotaka Shimizu, Sachiko Takeuchi:

Hybrid structure of $X(3872)$ and its radiative decays

Mini-Symposium on Hybrid and Molecular Hadrons, Fourth Joint Meeting of the Nuclear Physics Divisions of the American Physical Society and the Physical Society of Japan, Big Island, Hawaii, Oct. 2014

○ Sachiko Takeuchi, Kiyotaka Shimizu, Makoto Takizawa:

On the origin of the narrow peak and the isospin symmetry breaking of $X(3872)$

Mini-Symposium on Hybrid and Molecular Hadrons, Fourth Joint Meeting of the Nuclear Physics Divisions of the American Physical Society and the Physical Society of Japan, Big Island, Hawaii, Oct. 2014

○ Makoto Takizawa, Kiyotaka Shimizu, Sachiko Takeuchi:

Hybrid structure of $X(3872)$ and its radiative decays

Workshop “Charm Hadron and Nuclear Physics”, Tokyo Tech., Tokyo, Nov. 2014

○ Makoto Takizawa, Kiyotaka Shimizu, Sachiko Takeuchi: Charmed hadron molecules

KEK theory center workshop on Hadron physics with high-momentum hadron beams at J-PARC, KEK, Japan, March 2015

原 著 論 文

Sachiko Takeuchi, Kiyotaka Shimizu and Makoto Takizawa:

On the origin of the narrow peak and the isospin symmetry breaking of the $X(3872)$

Prog. Theor. Exp. Phys., **123D01** 1-29, (2014).

著 書 (国際会議プロシーディングス)

Sachiko Takeuchi, Makoto Takizawa, Kiyotaka Shimizu:

On the origin of the narrow peak and the isospin symmetry breaking of the $X(3872)$

Acta Physica Polonica B Proc. Suppl., **8**, 253-258, 2015

著 書 (教科書)

宮崎智、和田義親、瀧澤誠、土橋朗、野口保、西端芳彦：

薬学生のための基礎シリーズ8 情報リテラシー

宮崎智、和田義親、本間浩 (編)、培風館、東京、2014、pp.13-32

研究室活動短報

日本社会事業大の竹内教授と上智大学の清水教授とのエキゾチックなチャームハドロンである $X(3872)$ の構造についての理論的な共同研究の成果をまとめた論文が *Prog. Theor. Exp. Phys.* に掲載された。また、研究成果をポルトガルのコインブラ大学で開催された国際会議、ハワイ島で開催された日米合同の物理学会、東工大で開催された国際会議、高エネルギー加速器研究機構で開催された国際会議で発表した。またポルトガルのコインブラ大学で開催された国際会議では、高エネルギー加速器研究機構大型加速器 B-factory の Belle 実験グループを代表して、最新の実験結果についてのレビュートークと最終日に行われたパネルディスカッションのパネラーを務めた。この会議の講演内容は *Acta Physica Polonica B Proc. Suppl.* に掲載された。

大阪大学核物理研究センターの中野教授のグループと共同で、高エネルギー加速器研究機構の大型加速器スーパー B ファクトリーの Belle II グループに加入しているが、その検出器の作成作業の一環として、セントラルドリフトチェンバーのワイヤーの張力測定や、ケーブリング作業などを行った。

薬学生のための情報リテラシーの教科書を他の薬科大学の先生方と共著で執筆し、培風館より出版された。全国の薬学生の情報リテラシー教育に少しでも貢献できたら幸いである。

2013年1月より理化学研究所、仁科加速器研究センター、初田量子ハドロン物理学研究室の客員研究員となり、今年度も継続して、客員研究員として月に一回程度、関連研究者と勉強会をしている。

日本物理学会第70期も、教育環境検討委員会の委員に選ばれ、科研費の取得状況の調査活動を行い、物理学会誌にその報告書を掲載すべく準備を進めた。2012年9月より、国家公務員採用一般職(大卒程度)試験(物理)の試験専門委員に任命され、2014年度実施の試験の採点の一部と2015年度の実施の問題の作成を行った。2013年10月より大学等放射線施設協議会の常議員に任命され、2014年8月に開催された常議員会に出席した。平成26年度も薬学共用試験センターのシステム検討委員に任命された。

卒業研究では、4年生はJavaのプログラミングのスキルを習得してもらった。5, 6年生は各自、薬学に関連したシステム開発を行った。

自己点検・評価

6年生は卒業研究ではしっかりしたシステム開発を行った。しかしながら、1名が卒業できず大変残念であった。また、4年生も1名留年したので、卒業研究の指導の他に各学生の勉学の状況にも注意を払っていきたい。

理論物理学の研究活動では、ここ数年間行ってきた成果を2013年度に続き、今年度も full paper にまとめて出版できて良かったが、高エネルギー実験での研究では、自分自身での Belle データの解析は進まず、次年度への課題として残った。

社会活動としては、日本物理学会の教育環境検討委員会の仕事は、今期は、物理学会誌への報告の準備が進んで良かった。国家公務員採用一般職(大卒程度)試験(物理)の試験専門委員の仕事では、一、二年目の経験を生かして良い問題を作成して行きたい。大学等放射線施設協議会では役員として有意義な提案ができたかと考えている。薬学共用試験センターシステム検討委員としても貢献できるよう頑張りたい。

薬学教育推進部門

(34) 化学系薬学教育 毛利研究室

教 授 毛利 邦彦

学 会 報 告

○小野友樹、伊奈悟、北畠道和、毛利邦彦、堀口よし江：Acylium ion を経由した5-置換-2,3,4,5-tetrahydrobenzo[*l*][1,4]oxazepine 類の合成

第58回日本薬学会関東支部大会(町田) 平成26年10月
[伊奈悟(平成26年度卒業研究6年生)]

○新津美貴、元山莉那、北畠道和、堀口よし江、毛利邦彦：改良Pictet-Spengler 反応を利用した1,2,3,4-tetrahydrobenzoheteropyridine 類の合成

第58回日本薬学会関東支部大会(町田) 平成26年10月
[新津美貴(平成26年度卒業研究6年生)]

○新津美貴、春山豊、北畠道和、毛利邦彦、堀口よし江：改良Pictet-Spengler 反応を利用した3環性複素環化合物の合成

日本薬学会第135年会(神戸) 平成27年3月
[新津美貴(平成26年度卒業研究6年生)]

研究室活動短報

平成26年度は6年生7名、5年生4名、4年生3名(総合薬学コース3名、臨床薬学コース8名、情報薬学コース3名)で研究及び文献調査を行った。研究活動は引き続きPictet-Spengler 反応を利用する新規複素環化合物の合成について行なった。ベンゾジアゼピン骨格類似の5-置換テトラヒドロオキサゼピン(TBO) 合成では、異なったルートにより合成しそれらの反応性、収率を詳細に比較検討した。アルデヒド炭素鎖の長さの違いにより顕著な差が認められた。また、3環性化合物のベンゾヘテロノピリジン類の合成を行い、それらの成果は本学で行われた薬学会関東支部会と薬学会の年会でそれぞれ発表した。

教育活動としては、1年次前・後期にわたり「薬学の基礎としての化学Ⅰ・Ⅱ」を分担して講義した。さらに1年次前期イントロダクション(1) 薬学への招待のコース責任者として講義とSGDを行なった。また、同じくイントロダクション(2) 早期体験学習のうち病院・薬局見学のコーディネーターを担当、5月から6月にかけて薬局見学と8月に病院見学を実施した。化学系実習担当研究室として、前期に有機化学Ⅰ実習(2年次)と有機化学Ⅱ実習(3年次)を、後期は物理化学実習(2年次)を担当した。他に12月の共用試験(OSCE)に評価者として参加、研究室内での教育として臨床薬学・情報薬学コース学生とのゼミ、演習を行なった。

自己点検・評価

基礎薬学教育研究センター教員として実習担当および教育活動は十分に行なえた評価する。研究活動は少しずつではあるが着実に成果が上がっている。

(35) 化学系薬学教育 小池研究室

講 師 小池 猛

研究室活動短報

当研究室では、薬学関連における自然療法の考察、学術的英文献の読解、および生理活性化合物の化学的変換・化学成分等に関する調査・研究を行っている。

26年度は、6年生(臨床薬学コース：4名、情報薬学コース：1名)、5年生(臨床薬学コース：3名、情報薬学コース：1名)、4年生(臨床薬学コース：2名、情報薬学コース：1名)の計12名が当研究室に所属し、各学年ごとに臨床薬学コースおよび情報薬学コースのゼミを行った。

授業・教育・基礎薬学教育研究センター関連について：

化学系基礎実習である1年次「基礎化学実験」、2年次「物質の性質と化学分析Ⅰ実習」、3年次「天然物医薬品の化学構造Ⅰ実習」の実習担当者を務めた。一方、基礎実習教育の初期段階にあたる1・2年生に対し、「排水および廃棄物管理指針」における趣旨・内容説明等を行った。6年次卒業演習試験関連において担当分を行った。6年次卒業論文ポスター発表会の評価者を担当分を行った。

病院・薬局・医療薬学教育研究センター関連について：

1年次早期体験学習における解剖見学実習のため、聖マリアンナ医科大学病院へ1年生をコーディネーターとして引率し、解剖見学実習を行った。4年次のOSCE本試験において、本学で成績入力担当部署で集配担当を務め、日本薬科大学で外部評価者「情報の提供」の担当教官を務めた。5年次薬局実務実習教育において、「Ⅰ期：平塚中郡薬剤師会支援センター薬局、佐野十全堂薬局、ナカニシ薬局」、「Ⅱ期：トモズ薬局、しらゆり薬局」を訪問し、各薬局で実務実習する学生（計4名）の実習指導・評価を行った。5年次Ⅱ期：病院薬局実務実習成果報告会の司会者を担当分を行った。

学内活動関連について：

環境保全委員会委員として、廃棄物の廃棄対策、および廃棄物である学生実習用廃液と研究室実験用廃液の回収と搬出などを行った。英語教育委員会委員として、英語教育方針・TOEIC-IP・英語非常勤担当者の委託等についてメール会議を行った。本学で開催された日本薬学会関東支部大会（26年10月）において、口頭発表部門の会場担当者及びその会場発表者の評価者を務めた。FD委員会関連のFD研修会に参加した。ハラスメント防止研修会に参加した。入学試験委員会関連の1日体験入学において、見学・誘導担当者を務めた。本学推薦入試、大学入試センター試験および本学入試において、試験監督者・誘導担当者等を務めた。

自己点検・評価

当然のことではあるが、当方所属の6年ゼミ学生（5名）の全員が卒業することが出来て安心した。ゼミ・演習のための授業時間を確保するのに苦労したが、夏休み・春休みを活用することで無事に進めることができた。学生および教育研究者にとって有益なセミナーを行い、教育・調査・研究活動に努めていきたい。

(36) 生物系薬学教育 船本研究室

教 授 船本 常男

学 会 発 表

○ Tsuneo Funamoto and Makoto Ogawa:

Comparative chromosomal characters of three Japanese genera in subtribe Perillinae, Lamiaceae

International Society of Chromosome Botany, the Ninth Meeting at Tokyo University of Agriculture,
Setagaya Campus, Tokyo on November 22 and 23, 2014

原 著 論 文

Tsuneo Funamoto, Makoto Ogawa and Shyungo Kariyama: Comparative karyomorphological studies in four species and one variety of *Mosla* Buch.-Ham. Maxim. (Lamiaceae) in Japan

Chromosome Botany 9:41-45 (2014)

Tsuneo Funamoto and Makoto Ogawa: Karyomorphology of *Perillula reptans* Maxim., Lamiaceae, endemic species in Japan

Chromosome Botany 9:69-71 (2014)

Chun-Lei Xiang, Ya-Ping Chen, Tsuneo Funamoto and Hua Peng: Cytology of Thirteen Taxa in the Genus *Isodon* (Lamiaceae; Nepetoideae) from China

Plant Diversity and Resources 36, 561-568 (2014)

Hua-Feng Wang, Sven Landrein, Wen-Pan Dong, Ze-Long Nie, Katsuhiko Kondo, Tsuneo Funamoto, Jun Wen and Shi-Liang Zhou: Molecular Phylogeny and Biogeographic Diversification of Linnaeoideae (Caprifoliaceae s. l.) Disjunctly Distribution in Eurasia, North America and Mexico

PLoS ONE 10(3):e0116485. doi: 10.1371/journal(2015)

研究室活動短報

国内における研究材料の採集はシソ科 (Lamiaceae) 植物を中心に行い、京都北部、福井県西部、宮城県、秋田県、青森県等に4回でかけた。また、中国科学院昆明植物研究所との国際共同研究は順調に進み、着実に実を結んできている。また、昆明植物研究所の新たな研究者との共同研究も始まり、研究範囲も広がり成果も見えてきている。

教育としては毎年の事であるが、1年次生の生物 I, IIの講義、生物学実習、3年次生の生薬学実習、アドバイザー学生とのSGD、4年次生のCBT補講、6年次生の演習試験問題作成等を行った。5年次生の薬局実習の訪問担当としてI期には1ヶ所1人、II期には3カ所3人、III期には1ヶ所1人の指導に出かけた。また、本学におけるOSCE等も行い、相変わらず多忙な1年であった。

自己点検・評価

個人研究室であり、すべての業務を1人でこなしていくのは大変である。自分の時間を作り研究を継続するためにはそれなりの犠牲も払わなければ行けない。今年もある程度の成果を上げる事ができた。

(37) 生物系薬学教育 中里研究室

講 師 中里 朱根

学 会 報 告

○中里(岡本)朱根・樋熊浩一: Molecular cloning and sequencing of type I α -galactosidase from cowpea hypocotyls

日本植物学会第78回大会(東京)平成26年9月

[樋熊浩一(平成26年度卒業研究6年生)]

研究室活動短報

[研究]これまで行ってきた、ミトリササゲ由来の α -D-galactosidase (α -D-GLS)のクローニングに関する研究を第78回日本植物学会大会において発表した。今年度も引き続きミトリササゲ由来の α -D-galactosidase (α -D-GLS)に関する研究を行う予定である。

[教育]平成26年には、実習担当として基礎生物学実習を担当、また基礎生物学I、IIの講義の半分を担当した。また「A-3:信頼関係の構築を目指して」の1・2年次対象の講義のうち、コミュニケーションにかかわる部分を計画・実施した。

自己点検・評価

平成26年は平成25年に手術した膀胱癌の治療のため研究が大いに滞りました。そればかりでなく、実習・講義・会議などで担当を代っていただいたり、日にちをずらしていただいたりと周囲の方々に多くのご迷惑をおかけしてしまいました。この場を借りて御礼とお詫びを申し上げます。

人間科学部門

(38) 臨床心理学研究室 (Clinical-Community Psychology)

教 授 吉永 真理

学 会 報 告

白岩繭子、鹿野晶子、野井真吾、吉永真理 プレーパークでの遊びと子どもの発達に関する研究(2)
第36回子どものからだと心連絡会議、東京、2014/12

白岩繭子、鹿野晶子、野井真吾、吉永真理 プレーパークでの遊びと子どもの発達に関する研究
第61回日本学校保健学会、金沢、2014/11

Isami Kinoshita, Mari Yoshinaga, Kumi Tashiro, Riela Provi Drianda Child-Friendly Cities Movement in Asia-Pacific アジア・パシフィック地域における「子どもにやさしい都市」の広がり
こども環境学会2014年大会、京都、2014/4

Riela Provi Drianda, Hamid Patilima, Marini, Widowati, Isami Kinoshita, Mari Yoshinaga, Kumi Tashiro, Usman Basuni The Movement of Child Friendly City in Indonesia インドネシアにおける「子どもにやさしい都市(まち)」のムーブメント
こども環境学会2014年大会、京都、2014/4

吉永真理、鹿野晶子、野井真吾 遊びの子どもの発達への影響：幼児期から入学後までの経過観察を通して
第61回日本学校保健学会、金沢、2014/11

Mari Yoshinaga Collaboration and cooperation among Asia-Pacific countries for further progress of CFC movement in this region the 3rd Asian Forum on the Rights of the Child(Mongolia), 2014/8

吉永真理 被災地とつながり、共に学び、支え合う：子どもが真ん中
コミュニティ心理学会第17回大会、自主シンポジウム「東日本大震災の被災者支援：子ども支援の
その後の展開(パート2)、京都、2014/6

原 著 論 文

Mari Yoshinaga, Yoshika Takeda, Isami Kinoshita Effects of Participation in Community Activities on Self-Efficacy of Japanese Junior High School Students Global Journal of Community Psychology Practice Volume 5, Issue 2, 1-12, December 2014

吉田智大、吉永真理 薬局待合室におけるBGM視聴が患者の気分に与える影響
薬学雑誌、134(8):901-908,2014

研究室活動短報

本年度は職員1名と6年生3名、5年生4名、4年生3名で活動した。コミュニティで実施している子どもの遊びと育ちに関する多様な活動に学生も参加し、ワークショップや子どもへの聞き取り調査、測定調査を行った。6年生は卒論にまとめた。また、小学校の依頼による「おくすり教室と薬剤師体験ワークショップ」の実施を今年度も行い、6年生のうち1名は成果を卒業論文にまとめた。パッケージ化ができたので、今後はさらにこうした活動を活発に展開していきたいと考えている。引き続き、地域の様々な方々との交流を深め、社会的な経験を積めるよう工夫していきたい。その他、週に1回、各自の研究テーマに沿った文献を読んで発表したり、卒論の進行状況の発表を実施した。

科学研究費基盤C「プレーパークの活用による小学校入学に向けたエデュケア型つなぎプログラムの開発」の二年目の調査研究活動を行った。世田谷区と町田市の冒険遊び場(プレーパーク)、保育園、こども園、園児の保護者、小学校、練馬区の幼稚園に協力を依頼し、体力測定やGONOGO測定を実施した。また保護者へのアンケートについても順次実施した。さらに、千葉市全市の小学校と未就学施設を対象に「つなぎプログラム」についての質問紙調査を実施、結果の分析をすませ、担当課に説明が終了した。今後関係者の意見を調整

して、協力施設及びその他の施設へのフィードバックを行う予定である。

2011年の東日本大震災以降、継続して被災地支援に関わる調査研究活動を実施している。今年度は学校を支援する地域の仕組みをテーマに、世田谷、仙台、南三陸で交流を行った。

自己点検・評価

他大学や各種NPO団体など多様な領域の実践者、研究者との協働が本研究室の特色であり、今年度も活発な活動を実施できた。特に、ワークショップなどは外部からの依頼で学生と共に実施することで、学生の学びの上でも重要な機会となっている。研究活動では長年の成果がようやく英文誌に掲載され、また卒論生の研究を投稿論文にまとめることができた。科学研究費のプロジェクトを引き続き実行しながら、成果をまとめていきたい。

(39) 英語 鈴木研究室 (English Office)

教 授 鈴木 英明

原 著 論 文

鈴木英明：冷戦期アメリカの批評における「不可知なもの」——「ダヴォス討論」とルネ・ウェレック

昭和薬科大学 紀要, 49: 33-42 (2015)

エッセイ、その他

鈴木英明：追悼エッセイ——カラオケボックスの三浦さん

レイモンド・ウィリアムズ研究, 5, 139-140 (2014)

研究室活動短報

科学研究費基盤 (A) 「新しいカルチュラル・スタディーズの基礎理論構築」の研究分担者として、19世紀から20世紀にかけての英米の美学、批評について研究を進めた。

日本英文学会編集委員会の委員として3回の編集会議に出席し、学会誌『英文学研究』の編集運営にかかわり、投稿論文の査読を行った。

日本ワイルド協会の理事として、協会の運営に関わった。

「ド・マン読書会」を今年度は計5回開催し、Paul de Man, *Romanticism and Contemporary Criticism* を読み進めた。この書物を翻訳出版するため、共訳者2名と分担して翻訳作業にとりかかった。

教育活動としては、薬学英语入門Ⅰ（毎週2コマ）、薬学英语入門Ⅱ（毎週2コマ）、薬学英语入門Ⅲ（毎週2コマ）を担当した。加えて、5年生の医薬開発特論Ⅱの実用英語コース15コマのうち8コマを担当した。

今年度から初めて4年生3名が本研究室の研究生となった。卒業論文作成の準備として、アカデミック・スキルズの基礎を学び、小説『ジーキル博士とハイド氏』およびその関連文献を講読した。

自己点検・評価

上述した通り、今年度より4年生3名が本研究室の研究生となった。本学で研究生を対象に初めてゼミを開き、（主に英米の文学や映画などの）文化研究の基礎を薬学生とともに学べたことは収穫であった。だが、これについては問題も多い。ゼミの性質上、多くの映画を観ることや多量の読書を研究生に課することになるが、学生からすれば、普段の授業の勉強や確認試験などの勉強に時間を割かざるを得ないため、ゼミの準備は後回しになってしまう。薬学生としての勉強と、文化研究を主とするゼミとのバランスをうまくとれるように、指導教員として今後も試行錯誤していかなければならないと思う。

研究については、十分な成果をあげたとは言いがたい。以前からの課題であるが、効率的な仕事の方法を身につけ、研究時間の確保に努めたい。

(40) 英語 堀内研究室 (English Office)

准教授 堀内 正子

学 会 報 告

○堀内正子、金子利雄、竹内典子、河野 円、Skier Eric M.：科研費助成による「6年制薬学生のための『実用薬学英语』教材の研究開発」最終報告

日本薬学会第135年会（神戸）平成27年3月

依頼教育講演

堀内正子：日本薬学英语研究会による薬学教育ガイドライン準拠教材開発プロジェクト

第17回日本医学英語教育学会（東京）平成26年7月

シンポジウム（第32年会のその後）

堀内正子：薬学教育における英語

日本社会薬学会第32年会記念シンポジウム（東京）平成26年10月

出版（分担執筆 科研費成果物）

堀内正子：実用薬学英语 日本薬学会（編）、：3章 Reading、Comprehension Questions、1～16章 Vocabulary、p.4、p.13、pp.20-21、pp.25-26、p.33、pp.40-41、p.45、p.53、pp.60-61、pp.66-67、p.74、pp.81-82、pp.87-88、p.94、東京化学同人、東京、2015

研究室活動短報

教育活動では、1～3年の英語（薬学英语入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を毎週6コマ、前後期担当した。さらに、5年生の実用英語コース（医薬品開発特論）を後期8／15コマ担当した。また、「ヒューマニズムについて学ぶ」（A-3）では、1、2年次「父と暮せば パート1・パート2」を4回（8コマ）担当し他4回支援を行った。早期体験学習「特別支援学校見学実習」は、本年より神戸敏江先生（薬理学）にコーディネーターとして加わっていただき、本学のスケジュール調整のため初めて2月初旬の4日間で実施した。研究室には6年生3名、5年生5名、4年生3名が所属し、ゼミ・卒論指導に当たった。

研究活動では、科研研究費基盤（C）「6年制薬学生のための『実用薬学英语』教材の研究開発」の研究分担者として、『実用薬学英语』の編集と執筆を担当した。また、複数の薬系大学の英語教員・専門教員・薬剤師で構成されるJAPE（日本薬学英语研究会）の教材開発プロジェクトに関して、医学英語教育学会で教育講演を行った。続いて、日本社会薬学会第32年会記念シンポジウムでは、基調講演者であるDr. Janie Sheridann（国際社会薬学会副会長）の講演配布資料の日本語対訳を作成した。

自己点検・評価

英語授業では、薬学生のために開発したテキストを使用している。さらに学生の自己学習が進むように様々な補助教材等の情報提供を心掛ける必要がある。卒論指導では、本年6年生1名が、聴覚障害者と薬局薬剤師にアンケート調査（本学研究倫理委員会承認済み）を実施し、ポスター発表を行った。社会的弱者への視点は、医療人にとって必須の素養である。教養系の研究室として、薬学生に提供できる卒論テーマをさらに充実させていく必要がある。Dr. Sheridannから薬学生同士の交流を提案されている。学生がグローバルな視点を持つためにも素晴らしい提案だと思うので、早急に準備が必要である。『実用薬学英语』の出版は画期的なことである。教室からのフィードバックをまとめて報告し、テキストの改善を目指したい。

(41) 体育・江成研究室 (Physical Education)

教 授 江 成 元 伸

大学紀要論文

江成元伸、江成遼：ハンドボール競技における通信機器の活用に関する研究

昭和薬科大学紀要、49,9-21 (2015)

その他の論文

江成元伸、藤井文絵：昭和薬科大学における JAIRO Cloud 導入事例

薬学図書館、vol no.1,30-34 (2015)

研究室活動短報

大学事務長就任から11年目となった大学事務長職は兼務のまま、教育と事務業務にあたった。大学事務長職の業務は年々過密となり、講義・体育実技を行いながら大学事務所にての業務を行った。

教育面では、1年次の保健体育学の講義及び実技、早期体験学習救急法のコーディネーターとして活動した。卒業教育研究室配属学生は合計9名であった。6年生は3名全員がポスター発表をし、卒業論文にまとめた。

本学ハンドボール部の顧問として技術指導をし、関東学生ハンドボール春季秋季リーグ戦、薬科大学ハンドボール連盟春季秋季大会の各大会の指導をした。また、スキー部、ボランティア同好会の顧問として学内のクラブ活動の指導にあたった。特に、ボランティア活動は、東京消防庁災害時支援ボランティア活動として、町田市総合災害訓練及び町田消防署、町田警察署他の合同災害訓練に学生と共に参加した。

社会的活動として、(公財)日本ハンドボール協会常務理事・競技本部長として国民体育大会、全日本総合ハンドボール選手権大会、その他の大会の競技委員長として大会の競技運営に携わった。

自己点検・評価

教育活動としての講義・実技は過去の実践例を改善しながら学生の興味関心を引くような内容になるよう創意工夫をしながら運営している。授業評価のポイントは向上していることから、教育効果は上がっていると評価する。

本学紀要に原著論文を1報著した。論文の成果はハンドボール界の競技、審判活動に多大な貢献をしたと評価している。また、8月に薬学図書館協議会関東地区研究集会において発表した事例研究を、薬学図書館に掲載した。

社会的活動としての災害時支援ボランティア活動に参加する学生の数が増加してきていることは大きな問題であり、継続して啓蒙活動をしていきたい。

Ⅲ. 総 括

「昭和薬科大学教育・研究年報」は、本学の一年間の教育・研究活動を自ら点検・評価し、学内外に公表することにより、次年度以降、教育方法の改善、あるいは研究の質の向上を図るための一助とすることを目的に毎年発行している。また、大学が主体的に取り組んでいる教育・研究の内容を広く公表することにより、大学の社会的責任を果たすことである。

平成26年度は6年制薬学教育課程の4回目となる薬剤師国家試験が行われたが、既卒者を含む総数の全国平均合格率は、平成24年度の79.10%から平成25年度は60.64%へと大きく低下したが、平成26年度も平成25年度と同様に63.17%と極めて低いものであった。その中で、本学の合格率は74.90%を確保し、全国平均を大きく上回る高い合格率を達成することができた。6年制薬学教育開始後、4年間連続して高い合格率を達成できたことは、本学における事前実務実習教育や学外での長期実務実習を含む6年制薬学教育が適切に行われてきていることを示すものである。研究活動にも努力が払われ、薬学関係の学会などにおいて、教員、大学院生、学部学生が各種の賞を受賞することができた。

平成24年4月に、6年制薬学部を基盤とし、臨床薬学と基礎科学に対応した薬学専攻4年制博士課程が開設され、平成26年度は3名の定員に対し1名が合格し、入学した。この博士課程においては、チーム医療のリーダーや大学の教員、企業や公立の研究機関などで活躍する人材の育成に向け取り組んでゆきたい。主に創薬を目指す薬科学専攻修士課程に関しては、平成26年度は1名が合格・入学した。大学院は大学の研究活動の中心となるものであり、薬学専攻博士課程と薬科学専攻修士課程の大学院生を十分に確保し、優れた人材の育成に努めてゆきたい。

教員の人事に関しては、衛生化学研究室特任助教が着任し、担当教授が空席となっていた天然物化学研究室内の教授、並びに生化学研究室助教、薬剤師実務教育研究室助教、医薬分子化学研究室特任助教、薬品物理化学研究室特任助教、生化学研究室特任助教、薬化学研究室特任助教を決定した。平成25年度末の分子生体制御学研究室と病態科学研究室内の閉鎖に伴い、両研究室に所属した4名の教員の内、3名を新たに設けた臨床薬学教育研究室に、1名を実習・教育支援室に配属した。また、リメディアル教育等を担当する学修支援室の講師を学内公募により決定し、学修支援室は3名体制となった。

一方、26年度は本学を退職された教員も多数となった。2名の教授と1名の講師が定年退職、1名の特任教授が休職期間満了に伴い退職、4名の教員が依願退職された。依願退職された教授と准教授は、それぞれ千葉大学薬学部と日本大学薬学部の教授として転出された。

昭和薬科大学「生体分子コバレント修飾の革新的解析拠点形成」の第1回国際シンポジウムを8月に開催した。また第58回日本薬学会関東支部大会が10月に本学を会場に開催され、本学が運営に当たった。26年度は、来年度に薬学教育評価機構の審査を受けるための作業も行った。今後とも、これまでの経験で明らかとなってきた問題点や課題を精査し、4年次から開始する卒業研究も含め、6年制薬学の教育と研究の一層の充実と発展に向けて、教職員一同が一丸となって尽力してゆきたい。

平成 27 年 12 月発行

発 行 昭和薬科大学 西 島 正 弘
東京都町田市東玉川学園 3 丁目 3165 番地
TEL 042-721-1511
FAX 042-721-1588
編 集 昭和薬科大学自己点検・評価委員会
印 刷 株式會社 日 相 印 刷
TEL 042-748-6020 FAX 042-748-6126

